

保健医療に関する意識調査

(県民アンケート調査)

— 報 告 書 —

平成29年2月

群馬県

目次

I 調査の概要	1
1 調査目的	3
2 調査項目	3
3 調査設計	3
4 回収結果	4
5 集計方法	4
6 調査対象の特性	6
7 調査結果の見方	7
II 調査結果の分析	11
1 健康状態	13
(1) 自分の健康状態	13
2 健康に対する不安	16
(1) 健康に対する不安の有無	16
(2) 具体的な不安内容	19
3 健康づくり	27
(1) 健康保持のために気をつけていること	27
(2) 健康保持のために「何もしていない」理由	35
4 地域医療について	38
(1) 地域の医療全般に対する満足度	38
(2) 地域の医療に対する意識	41
(3) 不足している医療機関	47
(4) 不足している医療分野	50
(5) 充実してほしい医療機関	60
5 医療機関の選択	70
(1) 医療機関の選択	70
(2) 医療機関の選択理由	78
(3) 医療機関の所在地	100
6 救急医療への対応	102
(1) 「コンビニ受診」行動について	102
(2) 家族が夜間や休日に病気になった際の対応	105
(3) AED の認知度	109
(4) 家族に脳梗塞疑いの症状が現れた場合の対応	112
7 かかりつけ医	115
(1) かかりつけ医の有無	115
(2) かかりつけ医を決めている理由	118
(3) かかりつけ医の種類	126
(4) かかりつけ医を決めていない理由	129
(5) 子どものかかりつけ医の有無	134
(6) 子どものかかりつけ医を決めている理由	137

(7)	子どものかかりつけ医の種類	145
(8)	子どものかかりつけ医を決めていない理由	148
8	かかりつけ歯科医	153
(1)	かかりつけ歯科医の有無	153
(2)	かかりつけ歯科医を決めている理由	156
9	歯科の保健医療	164
(1)	歯科の保健医療についての要望	164
10	薬局について	172
(1)	院外薬局での調剤の有無	172
(2)	かかりつけ薬剤師・薬局の有無	175
(3)	かかりつけ薬剤師・薬局の選択理由	178
(4)	かかりつけ薬剤師・薬局を決めていない理由	186
11	転院について	191
(1)	転院に対する不安感	191
(2)	具体的な不安内容	194
12	退院について	200
(1)	退院後に病院のソーシャルワーカーに望むこと	200
13	在宅医療について	206
(1)	自宅での療養希望の有無	206
(2)	自宅療養の実現可能性	212
(3)	自宅療養が実現困難な理由	215
(4)	自宅療養が実現可能かわからない理由	223
(5)	自宅療養を望まない理由	226
(6)	治る見込みの少ない病気にかかったときに過ごしたい場所	236
(7)	自宅で過ごす場合に必要なこと	240
(8)	死期が近くなった際に受けたい医療	248
(9)	死期が近くなった場合についての話し合い	251
(10)	治る見込みの少ない病気にかかったときに最期を迎えたい場所	257
(11)	地域包括ケアの認知度	260
14	医療機関への要望	263
15	保健医療情報について	285
(1)	知りたい保健医療情報	285
(2)	保健医療情報の入手方法	305
16	自分のカルテや症状等の情報を医療機関同士で共有することについて	315
(1)	自分のカルテや症状等の情報を医療機関同士で共有することについて	315
III	調査票	319

I 調査の概要

1 調査目的

この調査は、保健、医療及び健康に関する県民の意識・要望を把握し、保健医療施策の基本資料を得ることを目的とする。

2 調査項目

- | | | |
|--------------|--------------|-----------------|
| (1) 健康状態 | (7) かかりつけ医 | (13) 在宅医療について |
| (2) 健康に対する不安 | (8) かかりつけ歯科医 | (14) 医療機関への要望 |
| (3) 健康づくり | (9) 歯科の保健医療 | (15) 保健医療情報について |
| (4) 地域医療について | (10) 薬局について | (16) 情報共有 |
| (5) 医療機関の選択 | (11) 転院について | |
| (6) 救急医療への対応 | (12) 退院について | |

3 調査設計

- (1) 調査地域 群馬県全域 (10 保健医療圏)
- (2) 満 20 歳以上男女個人
- (3) 3,662
- (4) 層化二段無作為抽出法
- (5) 郵送法 (督促ハガキ 1 回)
- (6) 調査時期 平成 28 年 12 月
- (7) 調査担当 企画・実施・分析 群馬県健康福祉部医務課
実施・集計・分析 株式会社 タイム・エージェント

4 回収結果

(1) 回収数 (率) 1,610 (44.0%)

地域回収結果

地域別	標本数	回収数	回収率 (%)
前橋保健医療圏	300	117	39.0%
渋川保健医療圏	390	152	39.0%
伊勢崎保健医療圏	345	147	42.6%
高崎・安中保健医療圏	342	166	48.5%
藤岡保健医療圏	315	144	45.7%
富岡保健医療圏	300	129	43.0%
吾妻保健医療圏	300	141	47.0%
沼田保健医療圏	300	141	47.0%
桐生保健医療圏	390	172	44.1%
太田・館林保健医療圏	680	301	44.3%
(前橋市)	300	117	39.0%
(高崎市)	300	144	48.0%
(桐生市)	300	130	43.3%
(伊勢崎市)	300	131	43.7%
(太田市)	300	135	45.0%
(館林市)	300	129	43.0%
(渋川市)	300	122	40.7%
(藤岡市)	300	137	45.7%
計	3,662	1,610	44.0%

5 集計方法

この調査は、保健医療圏別の母集団構成比と無関係に標本数を割り当てているため（標本抽出法参照）集計にあたっては各保健医療圏・市郡規模別の抽出率（有効回収率／20歳以上人口）が均等となるよう係数を算出し、加重集計した。各保健医療圏・市郡規模別の加重係数及び加重後の規正標本数は次のとおりである。

加重後の規正標本数の合計は、16,264人となり、結果の比率はこれを母数として算出したものである。なお、規正標本数は、乗算結果の小数第1位を四捨五入しているため、全県の標本数を分類した各区分の標本数の合計とは一致しないことがある。

回収数、加重係数及び加重後の規正標本数

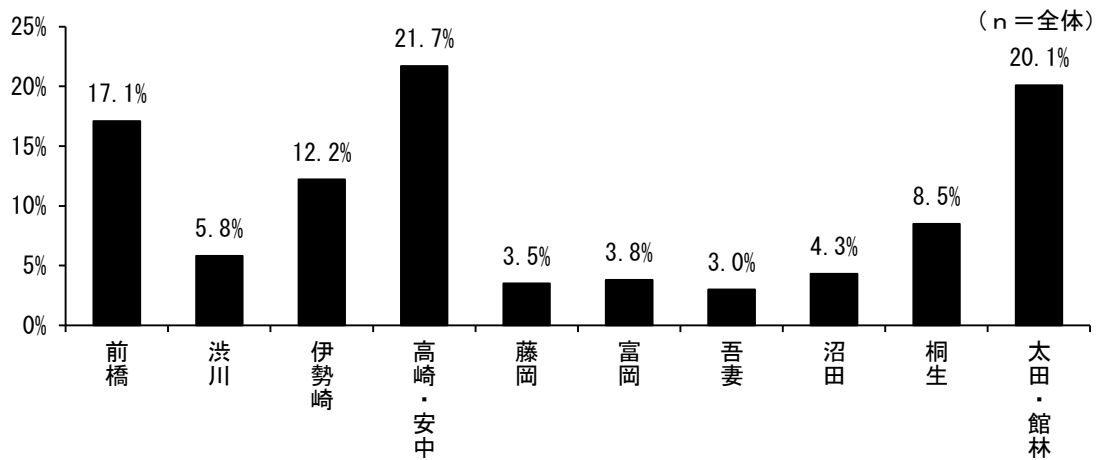
保健医療圏	市郡規模別	母集団	標本数	回収数	加重係数	規正標本数
前橋	◎前橋市	277,994	300	117	23.76	2,780
	計	277,994	300	117	*	2,780
渋川	○渋川	66,086	300	122	5.42	661
	郡部	28,286	90	30	9.43	283
	計	94,372	390	152	*	944
伊勢崎	◎伊勢崎市	168,293	300	131	12.85	1,683
	郡部	29,929	45	16	18.71	299
	計	198,222	345	147	*	1,982
高崎・安中	◎高崎市	303,384	300	144	21.07	3,034
	人口5万人未満の市	49,351	42	22	22.43	494
	計	352,735	342	166	*	3,527
藤岡	○藤岡	54,360	300	137	3.97	544
	郡部	2,900	15	7	4.14	29
	計	57,260	315	144	*	573
富岡	人口5万人未満の市	41,397	203	86	4.81	414
	郡部	19,825	97	43	4.61	198
	計	61,222	300	129	*	612
吾妻	郡部	48,369	300	141	3.43	484
	計	48,369	300	141	*	484
沼田	人口5万人未満の市	40,488	173	86	4.71	405
	郡部	29,638	127	55	5.39	296
	計	70,126	300	141	*	701
桐生	○桐生市	97,296	300	130	7.48	973
	人口5万人未満の市	41,533	90	42	9.89	415
	計	138,829	390	172	*	1,388
太田・館林	◎太田市	177,259	300	135	13.13	1,773
	○館林市	63,196	300	129	4.90	632
	郡部	86,807	80	37	23.46	868
	計	327,262	680	301	*	3,273
合計	人口10万人以上の市	926,930	1,200	527	*	9,269
	人口5万人以上の市	280,938	1,200	518	*	2,809
	人口5万人未満の市	172,769	508	236	*	1,728
	郡部	245,754	754	329	*	2,458
	計	1,626,391	3,662	1,610	*	16,264

◎人口10万人以上の市

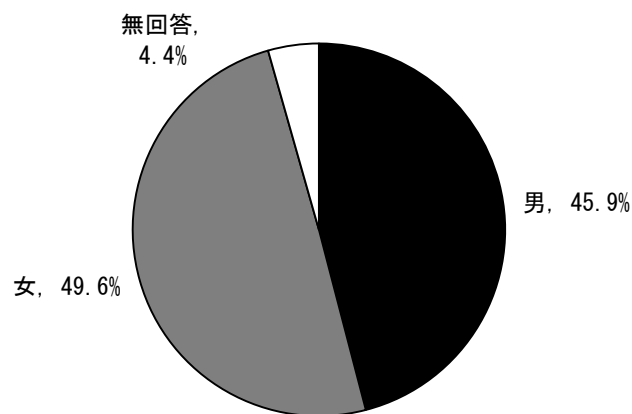
○人口5万人以上の市

6 調査対象の特性

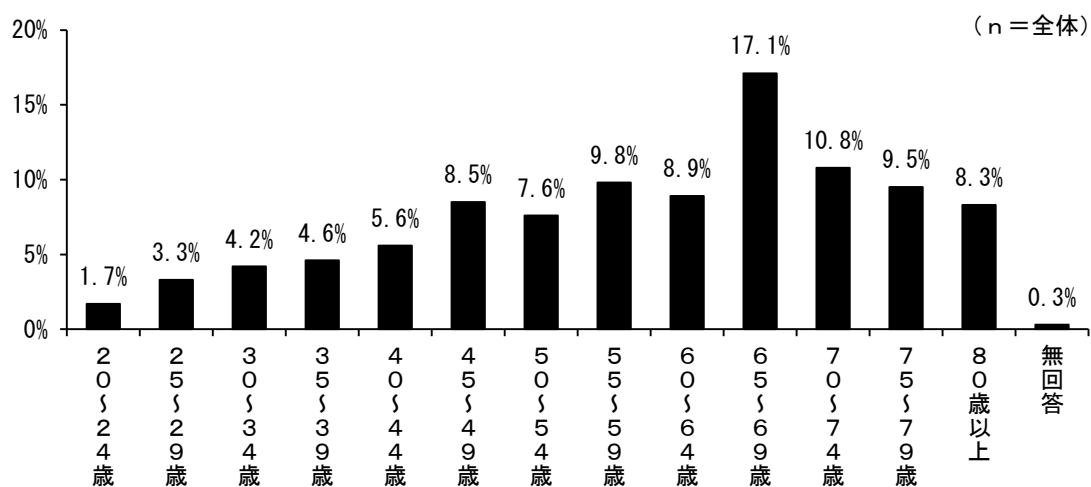
(1) 保健医療圏別



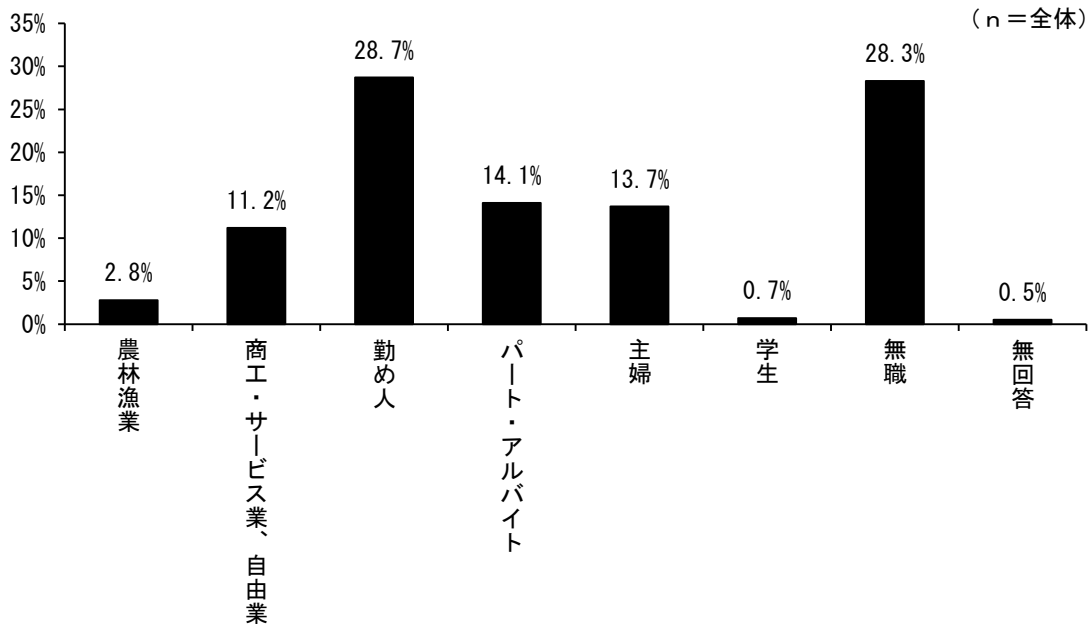
(2) 性別



(3) 年齢別



(4) 職業別



7 調査結果の見方

(1) 比率は、各質問の無回答を含む規制標本総数（一部の人に特定した質問では、該当する規制標本数）に対する百分比（%）を表している。

100%の基数をグラフでは「n」と表示している。

(2) 百分比（%）は、小数第2位を四捨五入して小数第1位表示とした。よって、百分比の計が100%にならない場合もある。

(3) 質問によって回答が複数になる場合があり、そのときの百分比の合計は100%を超える。

■標本抽出方法

母集団／群馬県内の市町村に居住する満20歳以上の男女

標本数／標準標本 3,000

追加標本 662 計 3,662 (237 地点)

抽出法／層化二段無作為抽出法

<標本層の決定>

標本数の決定については、信頼度 95%、抽出誤差範囲±8%を目標に行うものであり、1 保健医療圏あたりの標本数は 150 (最低) となるが、調査方法が郵送のため回答率を 55%と計算して端数切り上げを行い、1 保健医療圏あたり 300 人とした。

<層化>

- (1) 10 保健医療圏を層とする。(地域別)
- (2) 各保健医療圏については、人口 5 万人以上の市、人口 5 万人未満の市及び郡部に分類して、それぞれを層とする。(市郡規模別)

<標本の分配>

- (1) 各保健医療圏に 300 人の標本を割り当てる (10 保健医療圏 3,000 人)。
- (2) 各保健医療圏については、市郡規模別の層における母集団数 (平成 27 年 10 月 1 日現在における満 20 歳以上の人口) の大きさに比例して、300 人の標本を配分する。
- (3) 人口 5 万人以上の 8 市 (前橋市、高崎市、桐生市、伊勢崎市、太田市、館林市、渋川市、藤岡市) については、それぞれ独自の集計分析を行う必要から、下記の標本数を加えて各 300 人とする。

前橋市	0	高崎市	42	桐生市	90	伊勢崎市	45
太田市	138	館林市	242	渋川市	90	藤岡市	15

<標本の抽出>

- (1) 第一次抽出単位の調査地点は、平成 27 年国勢調査時に設定された調査区を使用する。
- (2) 調査地点の抽出数は、1 調査地点あたりの調査対象者が 16 人程度になるよう各層に配分された標本数から算出する。
- (3) 調査地点の抽出は、層別に等間隔に行う。(1 段)
- (4) (3) により抽出された調査地点における対象者の抽出は、調査地点の中から住民基本台帳を用い、等間隔で行う。(2 段)

以上の作業の結果、得られた地域別、市郡規模別の標本数・地点数は次のとおりである。

属性別母集団数・標本数・調査地点数

市郡別 保健医療圏	人口 10 万人 以上の市	人口 5 万人 以上の市	人口 5 万人 未満の市	郡部	計
	前橋	277,994 300 (19)			
渋川		66,086 300 (19)		28,286 90 (6)	94,372 390 (25)
伊勢崎	168,293 300 (19)			29,929 45 (3)	198,222 345 (22)
高崎・安中	303,384 300 (19)		49,351 42 (3)		352,735 342 (22)
藤岡		54,360 300 (19)		2,900 15 (2)	57,260 315 (21)
富岡			41,397 203 (13)	19,825 97 (7)	61,222 300 (20)
吾妻				48,369 300 (19)	48,369 300 (19)
沼田			40,488 173 (11)	29,638 127 (9)	70,126 300 (20)
桐生		97,296 300 (19)	41,533 90 (6)		138,829 390 (25)
太田・館林	177,259 300 (19)	63,196 300 (19)		86,807 80 (6)	327,262 680 (44)
計	926,930 1,200 (76)	280,938 1,200 (76)	172,769 508 (33)	245,754 754 (52)	1,626,391 3,662 (237)

上段：母集団数（平成 27 年 10 月 1 日現在／平成 27 年国勢調査）

下段：標本数（カッコ内は調査地点数）

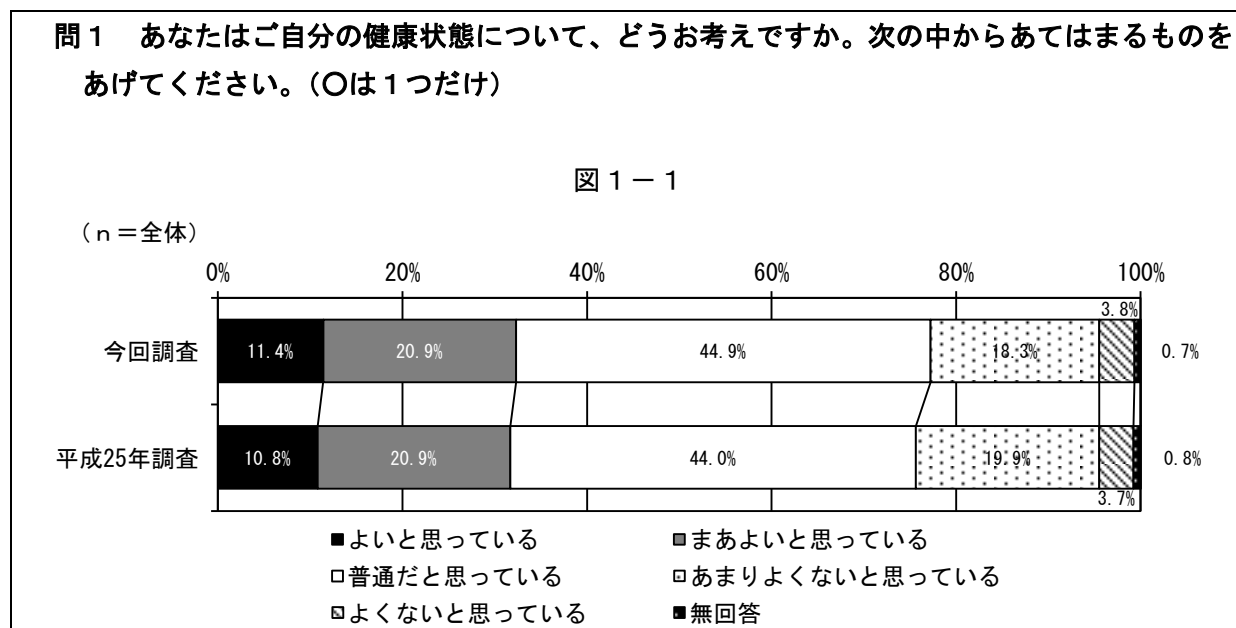
II 調査結果の分析

1 健康状態

(1) 自分の健康状態

～<よい>32.3%、「普通」44.9%、<よくない>22.1%～

問1 あなたはご自分の健康状態について、どうお考えですか。次の中からあてはまるものをあげてください。(〇は1つだけ)



自分の健康状態については、「よいと思っている」は11.4%で、これに「まあよいと思っている」(20.9%)を合わせた<よいと思う>は32.3%となっている。これに対して「よくないと思っている」は3.8%で、これに「あまりよくないと思っている」(18.3%)を合わせた<よくないと思う>は22.1%となっている。

平成25年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

<よいと思う>は伊勢崎保健医療圏を除くと、いずれの地域も30.0%を超えており、その中でも桐生保健医療圏が38.2%と最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

男性と女性で大きな差異はみられないが、<よいと思う>は男性(30.1%)に比べ、女性(34.0%)の方が多くなっている。

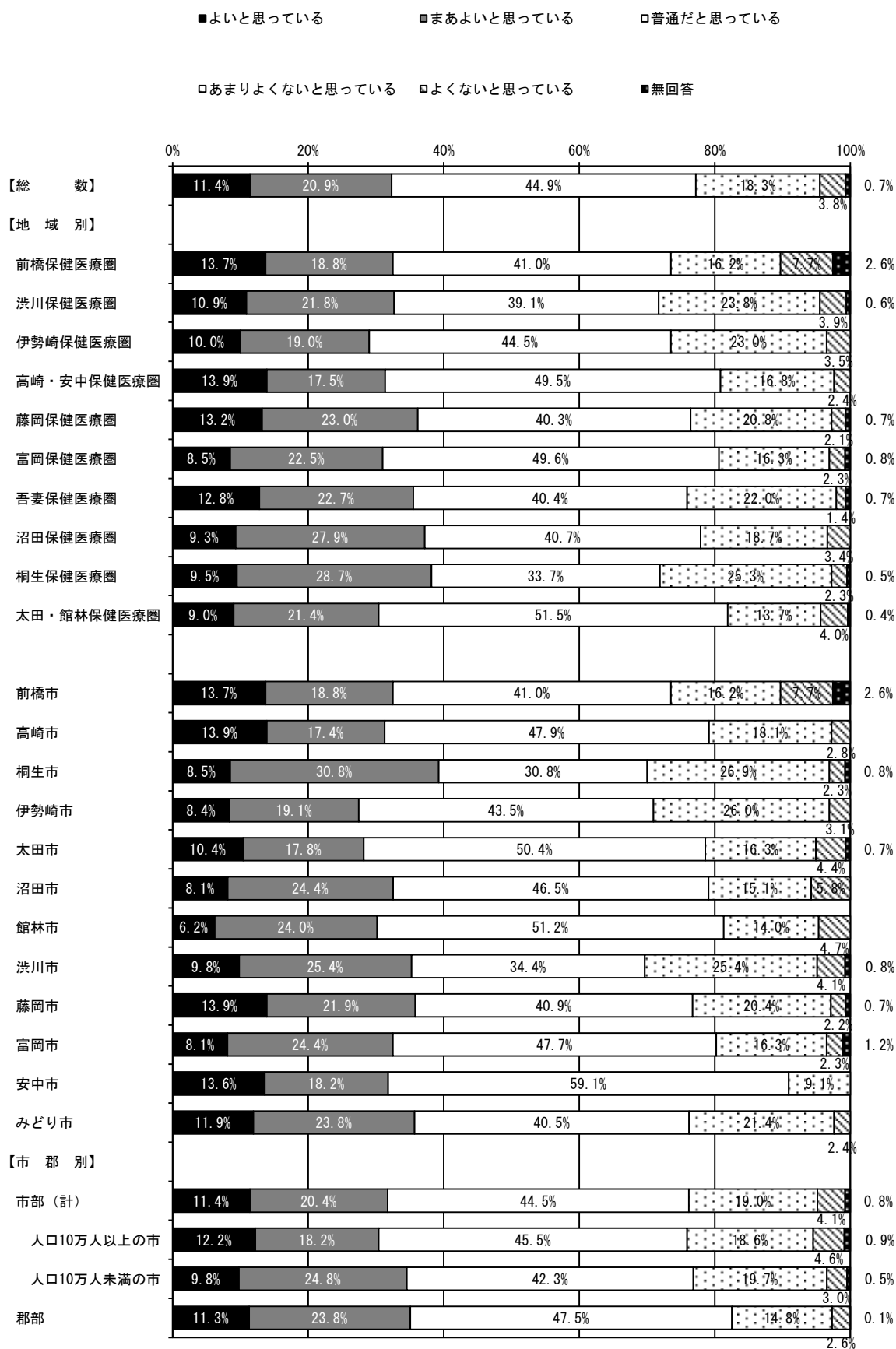
◆性・年代別

<よいと思う>は男性では40代が45.8%、女性では30代が50.0%と最も多くなっている。一方、<よくないと思う>は男性では50代が30.3%、女性では70歳以上が30.0%と最も少なくなっている。

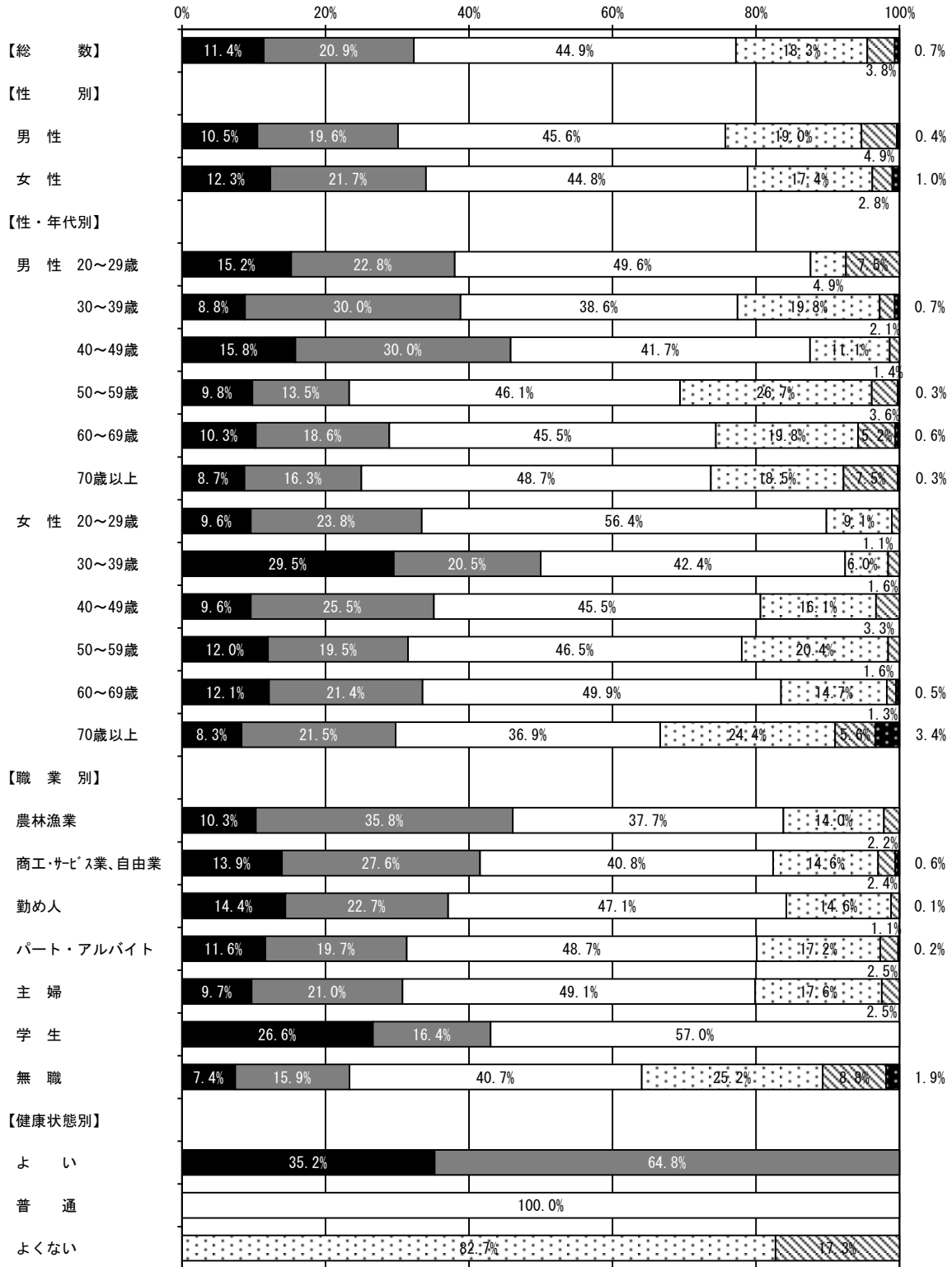
◆職業別

<よいと思う>は農林漁業が46.1%と最も多く、次いで学生が43.0%となっている。一方、<よくないと思う>は無職者が34.0%と最も多く、次いで主婦が20.1%となっている。

図 1-2 自分の健康状態



よいと思っている
まあよいと思っている
普通だと思っている
あまりよくないと思っている
よくないと思っている
無回答

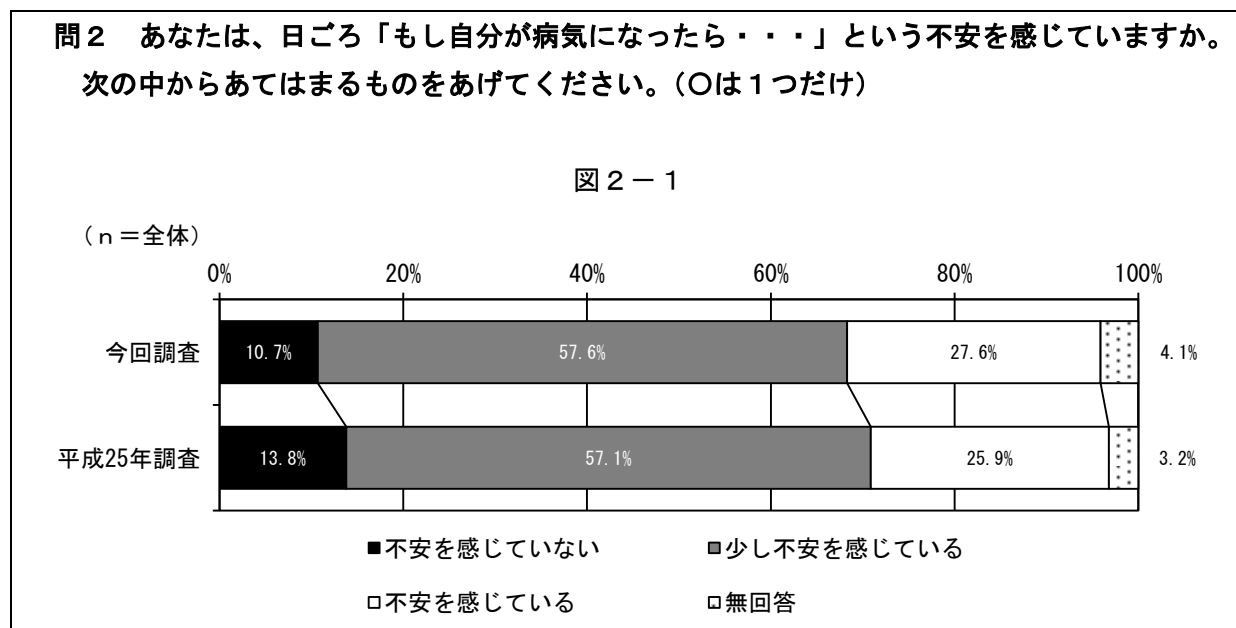


2 健康に対する不安

(1) 健康に対する不安の有無

～＜不安を感じている＞人は 85.2%～

問2 あなたは、日ごろ「もし自分が病気になったら・・・」という不安を感じていますか。
次の中からあてはまるものをあげてください。(〇は1つだけ)



日ごろ、「もし自分が病気になったら」という「不安を感じていない」は 10.7%となっている。一方、「不安を感じている」は 27.6%で、これに「少し不安を感じている」(57.6%)を合わせた＜不安を感じている＞は 85.2%となっている。

平成 25 年調査結果との比較では、ほぼ同様となっているが、＜不安を感じている＞がやや増加している。

◆地域別

＜不安を感じている＞はいずれの地域も 80.0%を超えており、その中でも高崎・安中保健医療圏が 87.4%と最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられないが、「不安を感じていない」は郡部 (8.6%) に比べ、市部 (11.1%) の方がやや多くなっている。

◆性別

男性と女性で大きな差異はみられないが、「不安を感じていない」は女性 (9.7%) に比べ、男性 (11.5%) の方がやや多くなっている。

◆性・年代別

「不安を感じていない」は男性では 20 代が 22.6%、女性では 20 代が 21.1%と 20 代が最も多くなっている。一方、＜不安を感じている＞は男性では 50 代が 87.6%、女性では 50 代が 88.4%と 50 代が最も多くなっている。

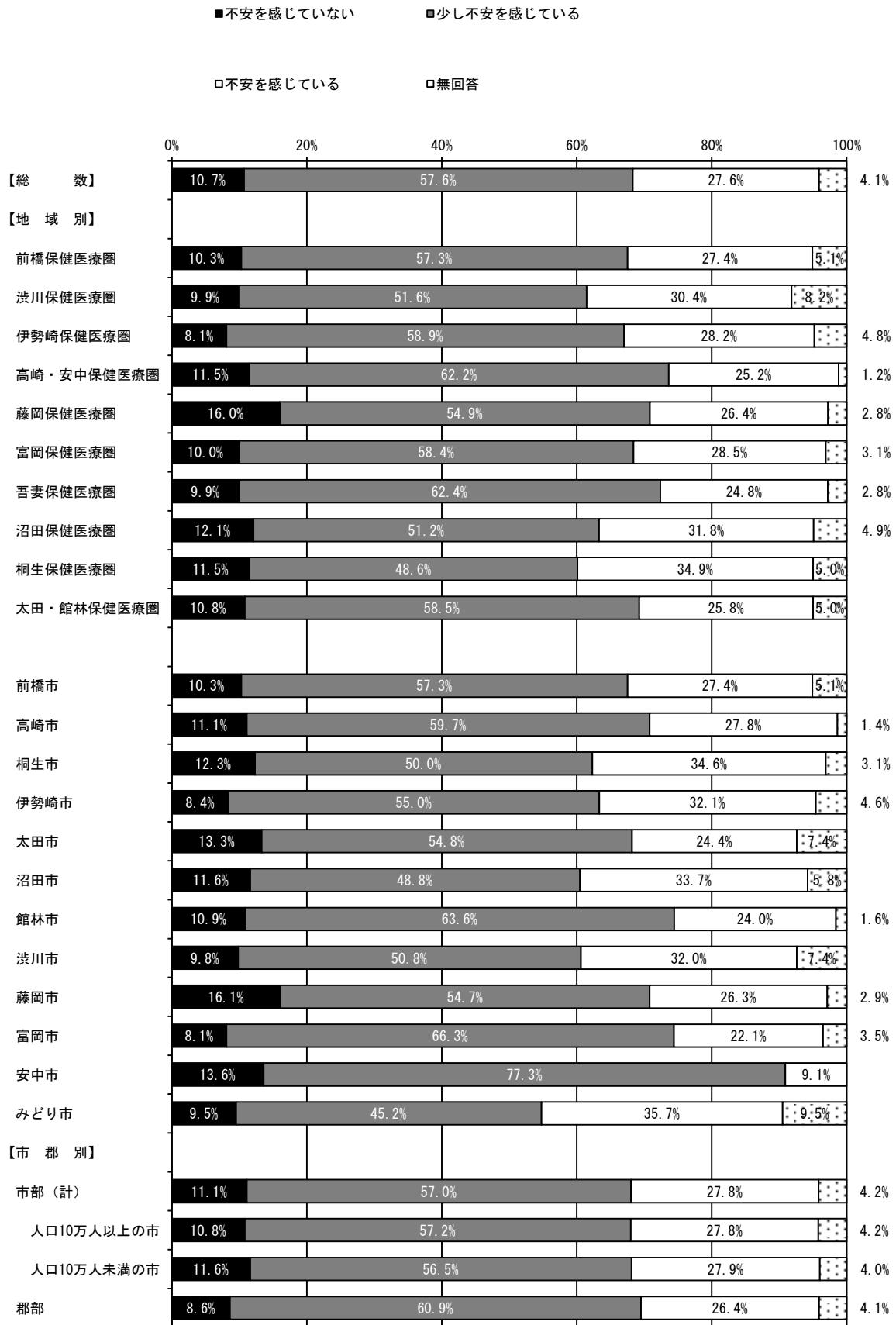
◆職業別

「不安を感じていない」は学生が 45.6%と最も多くなっており、他の職業に比べ大きな差異がみられる。

◆健康状態別

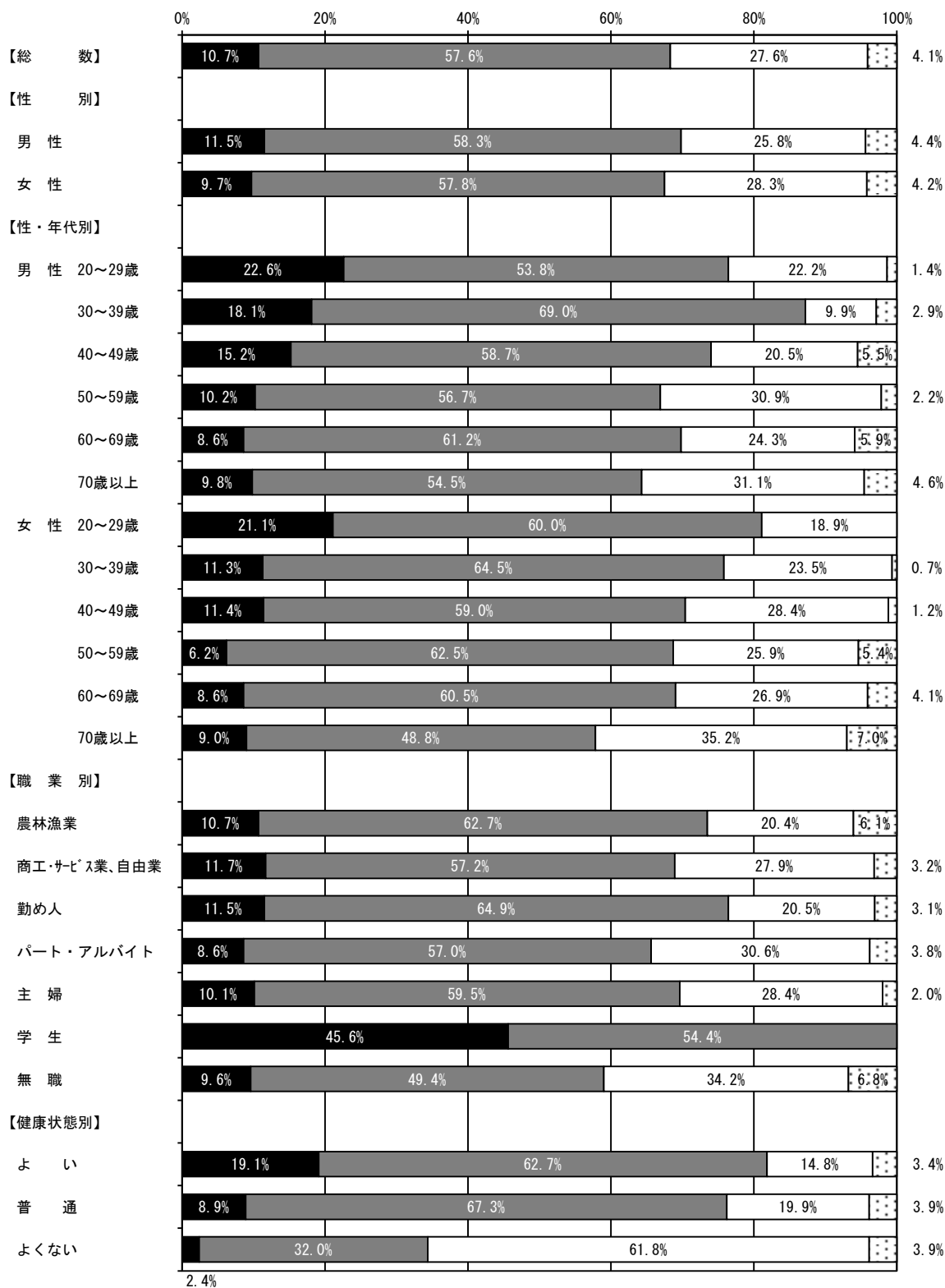
「不安を感じてない」は健康状態がよいが 19.1%、健康状態がよくないが 2.4%となっており、健康状態により差異がみられる。

図 2 - 2 健康に対する不安の声



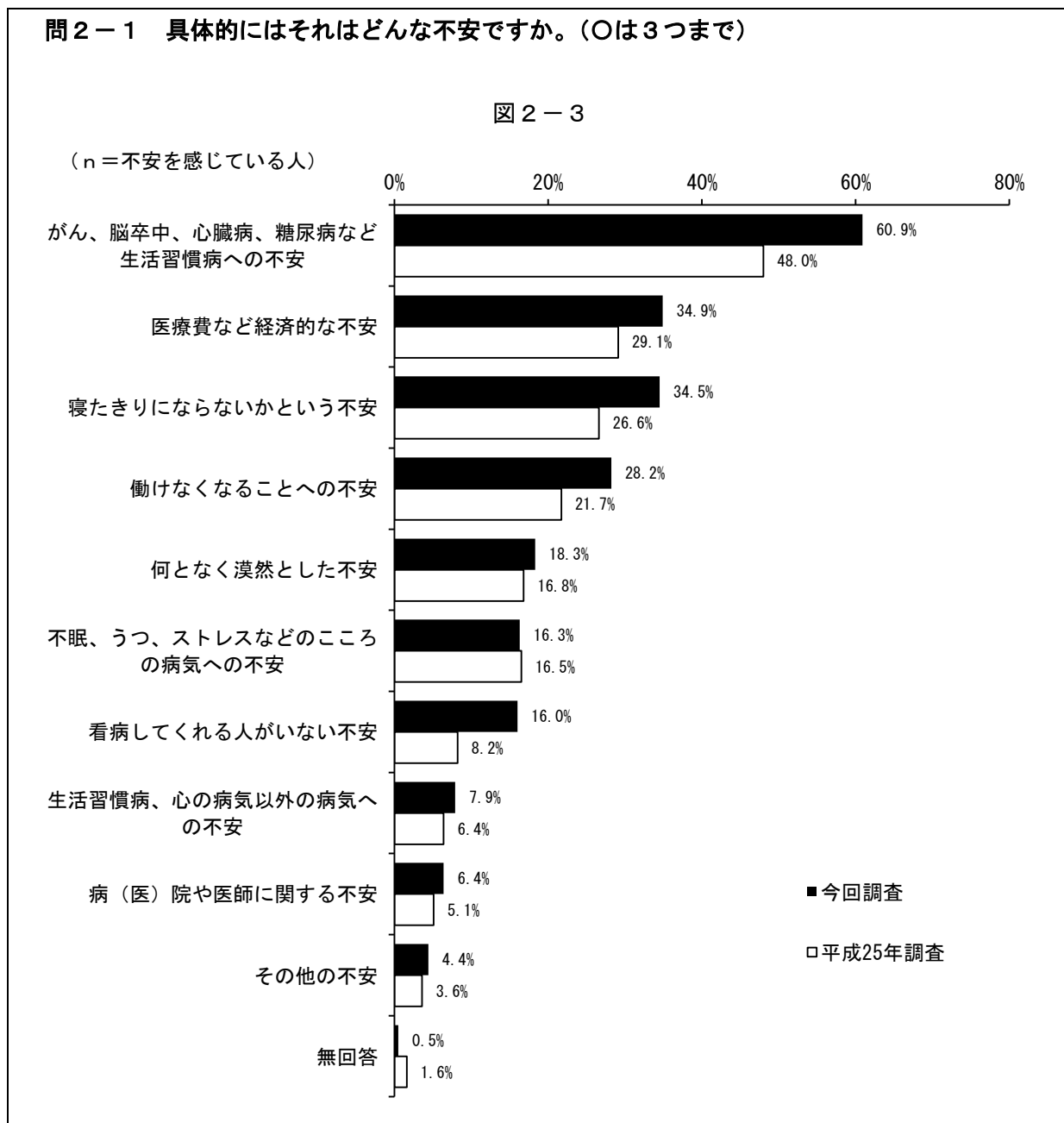
■不安を感じていない ■少し不安を感じている

□不安を感じている □無回答



(2) 具体的な不安内容

～「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」60.9%が最も多い～



「もし自分が病気になったら」という不安を持っている人に、具体的に不安なことを聞いたところ、「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」が60.9%と最も多く、次いで「医療費など経済的な不安」が34.9%、「寝たきりにならないかという不安」が34.5%となっている。

平成25年調査結果との比較では、傾向に変化はみられない。

◆地域別

いずれの地域も「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」が最も多くなっている。その他、「医療費など経済的な不安」、「寝たきりにならないかという不安」、「働けなくなることへの不安」が多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられないが、「医療費など経済的な不安」、「看病してくれる人がいない不安」は郡部に比べ、市部の方が多くなっている。

◆性別

男性と女性とも「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」が最も多くなっている。

◆性・年代別

「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」は男性では50代が77.2%、女性では40代が67.6%と最も多くなっている。その他、「働けなくなることへの不安」は30代男性が53.5%と多く、「寝たきりにならないかという不安」は70歳以上の女性が56.3%と多くなっている。

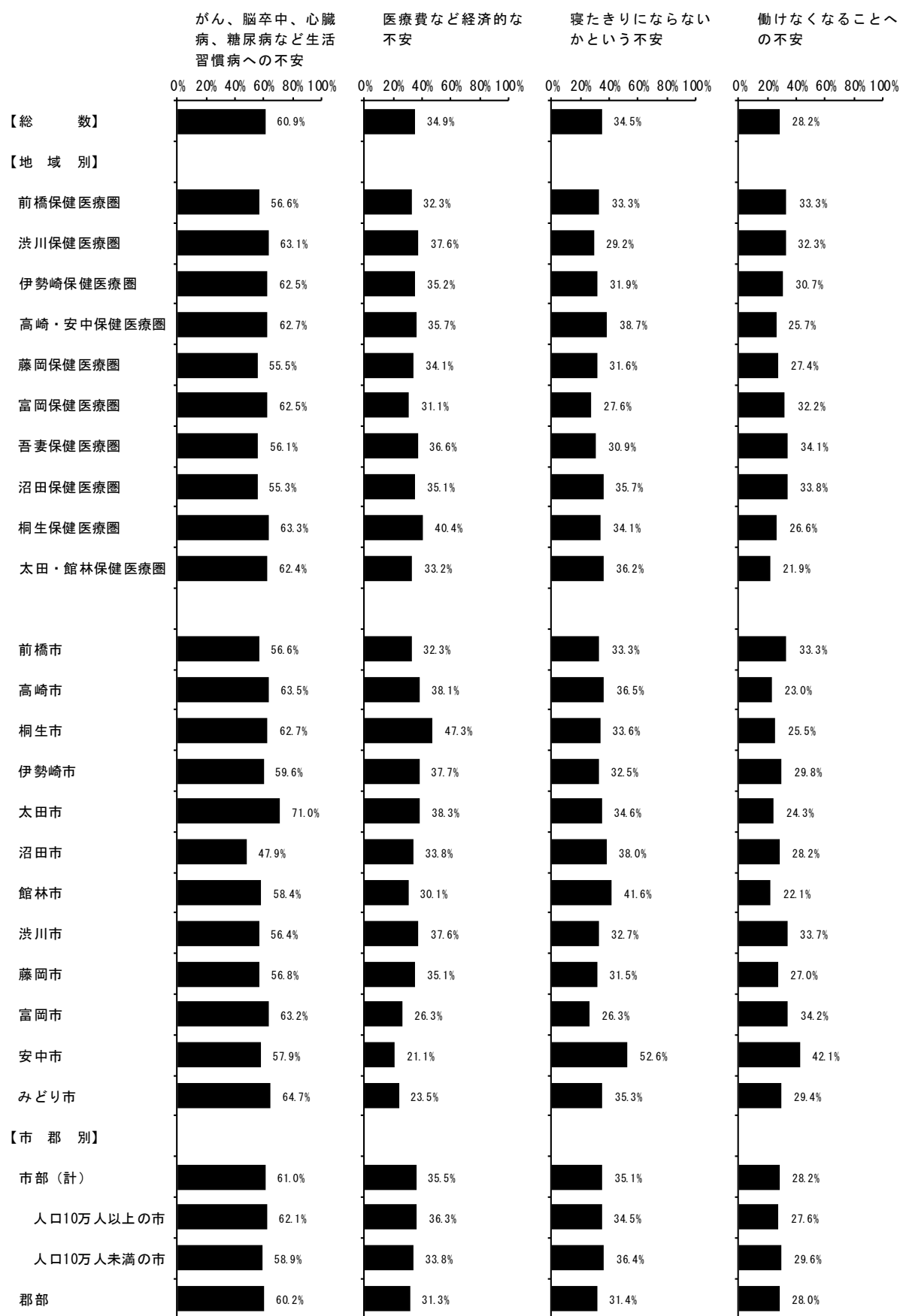
◆職業別

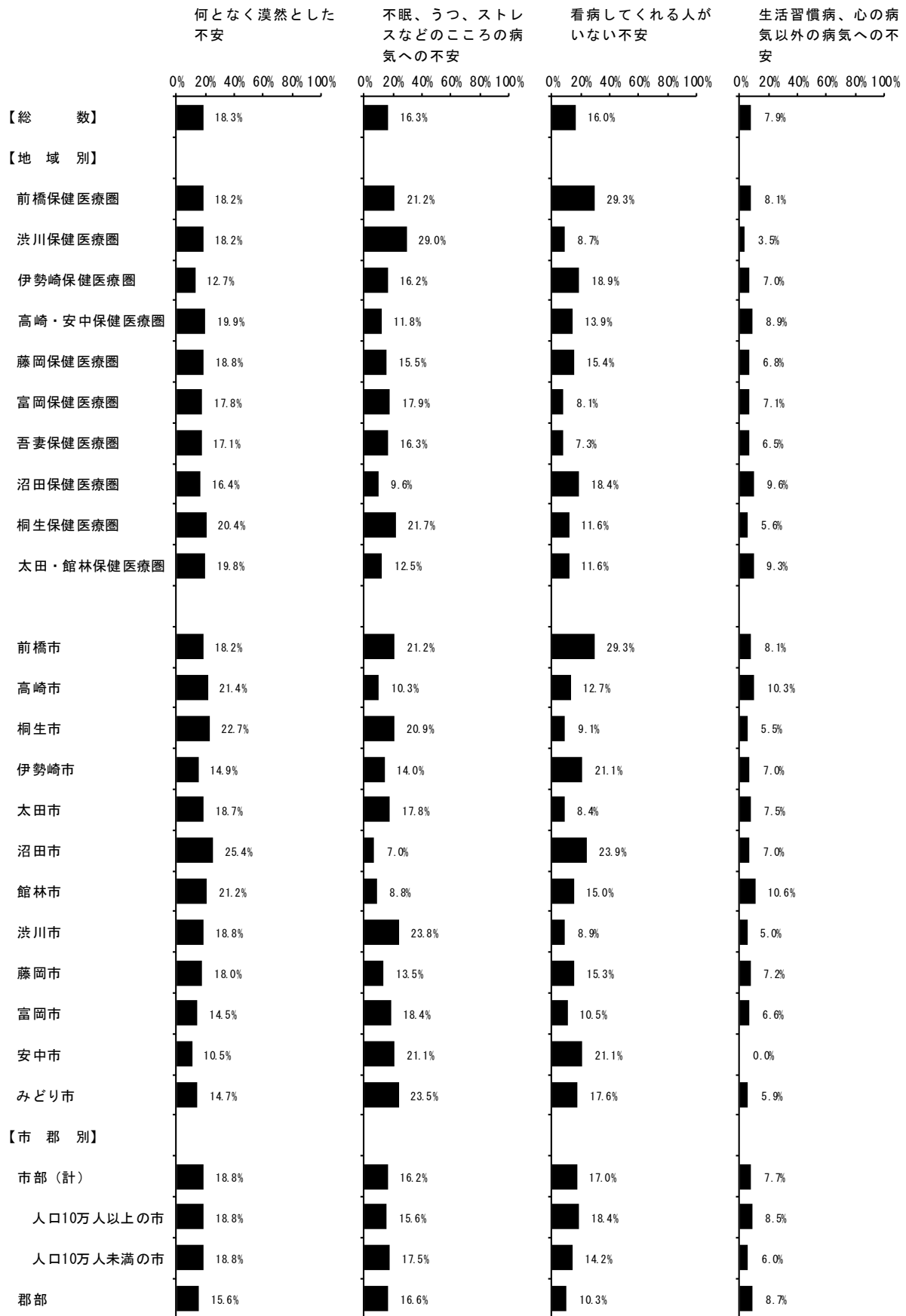
学生を除いたすべての職業で「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」が最も多くなっており、学生では「何となく漠然とした不安」が61.7%と最も多くなっている。その他、「医療費など経済的な不安」はパート・アルバイトが48.1%と多く、「寝たきりにならないかという不安」は無職者が51.9%と多くなっている。

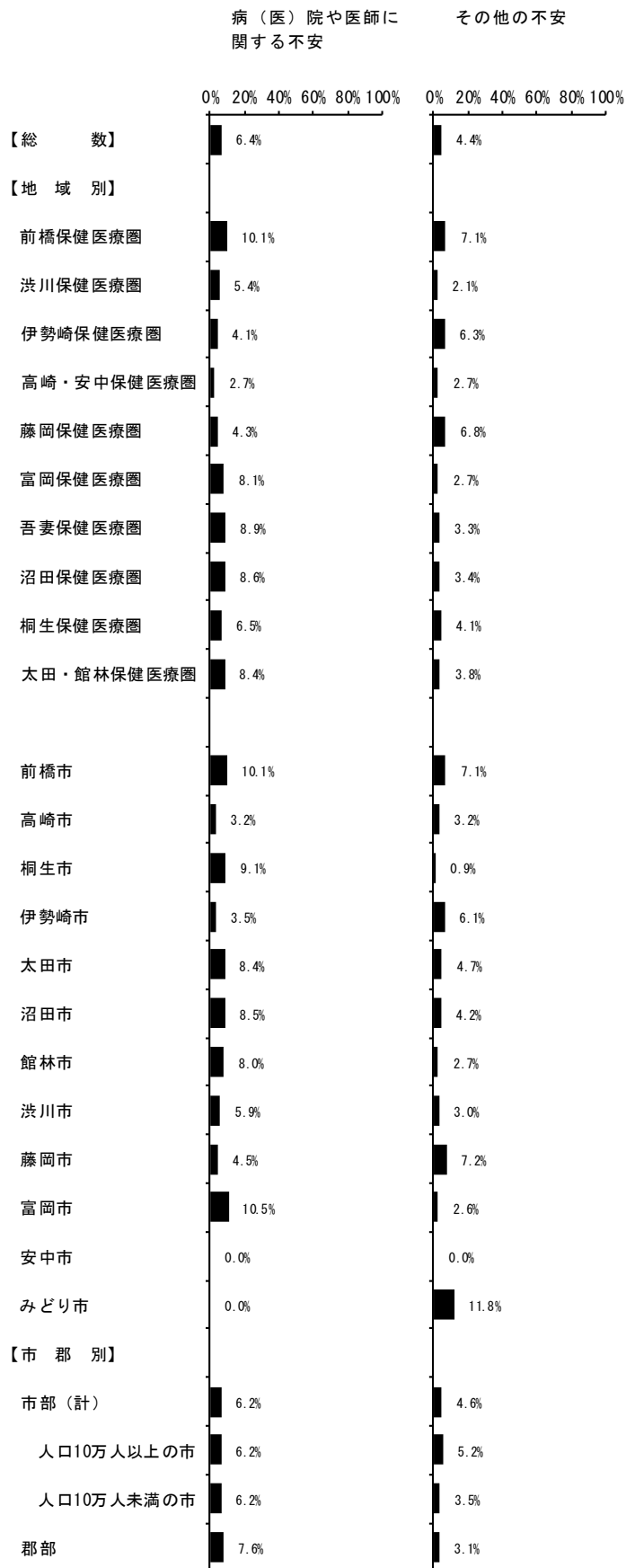
◆健康状態別

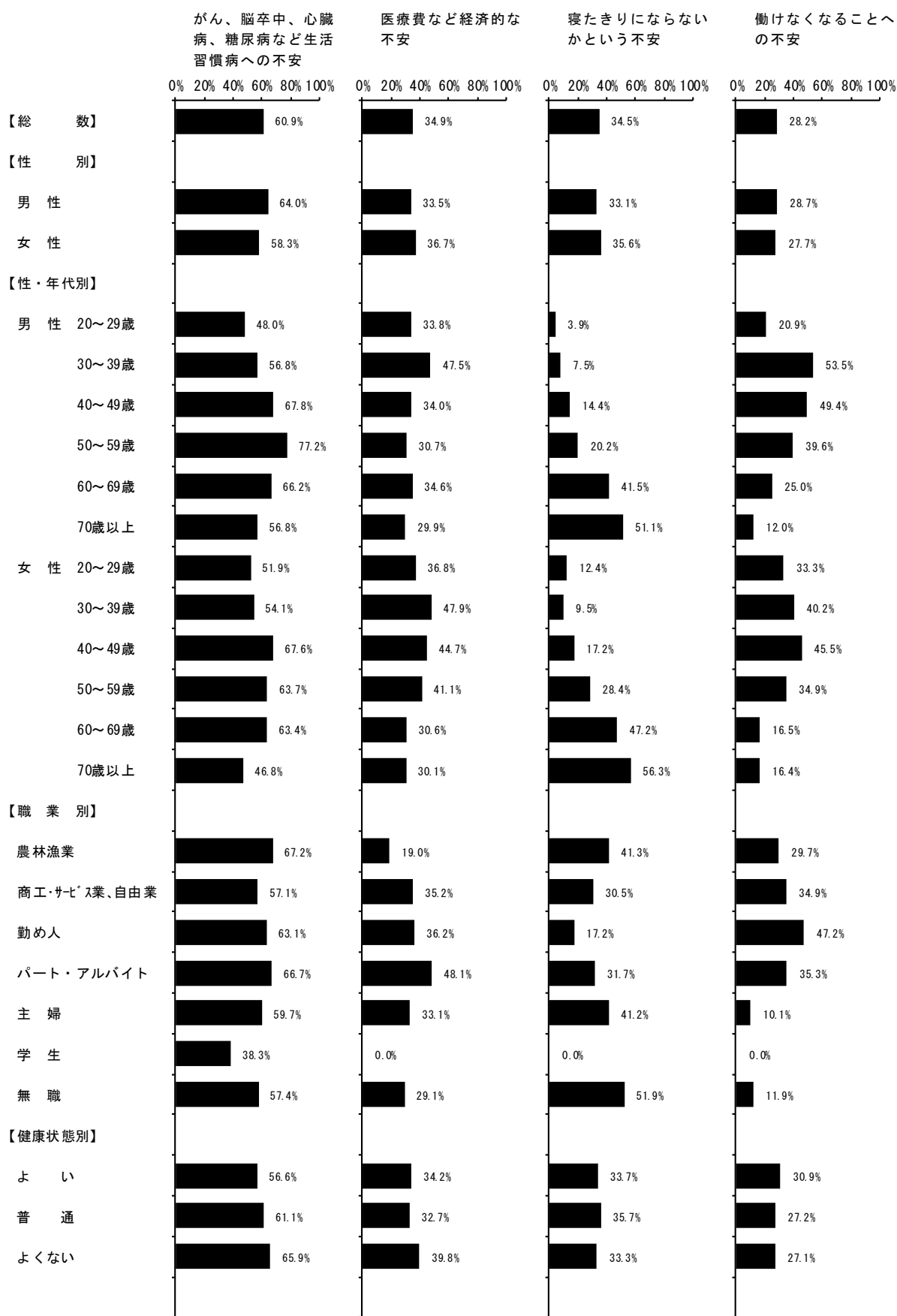
「不眠、うつ、ストレスなどのこころの病気への不安」、「がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安」、「看病してくれる人がいない不安」、「医療費など経済的な不安」は健康状態がよいに比べ、健康状態がよくないの方が多くなっている。一方、「何となく漠然とした不安」、「働けなくなることへの不安」は健康状態がよくないに比べ、健康状態がよいの方が多くなっている。

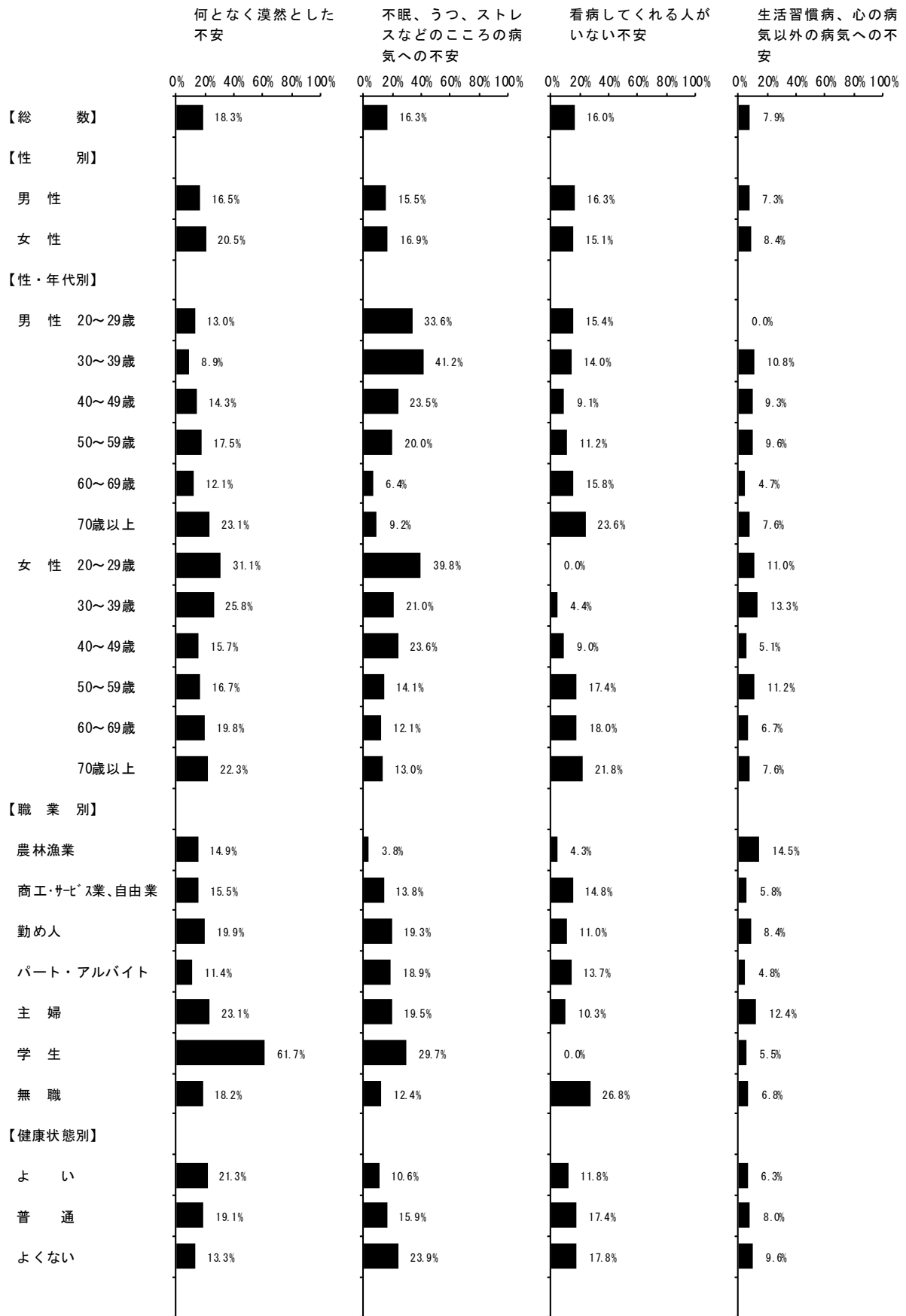
図 2-4 具体的な不安内容

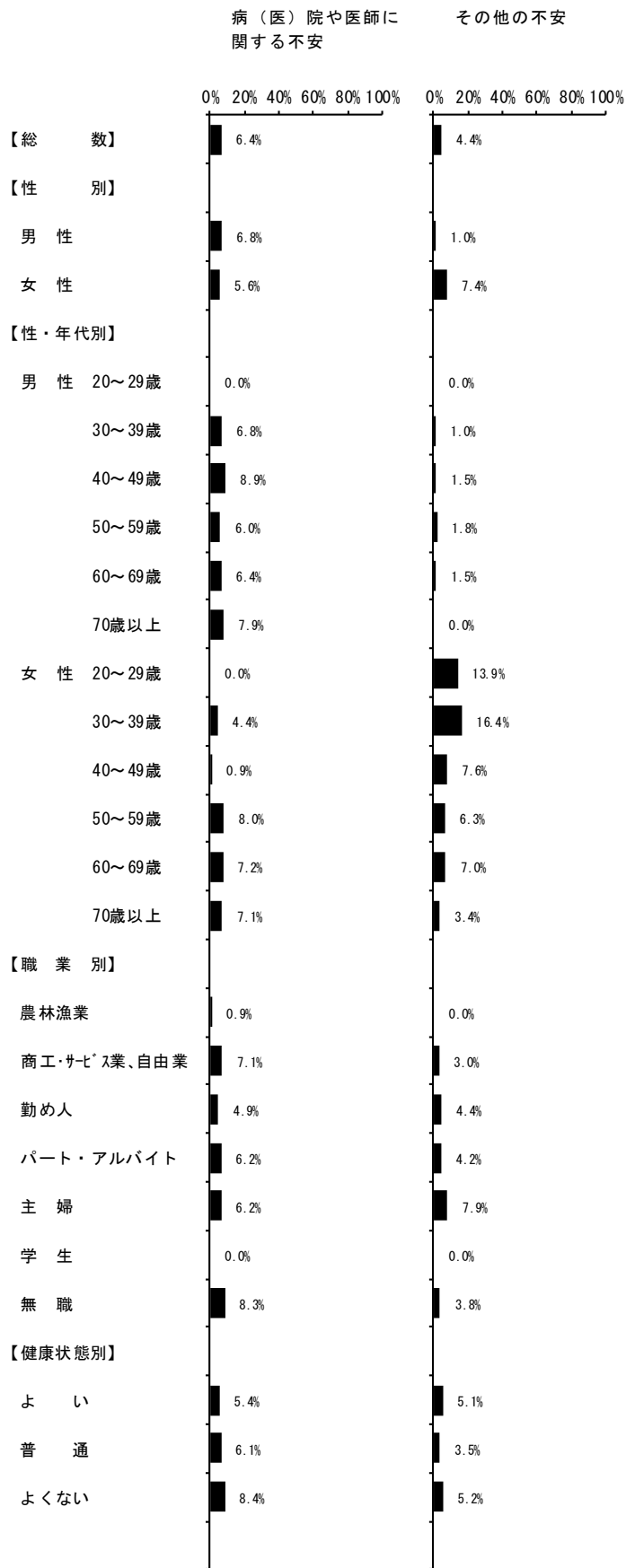












3 健康づくり

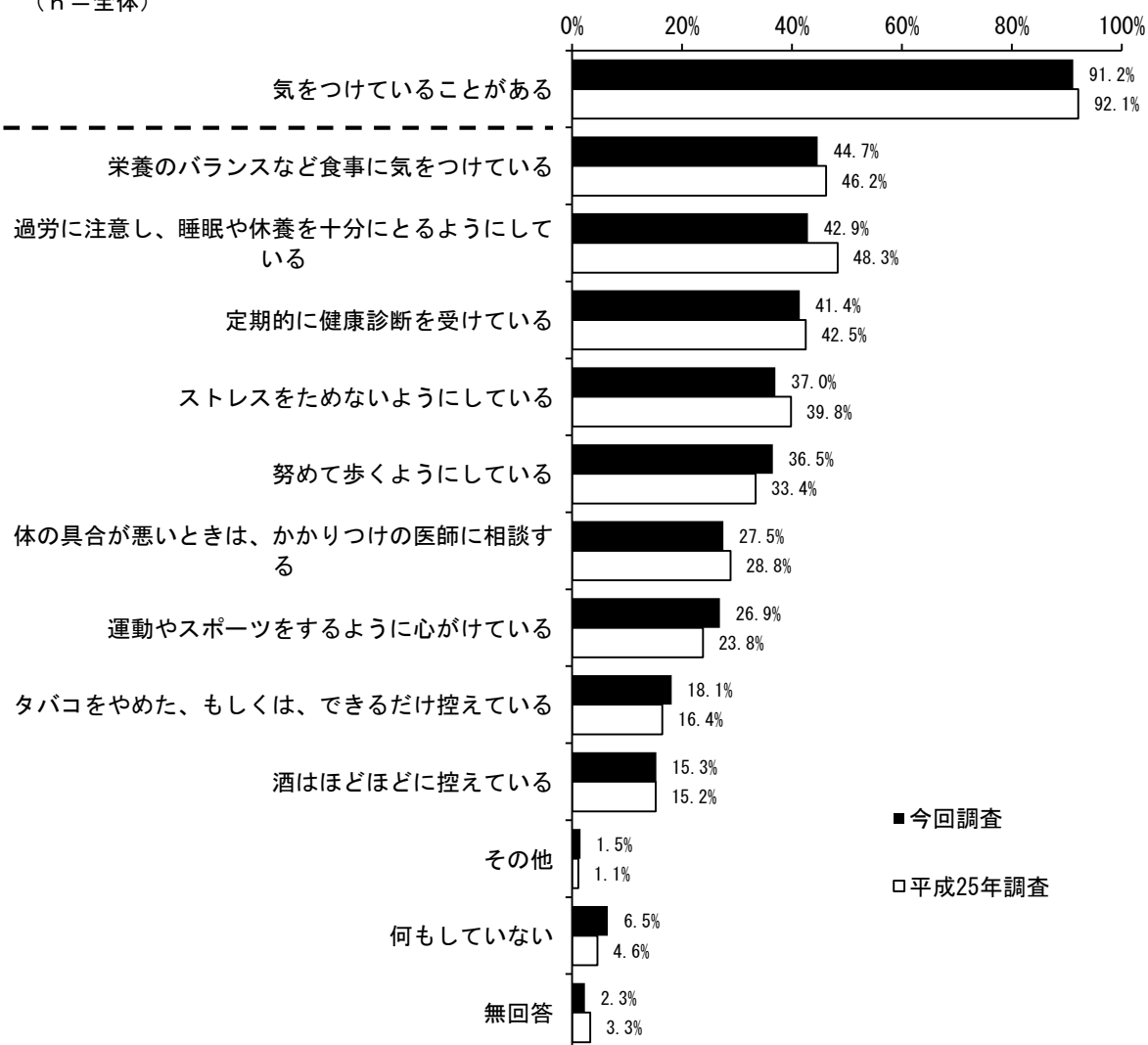
(1) 健康保持のために気をつけていること

～「栄養のバランスなど食事に気をつけている」44.7%、「過労に注意し、睡眠や休養を十分にとるようにしている」42.9%、「定期的に健康診断を受けている」41.4%～

問3 あなたは、健康のために何か気をつけていることがありますか。次の中からあてはまるものをあげてください。(○はあてはまるものすべて)

図3-1

(n=全体)



健康づくりで気をつけていることは、「栄養のバランスなど食事に気をつけている」が44.7%と最も多く、次いで「過労に注意し、睡眠や休養を十分にとるようにしている」が42.9%、「定期的に健康診断を受けている」が41.4%となっている。

平成25年調査結果との比較では、「過労に注意し、睡眠や休養を十分にとるようにしている」が少なくなっている。

◆地域別

いずれの地域も「栄養のバランスなど食事に気をつけている」が40.0%を超えており、その中でも、太田・館林保健医療圏が49.3%と最も多くなっている。また、「過労に注意し、睡眠や休養を十分にとるようにしている」は前橋保健医療圏が49.6%と最も多く、「定期的に健康診断を受けている」は桐生保健医療圏が45.5%と最も多くなっている。

◆市郡別

市部では「栄養のバランスなど食事に気をつけている」が44.2%と最も多く、郡部では「定期的に健康診断を受けている」が50.9%と最も多くなっている。また、「運動やスポーツをするように心がけている」は郡部（21.7%）に比べ、市部（27.8%）の方が多くなっている。

◆性別

男性では「定期的に健康診断を受けている」が45.1%と最も多く、女性では「栄養のバランスなど食事に気をつけている」が51.7%と最も多くなっている。また、「タバコをやめた、もしくは、できるだけ控えている」は女性（7.1%）に比べ、男性（30.5%）の方が多くなっている。

◆性・年代別

男性で多かった「定期的に健康診断を受けている」は70歳以上の男性が55.3%と最も多く、女性で多かった「栄養のバランスなど食事に気をつけている」は60代女性が62.1%と最も多くなっている。その他、「ストレスをためないようにしている」は40代男性が47.2%と多く、「努めて歩くようにしている」は70歳以上の女性が53.6%と多くなっている。また、「何もしていない」は男性では20代が20.2%、女性では20代が20.8%と20代が最も多くなっている。

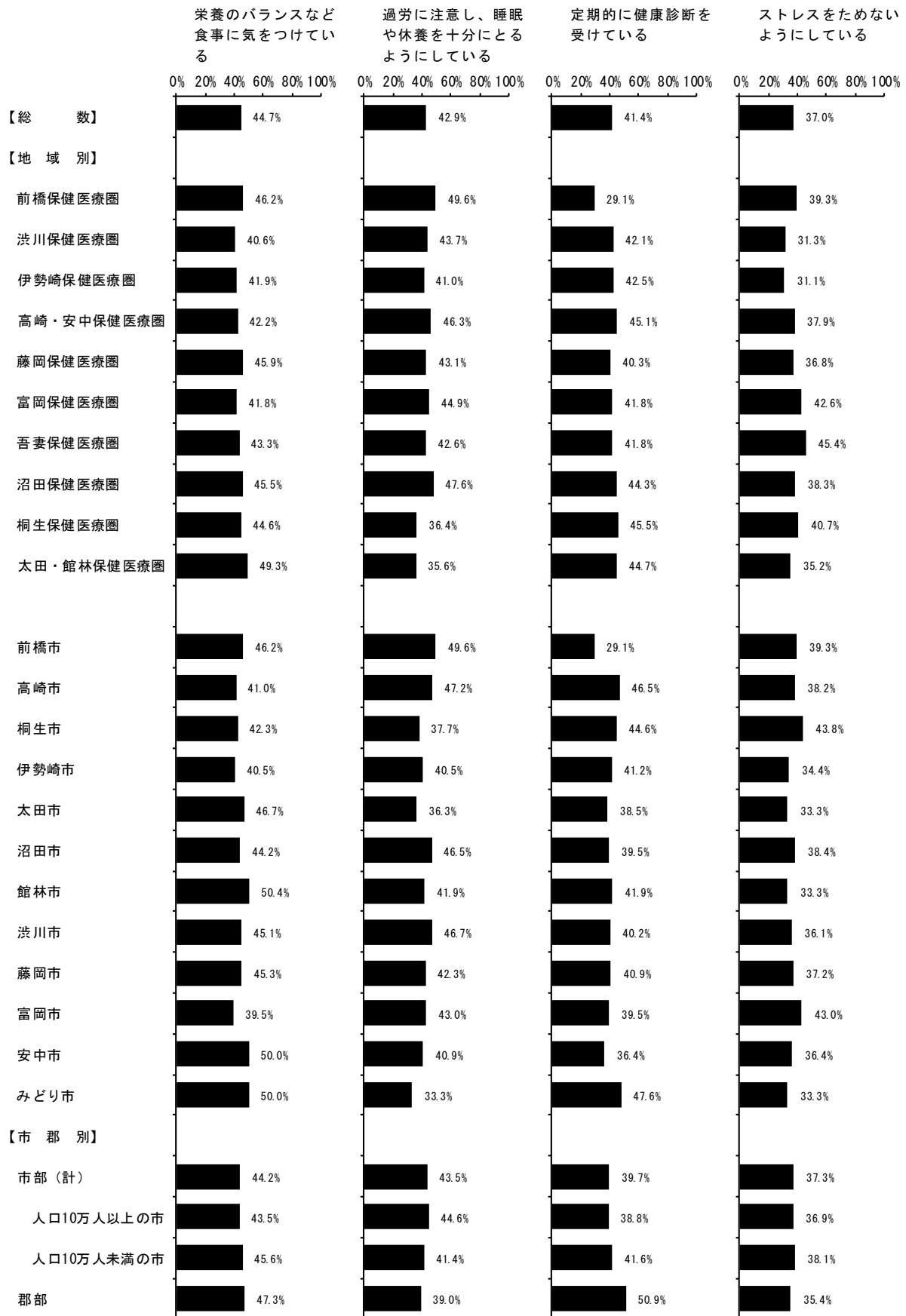
◆職業別

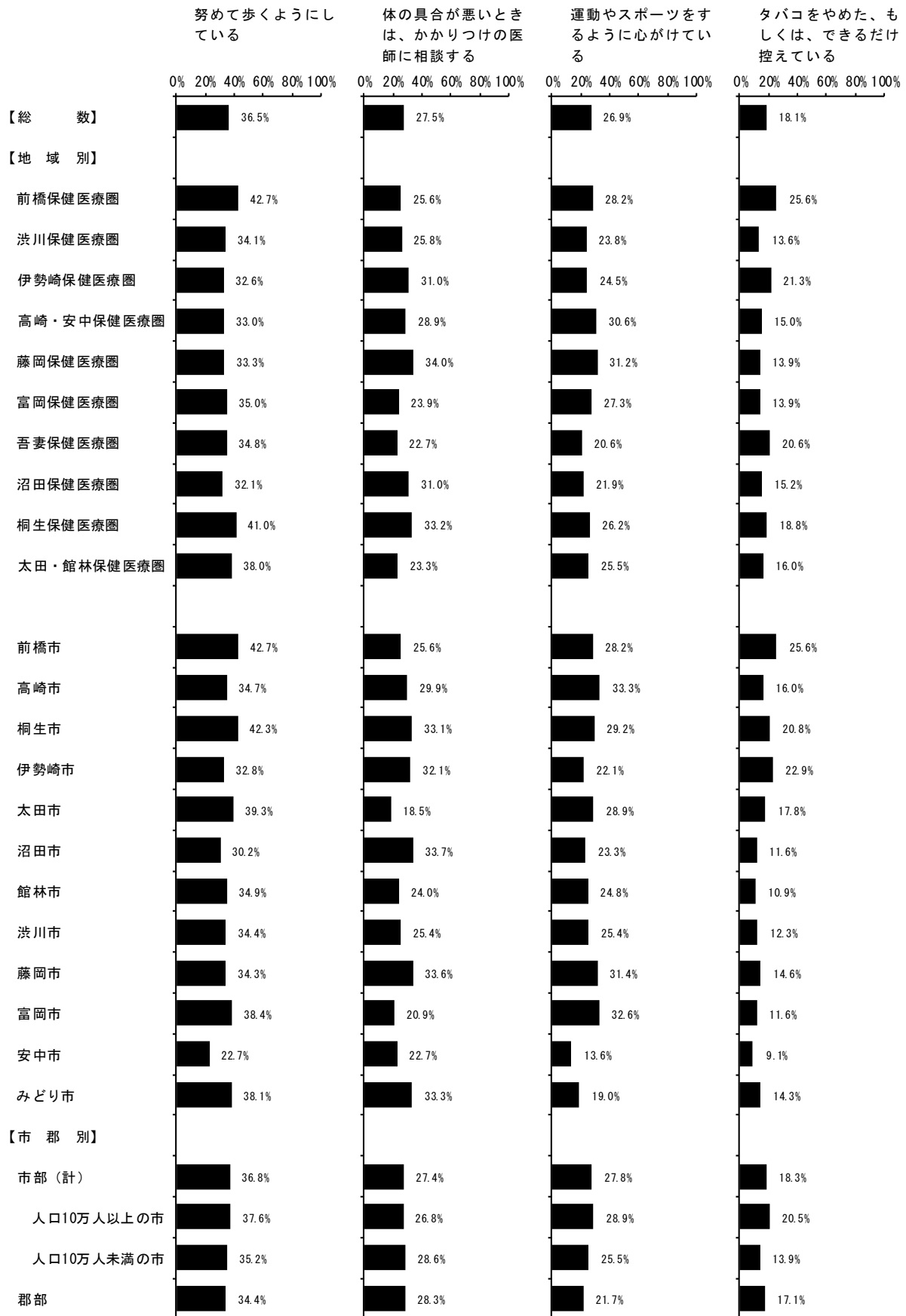
農林漁業、勤め人、パート・アルバイトでは「過労に注意し、睡眠や休養を十分にとるようにしている」が最も多く、主婦では「栄養のバランスなど食事に気をつけている」が62.2%と最も多く、学生では「運動やスポーツをするように心がけている」が55.7%と最も多くなっている。また、「何もしていない」は学生が19.9%と最も多くなっている。

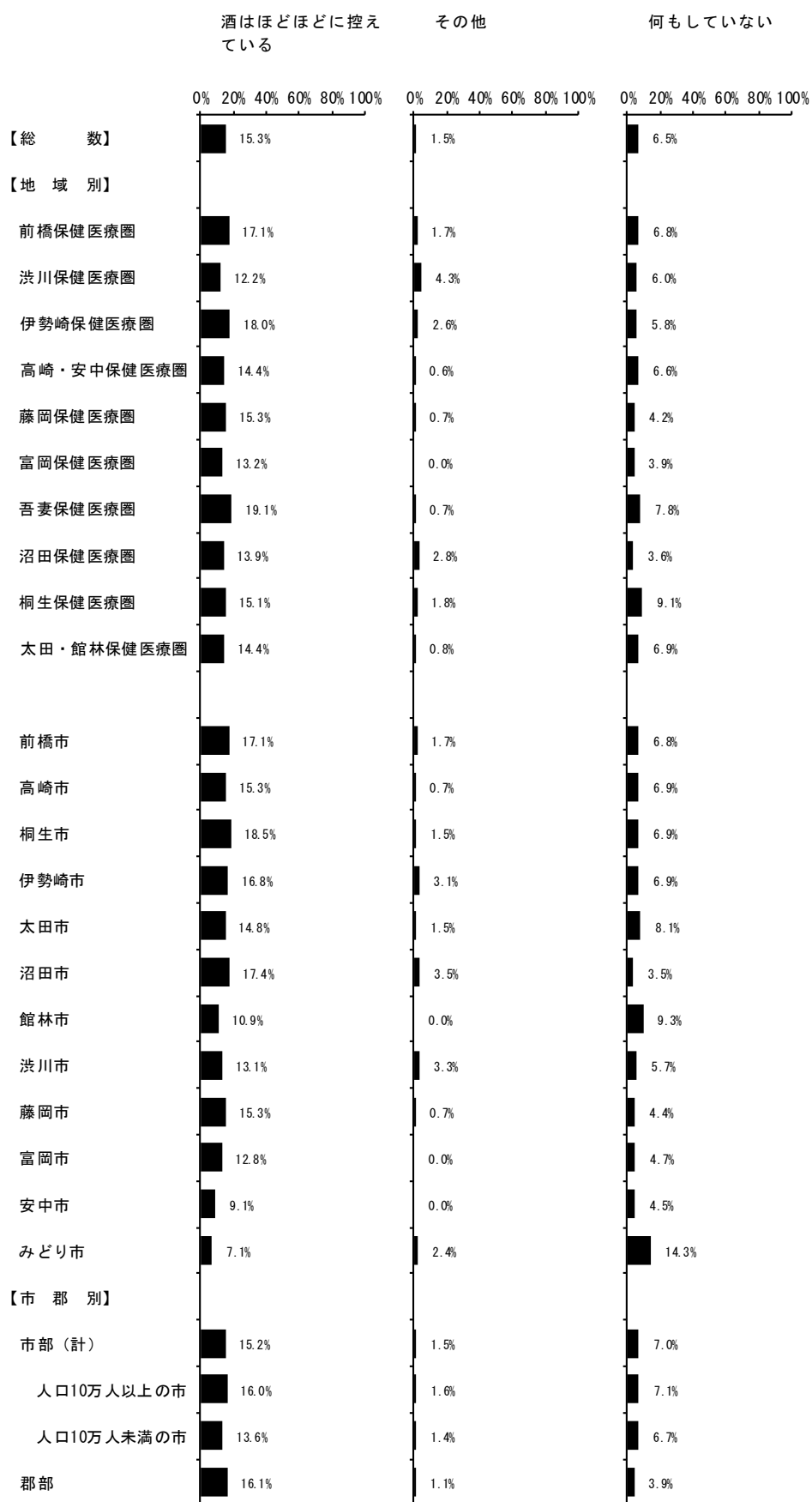
◆健康状態別

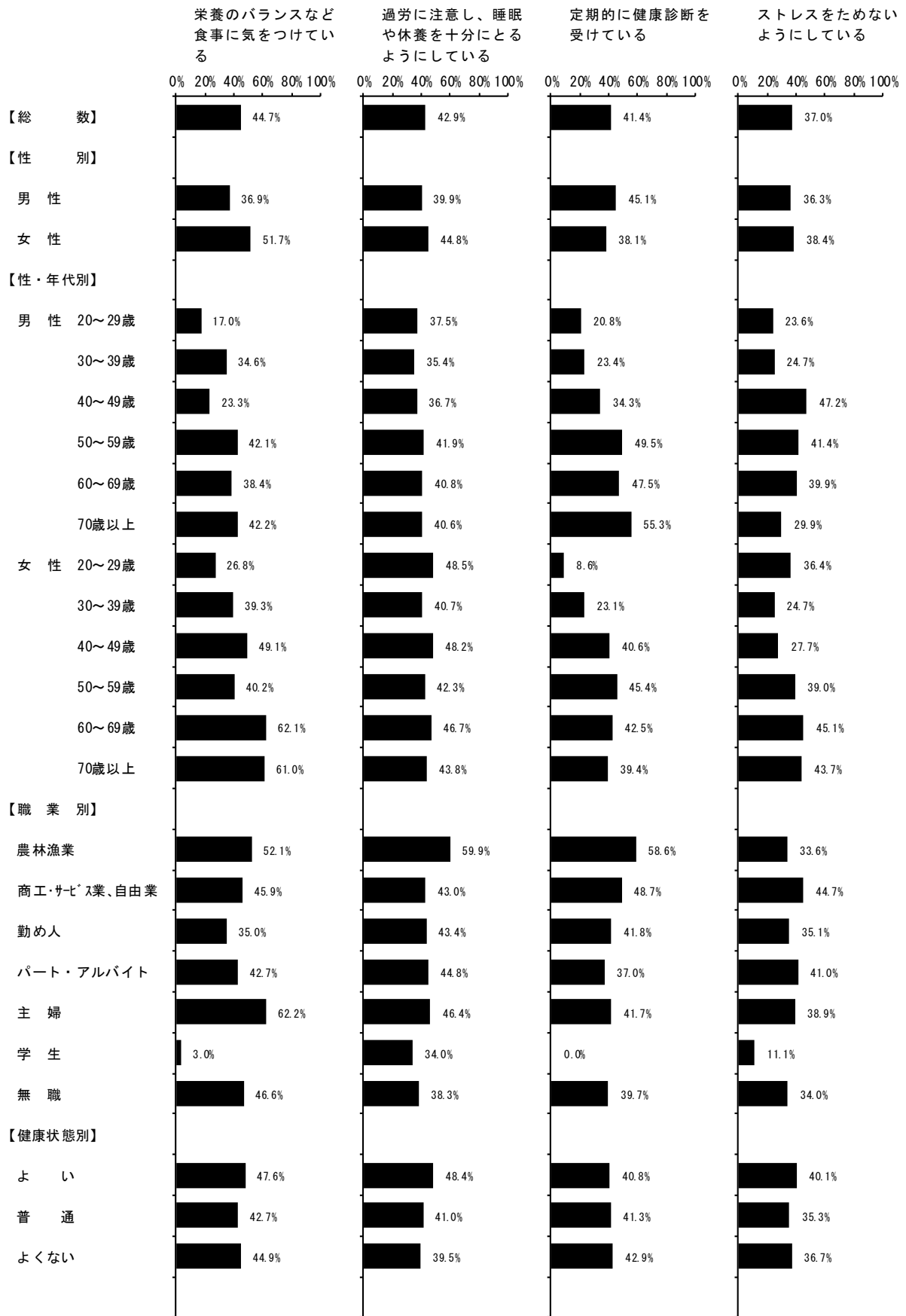
「体の具合が悪いときは、かかりつけの医師に相談する」は健康状態がよい（21.3%）に比べ、健康状態がよくない（35.5%）の方が多くなっている。一方、「運動やスポーツをするように心がけている」は健康状態がよくない（22.1%）に比べ、健康状態がよい（37.2%）の方が多くなっている。

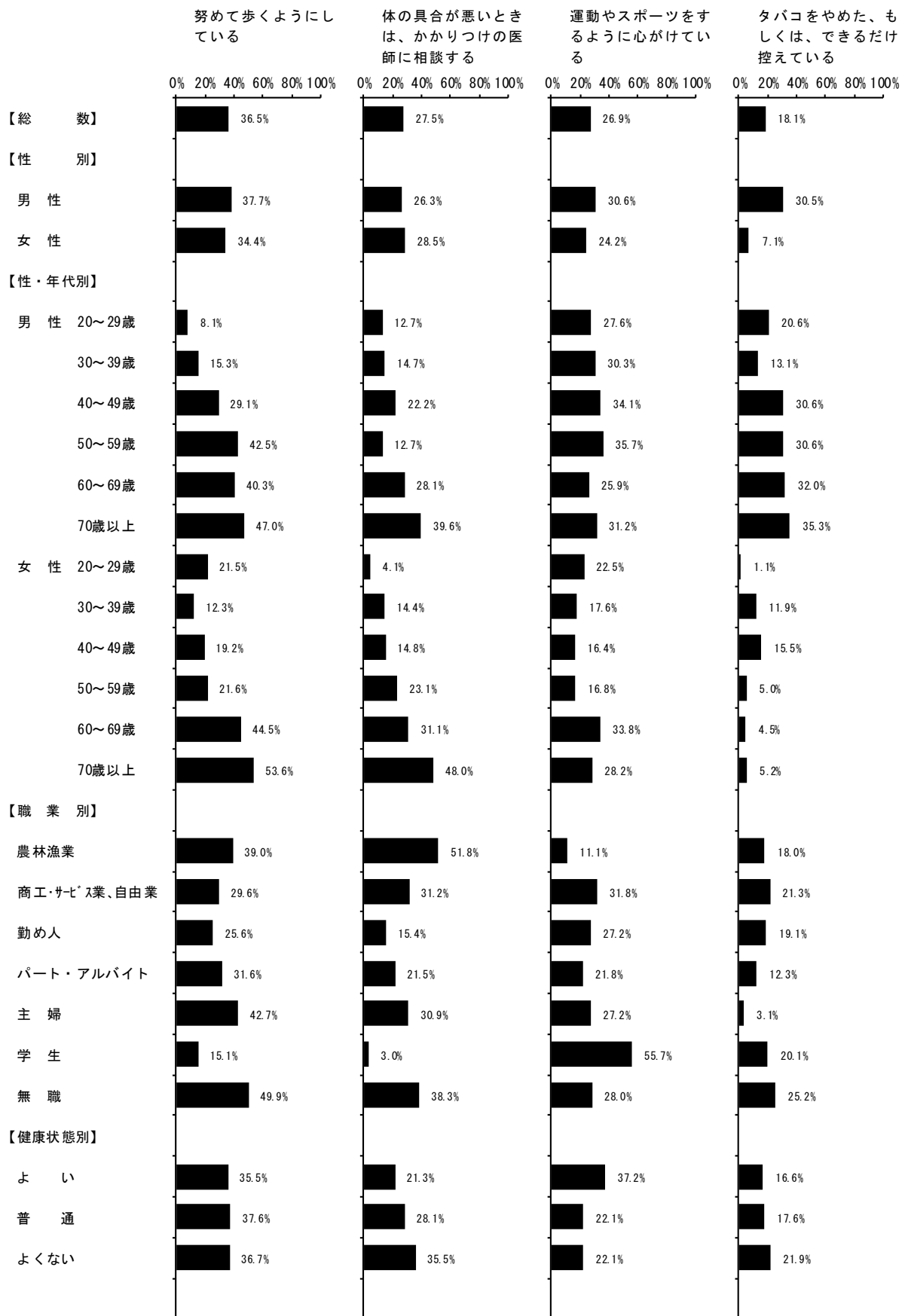
図3-2 健康保持のために気をつけていること

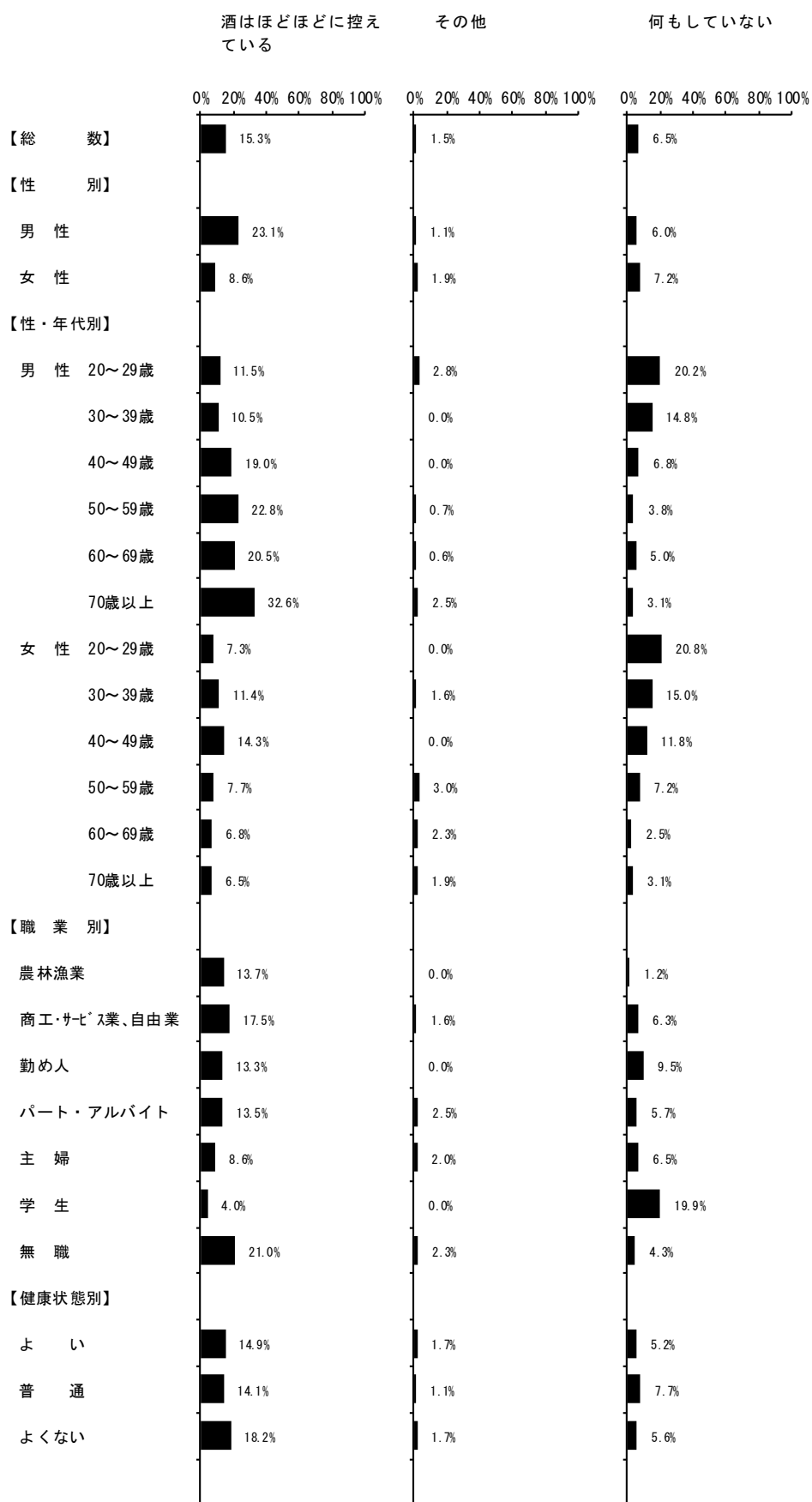






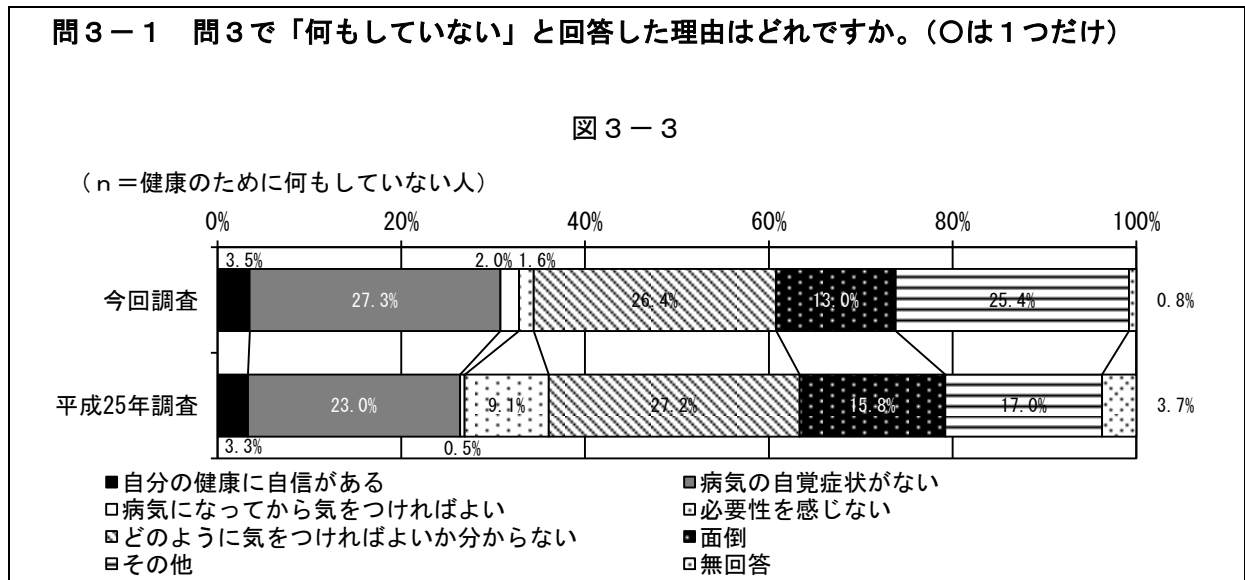






(2) 健康保持のために「何もしていない」理由

～「病気の自覚症状がない」27.3%、「どのように気をつければよいか分からない」26.4%～



「何もしていない」理由については、「病気の自覚症状がない」が27.3%と最も多く、次いで「どのように気をつけようか分からない」が26.4%となっている。

平成25年調査結果との比較では、「必要性を感じない」が少なくなっている。

◆地域別

「病気の自覚症状がない」は伊勢崎保健医療圏が44.4%と最も多くなっており、次いで吾妻保健医療圏が36.4%、桐生保健医療圏が35.2%となっている。

◆市郡別

「どのように気をつけようか分からない」は郡部(16.4%)に比べ、市部(27.4%)の方が多くなっている。

◆性別

男性では「どのように気をつけようか分からない」が29.9%と最も多く、女性では「病気の自覚症状がない」が25.5%と最も多くなっている。また、「面倒」は女性(6.2%)に比べ、男性(19.9%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「病気の自覚症状がない」は60代男性が47.4%、50代女性が53.5%と多くなっている。

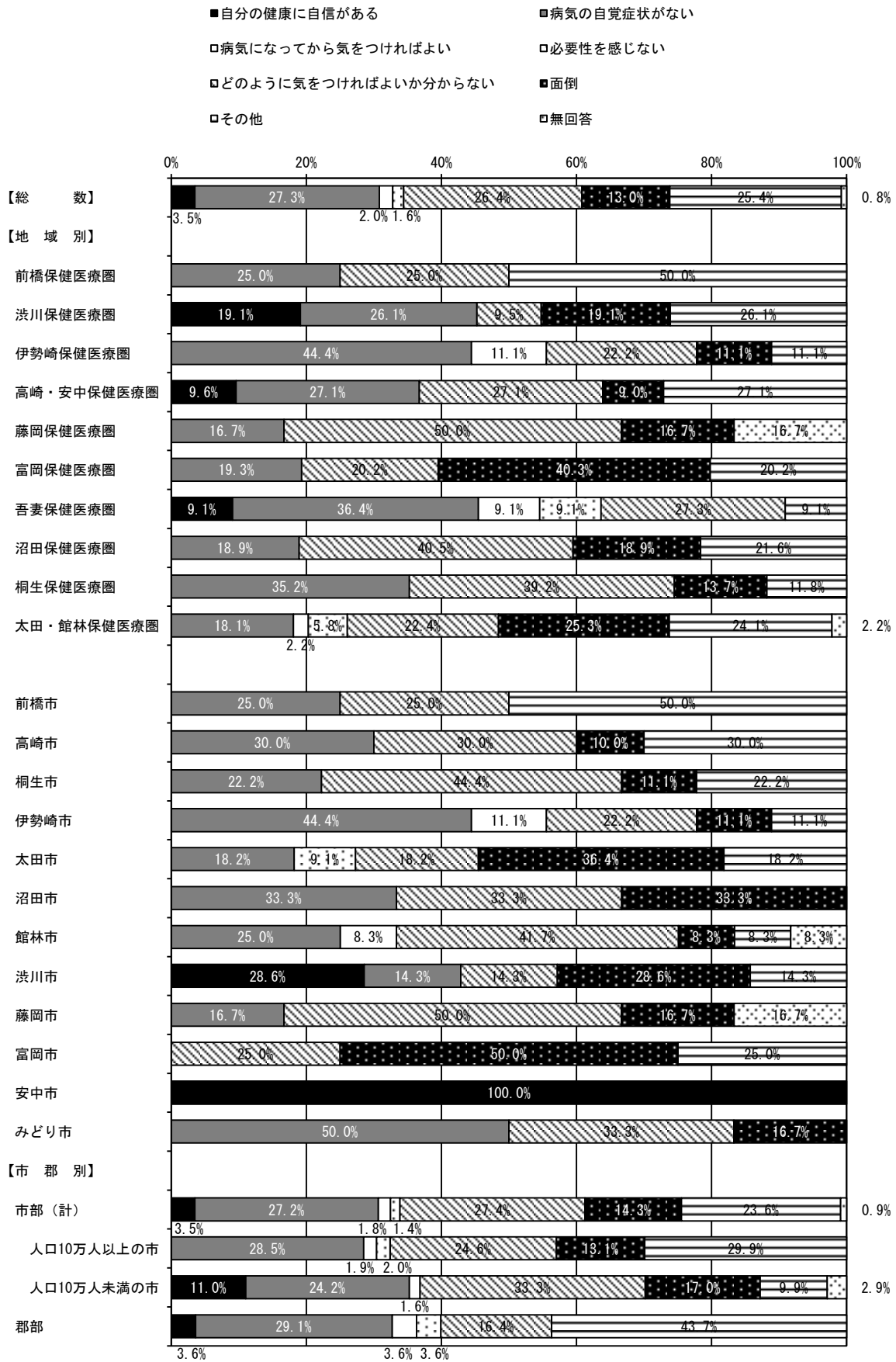
◆職業別

「病気の自覚症状がない」はパート・アルバイトが71.0%と最も多く、次いで学生が57.0%となっている。

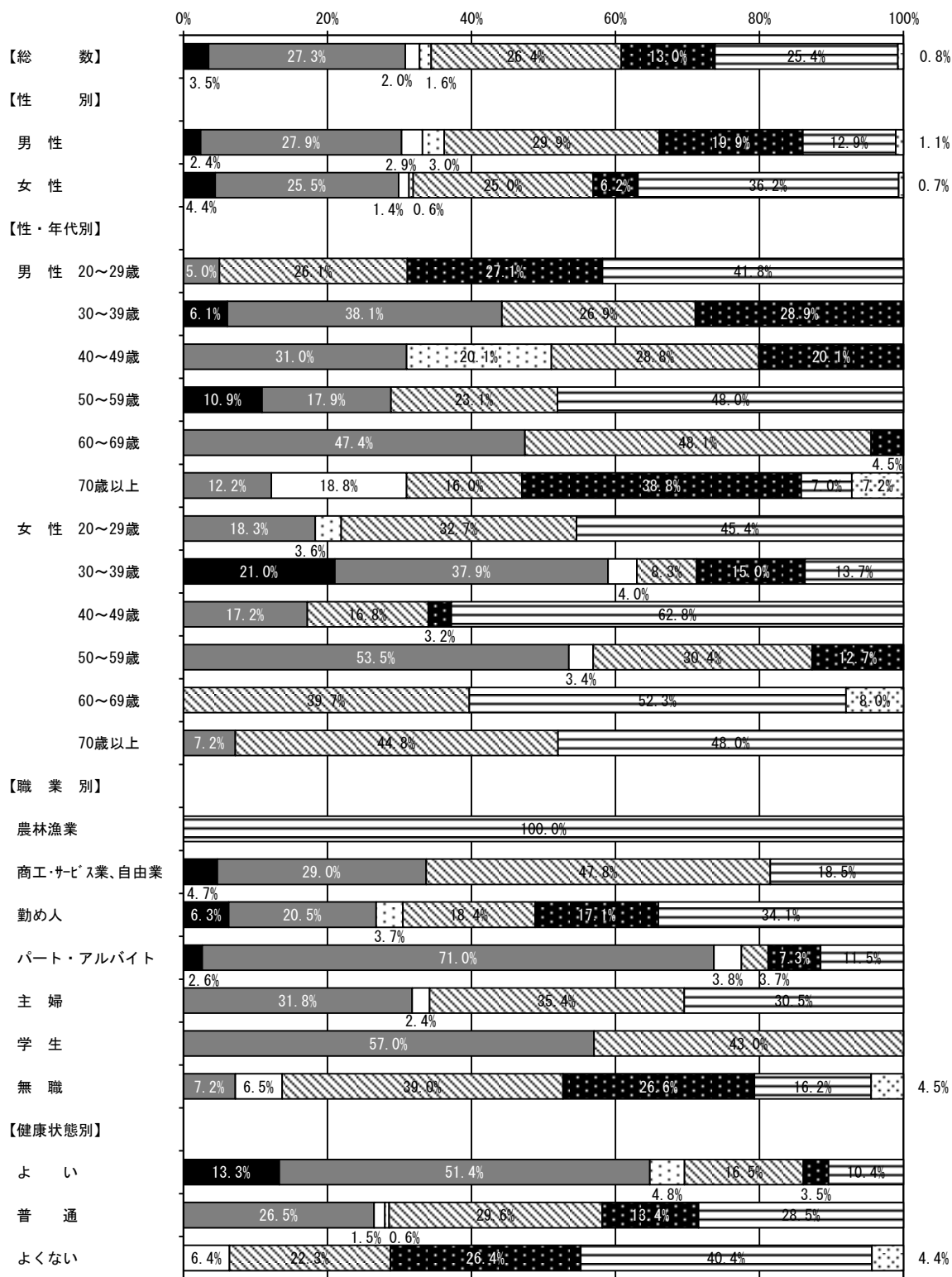
◆健康状態別

「病気の自覚症状がない」は健康状態がよいが51.4%となっている。また、「面倒」は健康状態がよい(3.5%)に比べ、健康状態がよくない(26.4%)の方が多くなっている。

図3-4 健康保持のために「何もしていない」理由



- 自分の健康に自信がある
- 病気の自覚症状がない
- 病気になってから気をつければよい
- 必要性を感じない
- どのように気をつければよいか分からない
- 面倒
- その他
- 無回答

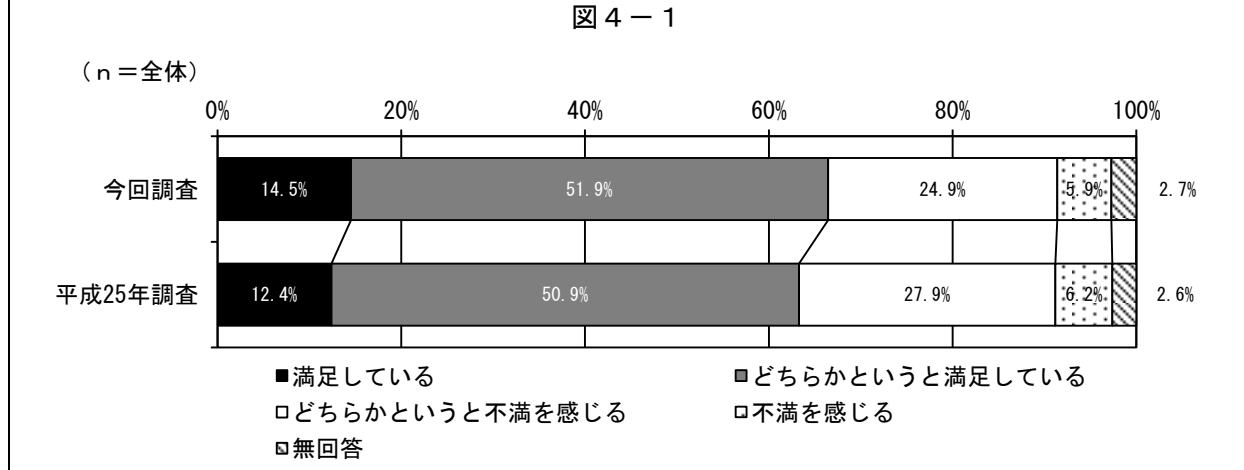


4 地域医療について

(1) 地域の医療全般に対する満足度

～＜満足＞66.4%、＜不満＞30.8%～

問4 あなたがお住まいの地域の医療全般について、どのように感じていますか。次の中からあてはまるものをあげてください。(○は1つだけ)



地域の医療については、「満足している」は14.5%で、これに「どちらかという満足している」(51.9%)と合わせた＜満足＞は66.4%となっている。これに対して「不満を感じる」は5.9%で、これに「どちらかという不満を感じる」(24.9%)と合わせた＜不満＞は30.8%となっている。

平成25年調査結果との比較では、＜満足＞がやや多くなっている。

◆地域別

＜満足＞は吾妻保健医療圏を除くと、いずれの地域も60.0%を超える若しくは60.0%近くになっている。一方、吾妻保健医療圏は＜満足＞(36.8%)に比べ、＜不満＞が61.7%と多くなっている。

◆市郡別

＜満足＞は郡部(55.4%)に比べ、市部(68.3%)の方が多くなっている。市部の中でも人口10万人未満の市(59.3%)に比べ、人口10万人以上の市(72.8%)の方が多くなっており、人口規模により差異がみられる。

◆性別

＜満足＞は男性と女性とも60.0%を超えている。

◆性・年代別

＜満足＞は男性では70歳以上が76.1%、女性では70歳以上が75.7%と70歳以上が最も多くなっている。

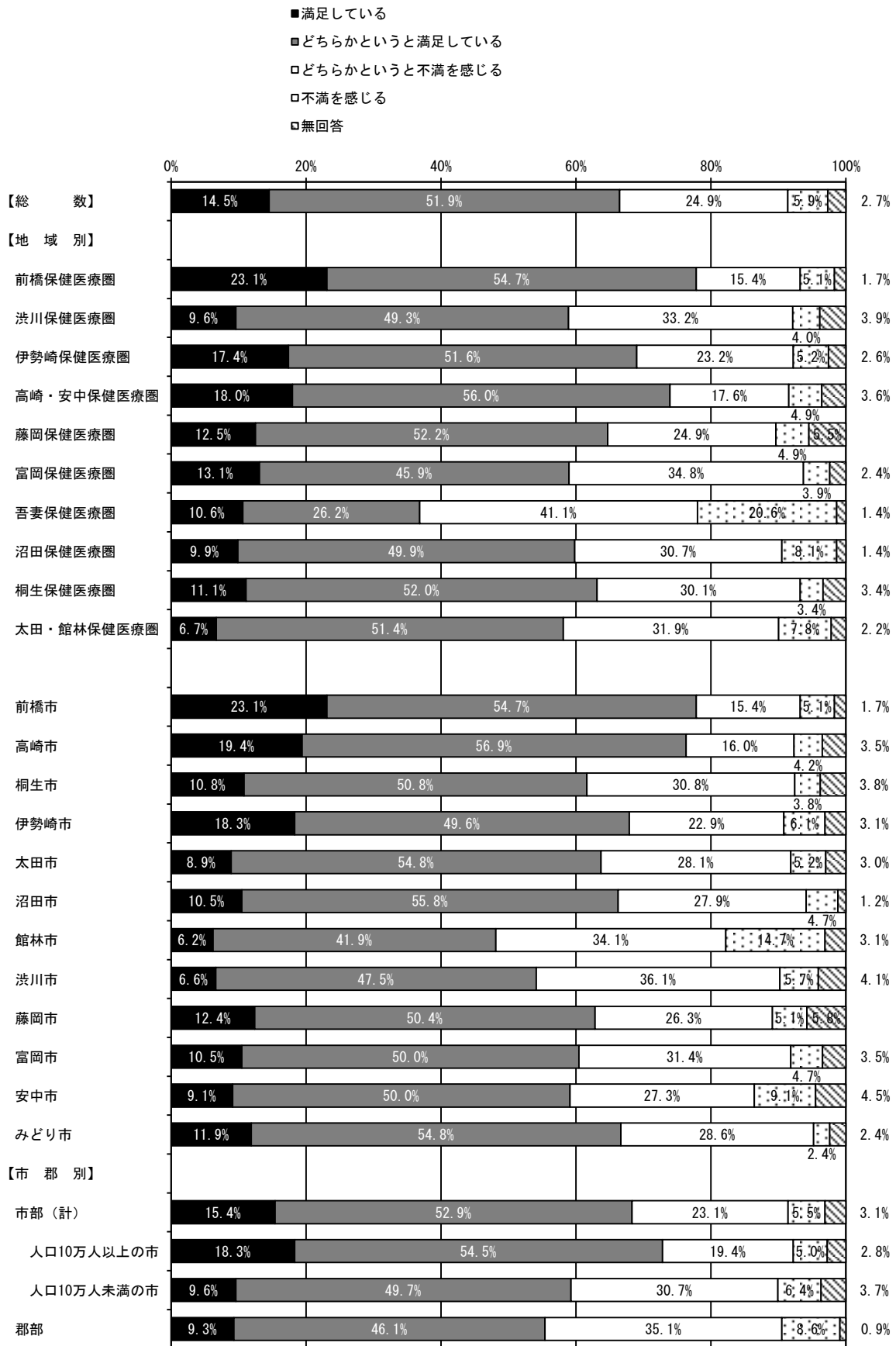
◆職業別

＜満足＞は農林漁業が74.4%と最も多くなっている。一方、＜不満＞はパート・アルバイトが44.0%と最も多く、次いで学生が38.4%、勤め人が32.2%となっている。

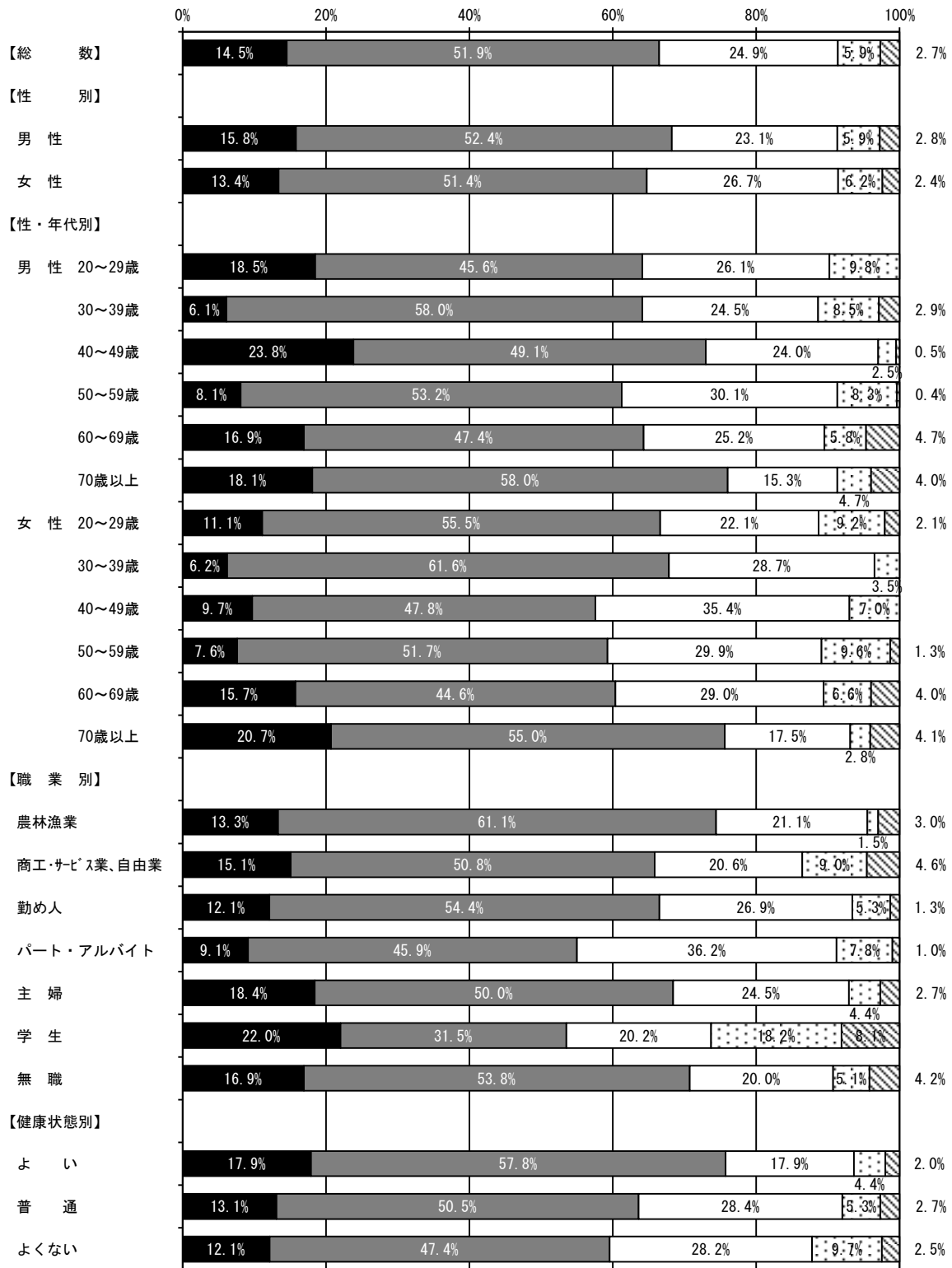
◆健康状態別

＜満足＞は健康状態がよいが75.7%、健康状態がよくないが59.5%となっており、健康状態により差異がみられる。

図4-2 地域の医療全般に対する満足度



- 満足している
- ▣どちらかという満足している
- どちらかという不満を感じる
- 不満を感じる
- 無回答



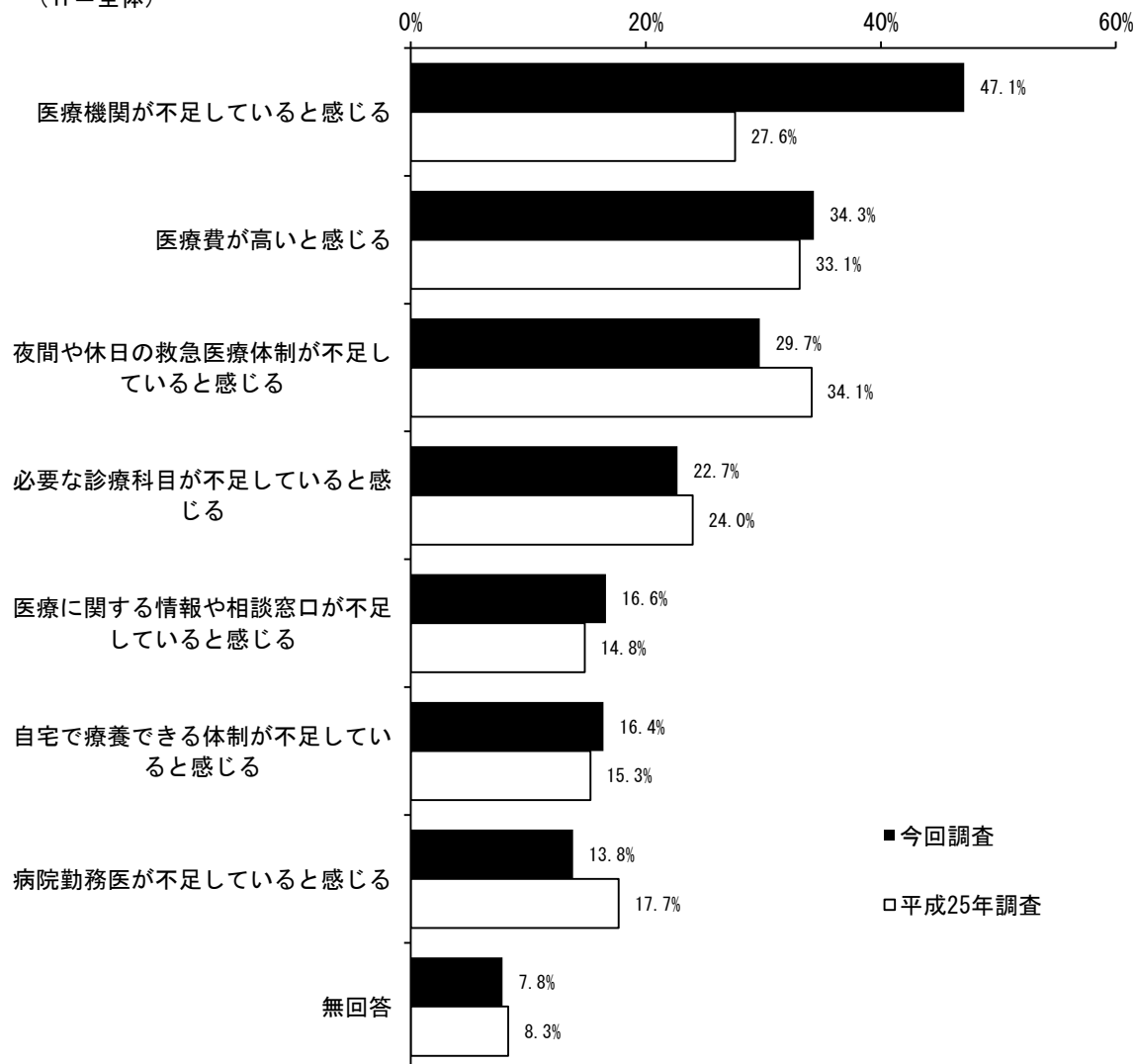
(2) 地域の医療に対する意識

～「医療機関が不足していると感じる」47.1%が最も多い～

問5 地域の医療に関する以下の項目について、どのように感じていますか。次の中からあてはまるものをあげてください。(○はあてはまるものすべて)

図4-3

(n=全体)



地域医療について感じる事としては、「医療機関が不足していると感じる」が47.1%と最も多く、次いで「医療費が高いと感じる」が34.3%、「夜間や休日の救急医療体制が不足していると感じる」が29.7%となっている。

平成25年調査結果との比較では、上位3項目に変わりはないが、今回調査では「医療機関が不足していると感じる」、「医療費が高いと感じる」が平成25年調査に比べ多くなり、一方で「夜間や休日の救急医療体制が不足していると感じる」が少なくなっている。その中でも「医療機関が不足していると感じる」は今回調査(47.1%)と平成25年調査(27.6%)で大きな差異がみられる。

◆地域別

いずれの地域も「医療機関が不足していると感じる」が最も多くなっており、40.0%を超えている。その中でも吾妻保健医療圏が70.2%と最も多くなっている。吾妻保健医療圏では、「必要な診療科目が不足していると感じる」が53.9%と多くなっている。また、「医療費が高いと感じる」では高崎・安中保健医療圏が39.6%と最も多くなっている。

◆市郡別

「医療機関が不足していると感じる」、「必要な診療科目が不足していると感じる」は市部に比べ、郡部の方が多くなっている。一方、「医療費が高いと感じる」は郡部（22.2%）に比べ、市部（36.5%）の方が多くなっている。

◆性別

男性と女性とも「医療機関が不足していると感じる」が最も多くなっている。また、「必要な診療科目が不足していると感じる」は男性（19.6%）に比べ、女性（26.1%）の方が多くなっている。

◆性・年代別

「医療機関が不足していると感じる」は、男性では40代が50.9%と最も多くなっている。一方、女性では70歳以上が58.4%と最も多く、次いで20代が53.0%となっており、男性と女性では年代により差異がみられる。

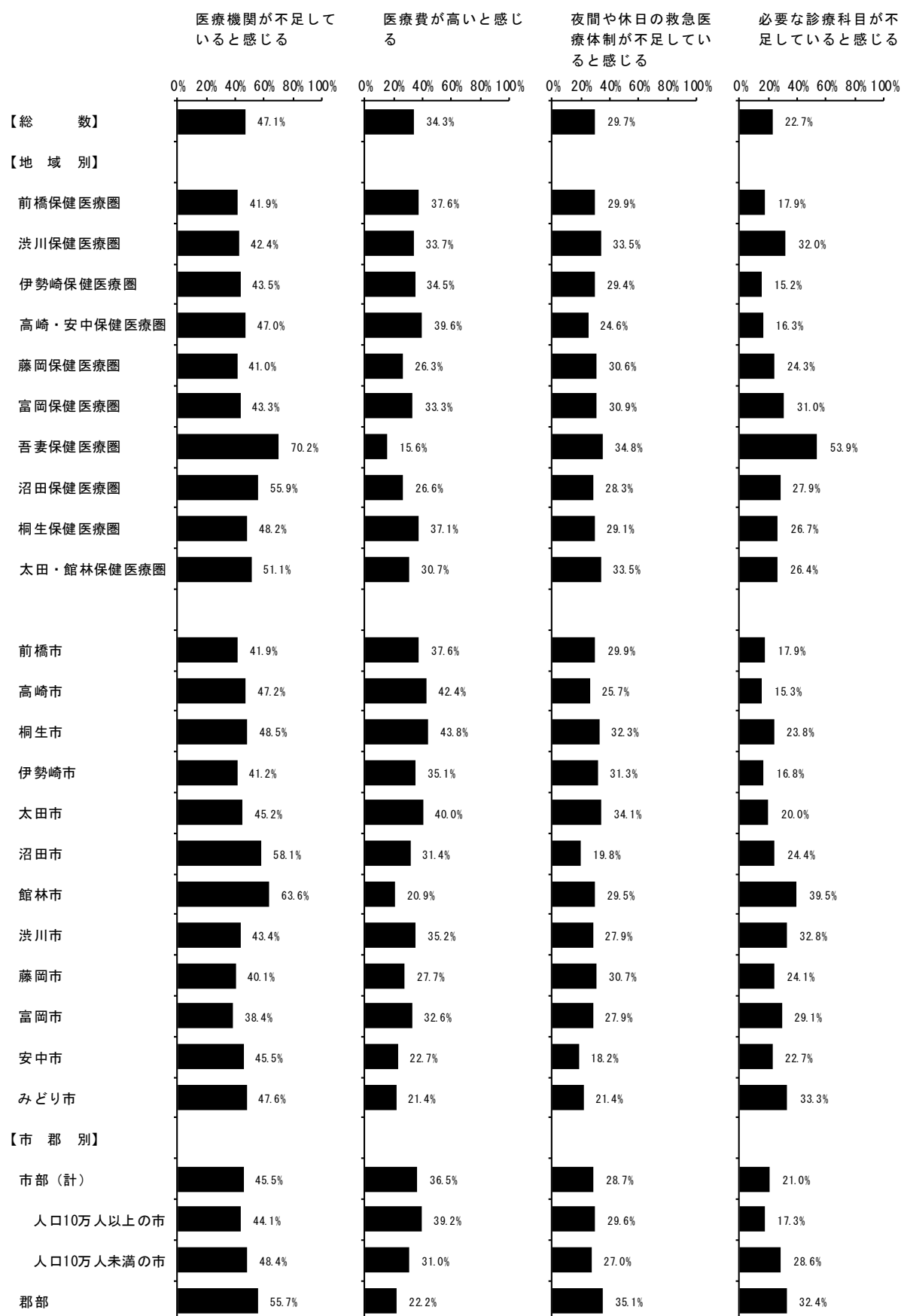
◆職業別

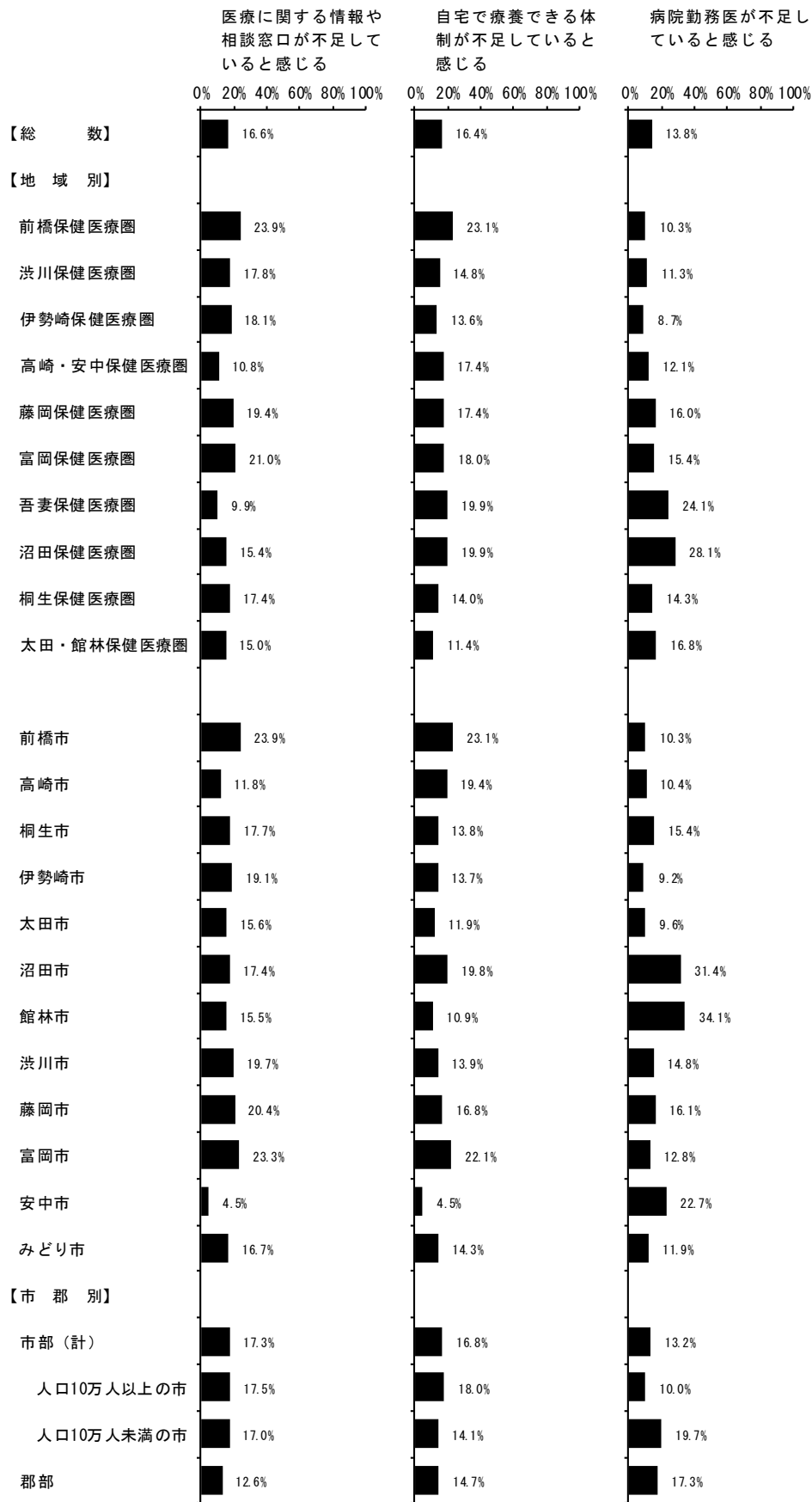
「医療機関が不足していると感じる」は学生を除くと、いずれの職業も最も多くなっており、40%を超えている。学生では、「夜間や休日の救急医療体制が不足していると感じる」が38.0%と最も多くなっている。

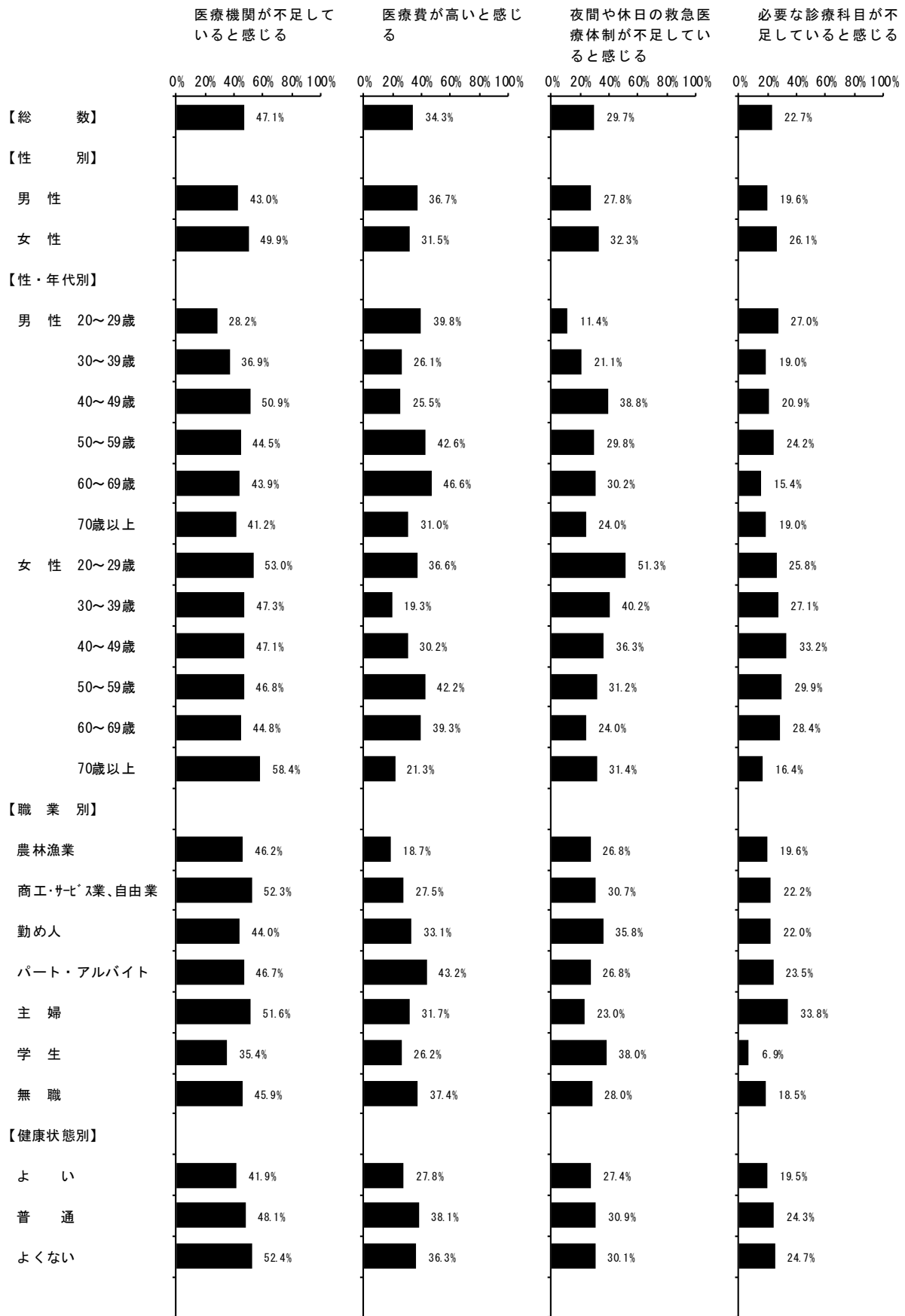
◆健康状態別

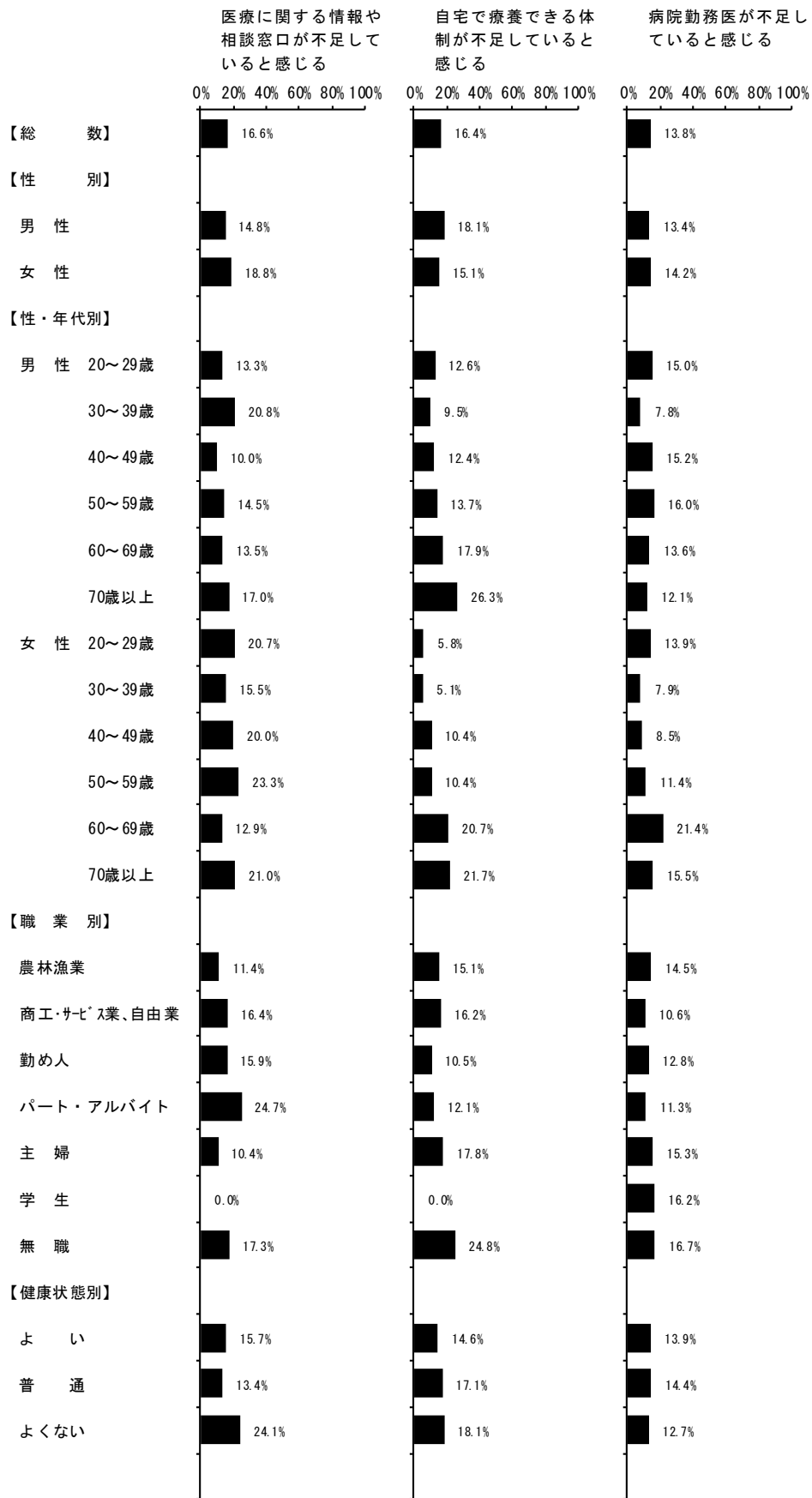
「医療機関が不足していると感じる」は、健康状態がよい（41.9%）に比べ、健康状態がよくない（52.4%）の方が多くなっている。その他、「病院勤務医が不足していると感じる」を除いたいずれの項目も同様の傾向がみられる。

図4-4 地域の医療に対する意識









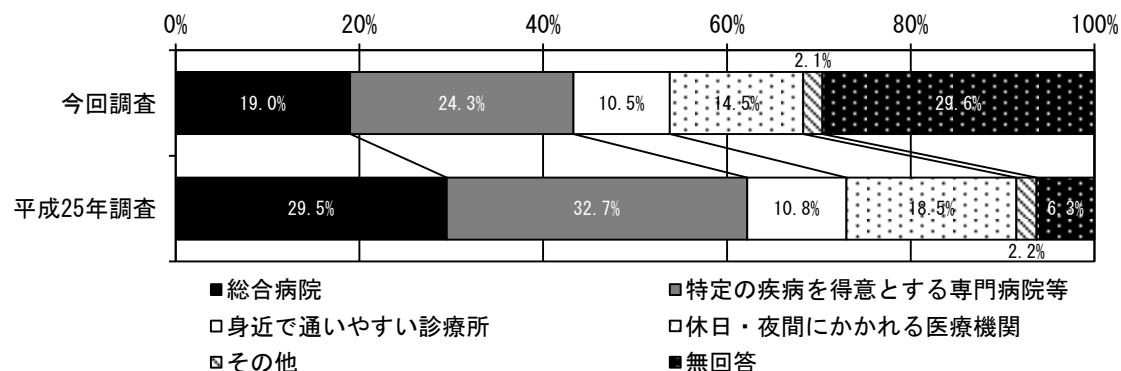
(3) 不足している医療機関

～「特定の疾病を得意とする専門病院等」24.3%、「総合病院」19.0%～

問5-1 具体的にはどのような医療機関が不足しているとお考えですか。次の中からあてはまるものをあげてください。(〇は1つだけ)

図4-5

(n = 医療機関が不足していると感じている人)



不足している医療機関としては、「特定の疾病を得意とする専門病院等」が24.3%で最も多く、続いて、「総合病院」が19.0%、「休日・夜間にかかれる医療機関」が14.5%、「身近で通いやすい診療所」が10.5%となっている。

平成25年調査結果との比較では、傾向に変化はみられない。

◆地域別

「特定の疾病を得意とする専門病院等」は高崎・安中保健医療圏と伊勢崎保健医療圏を除くと、いずれの地域も最も多くなっている。高崎・安中保健医療圏と伊勢崎保健医療圏では、「総合病院」が最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

男性と女性とも「特定の疾病を得意とする専門病院等」が最も多くなっている。また、「総合病院」は女性(17.6%)に比べ、男性(20.5%)の方がやや多くなっており、「休日・夜間にかかれる医療機関」は男性(11.1%)に比べ、女性(17.6%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「特定の疾病を得意とする専門病院等」は、男性では20代が38.4%と最も多く、女性では50代が44.7%と最も多くなっている。また、男性では50代、60代で「総合病院」が多く、女性では20代、30代、40代で「休日・夜間にかかれる医療機関」が多くなっている。

◆職業別

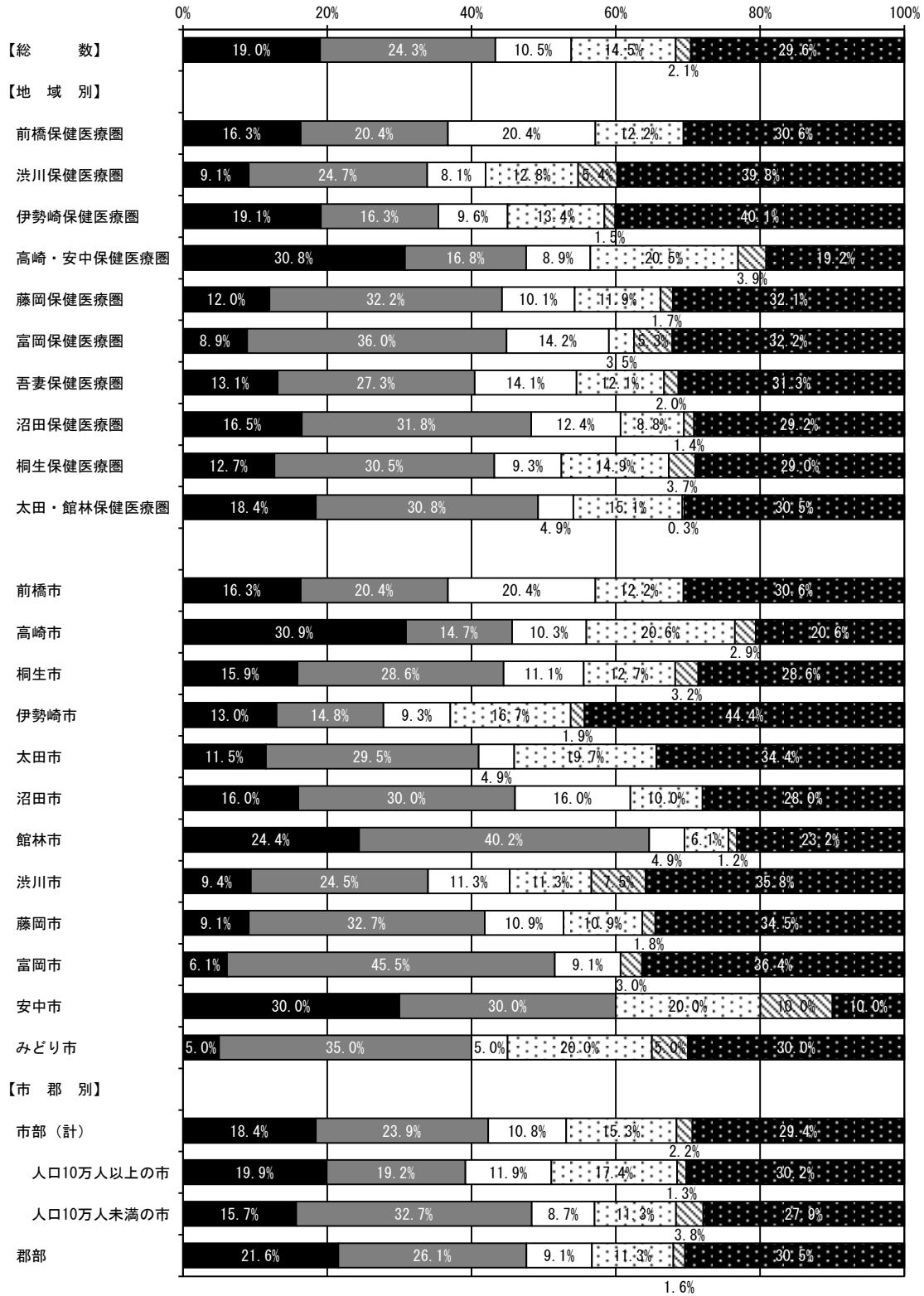
学生では「休日・夜間にかかれる医療機関」が24.1%と最も多くなっている。

◆健康状態別

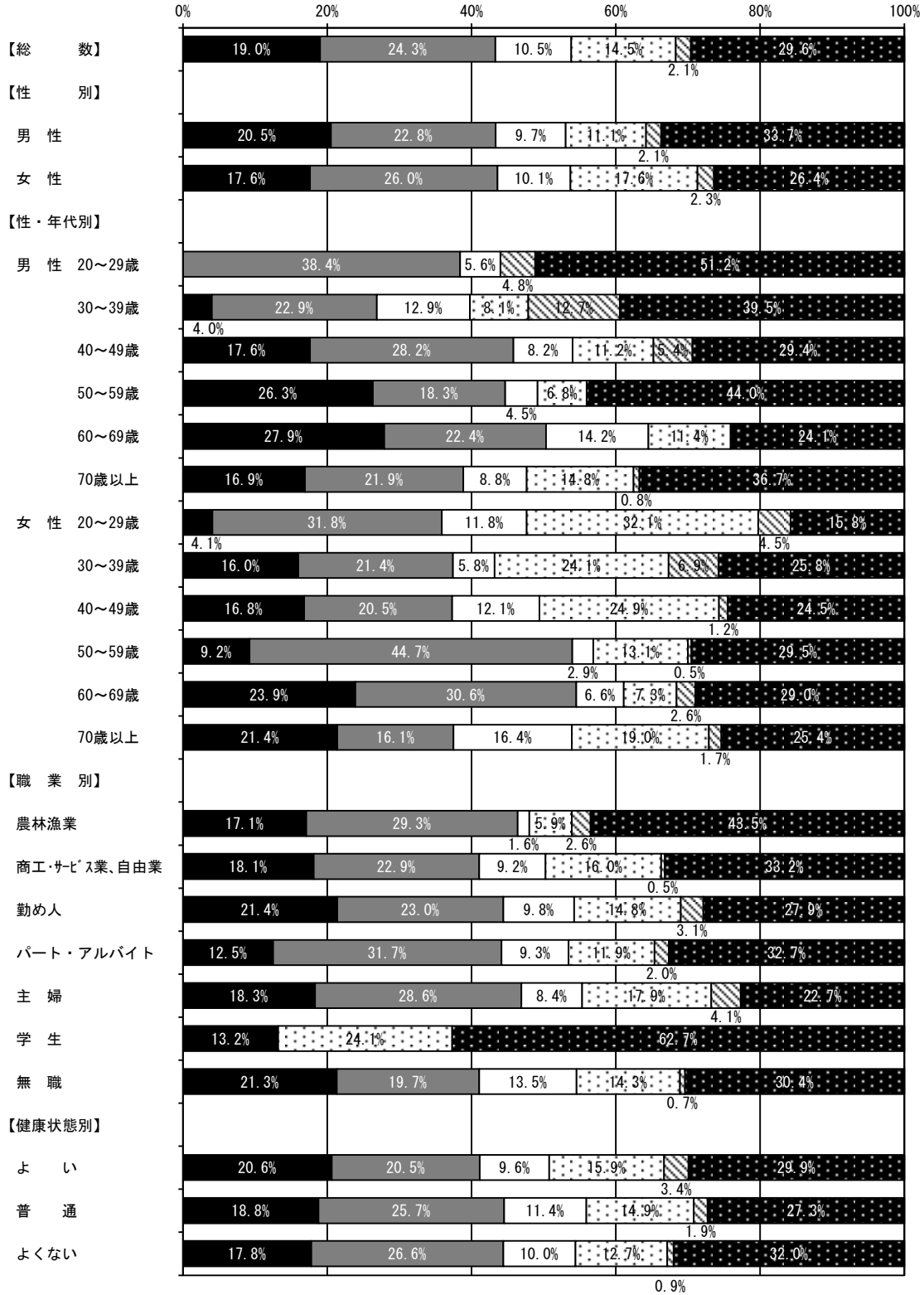
健康状態で差異はほとんどみられない。

図 4-6 不足している医療機関

- 総合病院
- ▣ 特定の疾病を得意とする専門病院等
- 身近で通いやすい診療所
- ▨ 休日・夜間にかかれる医療機関
- その他
- 無回答



- 総合病院
- 特定の疾病を得意とする専門病院等
- 身近で通いやすい診療所
- 休日・夜間にかかる医療機関
- その他
- 無回答



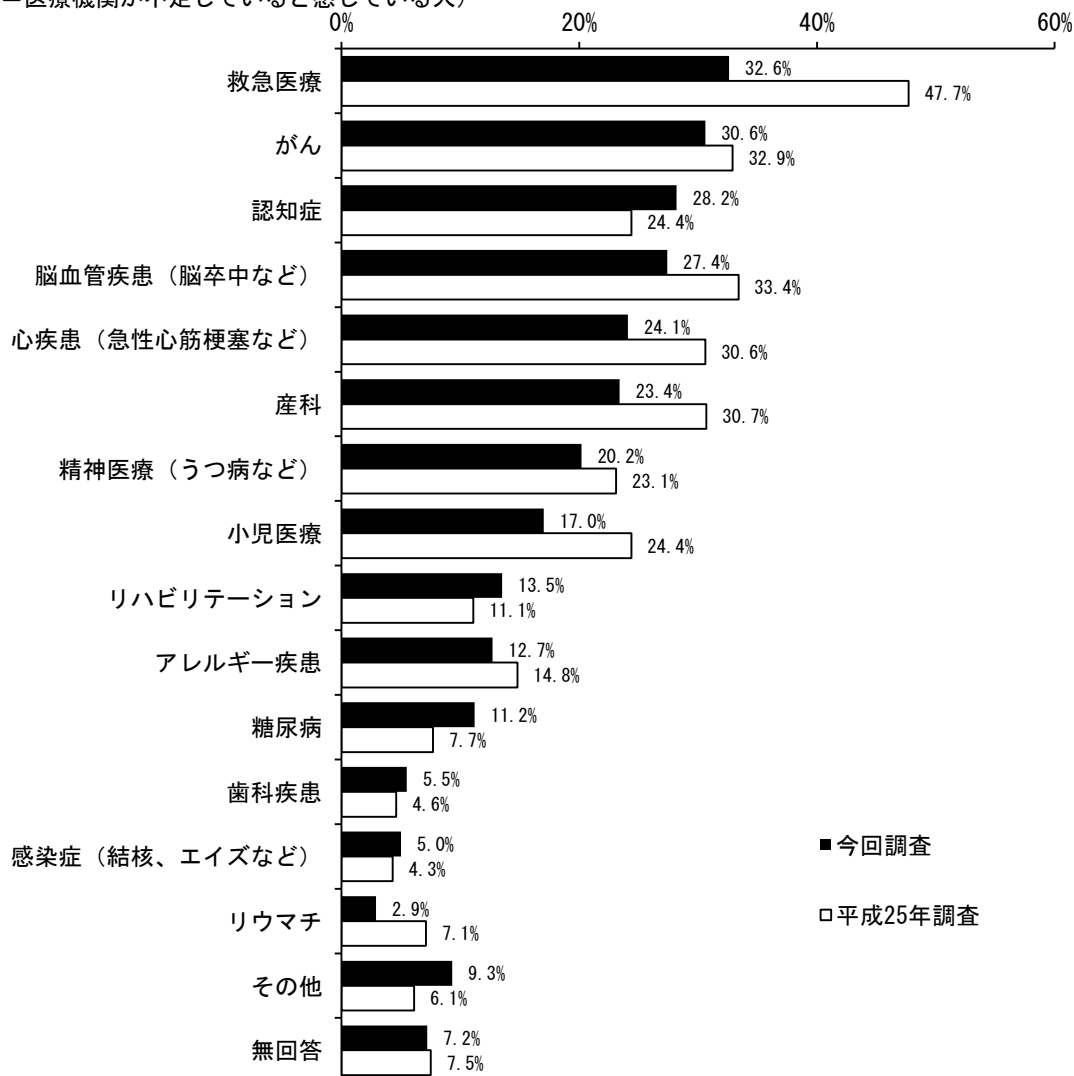
(4) 不足している医療分野

～「救急医療」32.6%、「がん」30.6%、「認知症」28.2%～

問5-2 具体的にはどのような分野の治療を行う医療機関が不足しているとお考えですか。
次の中からあてはまるものをあげてください。(〇はあてはまるものすべて)

図4-7

(n = 医療機関が不足していると感じている人)



不足している医療分野については、「救急医療」が32.6%と最も多く、次いで「がん」が30.6%、「認知症」が28.2%となっている。

平成25年調査結果との比較では、「救急医療」が特に少なくなっている。一方、「認知症」、「リハビリテーション」、「糖尿病」がやや多くなっている。

◆地域別

太田・館林保健医療圏と吾妻保健医療圏では、「産科」と「小児医療」が他の地域と比べ多くなっている。

◆市郡別

「救急医療」は市部（30.0%）に比べ、郡部（44.3%）の方が多くなっている。同様に「産科」は市部（20.6%）に比べ、郡部（36.3%）の方が多くなっており、人口規模により差異がみられる。

◆性別

「脳血管疾患（脳卒中など）」、「がん」は女性に比べ、男性の方が多くなっている。一方、「産科」、「リハビリテーション」、「精神医療（うつ病など）」、「小児医療」は男性に比べ、女性の方が多くなっている。

◆性・年代別

男性と女性とも40代未満は「産科」、「精神医療（うつ病など）」、「小児医療」が多く、40代以上は「がん」、「認知症」、「脳血管疾患（脳卒中など）」、「心疾患（急性心筋梗塞など）」が多くなっている。

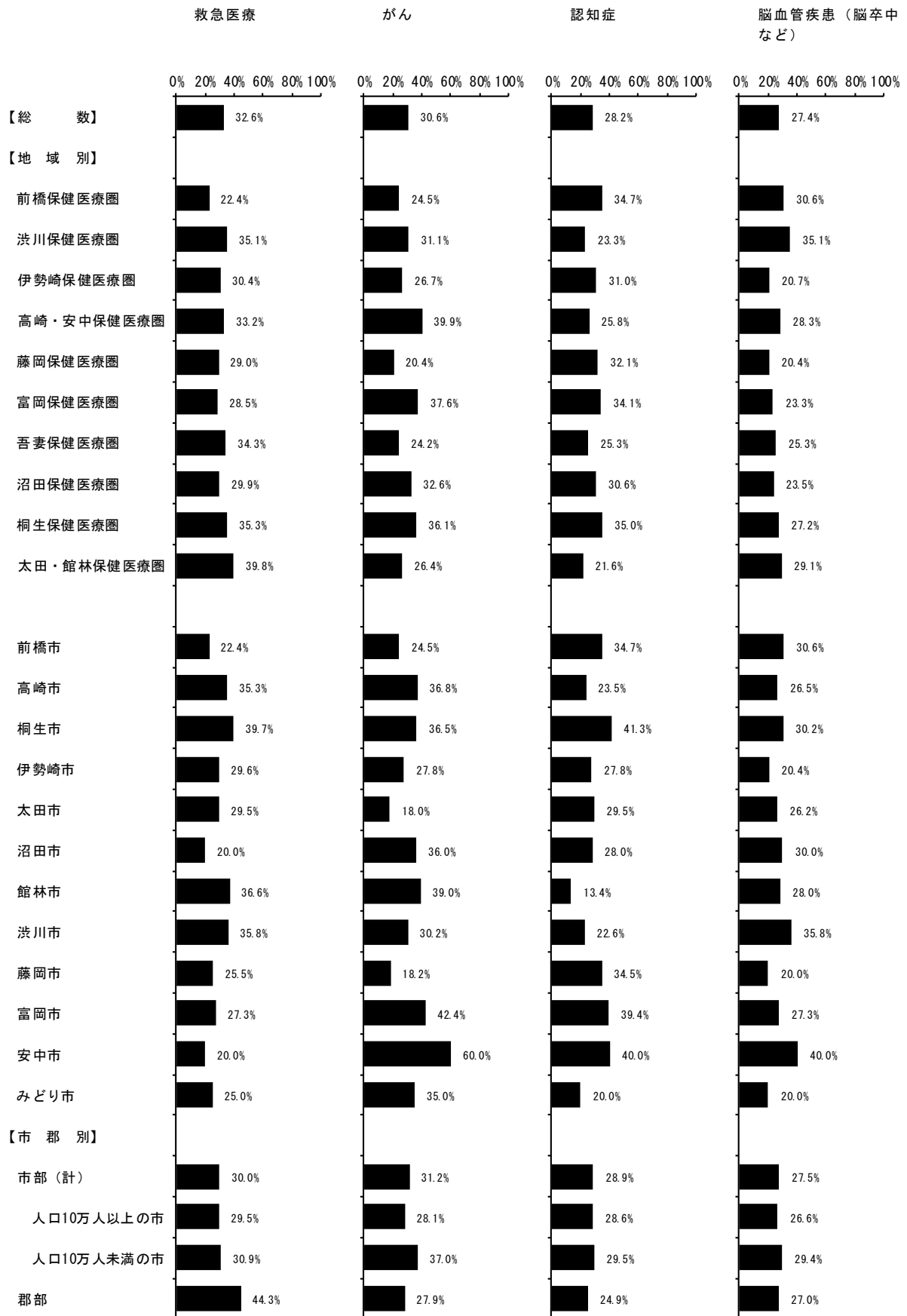
◆職業別

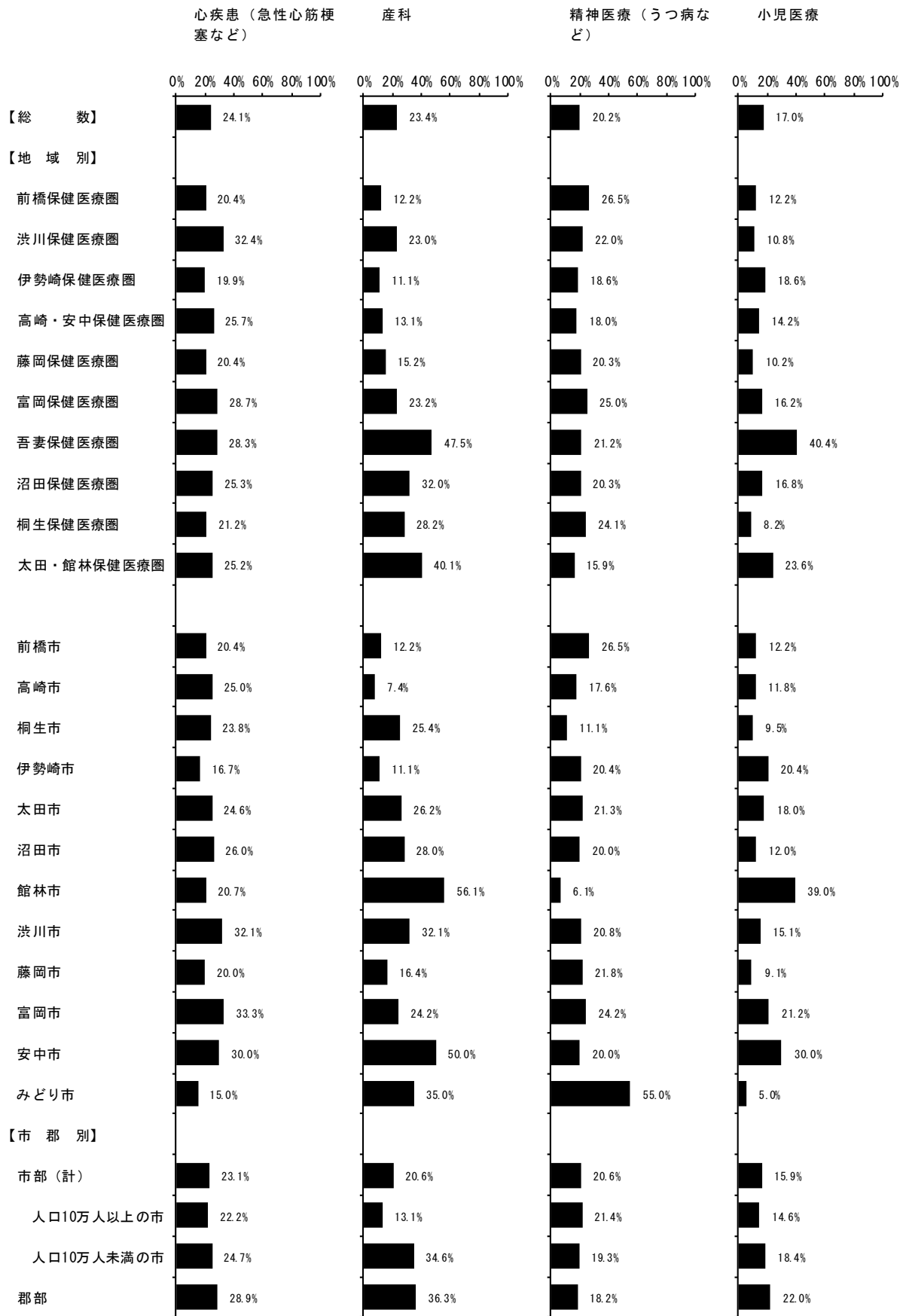
農林漁業では「心疾患（急性心筋梗塞など）」が45.2%、「脳血管疾患（脳卒中など）」が41.3%と他の職業に比べ多くなっている。

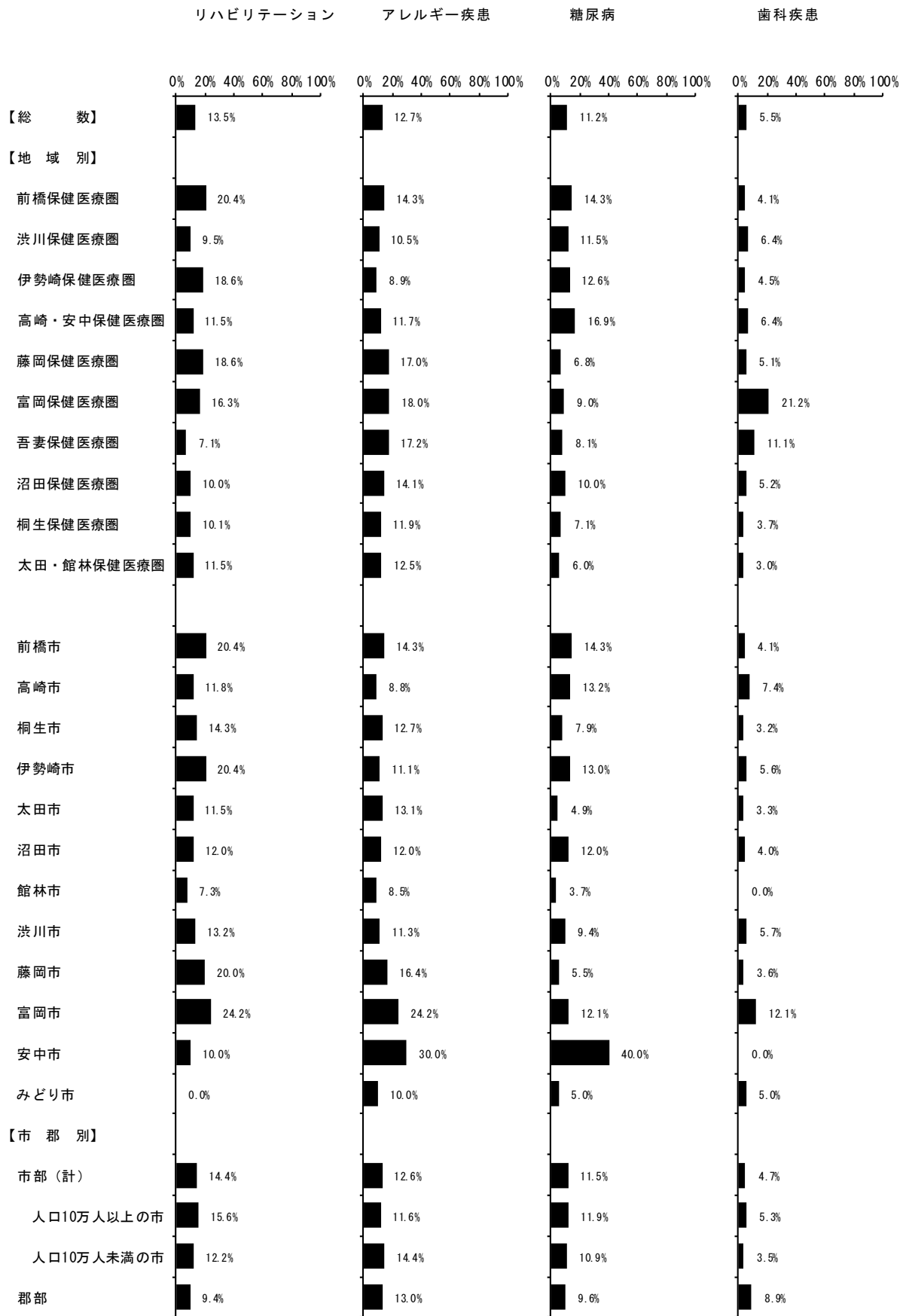
◆健康状態別

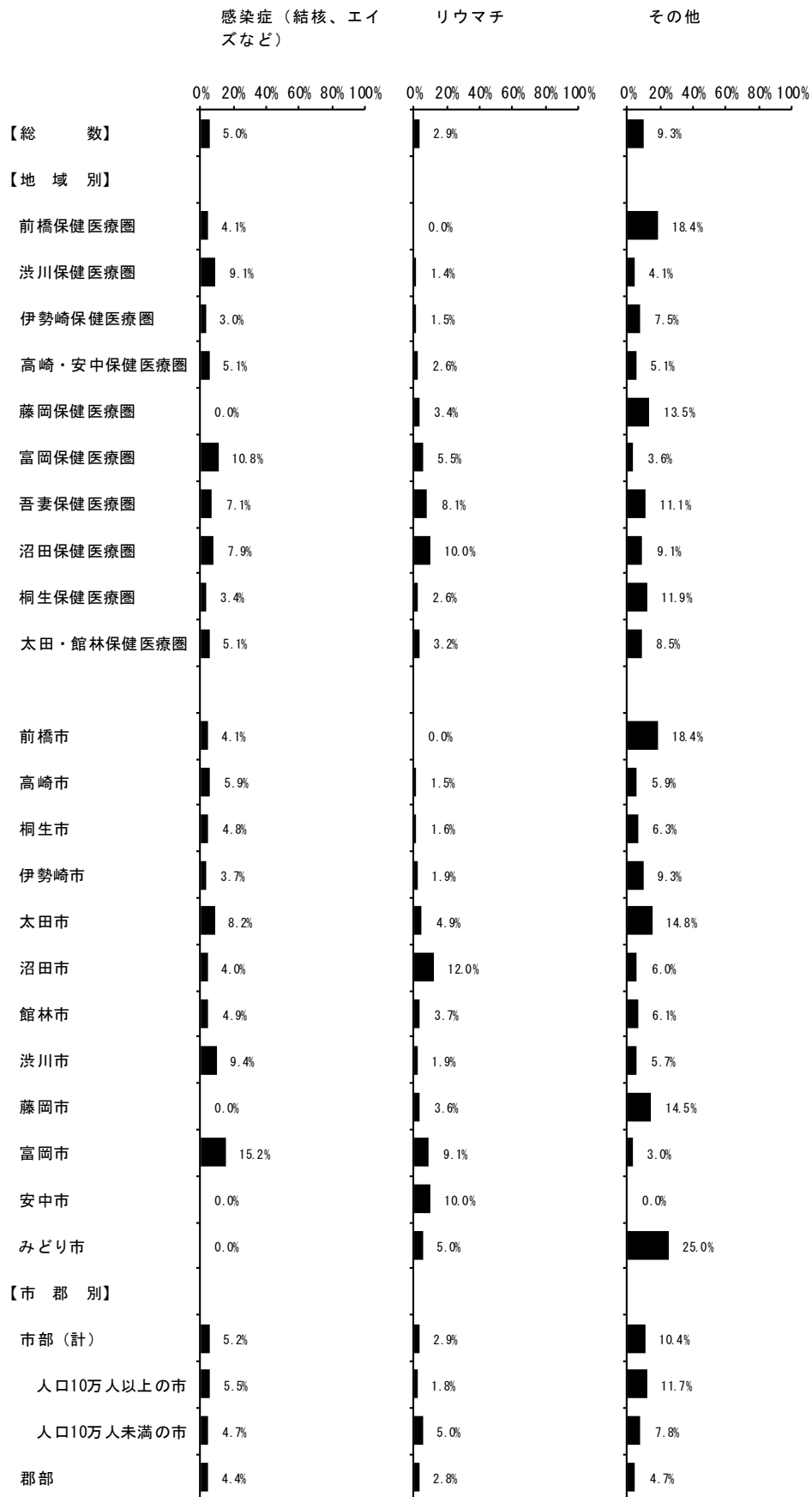
健康状態がよいでは「救急医療」が32.9%、「がん」が31.5%、「認知症」が28.8%と多くなっており、健康状態がよくないでは「脳血管疾患（脳卒中など）」が32.0%と多くなっている。

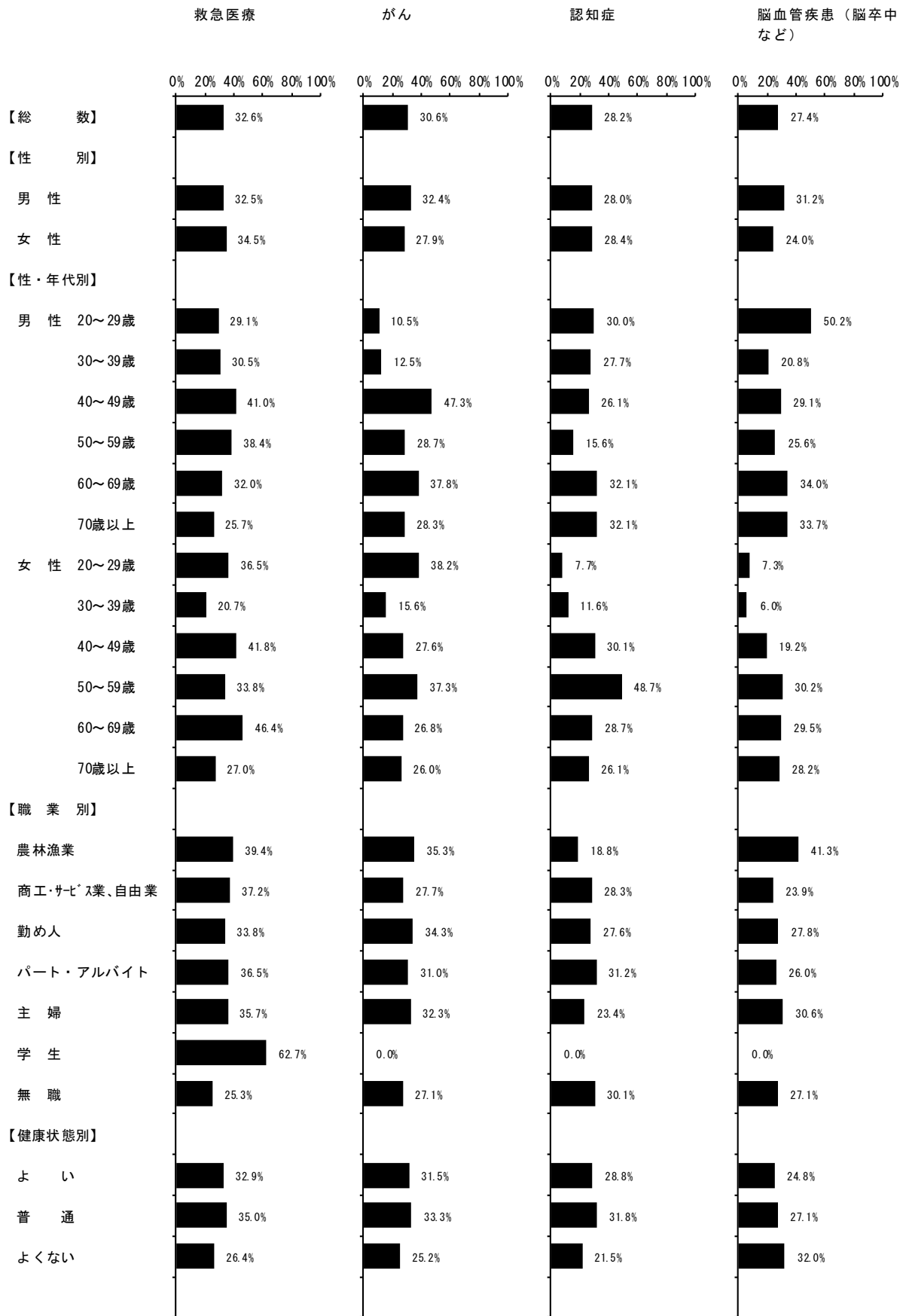
図4-8 不足している医療分野

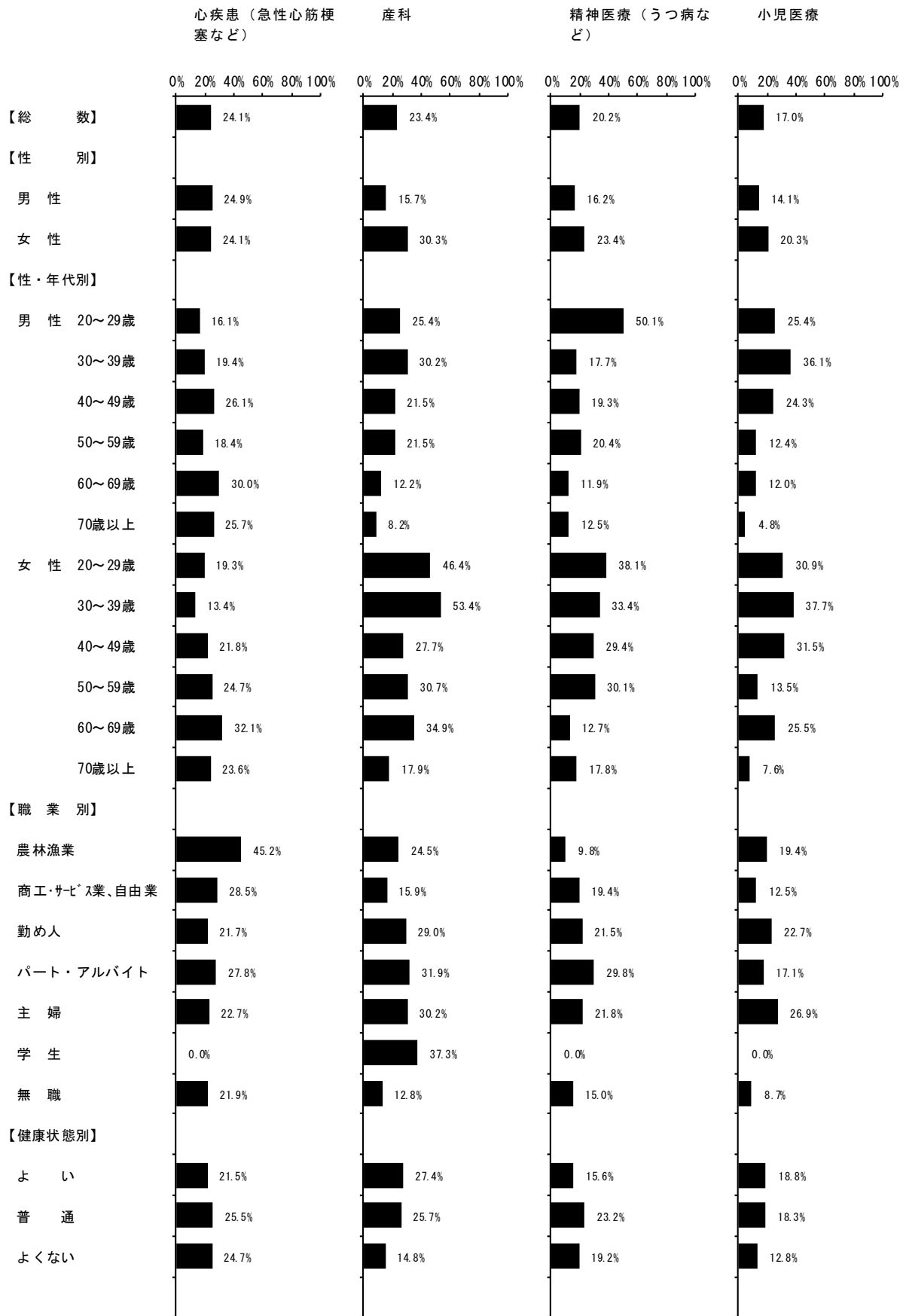


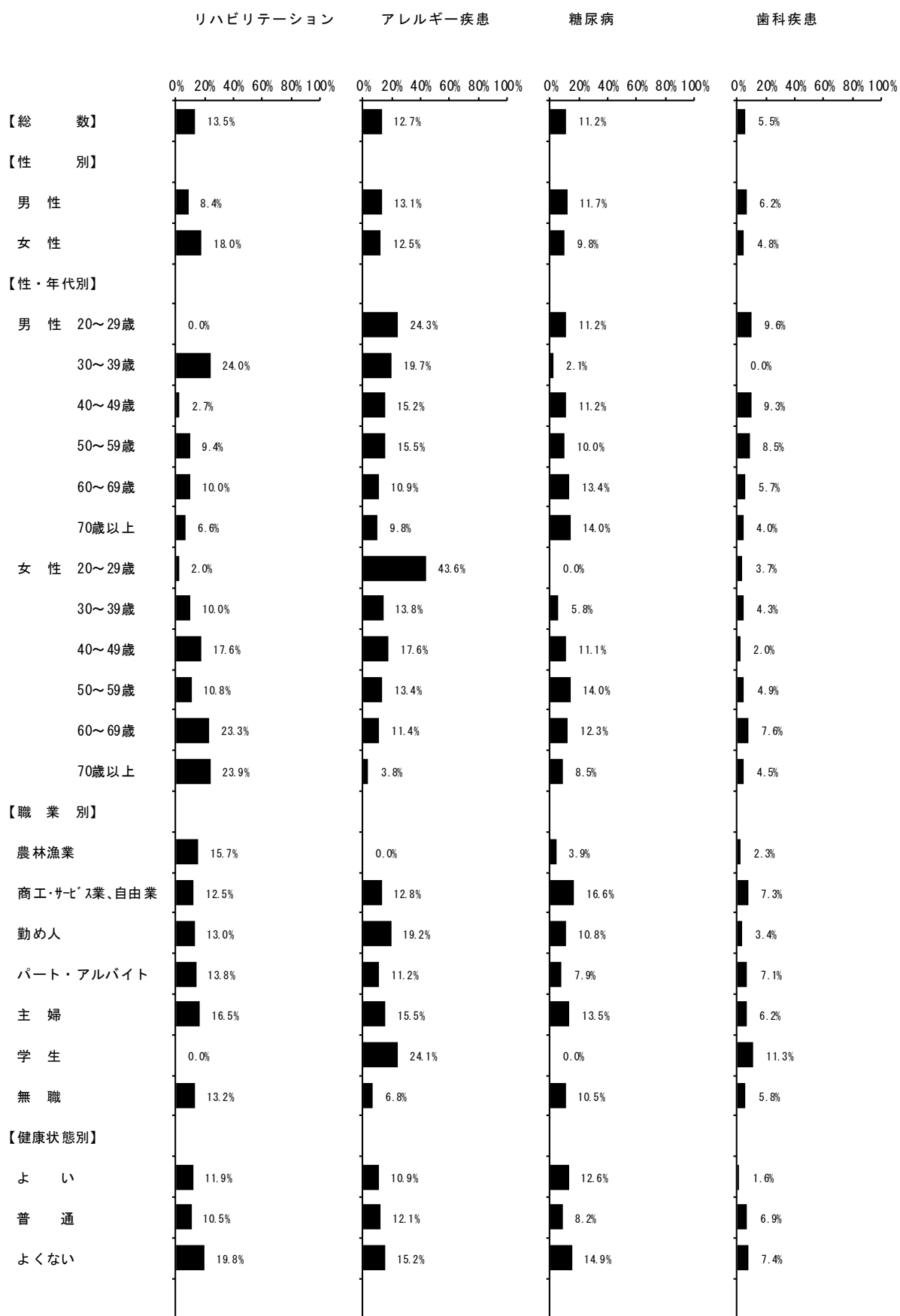


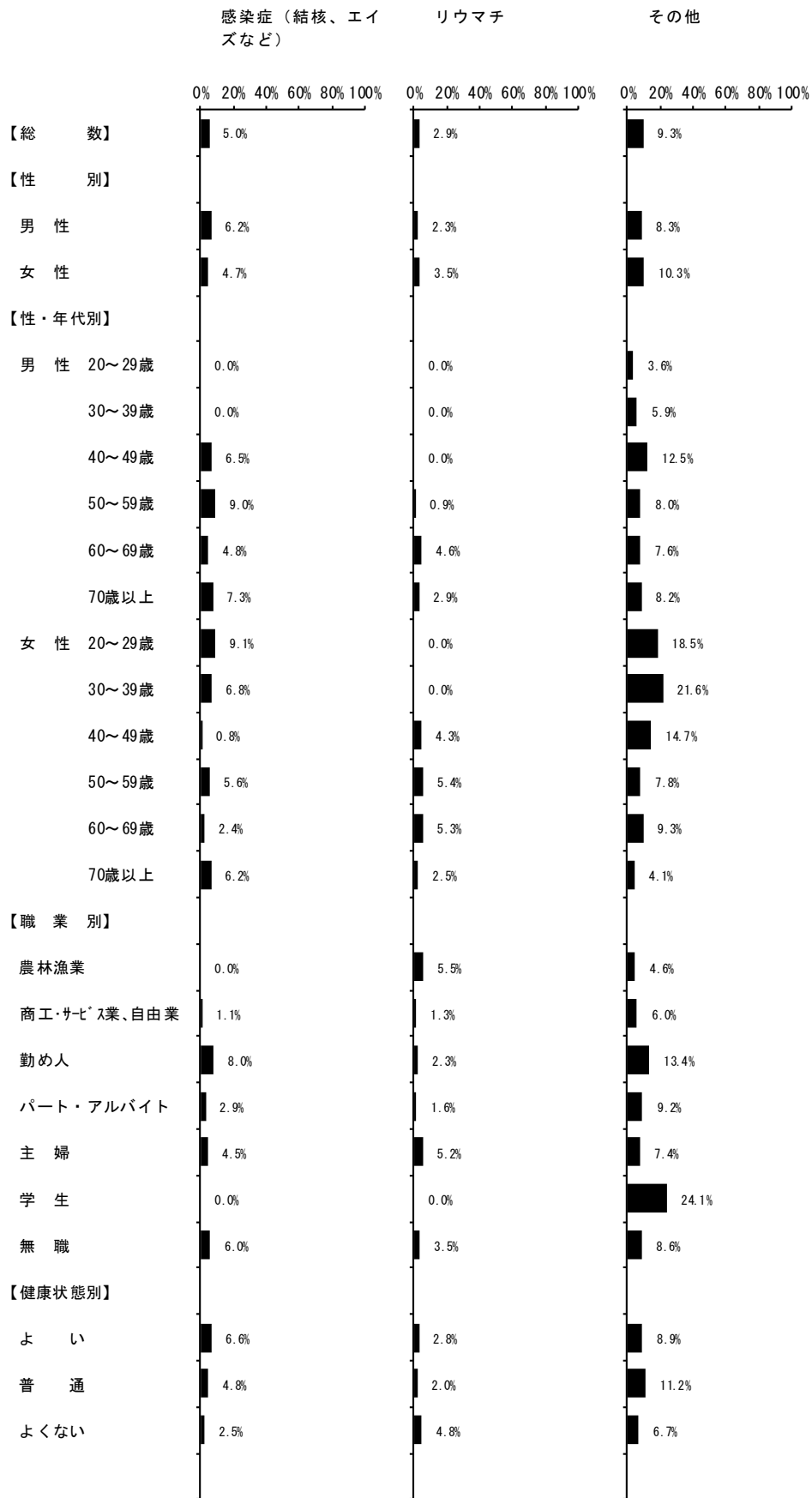












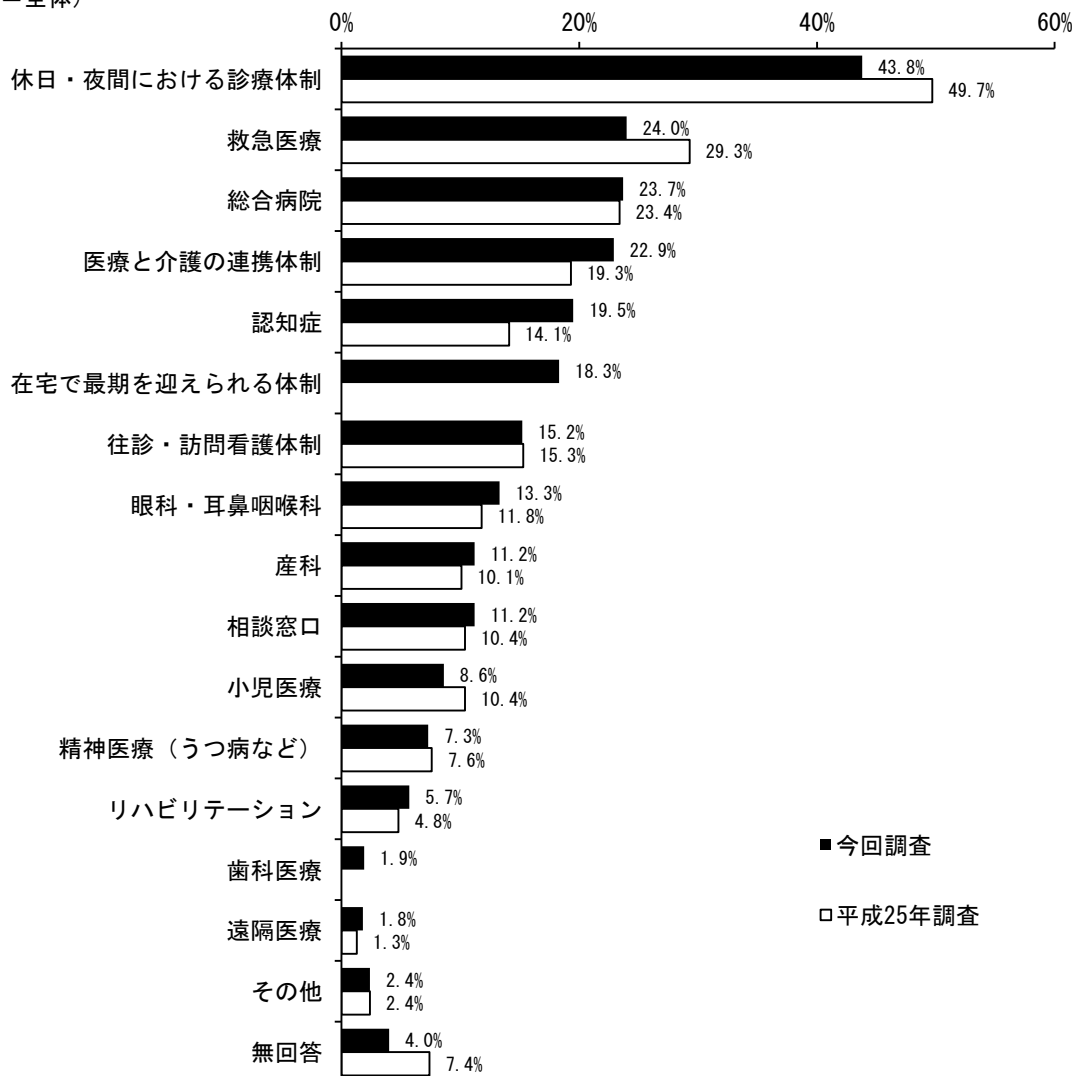
(5) 充実してほしい医療機関

～「休日・夜間における診療体制」43.8%が最も多い～

問6 あなたがお住まいの地域の医療について、これから充実して欲しいと思うことはなんですか。(〇は3つまで)

図4-9

(n=全体)



自分が住む地域で充実してほしい医療機関については、「休日・夜間における診療体制」が43.8%最も多く、次いで「救急医療」が24.0%、「総合病院」が23.7%となっている。

平成25年調査結果との比較では、設問の項目数が変わっているが、上位3項目は変わっていない。

◆地域別

いずれの地域も「休日・夜間における診療体制」が最も多くなっている。また、前橋市では「医療と介護の連携体制」、吾妻保健医療圏では「眼科・耳鼻咽喉科」と「産科」が他の地域に比べ多くなっている。

◆市郡別

「救急医療」と「総合病院」は市部に比べ、郡部の方が多くなっている。

◆性別

男性と女性で大きな差異はみられないが、「眼科・耳鼻咽喉科」は男性（7.8%）に比べ、女性（18.0%）の方が多くなっている。

◆性・年代別

いずれの性別・年代も「休日・夜間における診療体制」が最も多くなっており、若い年代ほど多くなる傾向がみられる。また、「在宅で最期を迎えられる体制」は70歳以上の男性が35.4%と他の性別・年代に比べ多くなっている。

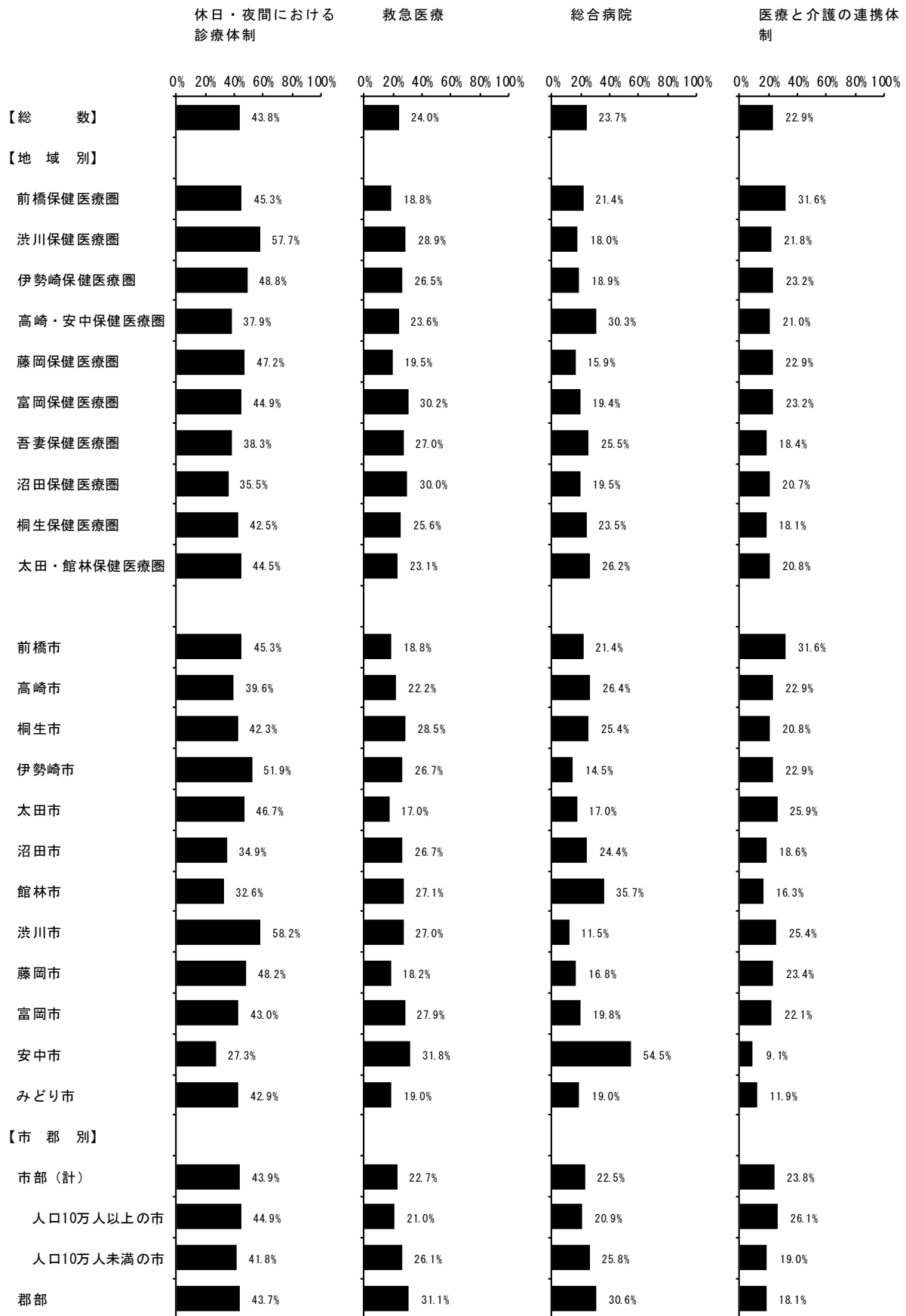
◆職業別

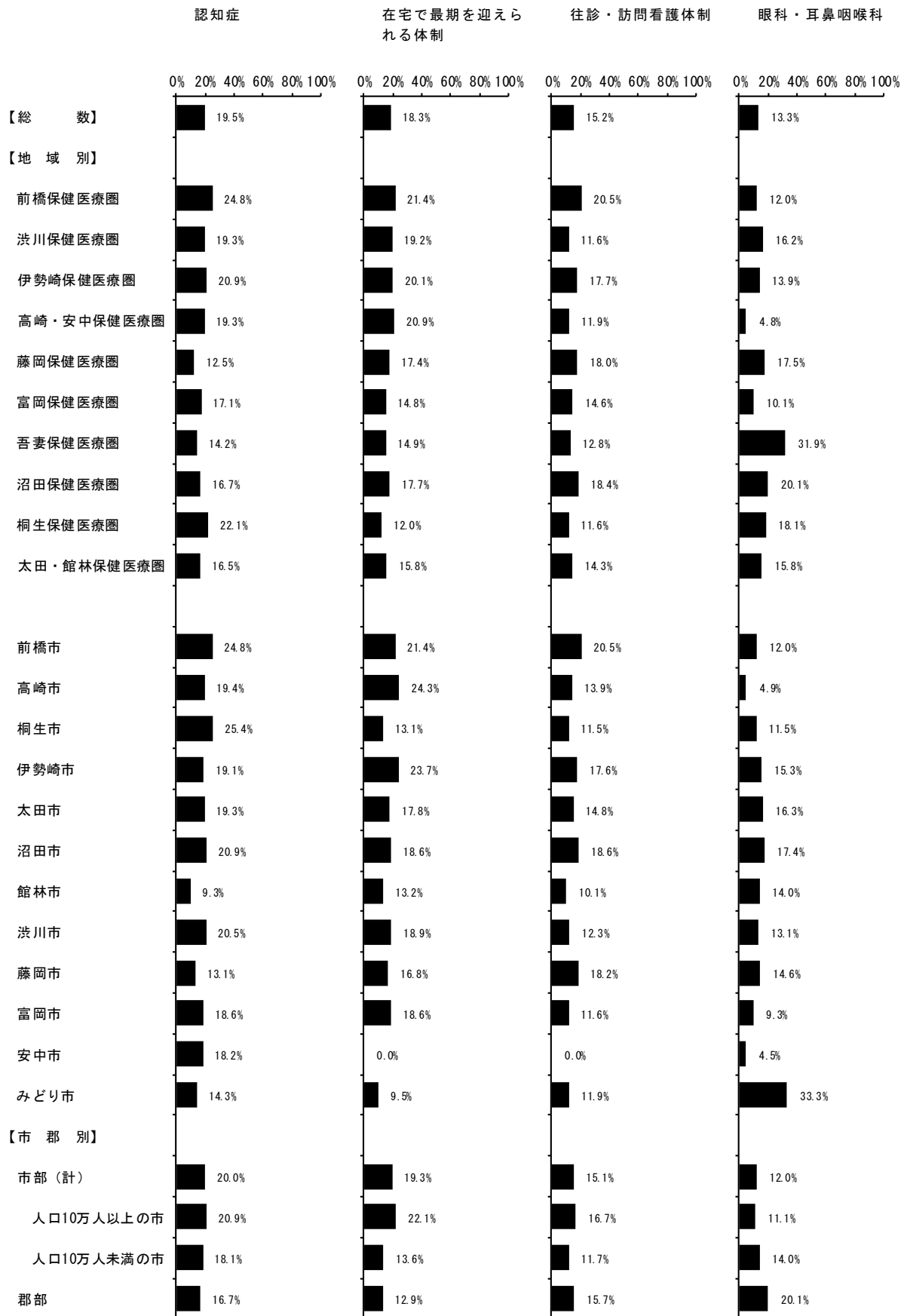
いずれの職業も「休日・夜間における診療体制」が最も多くなっており、勤め人（51.6%）、農林漁業（48.0%）、パート・アルバイト（47.3%）は40.0%を超えている。また、「相談窓口」は学生が31.7%と他の職業に比べ多くなっている。

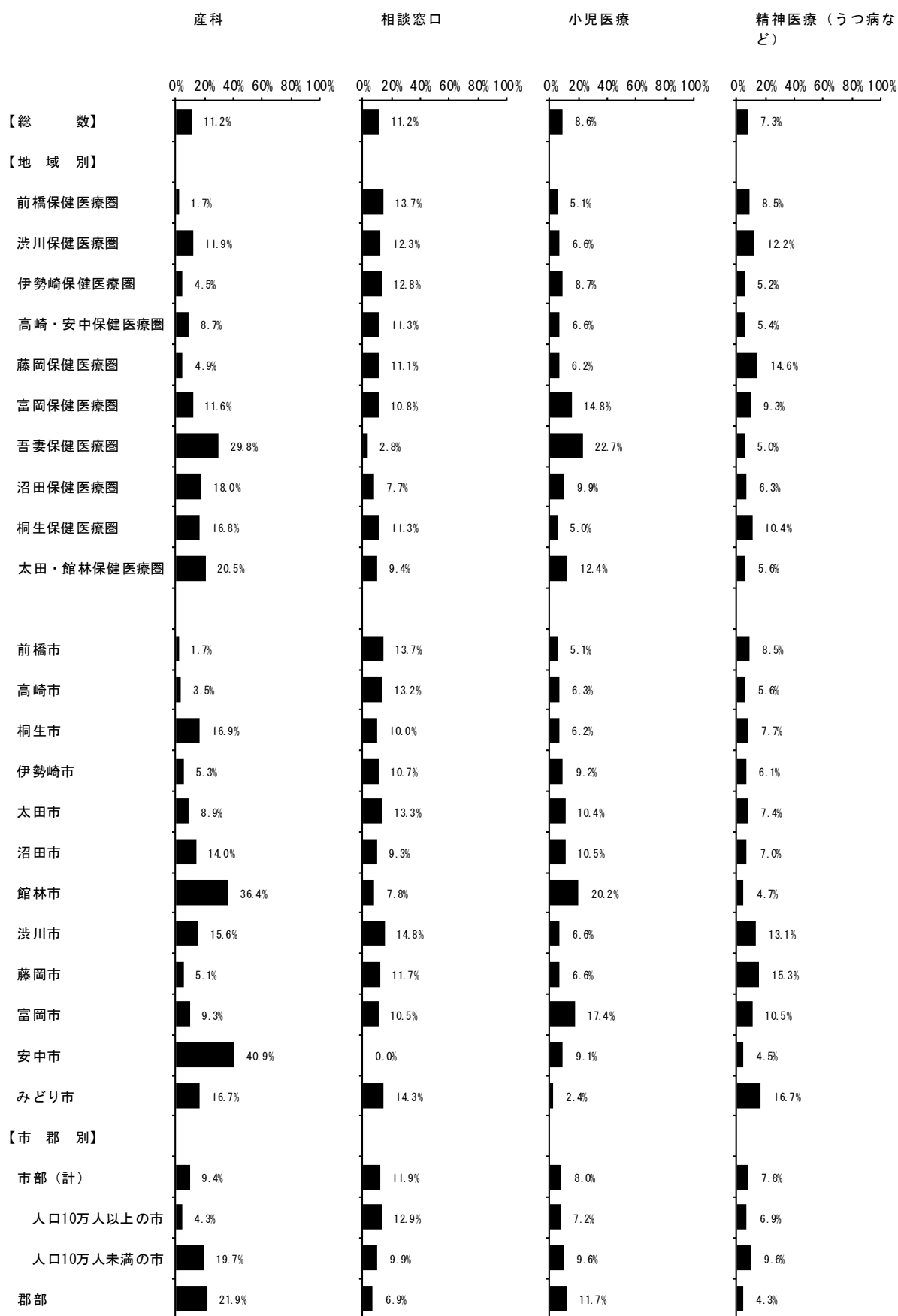
◆健康状態別

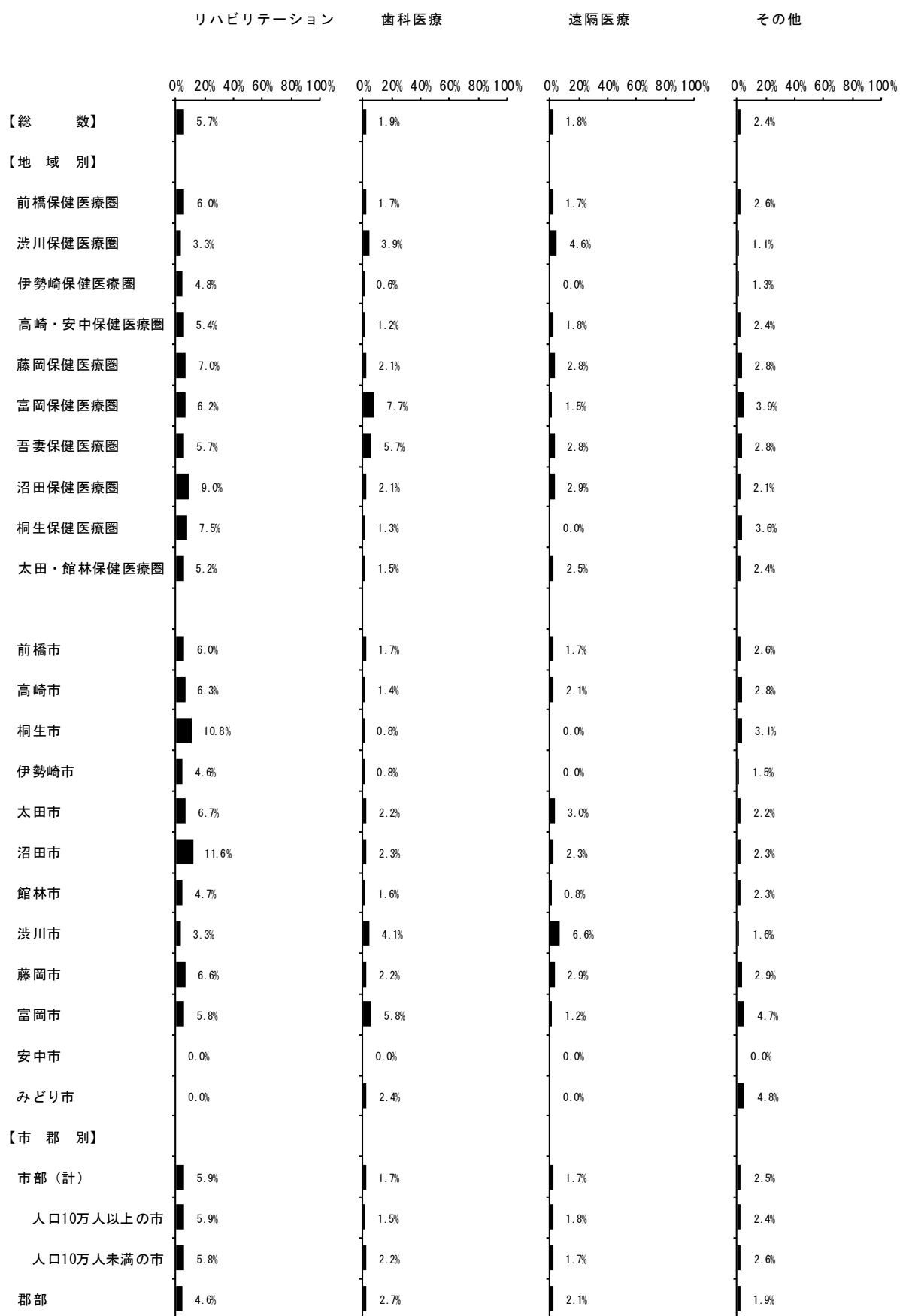
健康状態で差異はほとんどみられない。

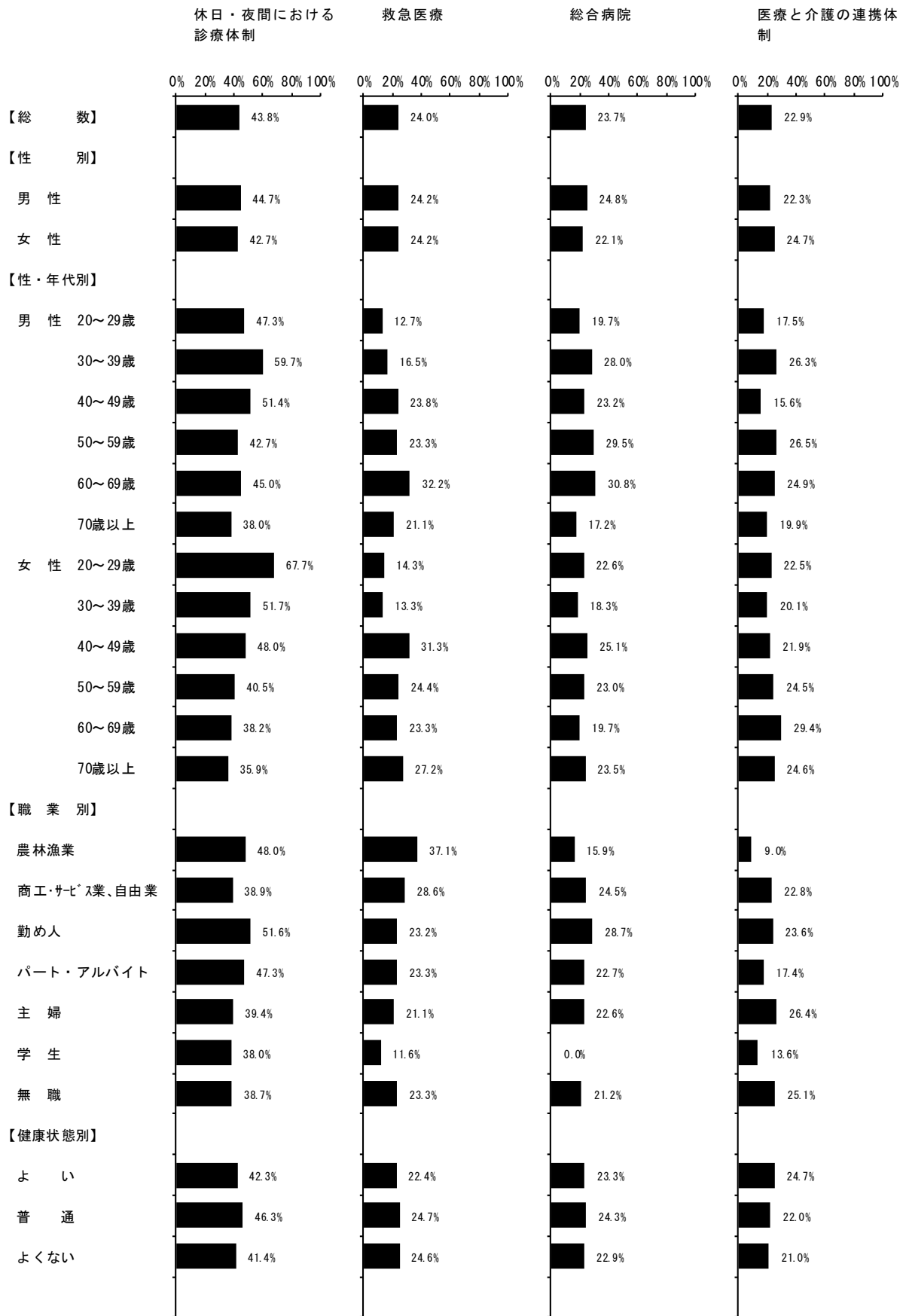
図4-10 充実してほしい医療機関

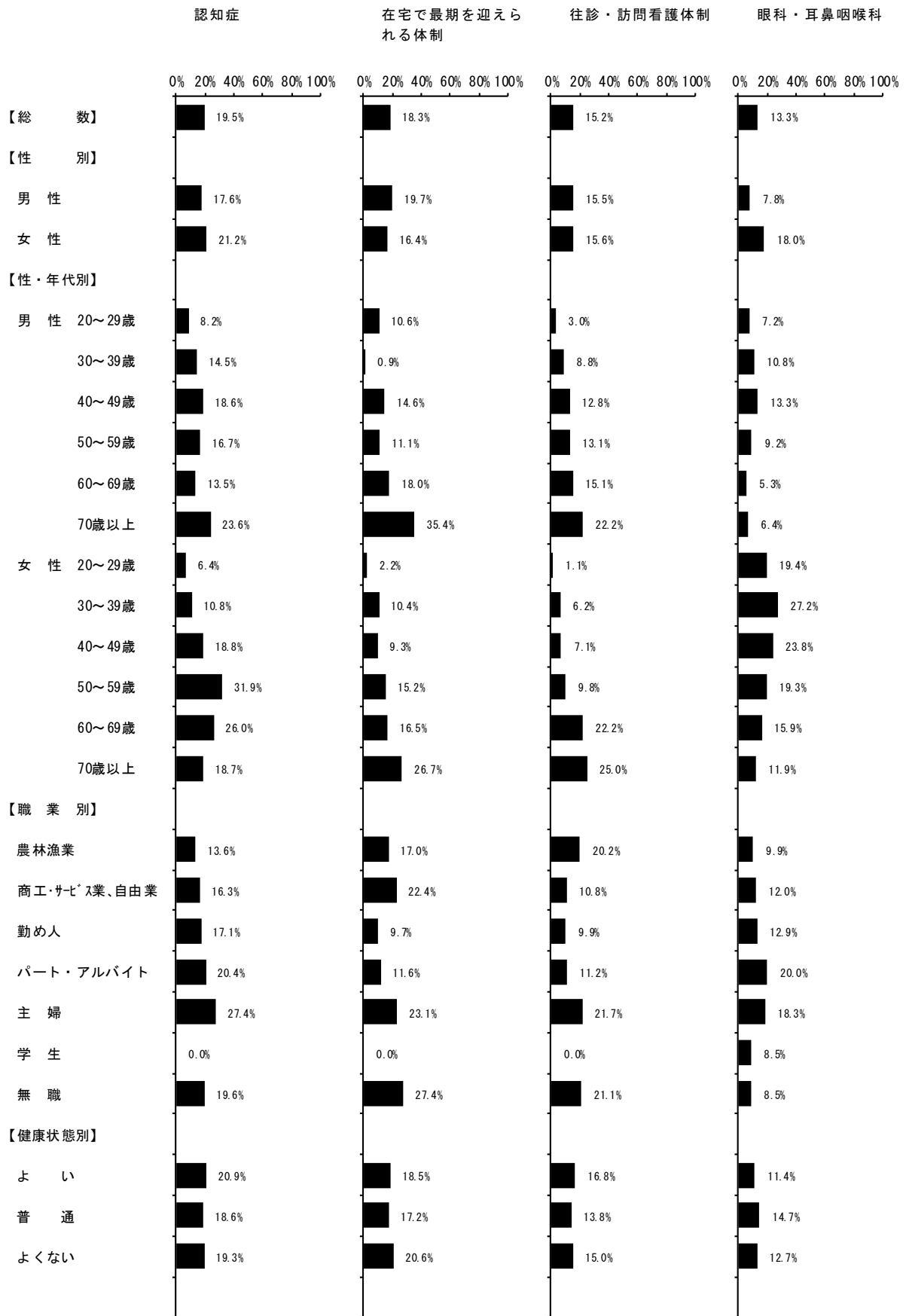


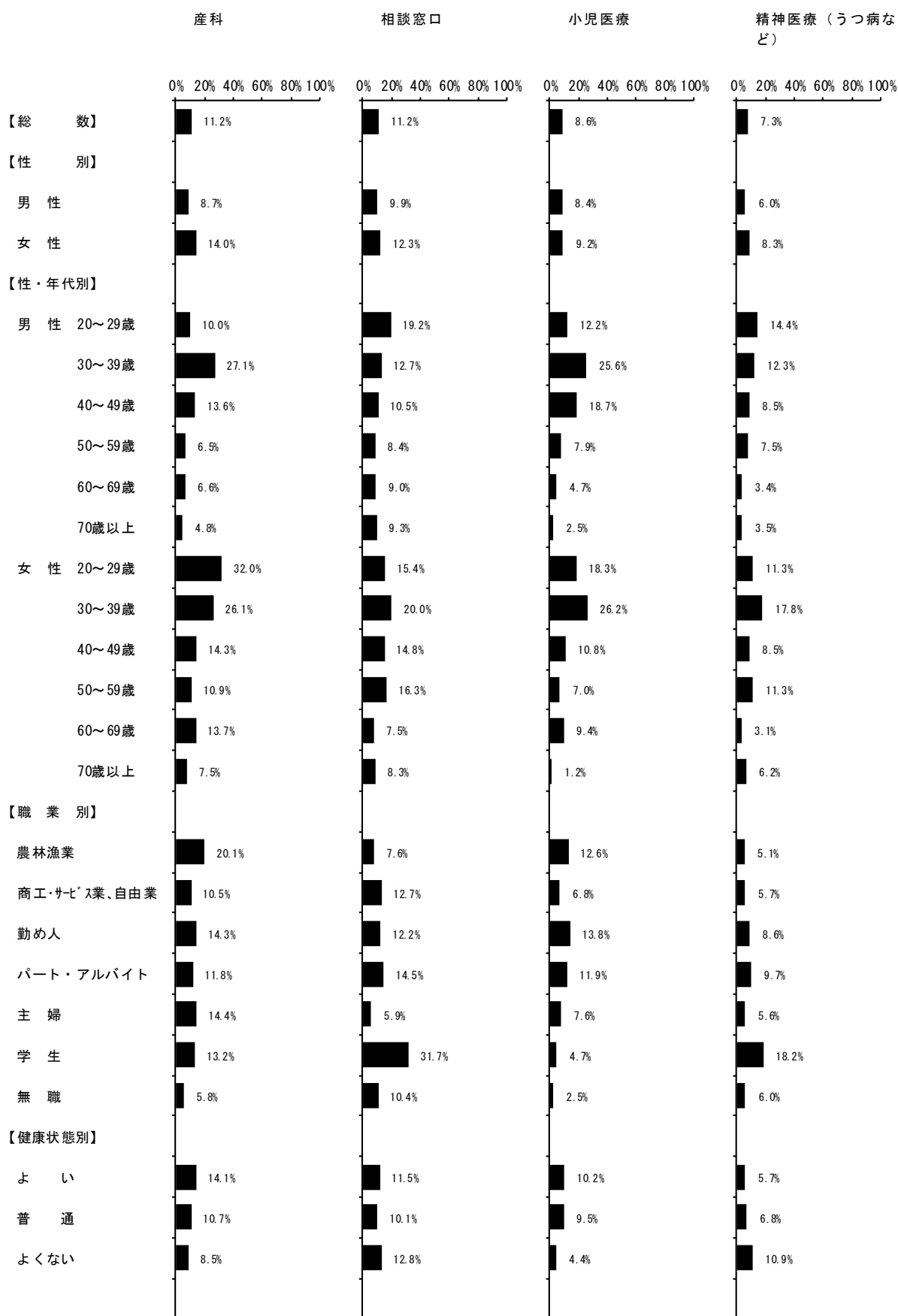


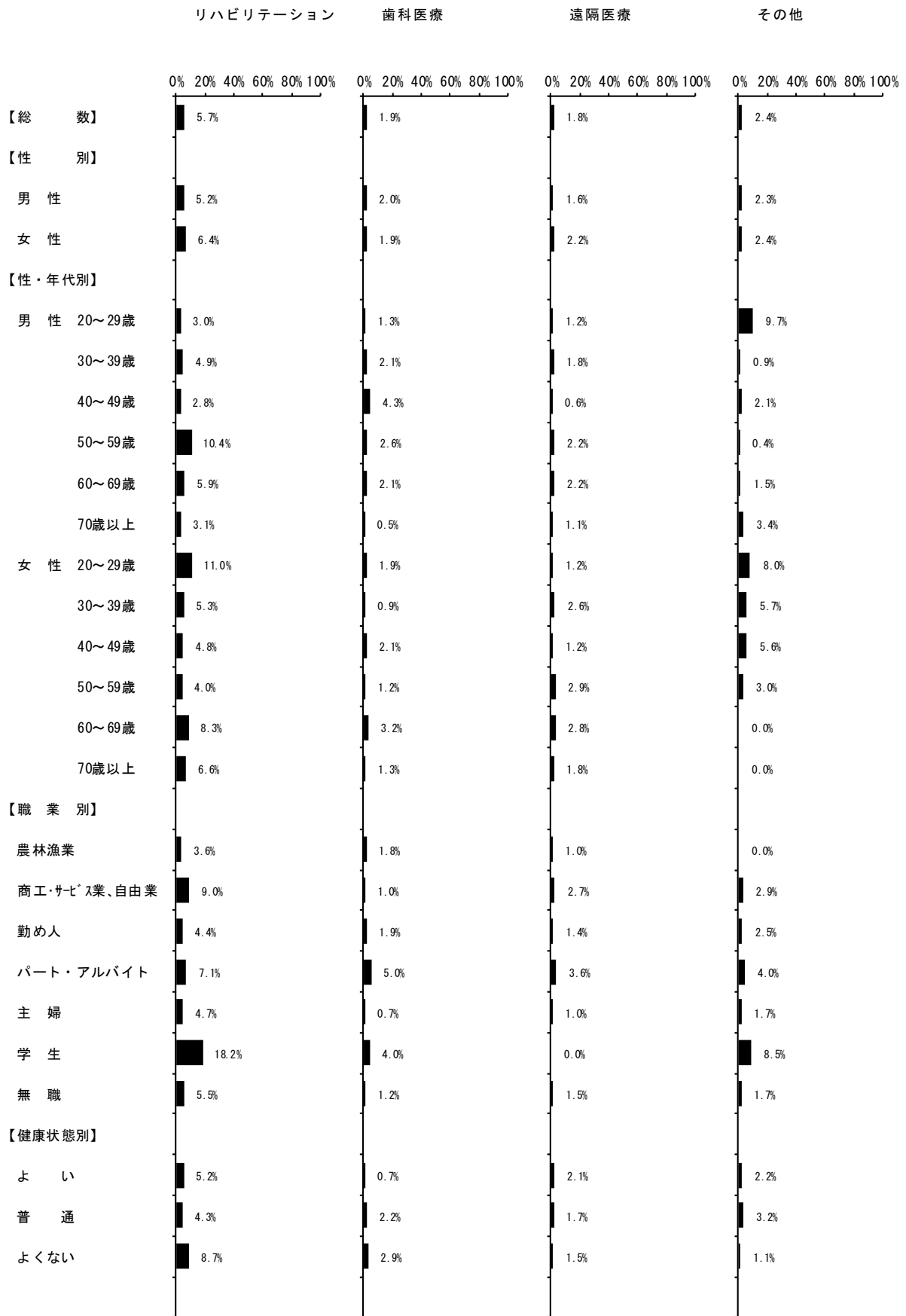












5 医療機関の選択

(1) 医療機関の選択

～軽い病気にかかった場合は「医院（診療所）」47.2%

重い病気にかかった場合は「地域の総合病院」45.2%、「専門性の高い病院」32.8%

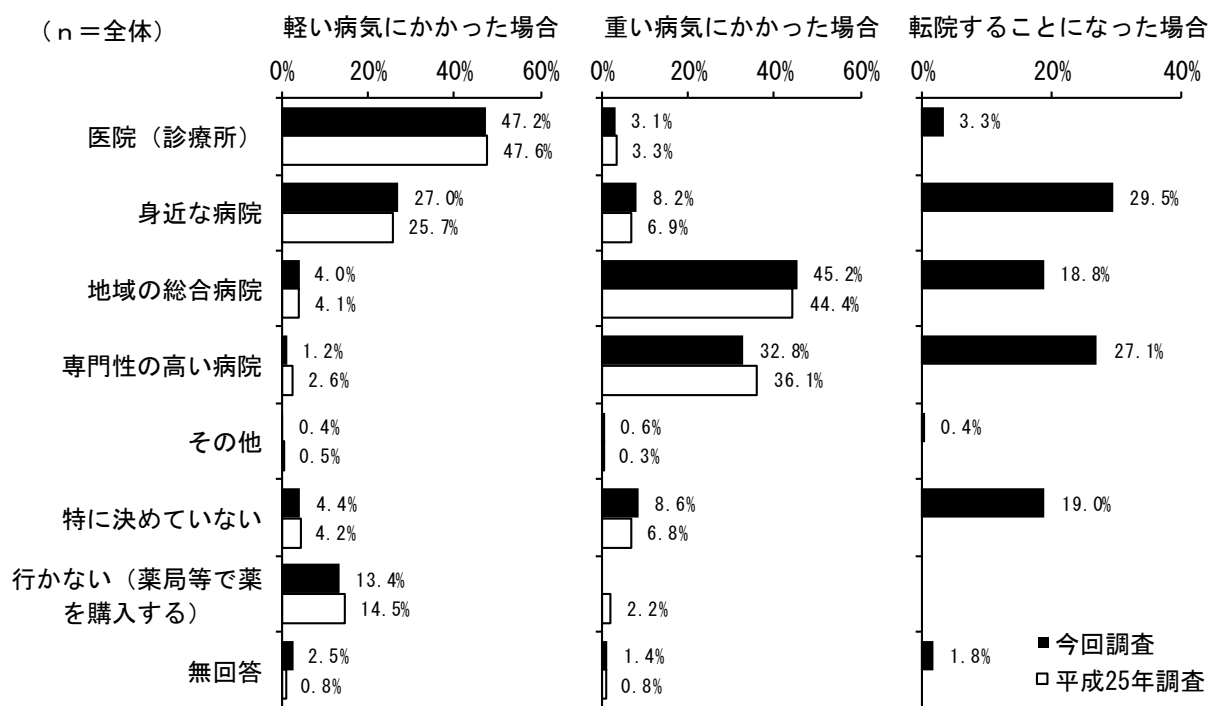
転院することになった場合は「身近な病院」29.5%、「専門性の高い病院」27.1%～

問7 あなたがカゼや微熱など軽い病気にかかったとき、主にどの医療機関で診療を受けますか。あるいは、受けたいとお考えですか。（○は1つだけ）

問8 あなたが、入院が必要かもしれない重い病気にかかった場合、主にどの医療機関で診療を受けますか。あるいは、受けたいとお考えですか。（○は1つだけ）

問9 あなたが、手術を受けた後にリハビリテーションが必要となったため、手術を受けた病院から転院することになった場合、主にどの医療機関でリハビリテーションを受けますか。あるいは、受けたいとお考えですか。（○は1つだけ）

図5-1



※平成25年調査では問9と同様の質問項目なし

カゼや微熱などの軽い病気の際に、受診する医療機関としては、「医院（診療所）」が47.2%と最も多くなっており、次いで「身近な病院」が27.0%となっている。

症状の重い病気にかかったときについては、「地域の総合病院」が45.2%と最も多くなっており、次いで「専門性の高い病院」が32.8%となっている。

手術後にリハビリテーションのため、転院する医療機関としては、「身近な病院」が29.5%と最も多く、次いで「専門性の高い病院」が27.1%となっている。

平成25年調査結果との比較では、軽い病気の場合と重い病気の場合ではほぼ同様となっている。

◆地域別

軽い病気の場合、いずれの地域も「医院（診療所）」が最も多くなっており、その中でも伊勢崎保健医療圏（55.2%）、藤岡保健医療圏（52.2%）、太田・館林保健医療圏（51.5%）が多くなっており、50.0%を超えている。

重い病気の場合、いずれの地域も「地域の総合病院」が多くなっており、その中でも富岡保健医療圏が66.0%と最も多くなっている。

転院する場合、「身近な病院」は高崎・安中保健医療圏が35.0%と最も多くなっており、次いで、太田・館林保健医療圏が32.1%となっている。また、「専門性の高い病院」は前橋保健医療圏が36.8%と最も多くなっており、次いで伊勢崎保健医療圏が30.6%となっている。

◆市郡別

軽い病気の場合、「医院（診療所）」は市部（46.3%）に比べ、郡部（52.5%）の方が多くなっている。一方、「身近な病院」は郡部（22.3%）に比べ、市部（27.8%）の方が多くなっている。

重い病気の場合、市部と郡部で大きな差異がみられないが、「専門性の高い病院」は郡部（29.6%）に比べ、市部（33.4%）の方がやや多くなっている。

転院する場合、市部と郡部で差異はほとんどみられないが、「専門性の高い病院」は人口10万人未満の市（21.6%）に比べ、人口10万人以上の市（30.4%）の方が多くなっており、人口規模により差異がみられる。

◆性別

軽い病気の場合、男性と女性で差異はほとんどみられない。

重い病気の場合、「地域の総合病院」は女性（42.4%）に比べ、男性（48.8%）の方が多くなっている。一方、「専門性の高い病院」は男性（27.4%）に比べ、女性（38.2%）の方が多くなっている。

転院する場合、「専門性の高い病院」は男性（22.9%）に比べ、女性（31.2%）の方が多くなっている。

◆性・年代別

軽い病気の場合、「身近な病院」は男性と女性とも20代と70歳以上で多くなっている。

重い病気の場合、「地域の総合病院」は20代男性が52.5%、30代女性が50.4%と多くなっている。また、「専門性の高い病院」は40～60代の女性が多くなっている。

転院する場合、「身近な病院」は40代男性が40.3%、20代女性が35.6%と多くなっている。また、「専門性の高い病院」は70歳以上の男性が31.3%、70歳以上の女性が35.7%と70歳以上が最も多くなっている。

◆職業別

軽い病気の場合、いずれの職業も「医院（診療所）」が最も多くなっており、その中でも商工・サービス業、自由業が52.4%と最も多くなっている。また、学生は「行かない（薬局等で薬を購入する）」が23.4%と他の職業に比べ多くなっている。

重い病気の場合、学生を除くといずれの職業も「地域の総合病院」が多くなっており、その中でも農林漁業（52.1%）、無職者が（51.7%）が多くなっており、50.0%を超えている。

転院する場合、「身近な病院」は勤め人が37.0%と最も多くなっている。また、「専門性の高い病院」はパート・アルバイトが33.2%と最も多く、次いで商工・サービス業、自由業が31.8%となっている。

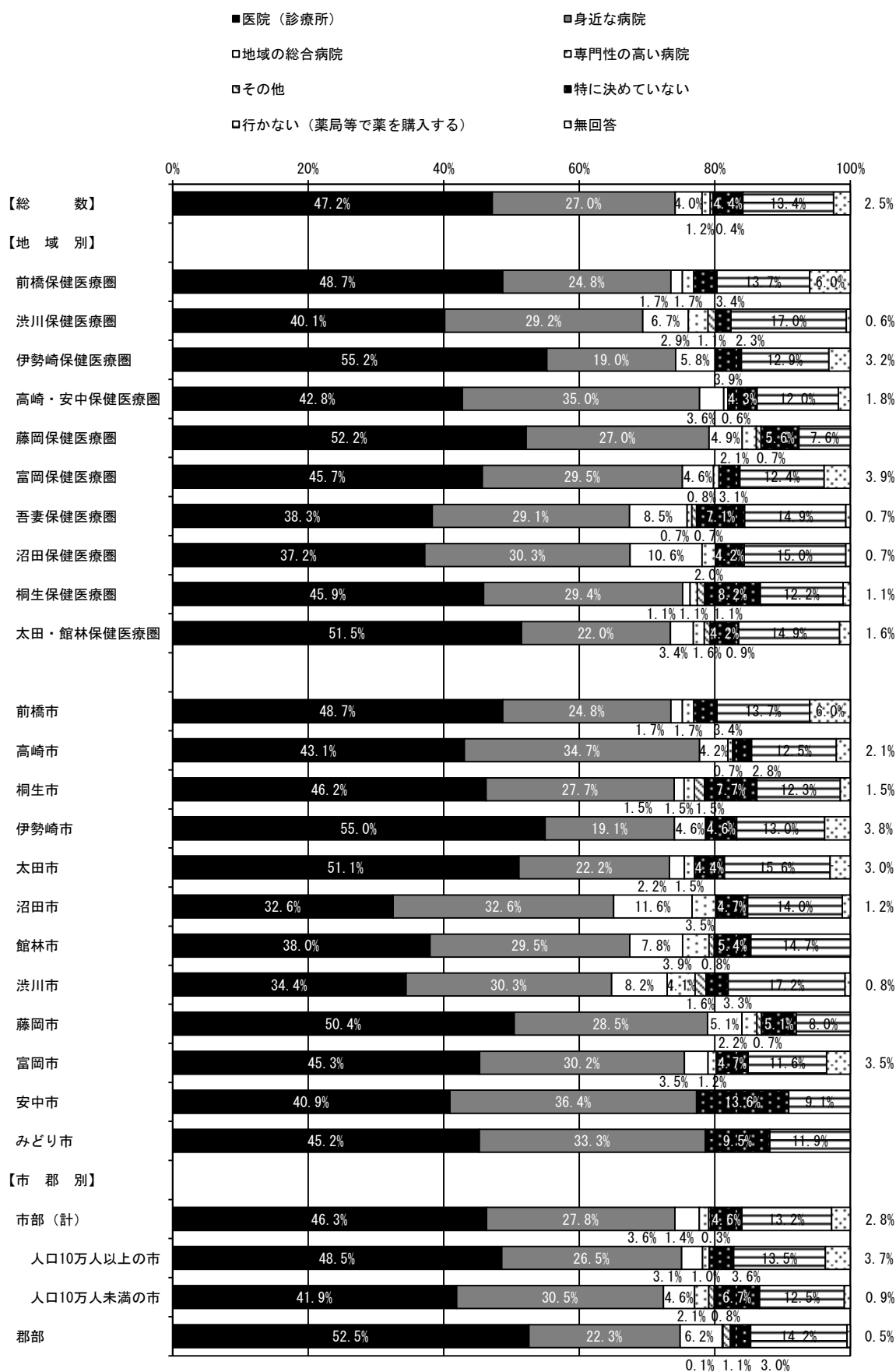
◆健康状態別

軽い病気の場合、健康状態で差異はほとんどみられない。

重い病気の場合、健康状態で大きな差異はみられないが、「専門性の高い病院」は健康状態がよい（32.3%）に比べ、健康状態がよくない（39.6%）の方が多くなっている。

転院する場合、「専門性の高い病院」は健康状態がよい（23.6%）に比べ、健康状態がよくない（32.5%）の方が多くなっている。

図5-2 医療機関の選択（軽い病気にかかった場合）



- 医院（診療所）
- 地域の総合病院
- その他
- 行かない（薬局等で薬を購入する）
- 身近な病院
- 専門性の高い病院
- 特に決めていない
- 無回答

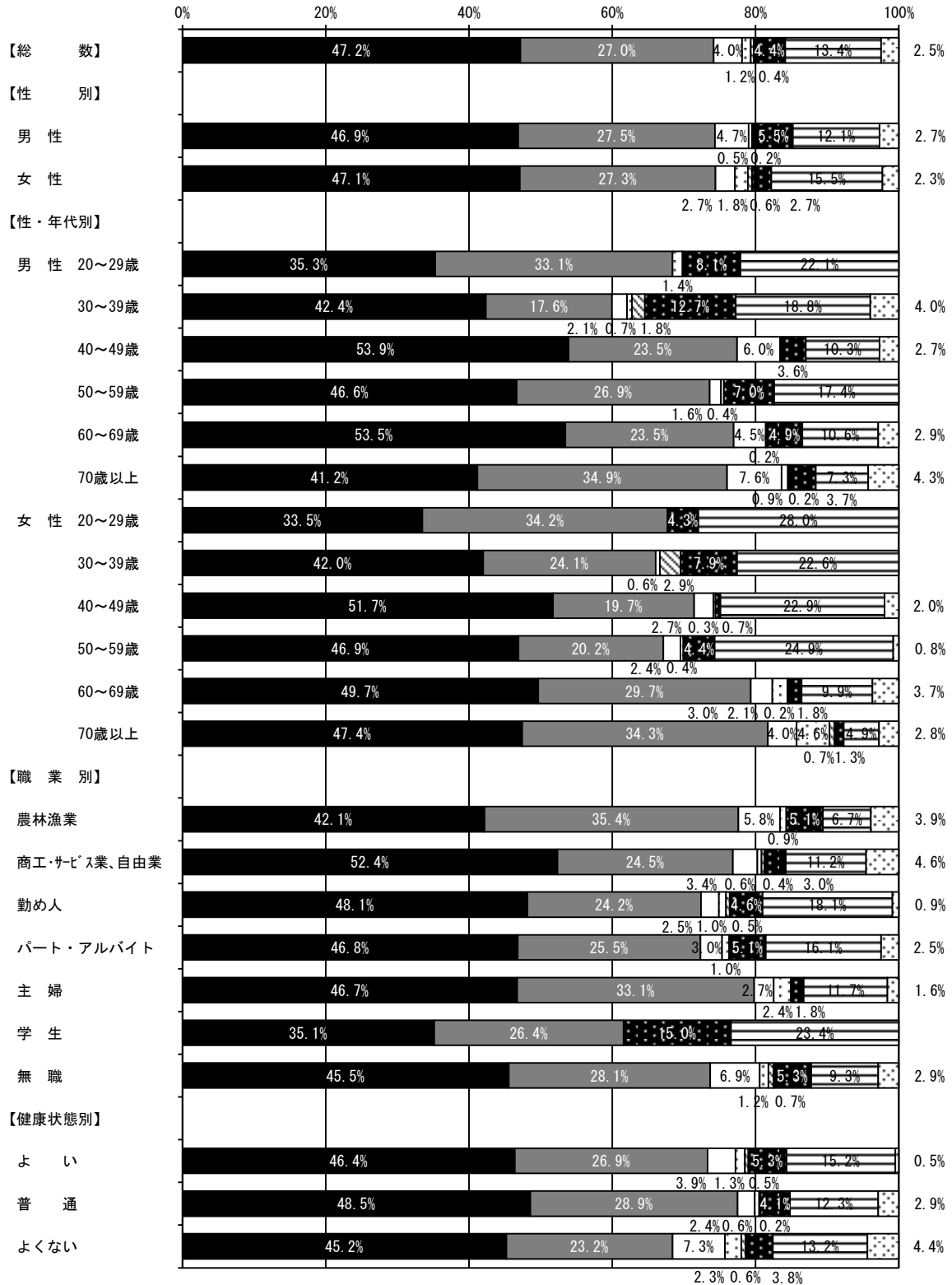
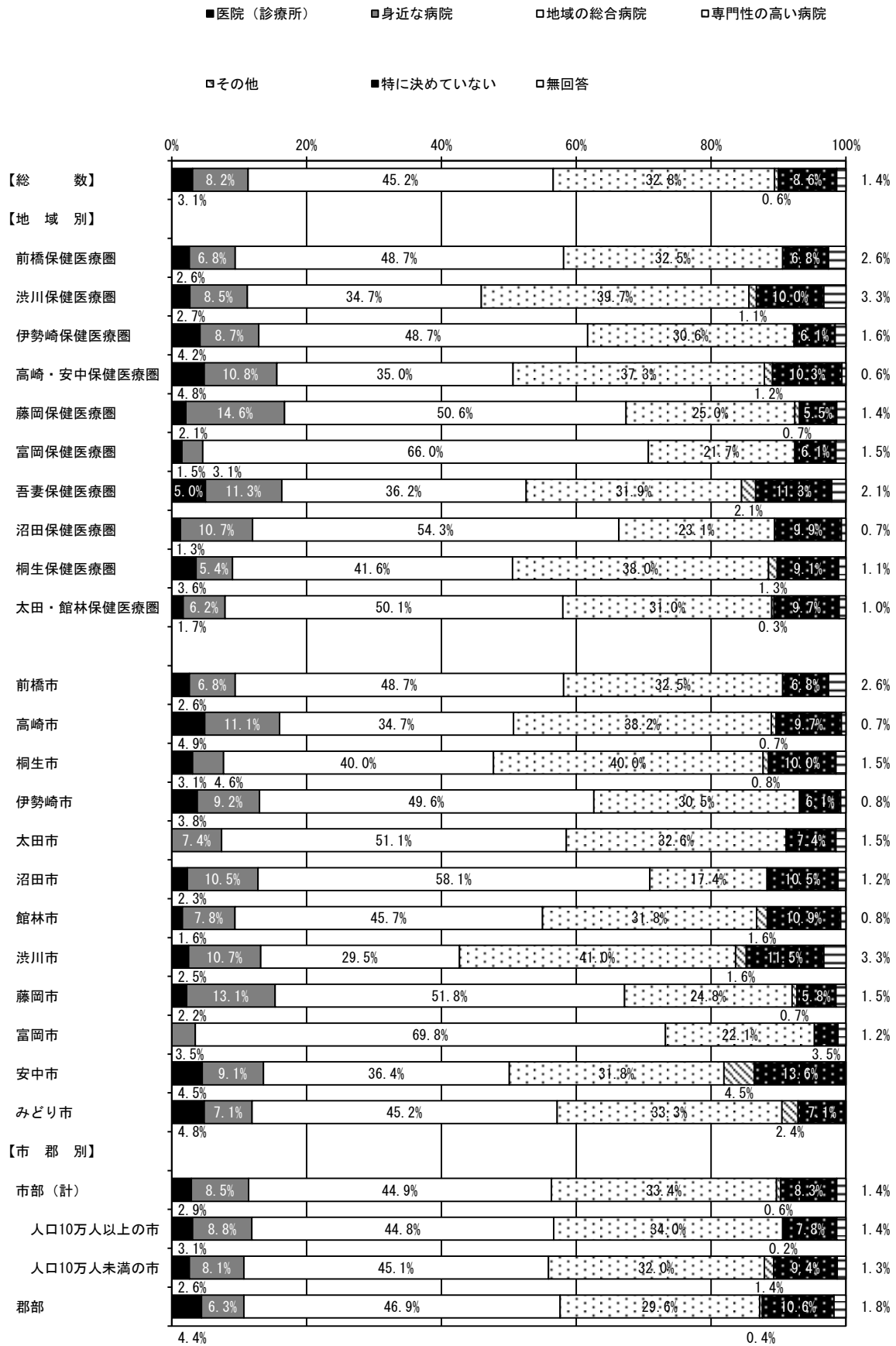


図5-3 医療機関の選択（重い病気にかかった場合）



■ 医院（診療所） □ 身近な病院 □ 地域の総合病院 □ 専門性の高い病院
 □ その他 ■ 特に決めていない □ 無回答

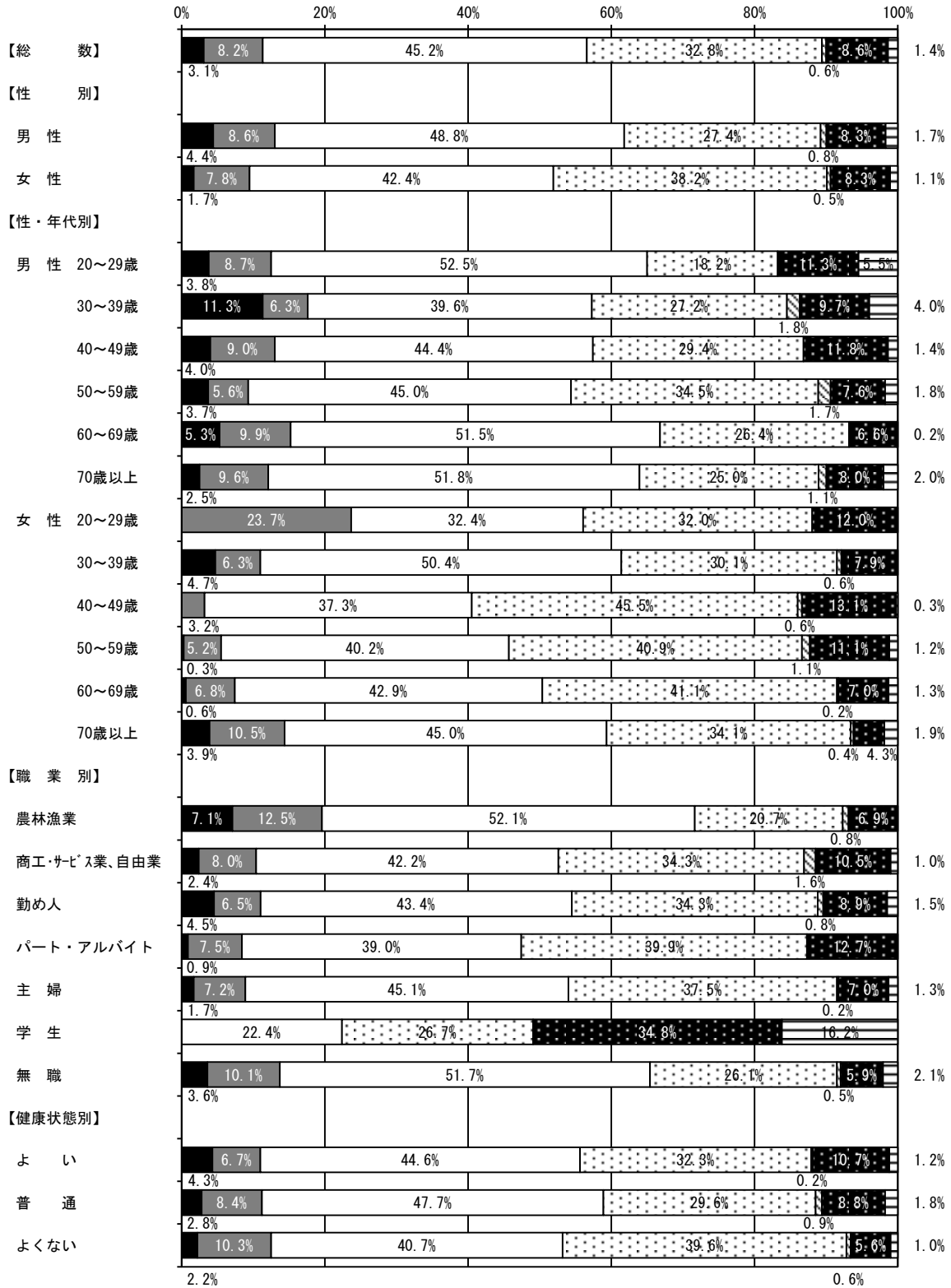
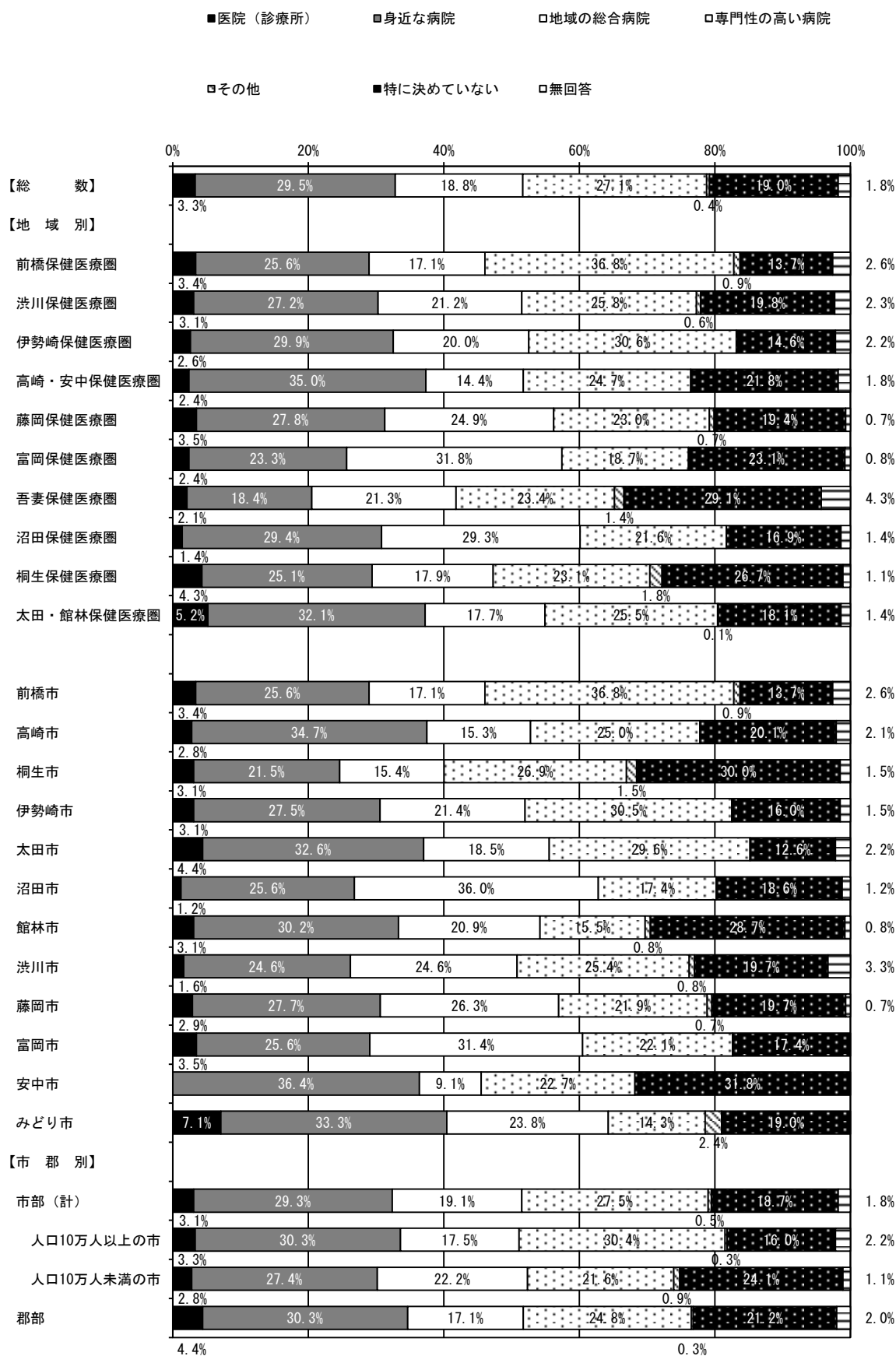
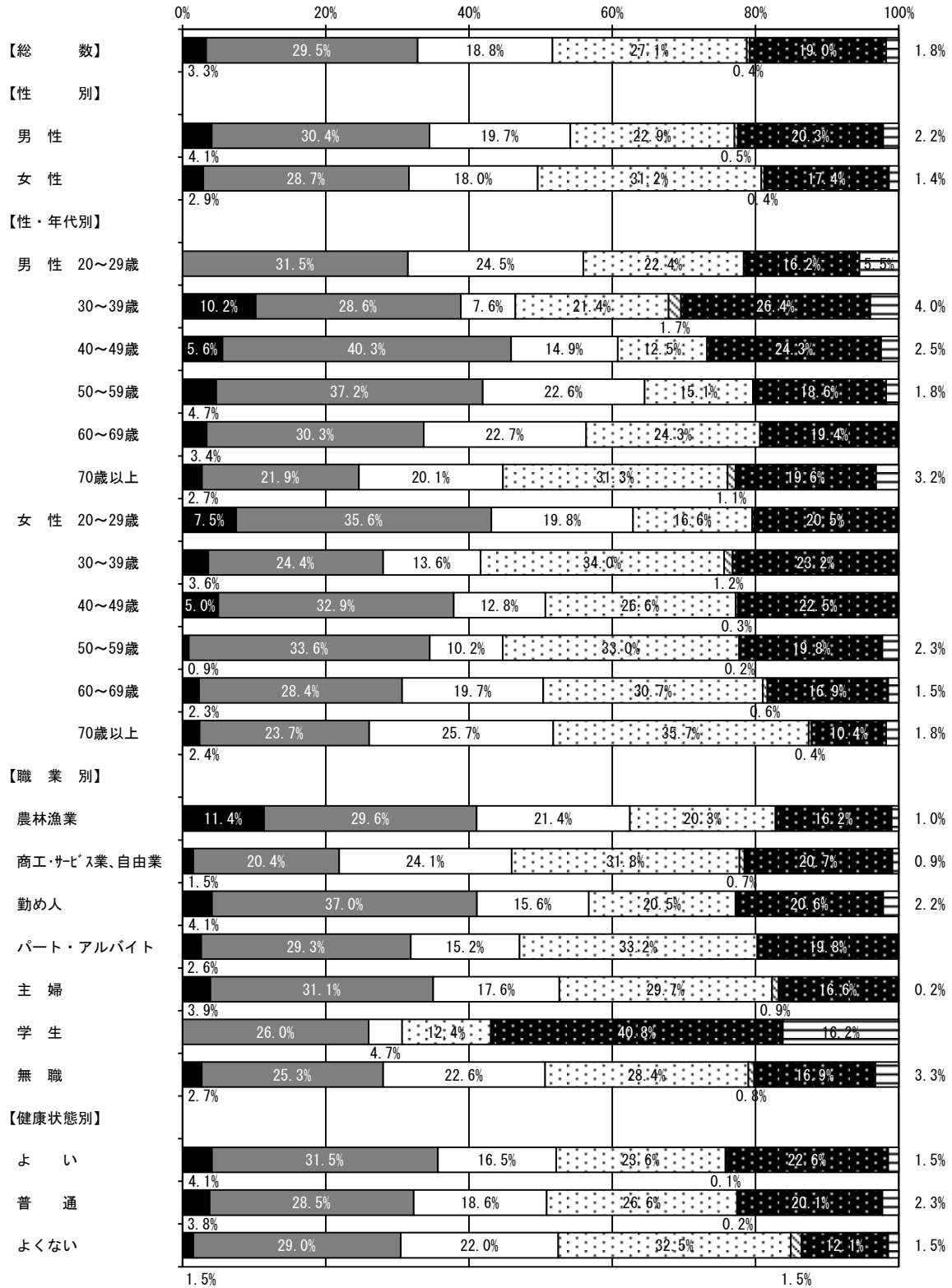


図5-4 医療機関の選択（転院することになった場合）



■ 医院（診療所） □ 身近な病院 □ 地域の総合病院 □ 専門性の高い病院
 □ その他 ■ 特に決めていない □ 無回答



(2) 医療機関の選択理由

～軽い病気にかかった場合は「自宅に近い」72.5%、「かかりつけである」57.5%

重い病気にかかった場合は「医療設備が整っている」55.6%

転院することになった場合は「自宅に近い」57.5%～

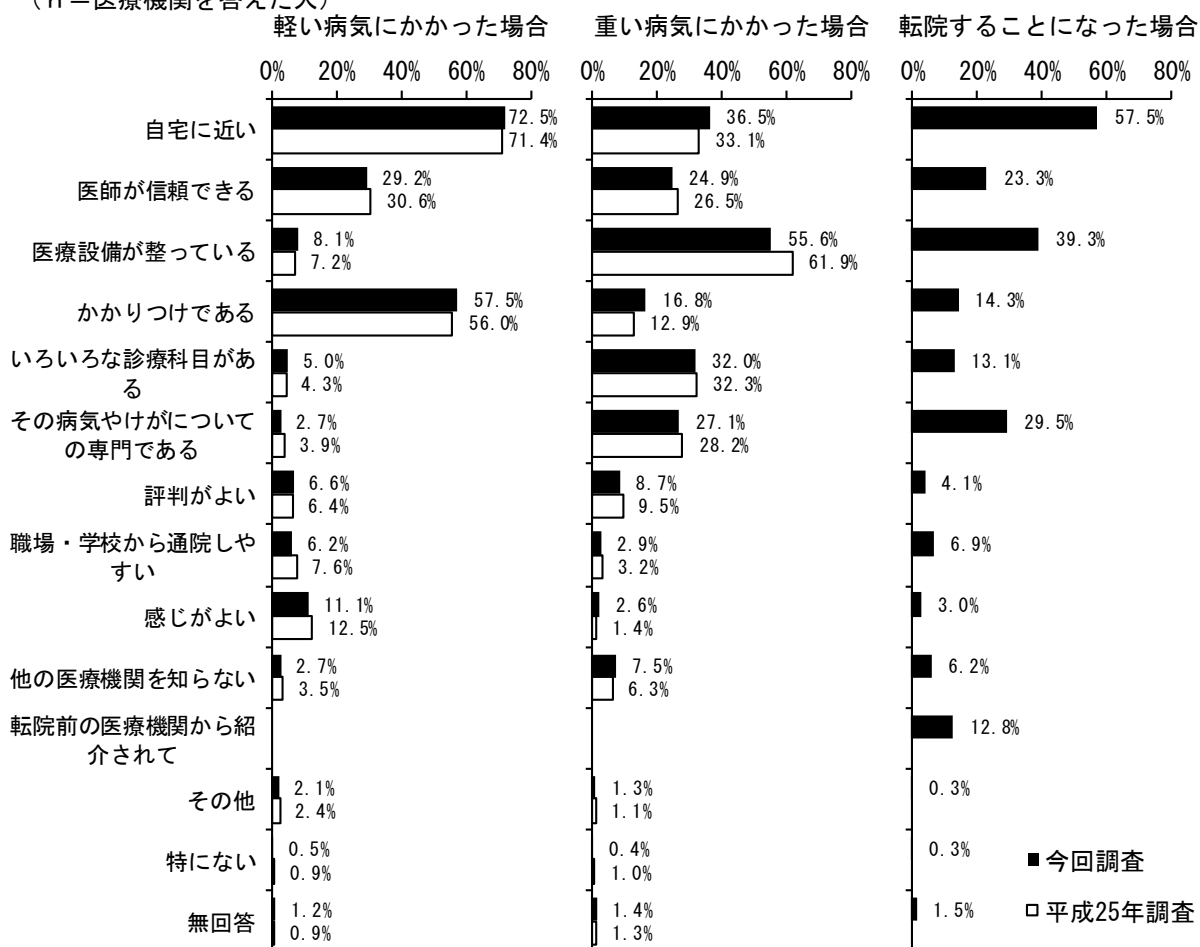
問7-1 その医療機関を選ぶのは、どういう理由からですか。(〇は3つまで)

問8-1 その医療機関を選ぶのは、どういう理由からですか。(〇は3つまで)

問9-1 その医療機関を選ぶのは、どういう理由からですか。(〇は3つまで)

図5-5

(n = 医療機関を答えた人)



※平成25年調査では問9-1と同様の質問項目なし

医療機関の選択理由としては、軽い病気の場合、「自宅に近い」が72.5%と最も多く、次いで「かかりつけである」が57.5%となっている。

重い病気の場合、「医療設備が整っている」が55.6%と最も多く、次いで「自宅に近い」が36.5%、「いろいろな診療科目がある」が32.0%となっている。

転院する場合、「自宅に近い」が57.5%と最も多く、次いで「医療設備が整っている」が39.3%となっている。

平成25年調査結果との比較では、軽い病気の場合と重い病気の場合でほぼ同様となっている。

◆地域別

軽い病気の場合、いずれの地域も「自宅に近い」と「かかりつけである」が多くなっている。また、前橋保健医療圏は「医師が信頼できる」が40.0%と他の地域に比べ多くなっている。

重い病気の場合、いずれの地域も「医療設備が整っている」が最も多くなっている。また、富岡保健医療圏は「自宅に近い」が49.6%と他の地域に比べ多くなっている。

転院する場合、いずれの地域も「自宅に近い」が最も多くなっている。また、前橋保健医療圏は「その病気やけがについての専門である」が37.8%と他の地域に比べ多くなっている。

◆市郡別

軽い病気の場合、市部と郡部で差異はほとんどみられない。

重い病気の場合、「自宅に近い」は郡部(26.1%)に比べ、市部(38.3%)の方が多くなっている。一方、「いろいろな診療科目がある」は市部(31.1%)に比べ、郡部(37.2%)の方が多くなっている。

転院する場合、「医療設備が整っている」と「医師が信頼できる」は郡部に比べ、市部の方が多くなっている。

◆性別

軽い病気の場合、男性と女性で差異はほとんどみられない。

重い病気の場合、男性と女性とも「医療設備が整っている」が最も多くなっている。また、「その病気やけがについての専門である」は男性(21.6%)に比べ、女性(32.9%)の方が多くなっている。

転院する場合、男性と女性とも「自宅に近い」が最も多くなっている。また、「その病気やけがについての専門である」は男性(25.7%)に比べ、女性(33.4%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

軽い病気の場合、「自宅に近い」はいずれの性別・年代も最も多くなっており、若い年代ほど多くなる傾向がみられる。一方、「かかりつけである」は20代女性を除くと、高い年代ほど多くなる傾向がみられる。

重い病気の場合、性別・年代で大きな差異はみられないが、「医師が信頼できる」は30代男性が35.1%と他の性別・年代と比べ多くなっている。

転院する場合、いずれの性別・年代も「自宅に近い」が多くなっており、その中でも40代男性(77.5%)、50代男性(70.4%)、20代女性(70.1%)が多くなっており、70.0%を超えている。また、20代男性は「医療設備が整っている」が56.5%と他の性別・年代に比べ多くなっている。

◆職業別

軽い病気の場合、農林漁業を除くと、いずれの職業も「自宅に近い」が多くなっている。また、農林漁業は「かかりつけである」が75.5%と他の職業に比べ多くなっている。

重い病気の場合、学生を除くといずれの職業も「医療設備が整っている」が最も多くなっている。学生では「自宅に近い」が45.6%と最も多くなっている。

転院する場合、いずれの職業も「自宅に近い」が最も多くなっている。農林漁業は「かかりつけである」が32.0%と他の職業に比べ多くなっている。

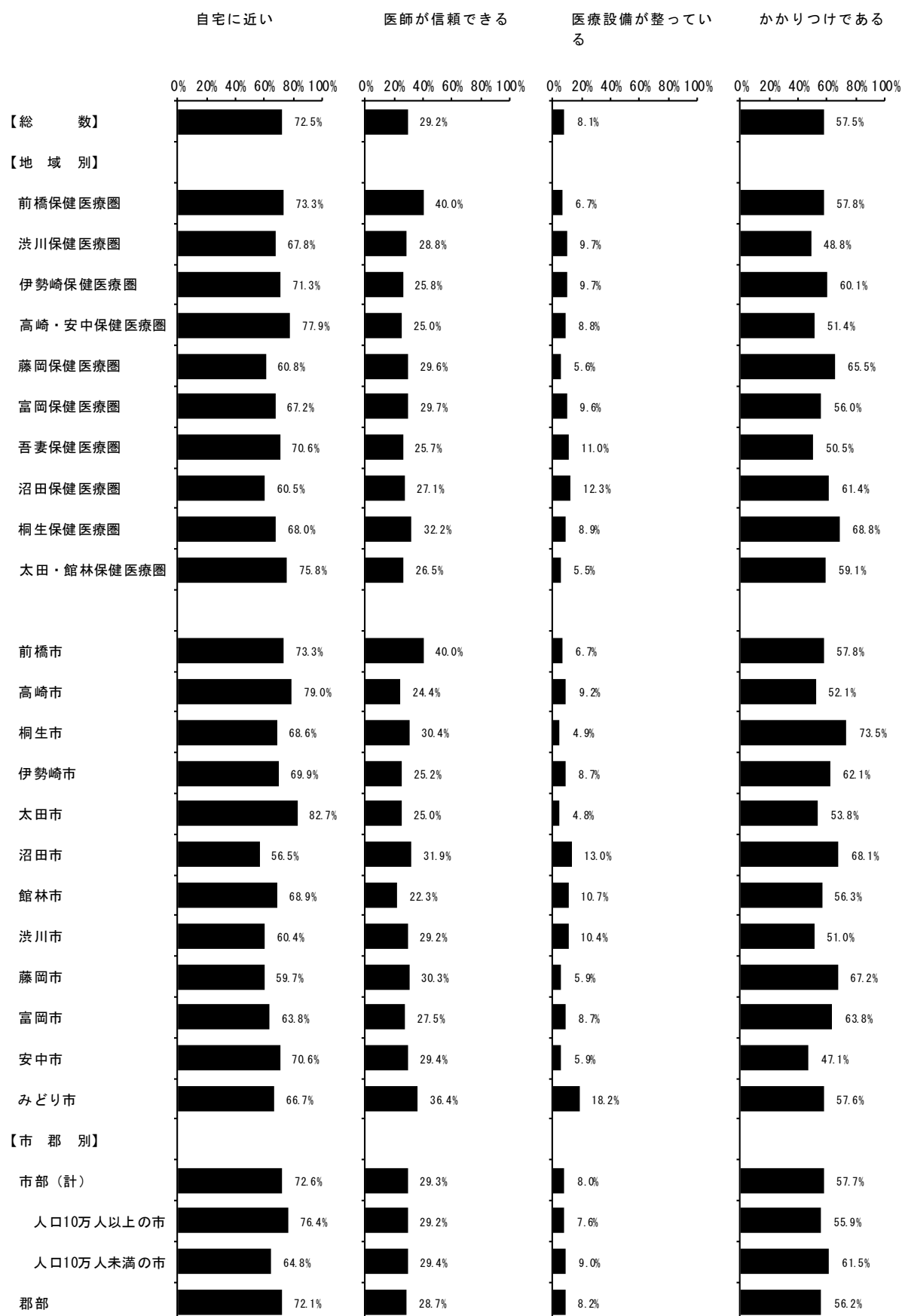
◆健康状態別

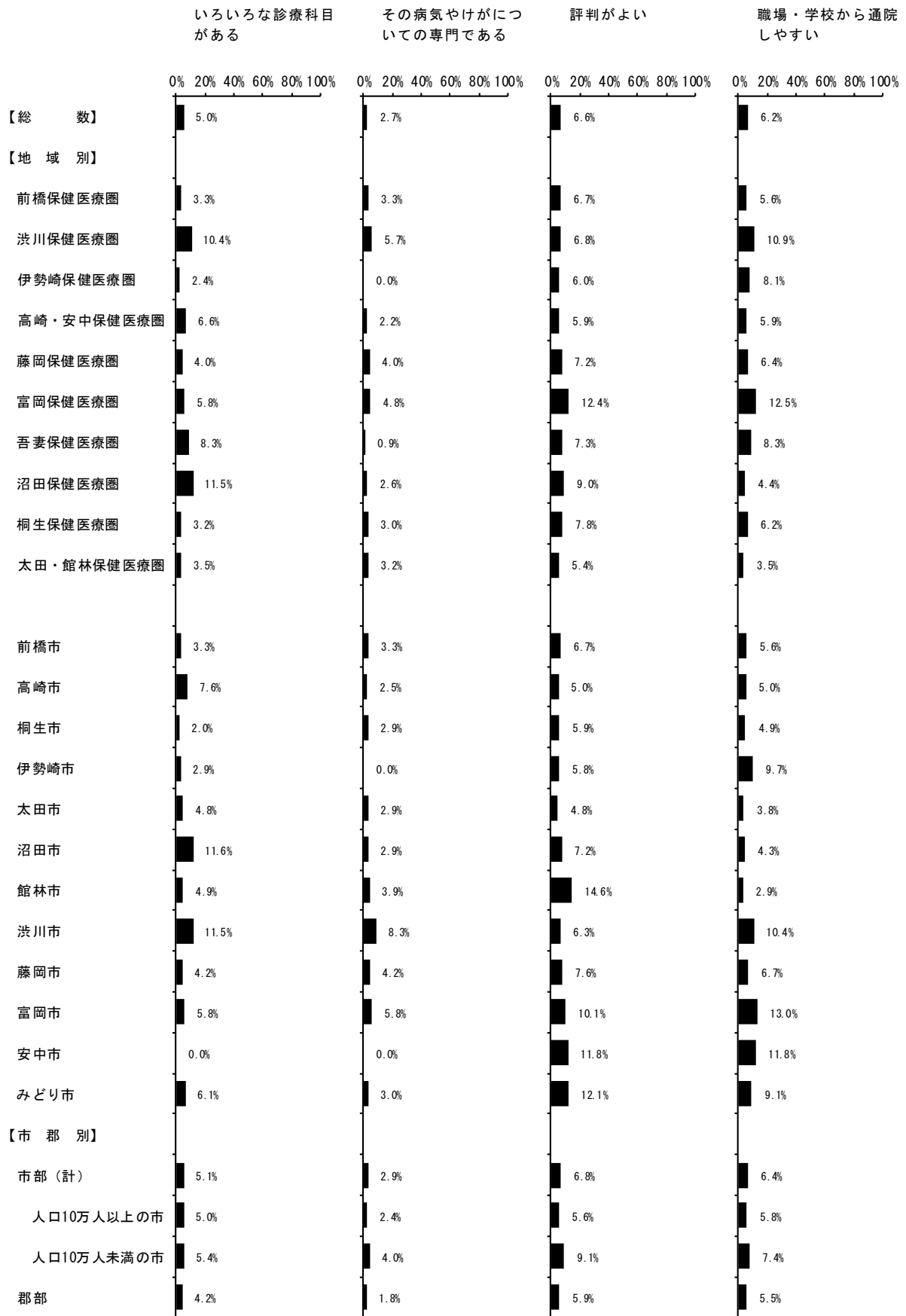
軽い病気の場合、「自宅に近い」は健康状態がよくない(68.4%)に比べ、健康状態がよい(77.3%)の方が多くなっている。一方、「かかりつけである」は健康状態がよい(53.6%)に比べ、健康状態がよくない(63.3%)の方が多くなっている。

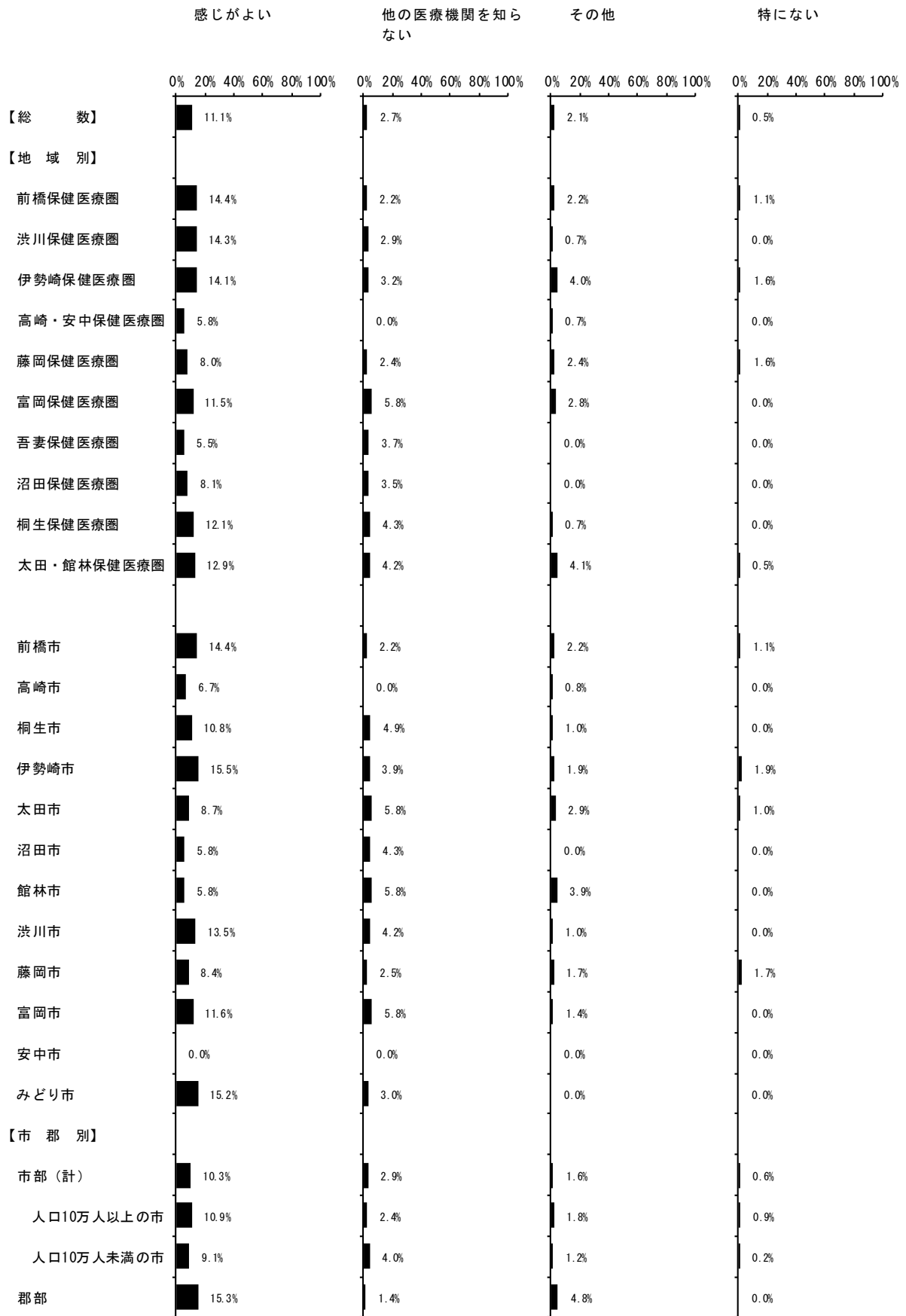
重い病気の場合、健康状態で大きな差異はみられないが、「かかりつけである」は健康状態がよい(14.9%)に比べ、健康状態がよくない(24.2%)の方が多くなっている。

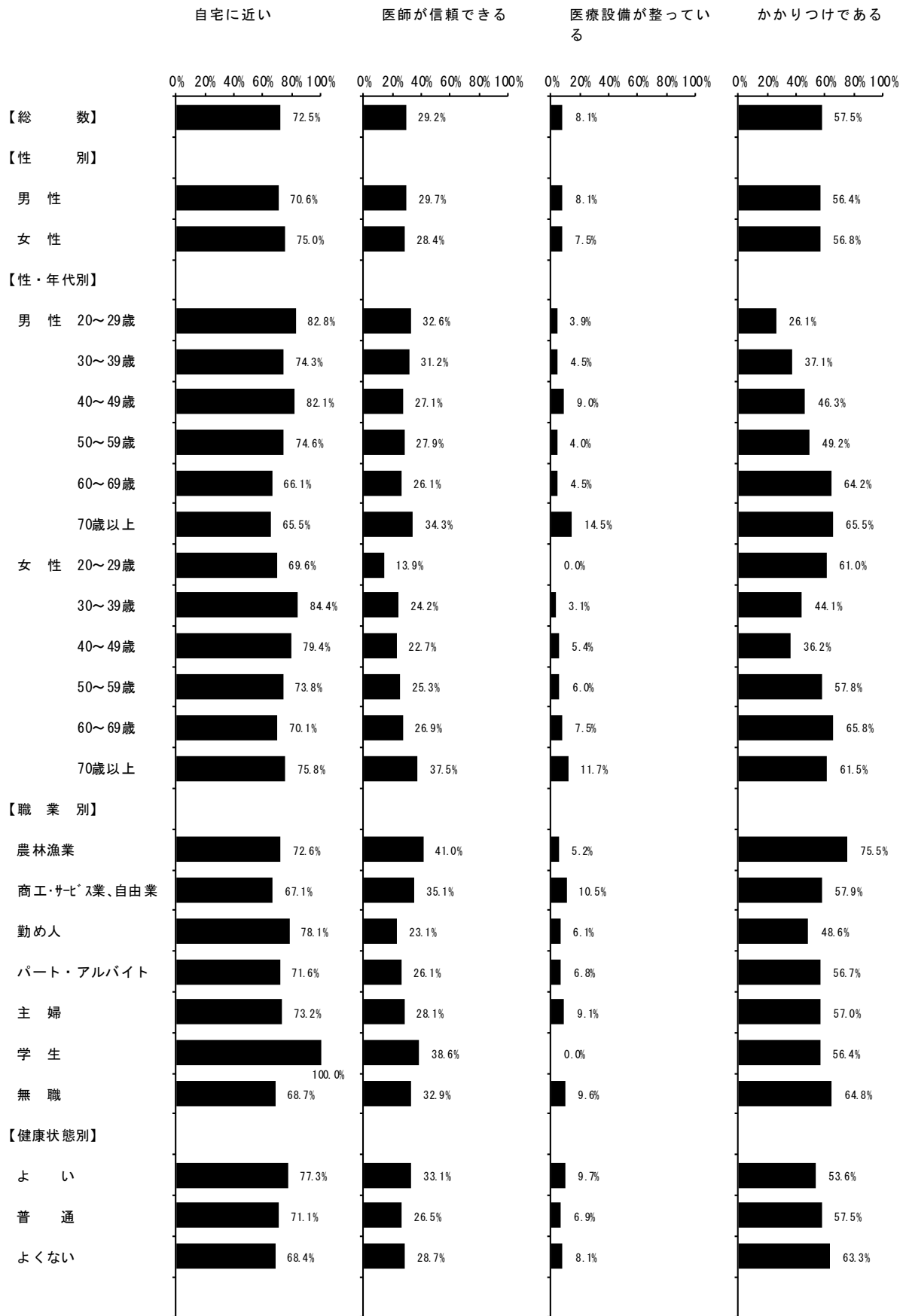
転院する場合、「自宅に近い」は健康状態がよくない(50.5%)に比べ、健康状態がよい(60.9%)の方が多くなっている。

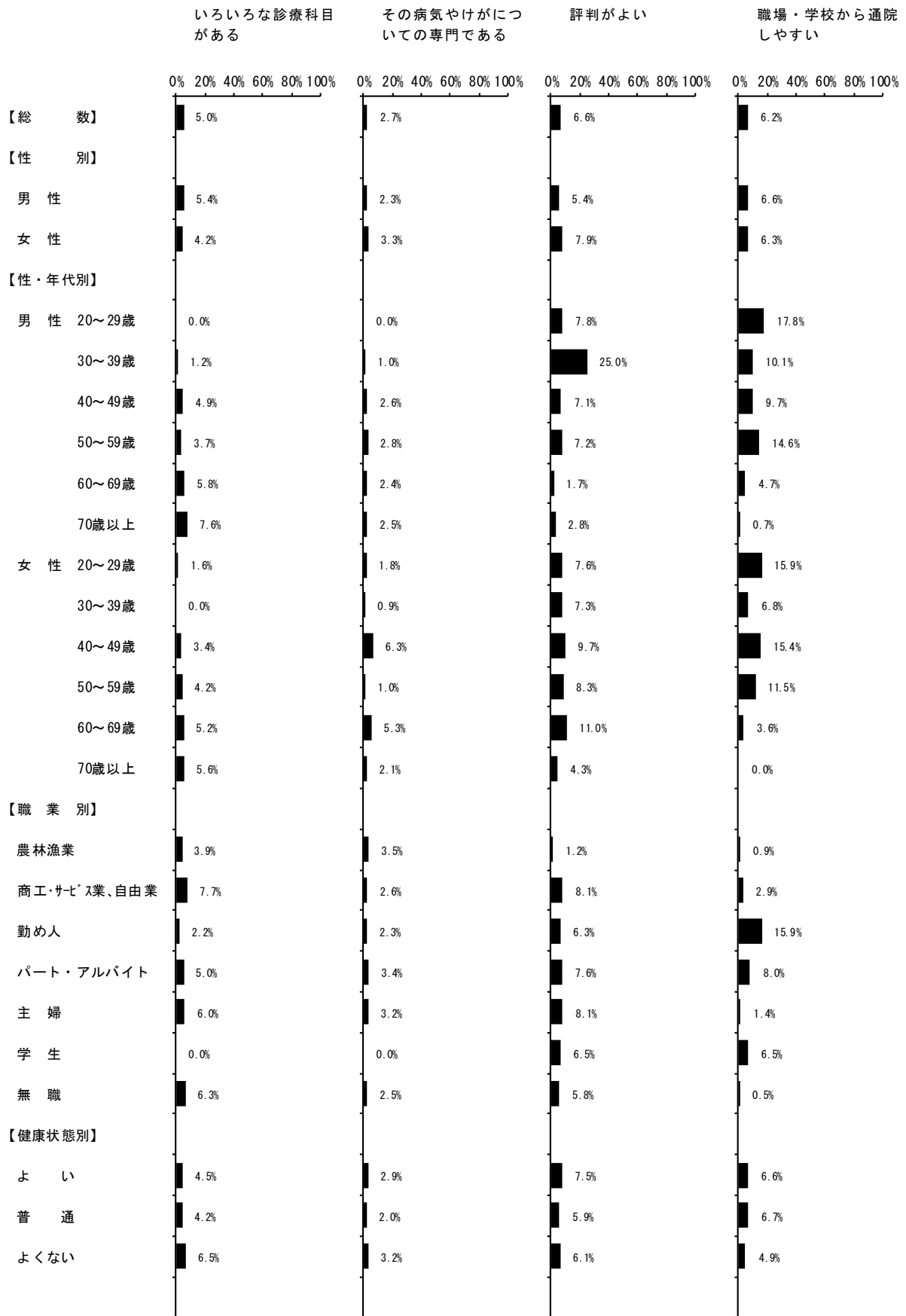
図5-6 医療機関の選択理由（軽い病気にかかった場合）











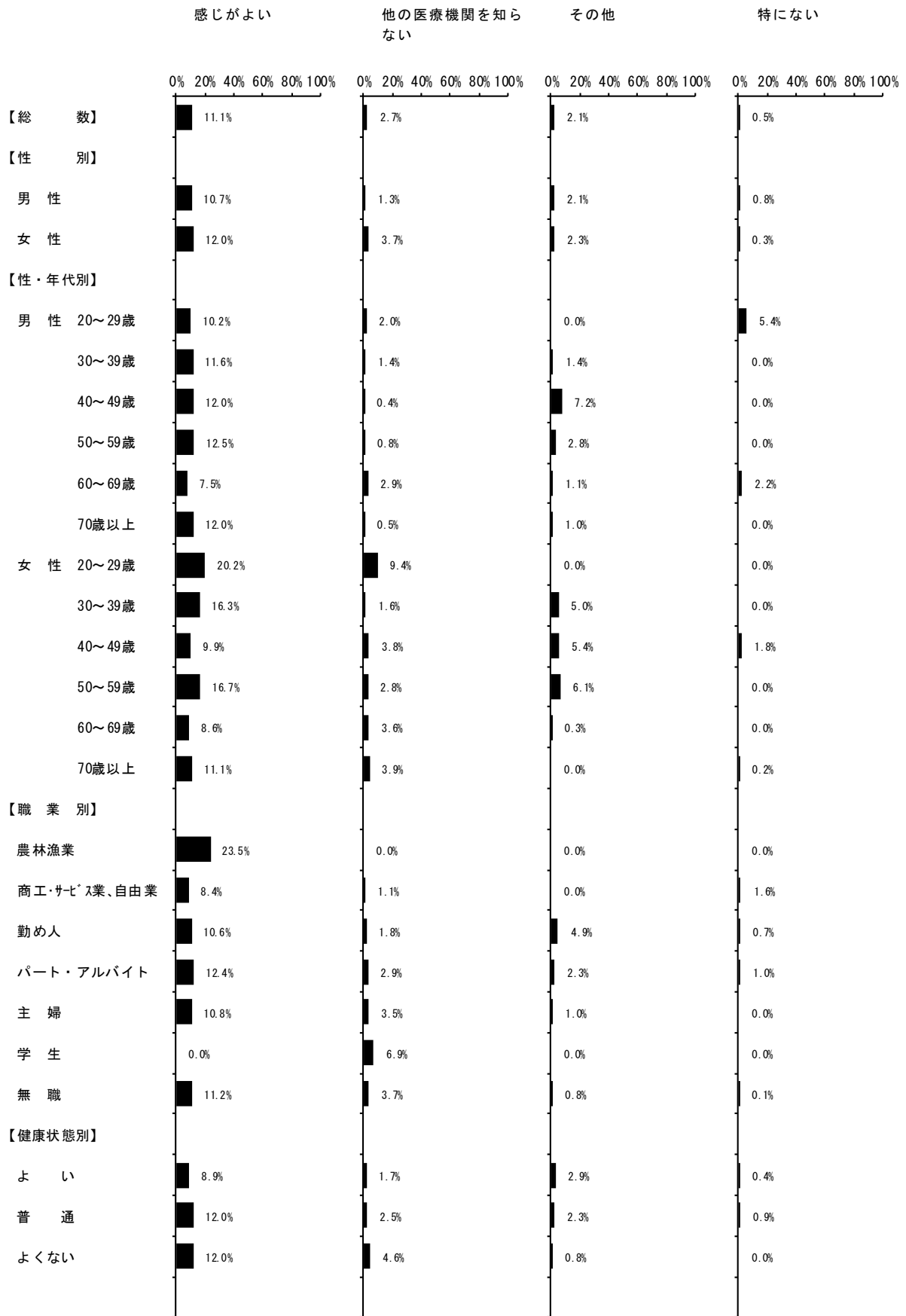
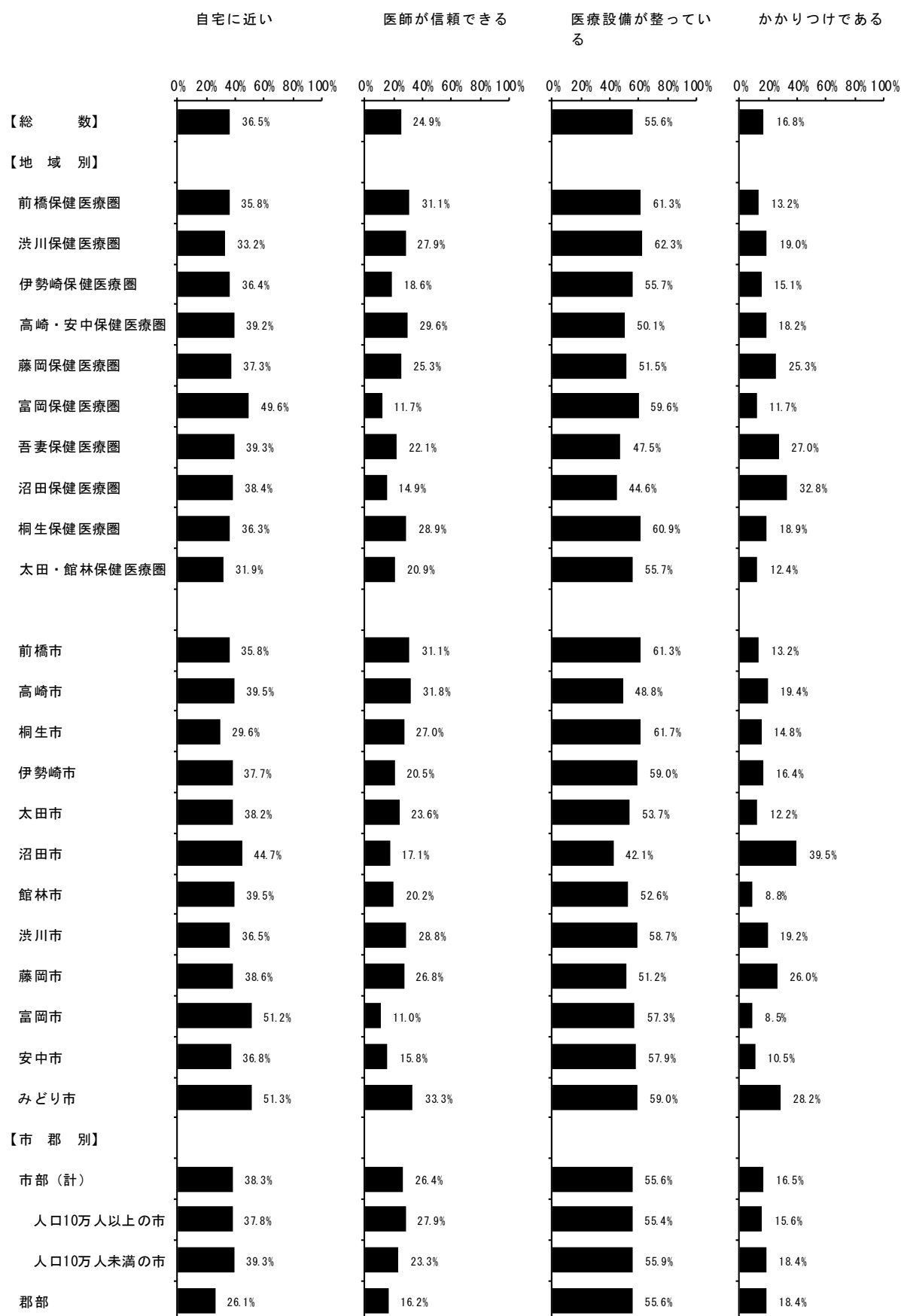
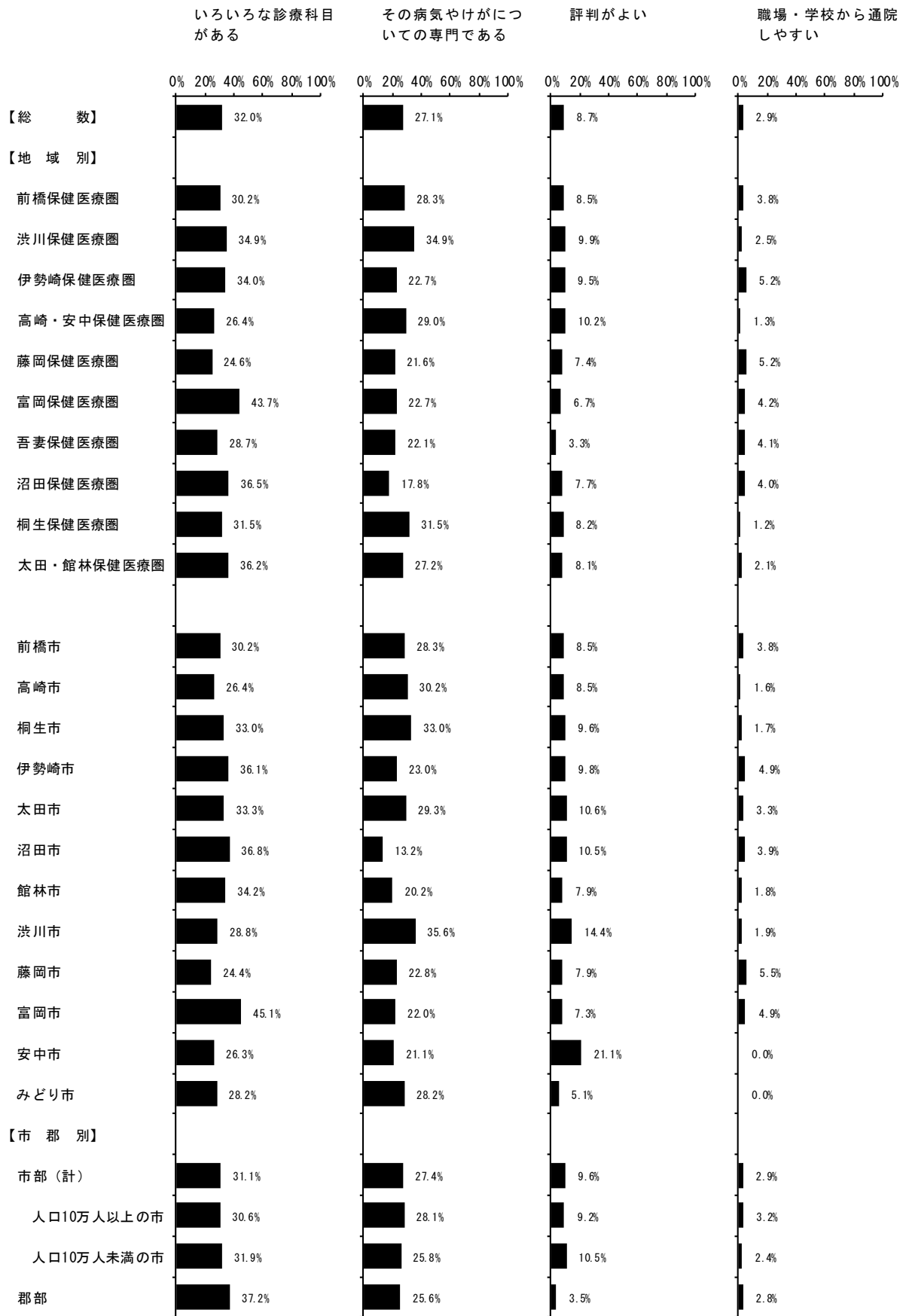
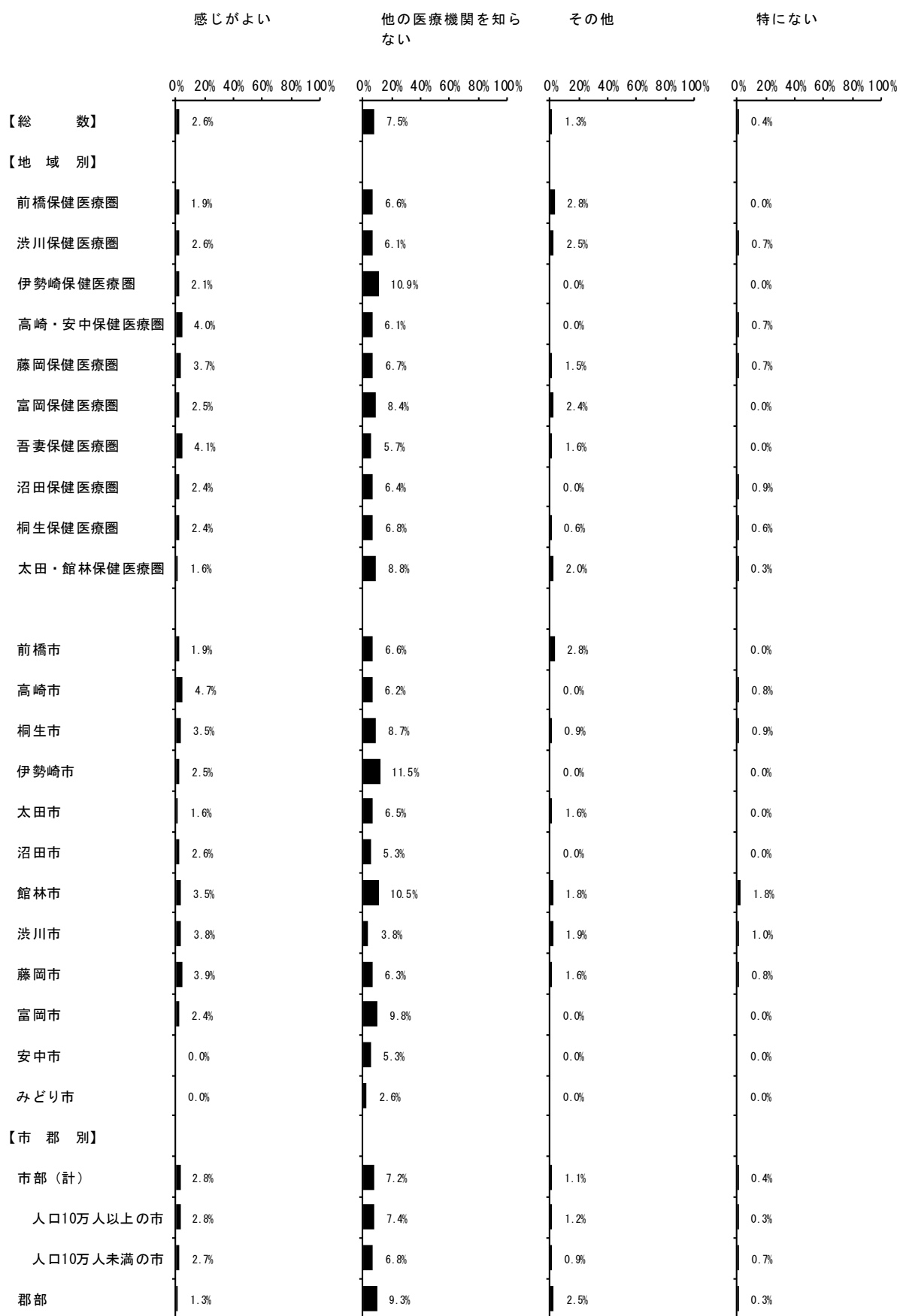
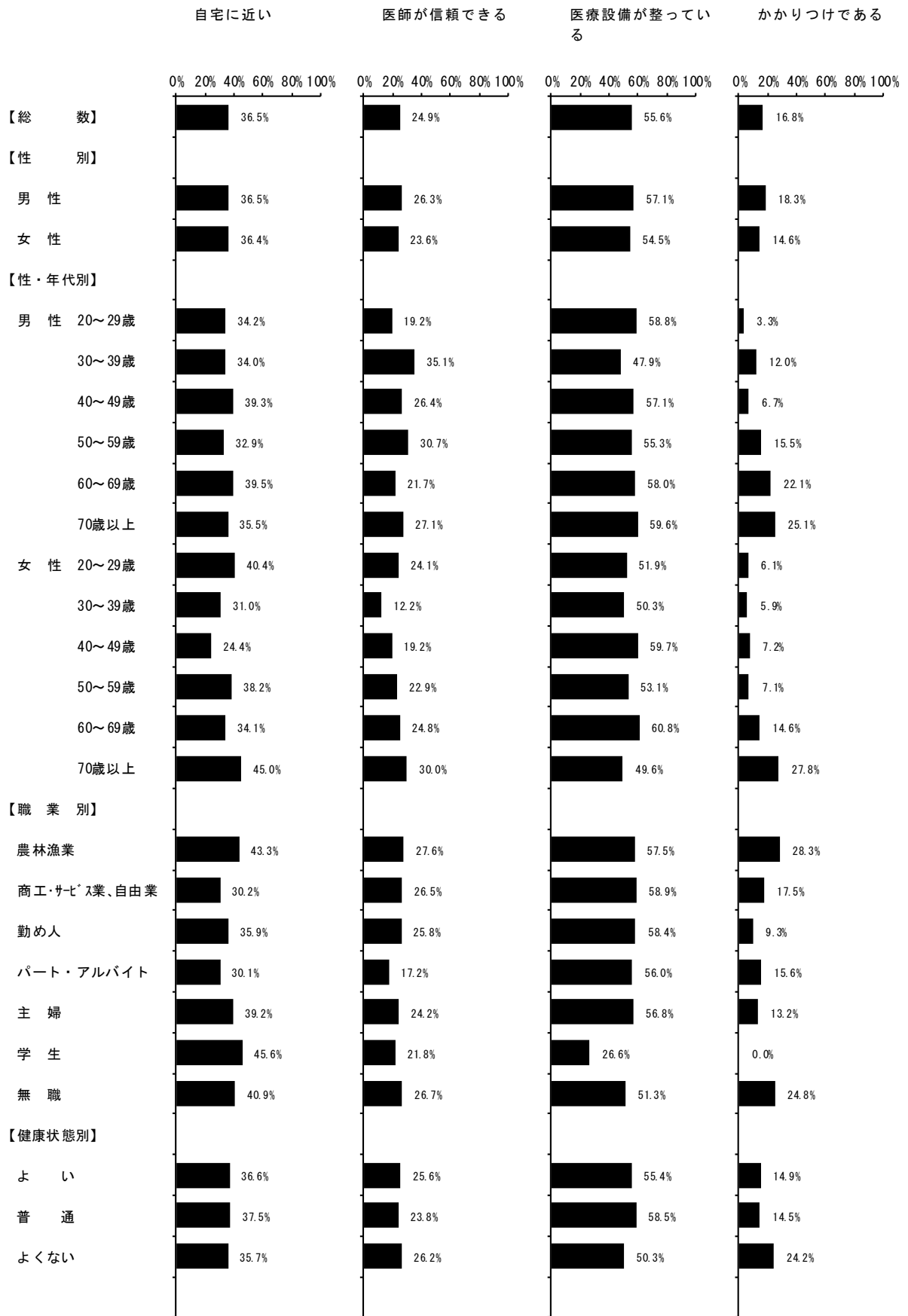


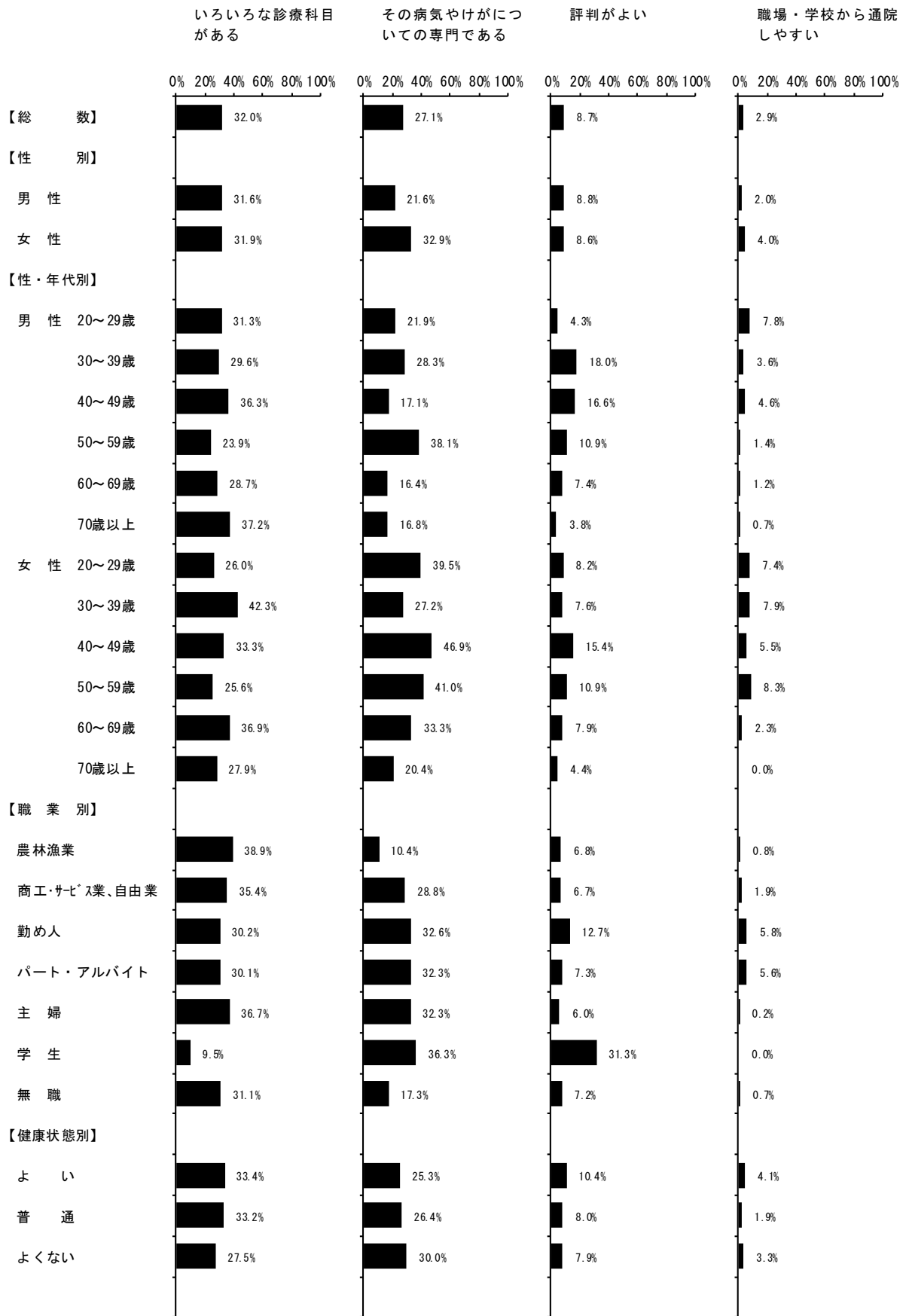
図5-7 医療機関の選択理由（重い病気にかかった場合）











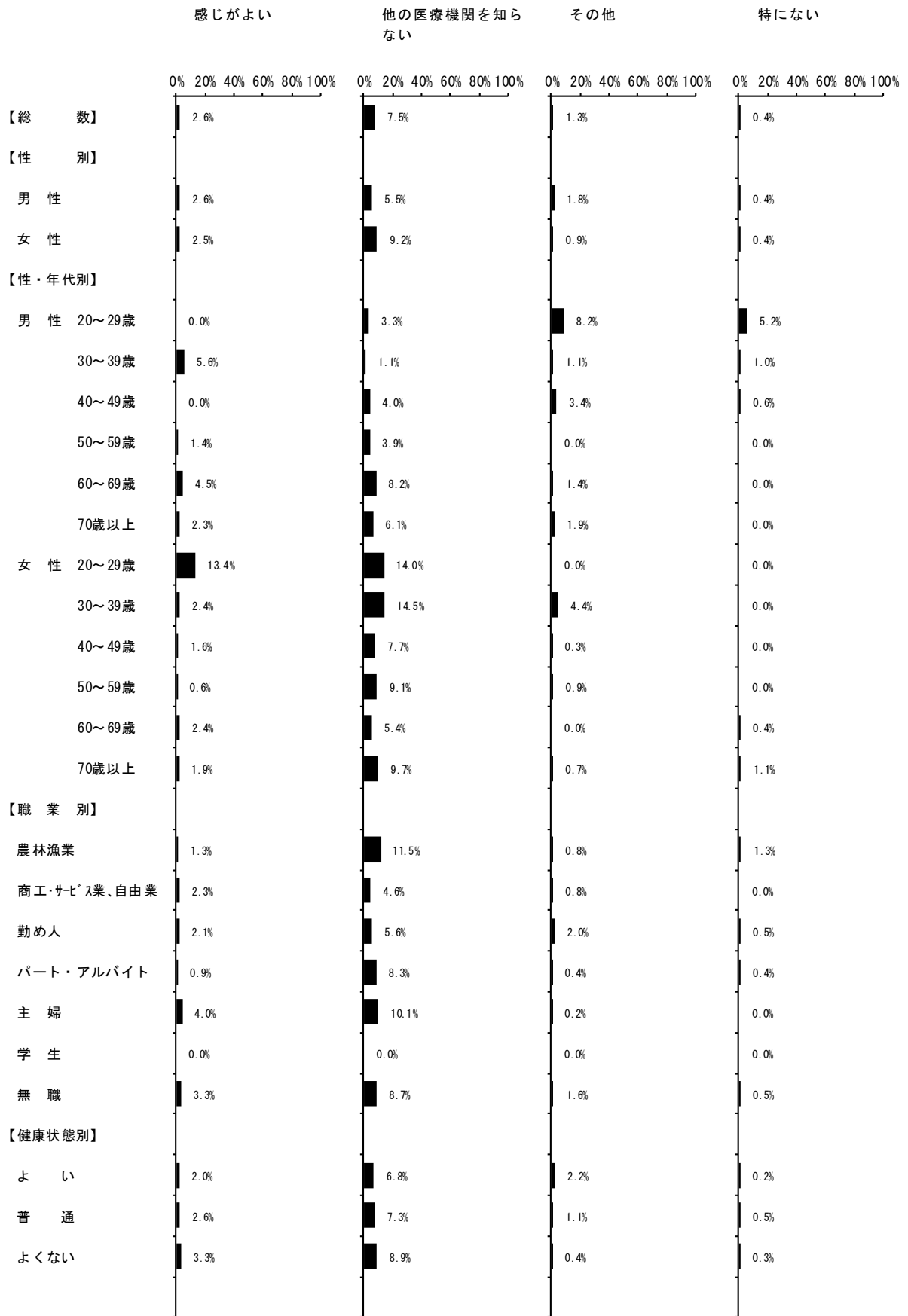
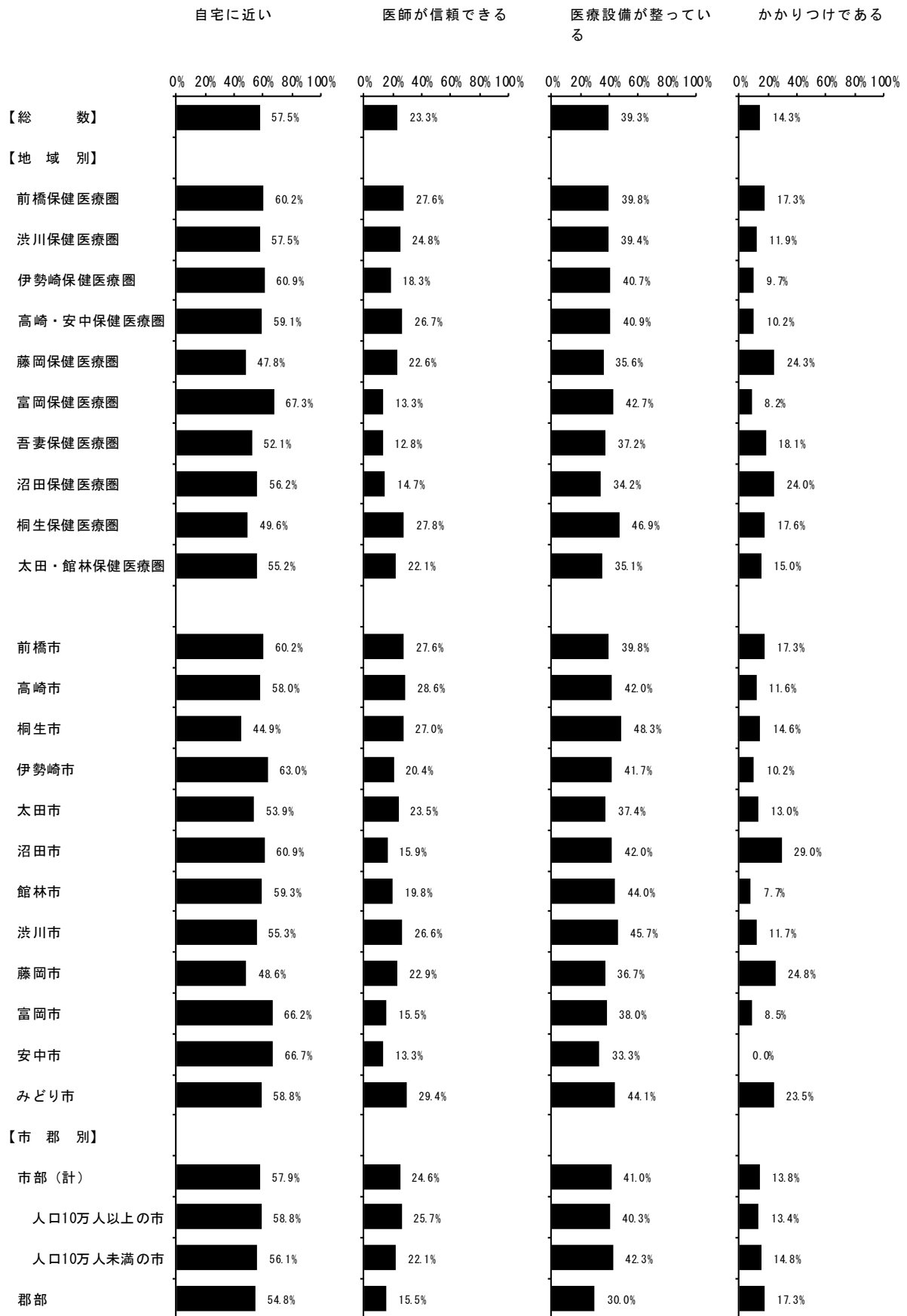
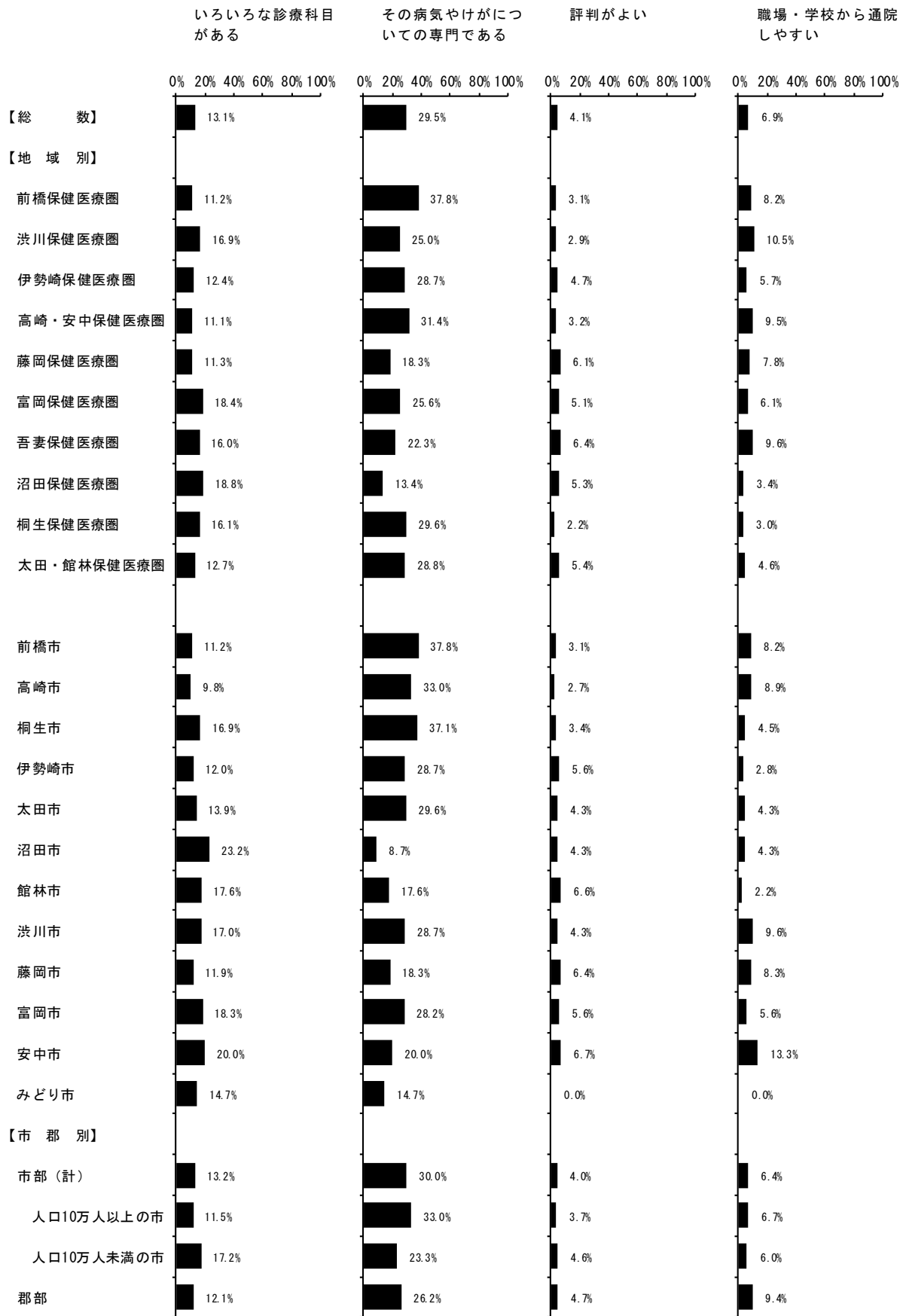
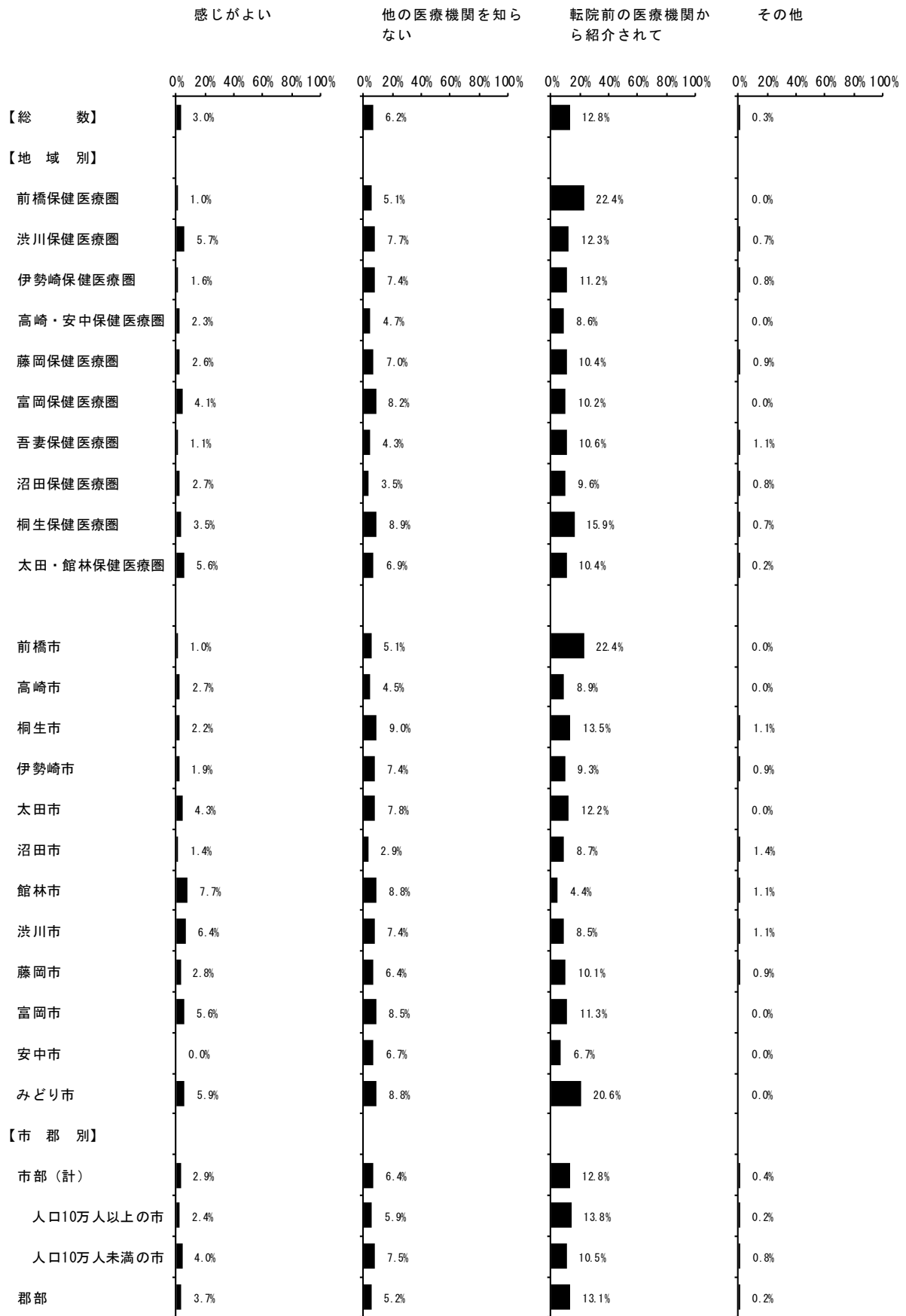


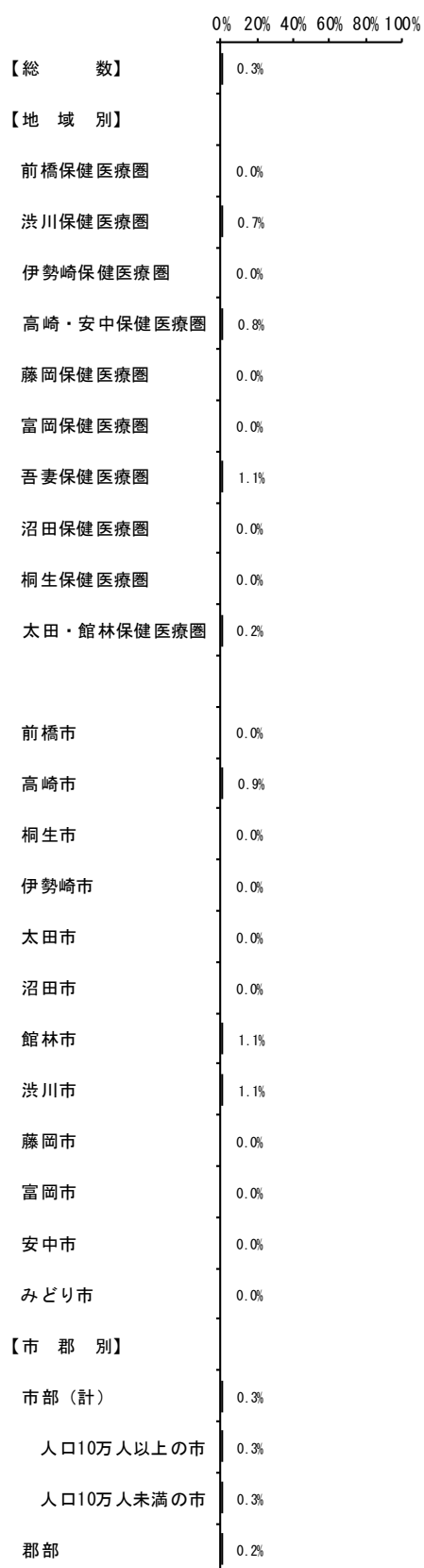
図5-8 医療機関の選択理由（転院することになった場合）

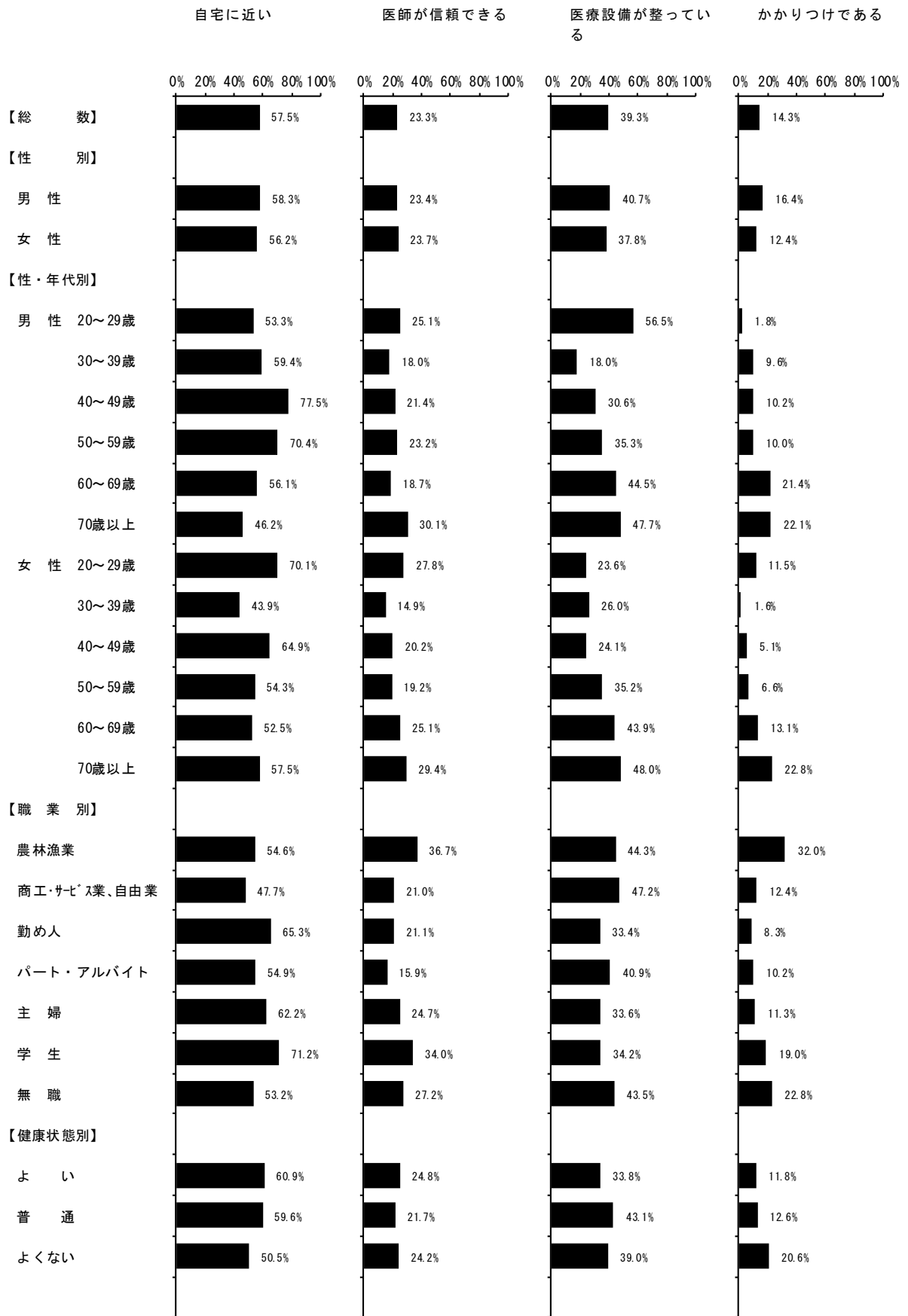


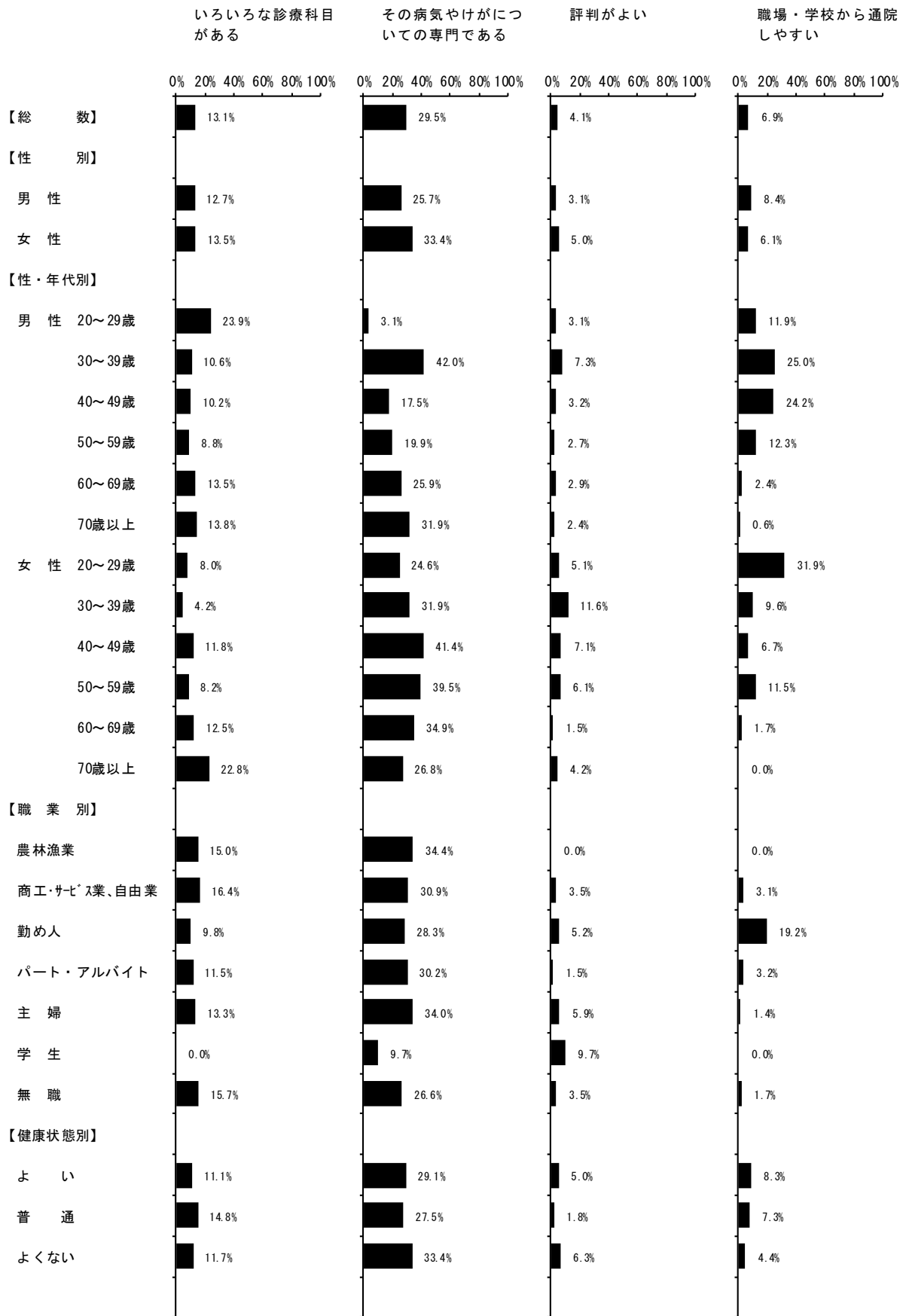


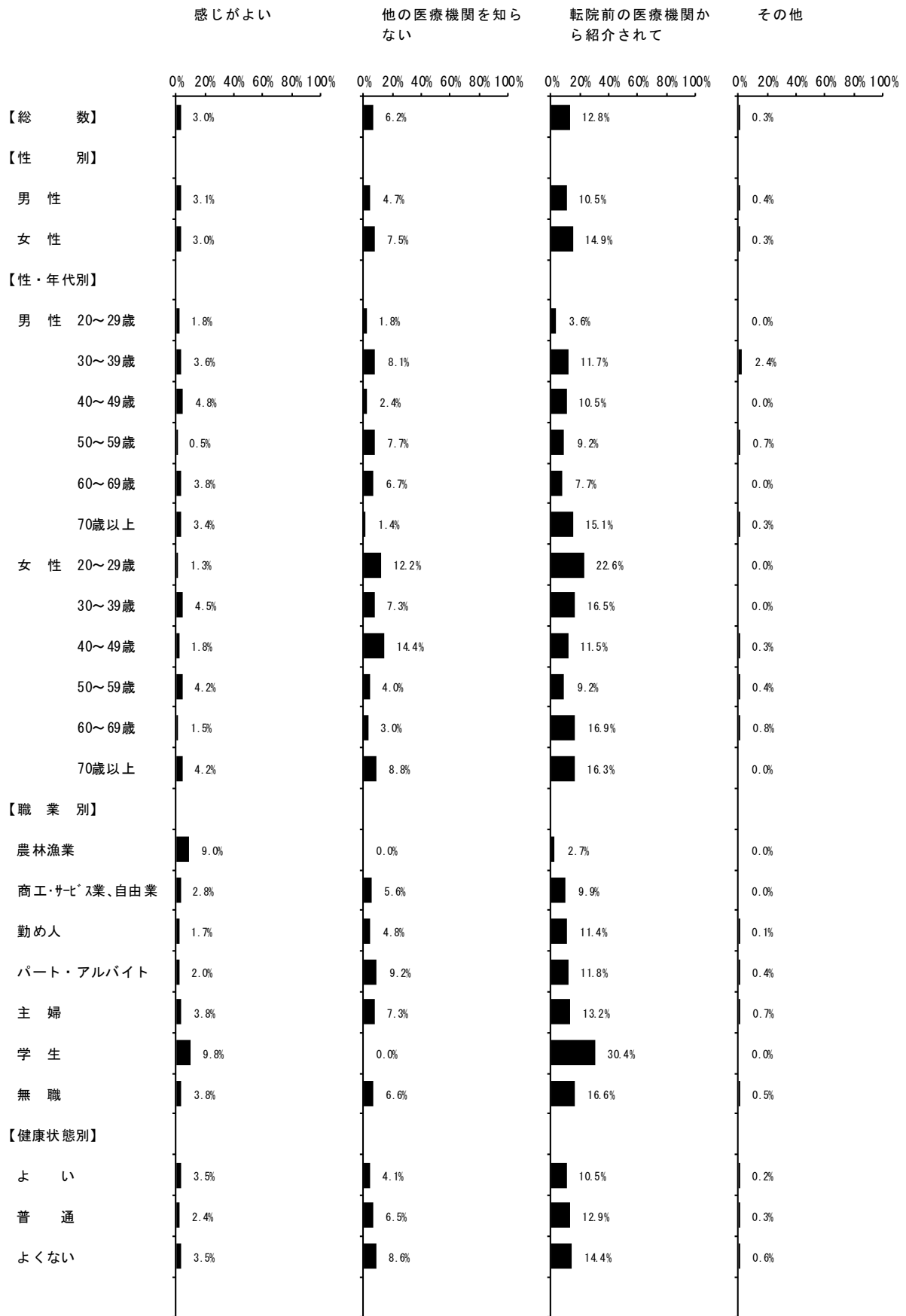


特になし

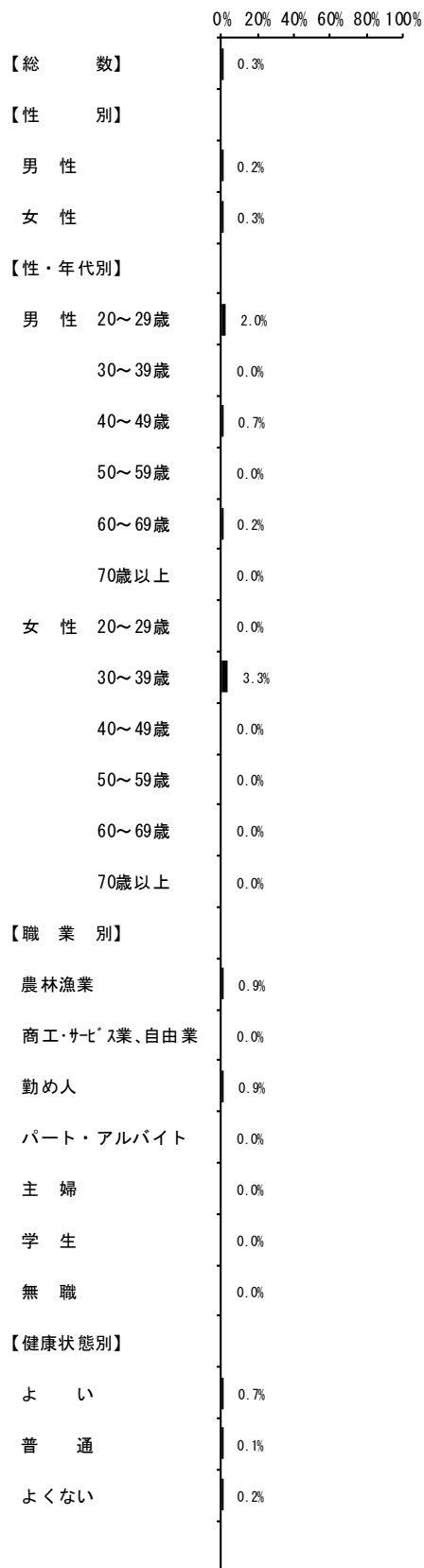








特になし



(3) 医療機関の所在地

～軽い病気にかかった場合、重い病気にかかった場合、転院することになった場合のいずれも「前橋市」、「高崎市」の順に多い～

問7-2 主に診療を受ける(あるいは受けたい)その医療機関はどの市町村にありますか。

(○は1つだけ)

問8-2 主に診療を受ける(あるいは受けたい)その医療機関はどの市町村にありますか。

(○は1つだけ)

問9-2 リハビリテーションを受ける(あるいは受けたい)その医療機関はどの市町村にありますか。(○は1つだけ)

図5-9

(n=医療機関を答えた人)

市町村	軽い病気にかかった場合		重い病気にかかった場合		転院することになった場合
	今回調査	平成25年調査	今回調査	平成25年調査	今回調査
前橋市	19.8%	20.5%	26.9%	30.3%	22.0%
高崎市	19.4%	16.6%	18.0%	14.1%	19.8%
桐生市	5.9%	6.4%	5.0%	5.5%	4.1%
伊勢崎市	10.6%	10.6%	10.5%	9.8%	11.6%
太田市	11.5%	10.7%	11.6%	12.7%	11.6%
沼田市	3.1%	3.0%	3.4%	3.0%	3.3%
館林市	3.9%	3.7%	4.0%	3.6%	5.0%
渋川市	2.9%	3.4%	2.1%	1.6%	2.4%
藤岡市	3.0%	3.7%	2.7%	3.3%	2.5%
富岡市	2.8%	3.5%	3.7%	4.3%	3.4%
安中市	2.3%	1.8%	1.2%	0.6%	1.0%
みどり市	2.1%	1.9%	1.3%	1.1%	1.8%
榛東村	0.4%	0.5%	0.1%	0.0%	0.1%
吉岡町	0.8%	0.7%	0.3%	0.2%	0.8%
上野村	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
神流町	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
下仁田町	0.3%	0.4%	0.1%	0.1%	0.1%
南牧村	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
甘楽町	0.5%	0.3%	0.1%	0.1%	0.0%
中之条町	0.5%	0.6%	0.2%	0.1%	1.4%
長野原町	0.6%	0.3%	0.4%	0.2%	0.5%
嬭恋村	0.2%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
草津町	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
高山村	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
東吾妻町	0.8%	1.1%	1.0%	1.2%	0.6%
片品村	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
川場村	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
昭和村	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
みなかみ町	0.6%	0.4%	0.1%	0.2%	0.4%
玉村町	1.2%	1.4%	0.4%	0.2%	0.9%
板倉町	0.9%	0.4%	0.2%	0.2%	0.0%
明和町	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
千代田町	0.4%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
大泉町	1.4%	1.7%	0.3%	0.4%	0.4%
邑楽町	0.6%	0.8%	0.0%	0.0%	0.5%
県外	1.0%	1.6%	3.4%	2.8%	1.7%

※平成25年調査では問9-2と同様の質問項目なし

主に診察を受ける、あるいは受けたい医療機関の所在地は、軽い病気の場合、重い病気の場合、転院する場合ともに「前橋市」が最も多くなっており、次いで「高崎市」となっている。いずれの場合も、回答者の所在地と同じ市町村若しくは最寄りの市町村を選ぶ傾向がみられる。平成 25 年調査結果との比較では、軽い病気の場合と重い病気の場合でほぼ同様となっている。

◆地域別

軽い病気の場合、重い病気の場合、転院する場合ともに、いずれの地域も「前橋市」を選ぶ傾向がみられる。

◆市郡別

軽い病気の場合、重い病気の場合、転院する場合ともに、郡部より市部を選ぶ傾向がみられる。

◆性別

軽い病気の場合、重い病気の場合、転院する場合ともに、男性と女性で差異はほとんどみられない。

◆性・年代別

軽い病気の場合、重い病気の場合、転院する場合ともに、「前橋市」、「高崎市」は男性と女性とも高い年代ほど選ぶ傾向がみられる。

◆職業別

軽い病気の場合、重い病気の場合、転院する場合ともに、勤め人と無職者は「前橋市」、「高崎市」を選ぶ傾向がみられる。一方、農林漁業は「前橋市」、「高崎市」が少なくなっている。

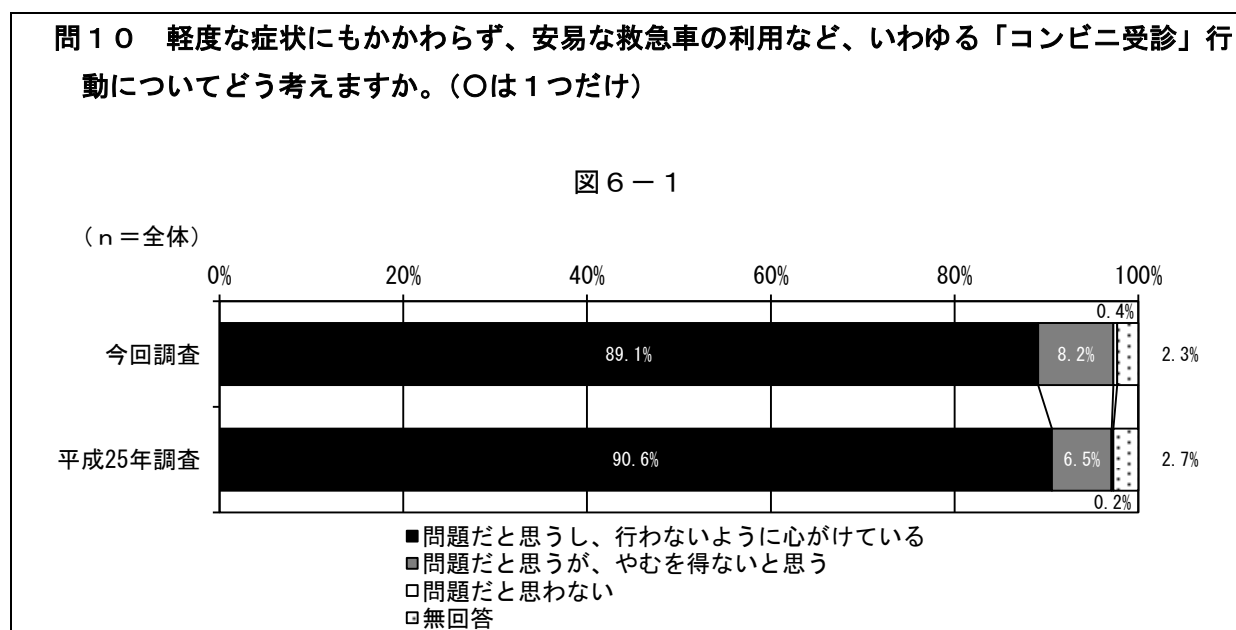
◆健康状態別

軽い病気の場合、重い病気の場合、転院する場合ともに、健康状態で大きな差異はみられないが、「前橋市」は健康状態がよいに比べ、健康状態がよくないの方が多くなっている。

6 救急医療への対応

(1) 「コンビニ受診」行動について

～「問題だと思うし、行わないように心がけている」89.1%が断然多い～



コンビニ受診については、「問題だと思うし、行わないように心がけている」が89.1%と多くなっている。また、「問題だと思うが、やむを得ないと思う」が8.2%、「問題だと思わない」は0.4%となっている。

平成25年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

いずれの地域も「問題だと思うし、行わないように心がけている」が最も多くなっており、その中でも高崎・安中保健医療圏（94.6%）、富岡保健医療圏（93.0%）は90.0%を超えている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

「問題だと思うが、やむを得ないと思う」は男性（5.8%）に比べ、女性（10.1%）の方がやや多くなっている。

◆性・年代別

「問題だと思うが、やむを得ないと思う」は男性と女性とも若い年代ほど多くなる傾向がみられる。その中でも、20代女性は23.5%と他の年代に比べ多くなっている。

◆職業別

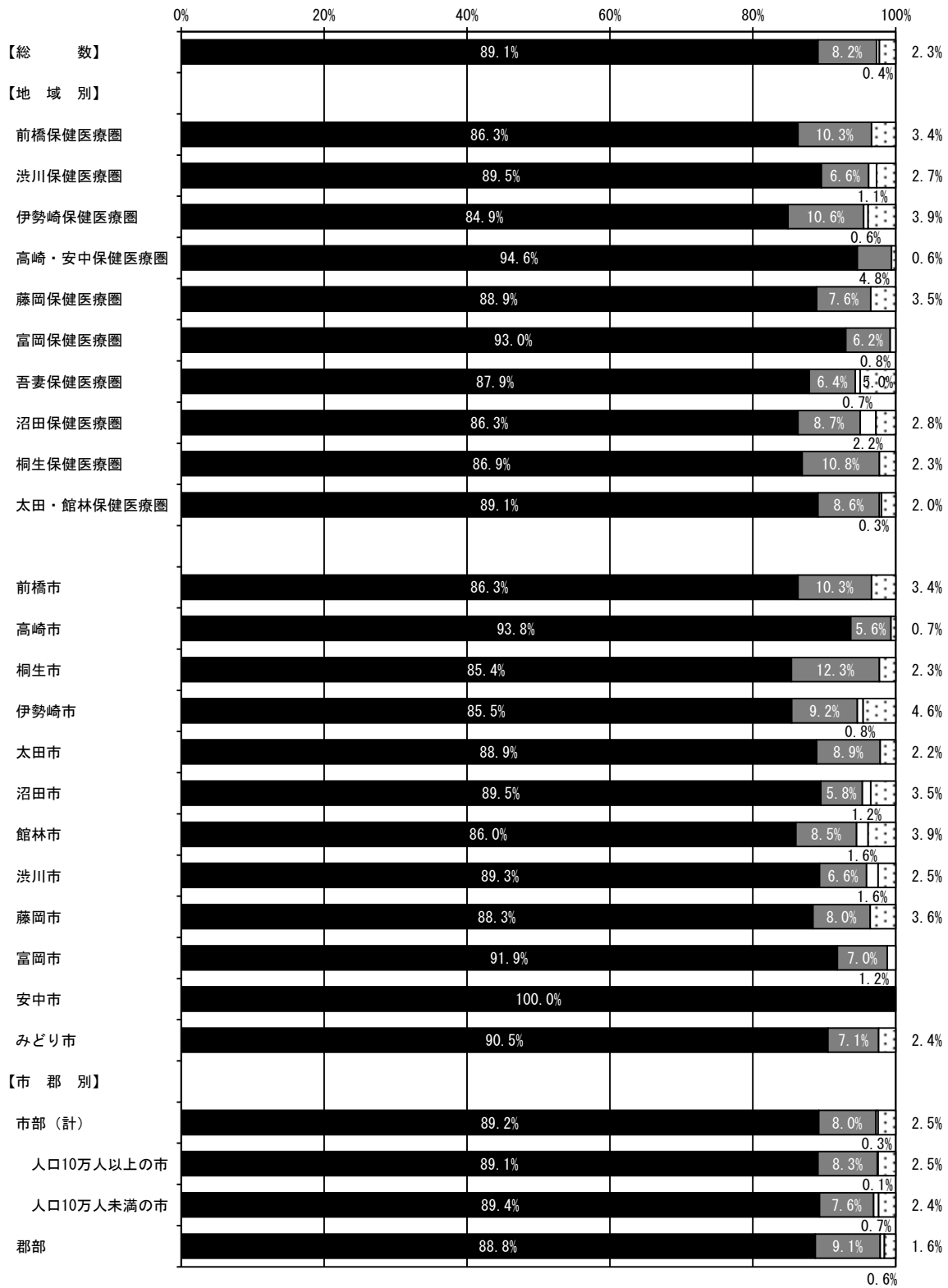
学生では「問題だと思うが、やむを得ないと思う」が18.2%と他の職業に比べ多くなっている。

◆健康状態別

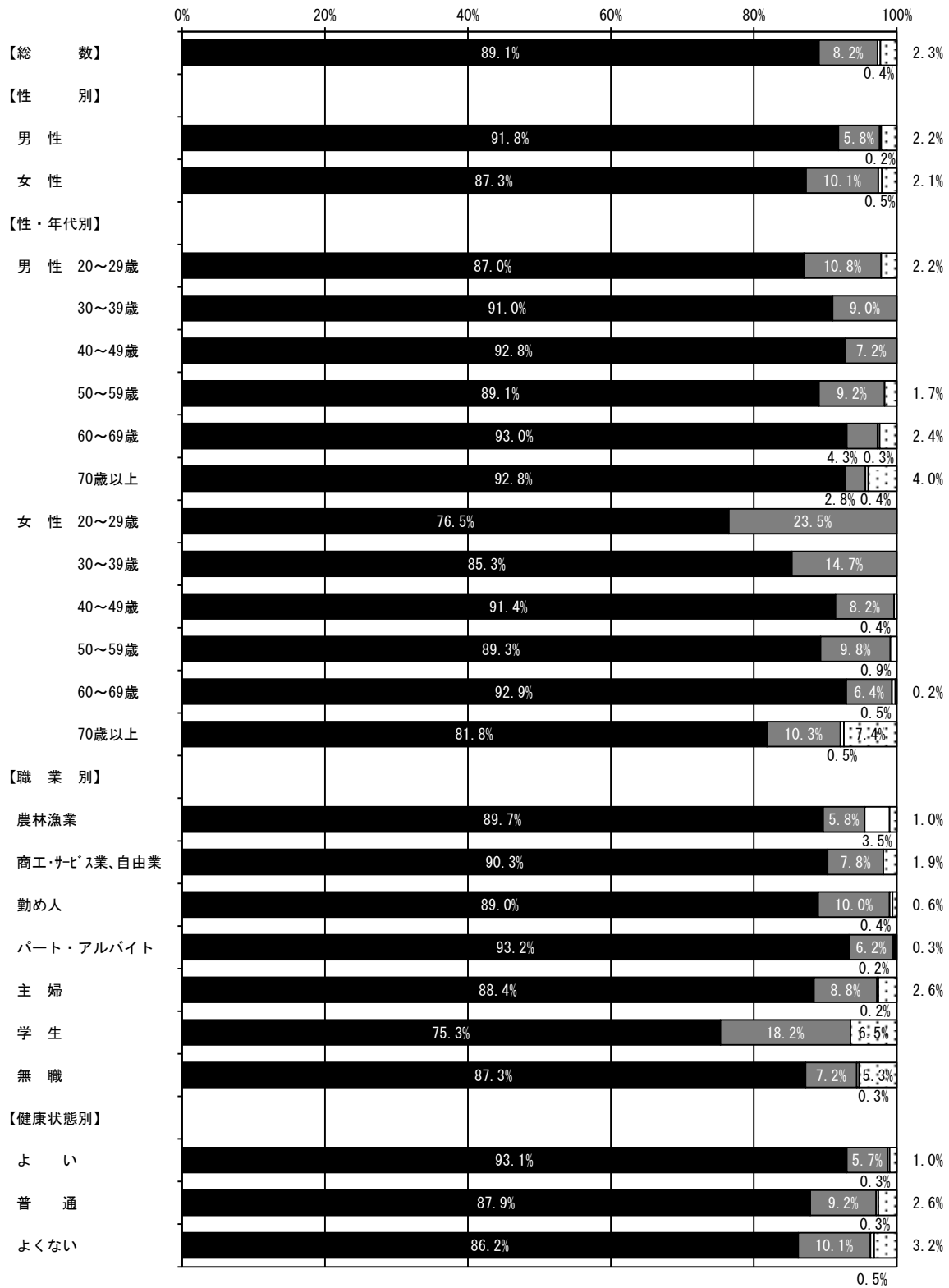
「問題だと思うが、やむを得ないと思う」は健康状態がよい（5.7%）に比べ、健康状態がよくない（10.1%）の方がやや多くなっている。

図 6-2 「コンビニ受診」行動

- 問題だと思うし、行わないように心がけている
- ▣問題だと思うが、やむを得ないと思う
- 問題だと思わない
- 無回答



- 問題だと思うし、行わないように心がけている
- ▣問題だと思うが、やむを得ないと思う
- 問題だと思わない
- 無回答

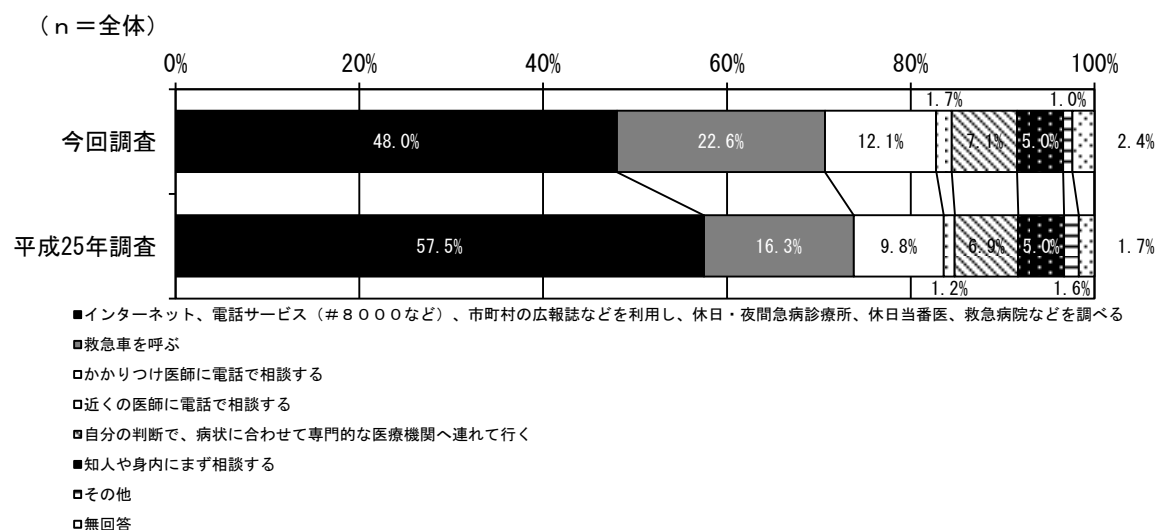


(2) 家族が夜間や休日に病気になった際の対応

～「インターネット、電話サービス（#8000など）、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」48.0%、「救急車を呼ぶ」22.6%～

問11 家族のだれかが夜間や休日に急病（生死に関わらないと判断できるもの）になり、医師にみてもらいたいとき、まず、一番初めにどうしますか。次の中からあてはまるものをあげてください。（〇は1つだけ）

図6-3



急病時、一番初めにすることについては、「インターネット、電話サービス（#8000など）、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」が48.0%と最も多くなっており、次いで「救急車を呼ぶ」が22.6%となっている。

平成25年調査結果との比較では、項目が一部変わっている（「インターネット」が「新聞」となっている）が、「インターネット、電話サービス（#8000など）、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」が少なくなり、「救急車を呼ぶ」が多くなっている。

◆地域別

沼田保健医療圏を除くと、いずれの地域も「インターネット、電話サービス（#8000など）、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」が最も多くなっている。一方、沼田保健医療圏では「救急車を呼ぶ」が28.6%となっており、「インターネット、電話サービス（#8000など）、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」（26.2%）よりも多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられないが、「インターネット、電話サービス（#8000など）、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」は郡部（43.0%）に比べ、市部（48.9%）の方が多くなっている。

◆性別

「インターネット、電話サービス（#8000など）、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」は男性（45.3%）に比べ、女性（52.0%）の方が多くなっている。一方、「救急車を呼ぶ」は女性（18.0%）に比べ、男性（26.4%）の方が多くなっている。

◆性・年代別

「インターネット、電話サービス（#8000など）、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」は男性と女性とも若い年代ほど多くなる傾向がみられる。一方、「救急車を呼ぶ」は高い年代ほど多くなる傾向がみられる。

◆職業別

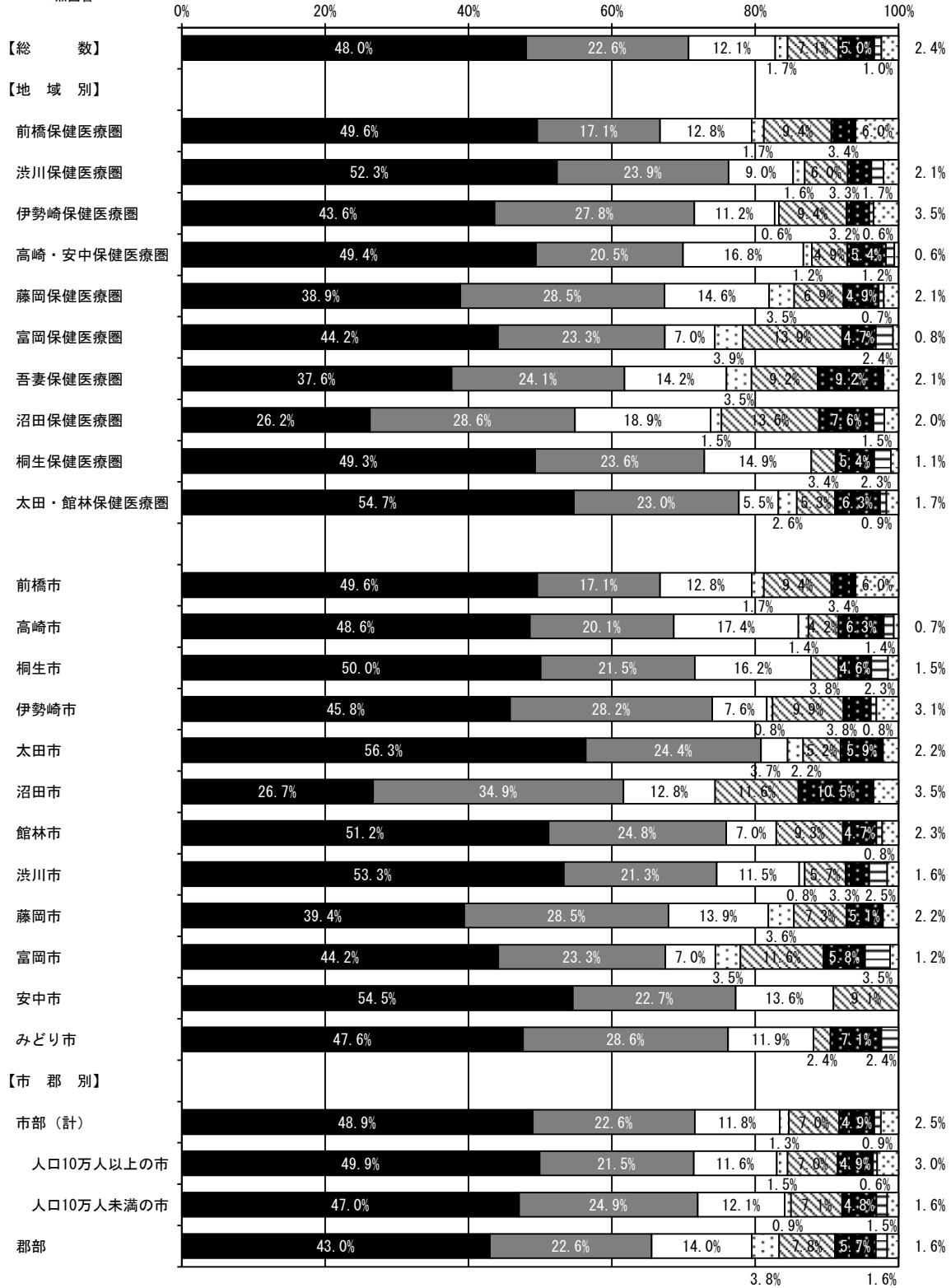
「インターネット、電話サービス（#8000など）、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」は勤め人、パート・アルバイト、主婦、学生が50.0%を超えており、その中でも勤め人が65.2%と最も多くなっている。農林漁業と無職者は「インターネット、電話サービス（#8000など）、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」に比べ、「救急車を呼ぶ」が多くなっている。

◆健康状態別

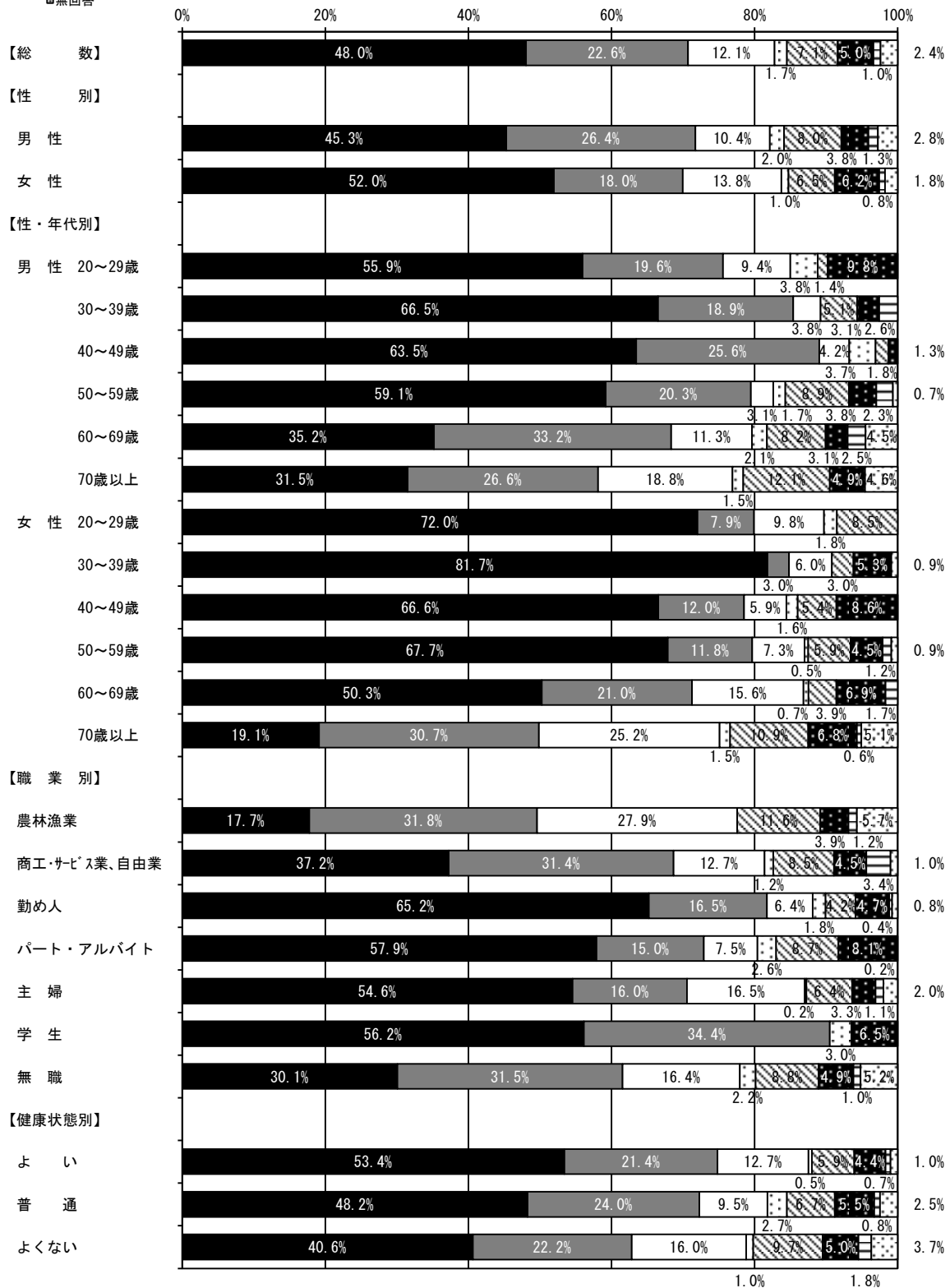
「インターネット、電話サービス（#8000など）、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる」は健康状態がよくない（40.6%）に比べ、健康状態がよい（53.4%）の方が多くなっている。

図 6-4 家族が夜間や休日に病気になった際の対応

- インターネット、電話サービス（#8000など）、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる
- 救急車を呼ぶ
- かかりつけ医師に電話で相談する
- 近くの医師に電話で相談する
- 自分の判断で、病状に合わせて専門的な医療機関へ連れて行く
- 知人や身内にまず相談する
- その他
- 無回答



- インターネット、電話サービス（#8000など）、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる
- 救急車を呼ぶ
- かかりつけ医師に電話で相談する
- 近くの医師に電話で相談する
- 自分の判断で、病状に合わせて専門的な医療機関へ連れて行く
- 知人や身内にまず相談する
- その他
- 無回答



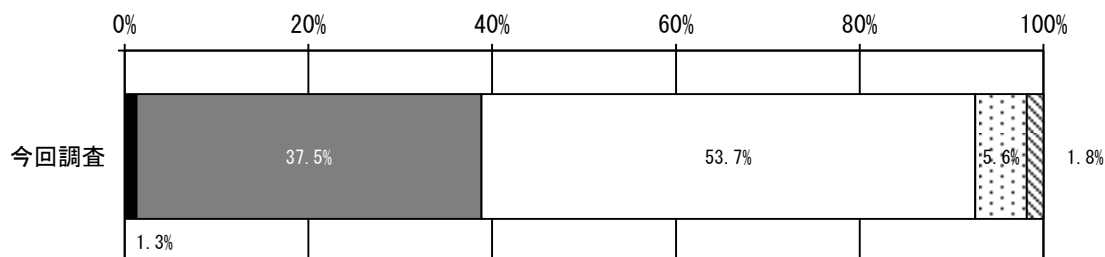
(3) AED の認知度

～<AED を見聞きしたり、使ったことがある>人は 92.5%と断然多い～

問 1 2 心臓が止まった人に電気ショックを与えて心臓を動かす「AED (自動体外式除細動器)」という機器について見聞きしたり、使ったことがありますか。(○は1つだけ)

図 6 - 5

(n = 全体)



- 実際に倒れた人に使ったことがある
- ▣ 実際に使ったことはないが、応急手当の講習等で AED の使用方法について受講したことがある
- 見たり聞いたりしたことがある
- 見聞きしたことがない
- 無回答

※平成 25 年調査では問 1 2 と同様の質問項目なし

AED の認知度については、「見たり聞いたりしたことがある」が 53.7%と最も多くなっており、これに「実際に使ったことはないが、応急手当の講習等で AED の使用方法について受講したことがある」(37.5%)と「実際に倒れた人に使ったことがある」(1.3%)を合わせた<AED を見聞きしたり、使ったことがある>は 92.5%と多くなっている。

◆地域別

いずれの地域も「見たり聞いたりしたことがある」が最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられないが、「実際に使ったことはないが、応急手当の講習等で AED の使用方法について受講したことがある」は市部 (36.7%) に比べ、郡部 (42.0%) がやや多くなっている。

◆性別

男性と女性で差異はほとんどみられない。

◆性・年代別

「実際に使ったことはないが、応急手当の講習等で AED の使用方法について受講したことがある」は、男性と女性とも若い年代ほど多くなる傾向がみられ、その中でも 20 代女性が 90.6%、30 代女性が 69.6%と他の性別・年代と比べ多くなっている。また、女性では「見たり聞いたりしたことがある」が高い年代ほど多くなる傾向があり、「実際に使ったことはないが、応急手当の講習等で AED の使用方法について受講したことがある」と比較すると年代により傾向が強くみられる。

◆職業別

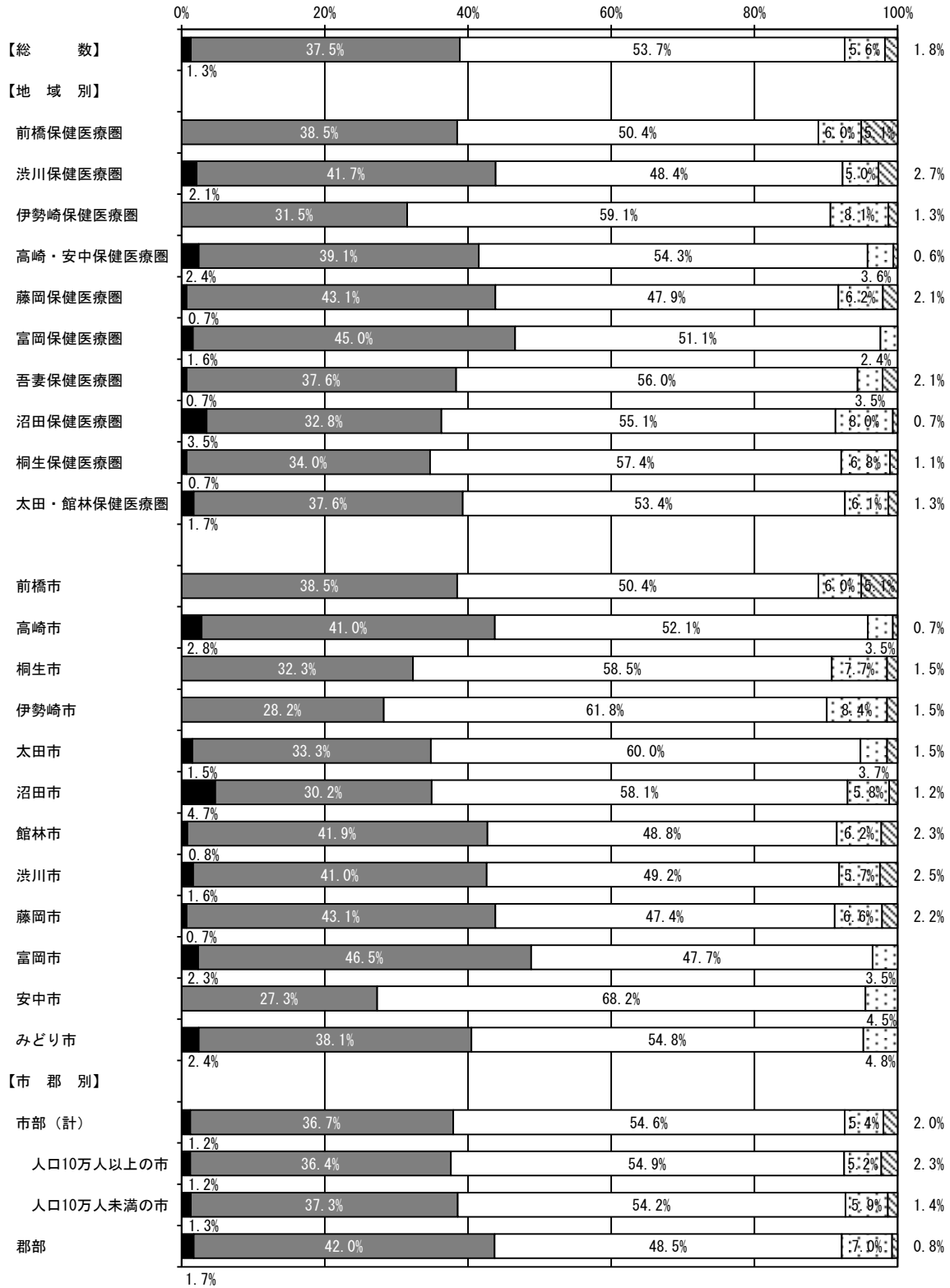
「実際に使ったことはないが、応急手当の講習等で AED の使用方法について受講したことがある」は学生が 91.4%と他の年代に比べ多くなっている。

◆健康状態別

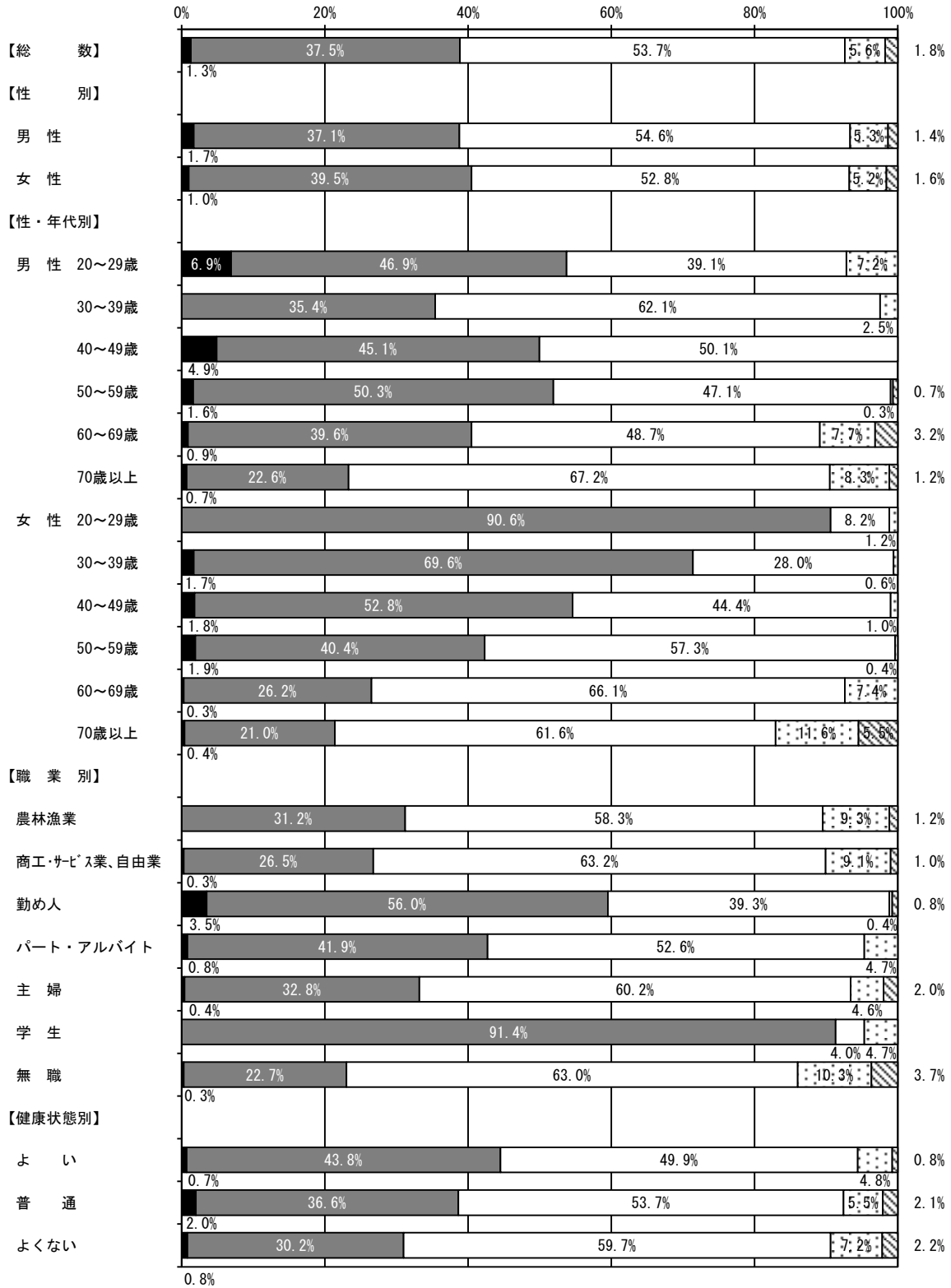
「実際に使ったことはないが、応急手当の講習等で AED の使用方法について受講したことがある」は健康状態がよくない (30.2%) に比べ、健康状態がよい (43.8%) の方が多くなっている。

図 6-6 AED の認知度

- 実際に倒れた人に使ったことがある
- 実際に使ったことはないが、応急手当の講習等でAED の使用方法について受講したことがある
- 見たり聞いたりしたことがある
- 見聞きしたことがない
- 無回答



- 実際に倒れた人に使ったことがある
- 実際に使ったことはないが、応急手当の講習等でAEDの使用方法について受講したことがある
- 見たり聞いたりしたことがある
- 見聞きしたことがない
- 無回答



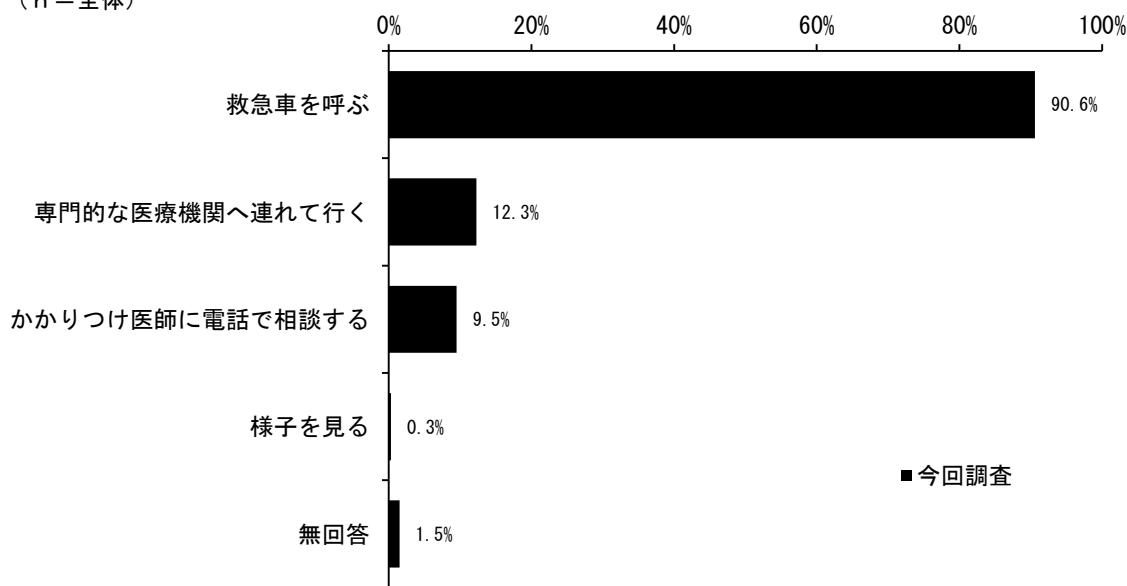
(4) 家族に脳梗塞疑いの症状が現れた場合の対応

～「救急車を呼ぶ」90.6%が断然多い～

問13 脳梗塞は、発症してから4時間30分以内に治療を開始することが効果的といわれていますが、家族のだれかに脳梗塞疑いの症状（意識を失っていびきをかいている、顔や腕の麻痺、ろれつが回らないなど）が現れた場合、どうしますか。次の中からあてはまるものをあげてください。（〇はあてはまるものすべて）

図6-7

(n=全体)



※平成25年調査では問13と同様の質問項目なし

脳梗塞疑いの症状が現れた場合の対応としては、「救急車を呼ぶ」が90.6%と最も多くなっており、他の項目と比べ大きく差がある。

◆地域別

いずれの地域も「救急車を呼ぶ」が最も多くなっており、地域で差異はほとんどみられない。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

男性と女性で差異はほとんどみられない。

◆性・年代別

20代女性は「救急車を呼ぶ」が70.3%、「専門的な医療機関へ連れて行く」が26.0%となっており、他の性別・年代と比べ差異がみられる。

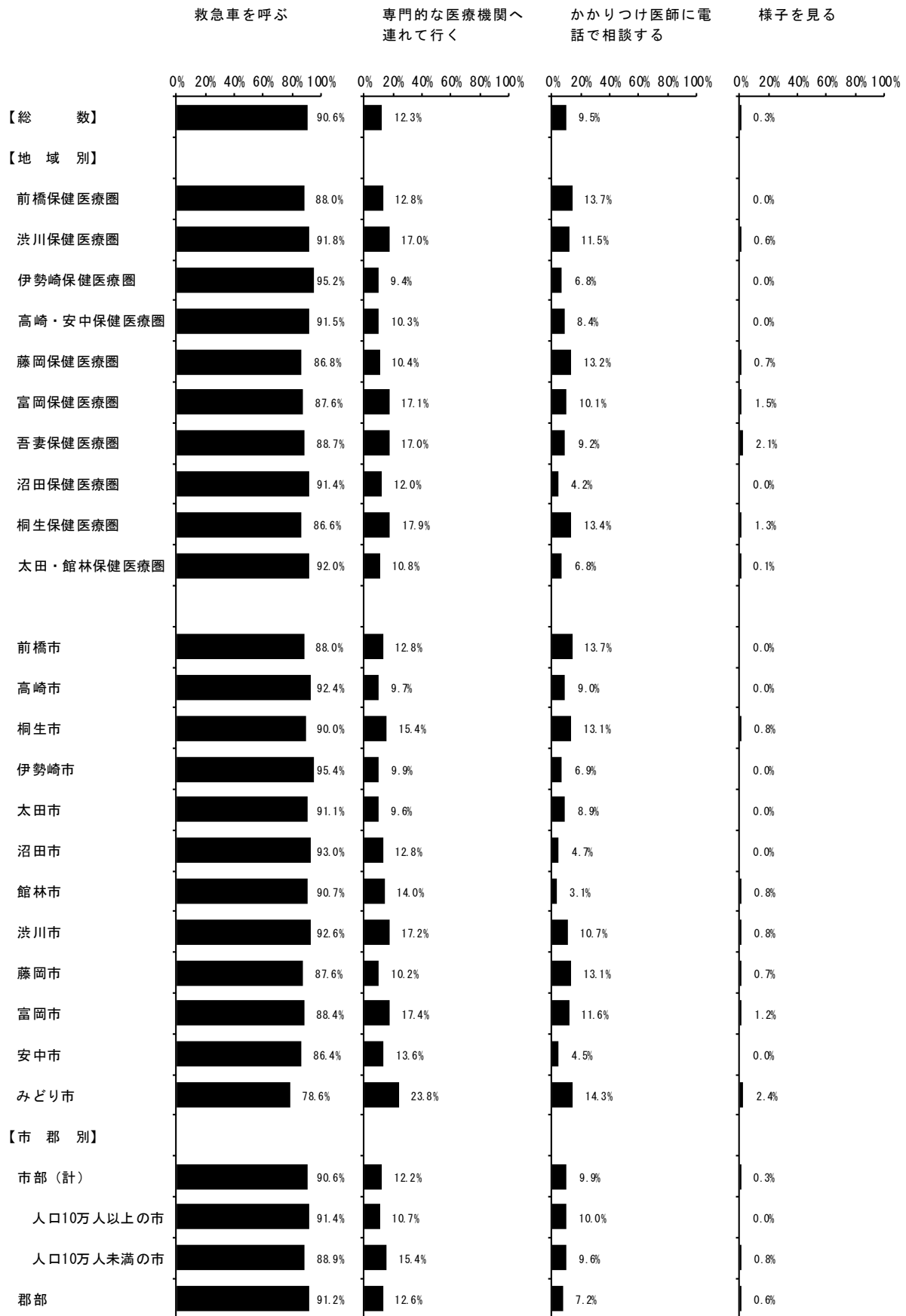
◆職業別

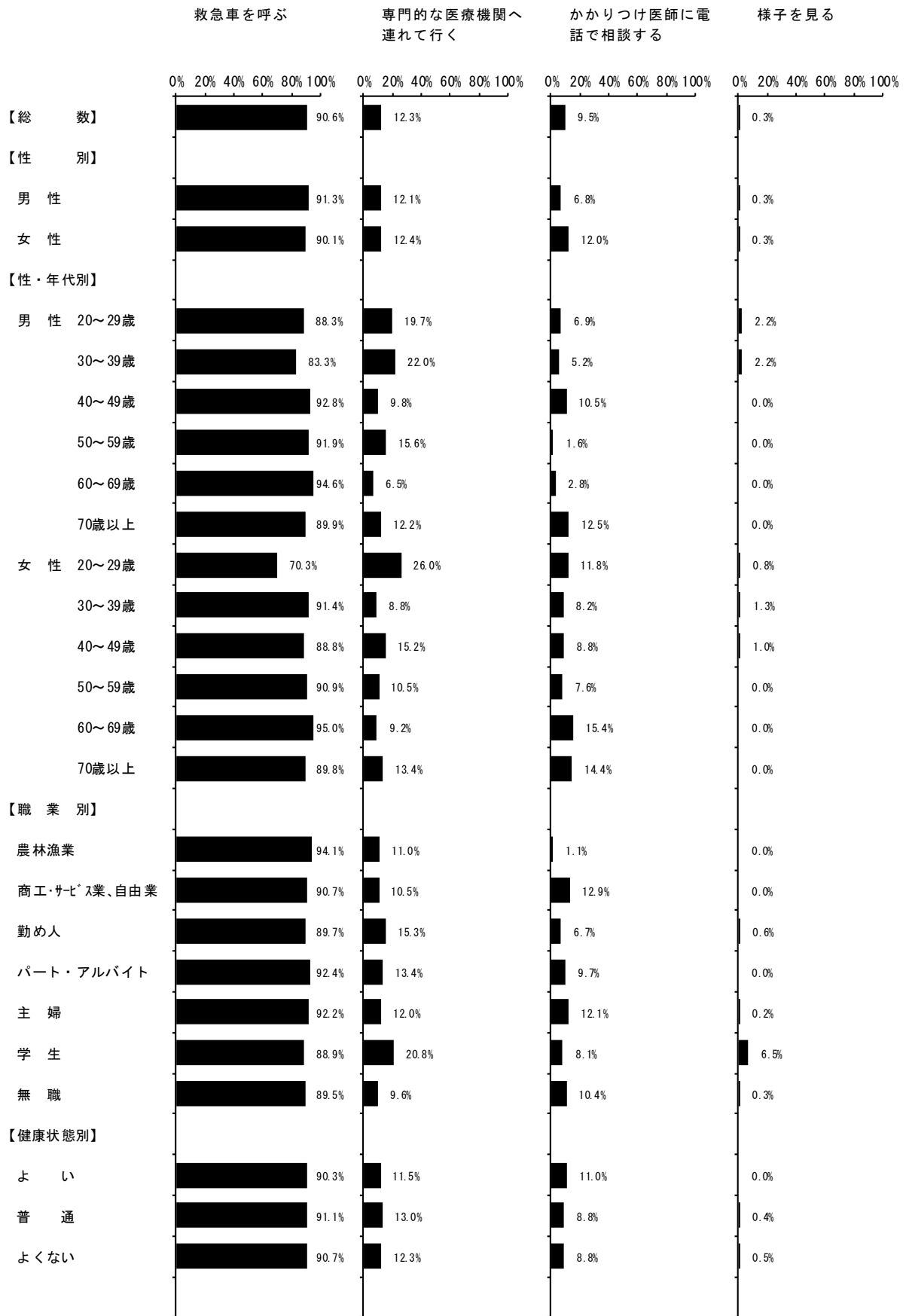
学生では「専門的な医療機関へ連れて行く」が20.8%となっており、他の職業と比べ多くなっている。

◆健康状態別

健康状態で差異はほとんどみられない。

図6-8 家族に脳梗塞疑いの症状が現れた場合の対応

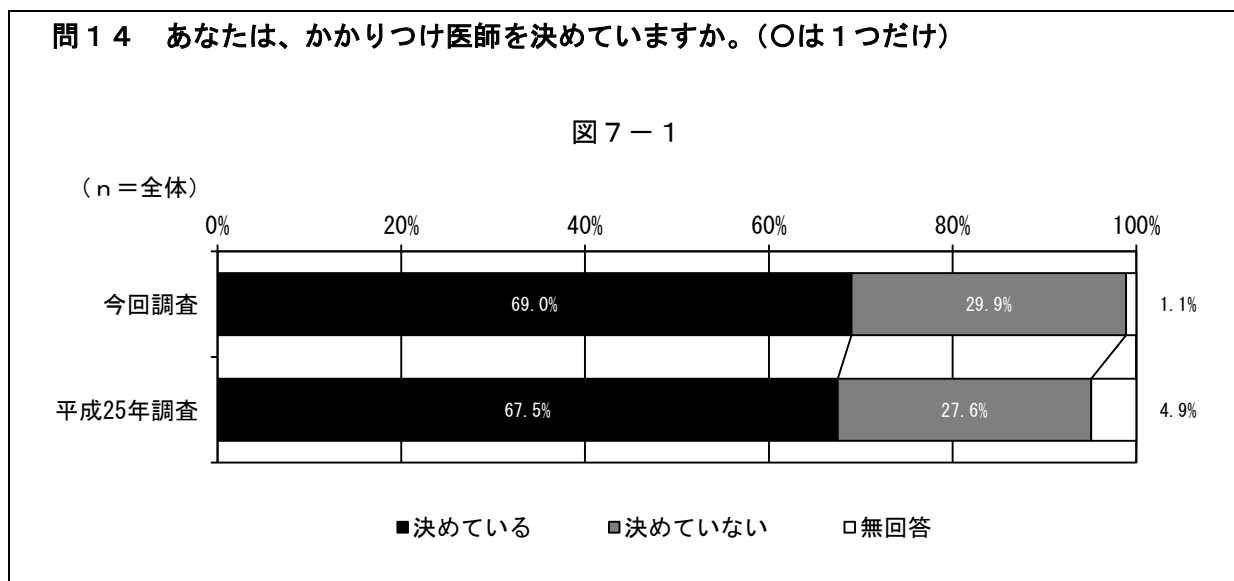




7 かかりつけ医

(1) かかりつけ医の有無

～「決めている」69.0%が多数～



かかりつけ医師については、「決めている」が69.0%で半数以上を占めている。一方、「決めていない」は29.9%となっている。

平成25年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

いずれの地域も「決めている」が60.0%を超えている。その中でも桐生保健医療圏が73.1%と最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

男性と女性で差異はほとんどみられない。

◆性・年代別

「決めている」は男性と女性とも高い年代ほど多くなる傾向がみられる。一方、「決めていない」は20代男性が62.9%、20代女性が58.4%となっており、20代は「決めていない」が半数以上を占めている。

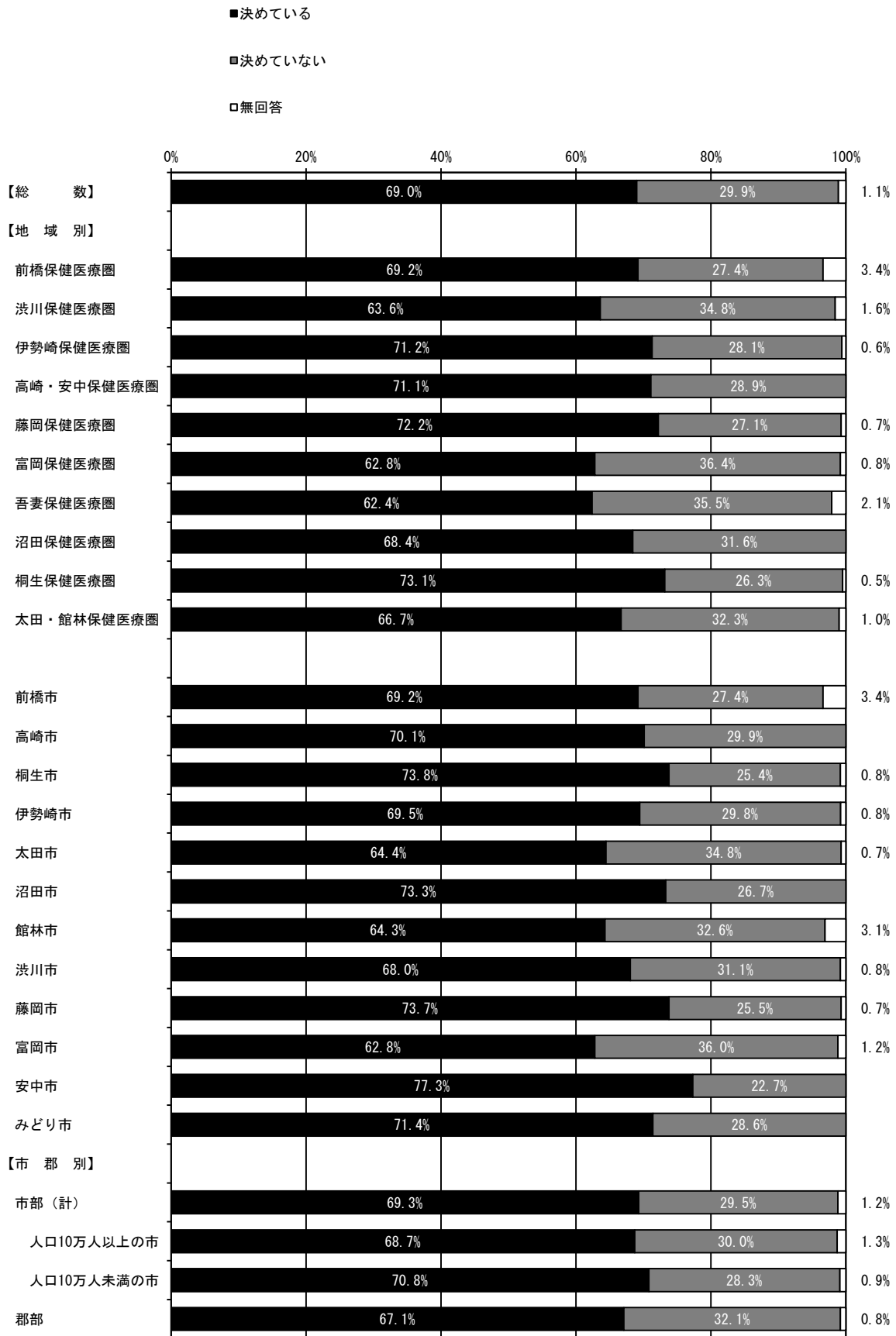
◆職業別

いずれの職業も「決めている」が半数以上を占めている。その中でも農林漁業が86.4%と最も多く、勤め人が55.3%と最も少なくなっている。

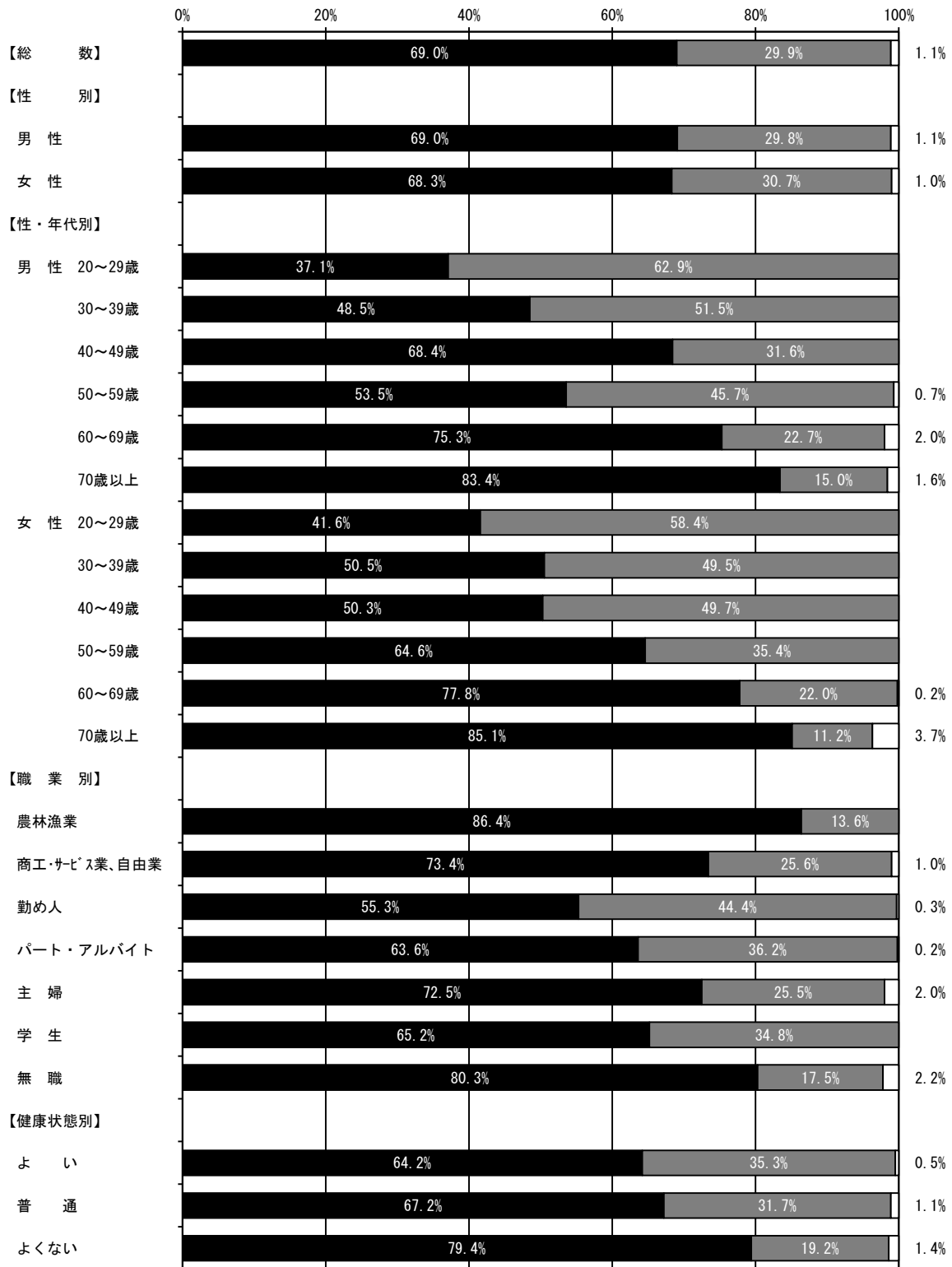
◆健康状態別

「決めている」は健康状態がよい(64.2%)に比べ、健康状態がよくない(79.4%)の方が多くなっている。

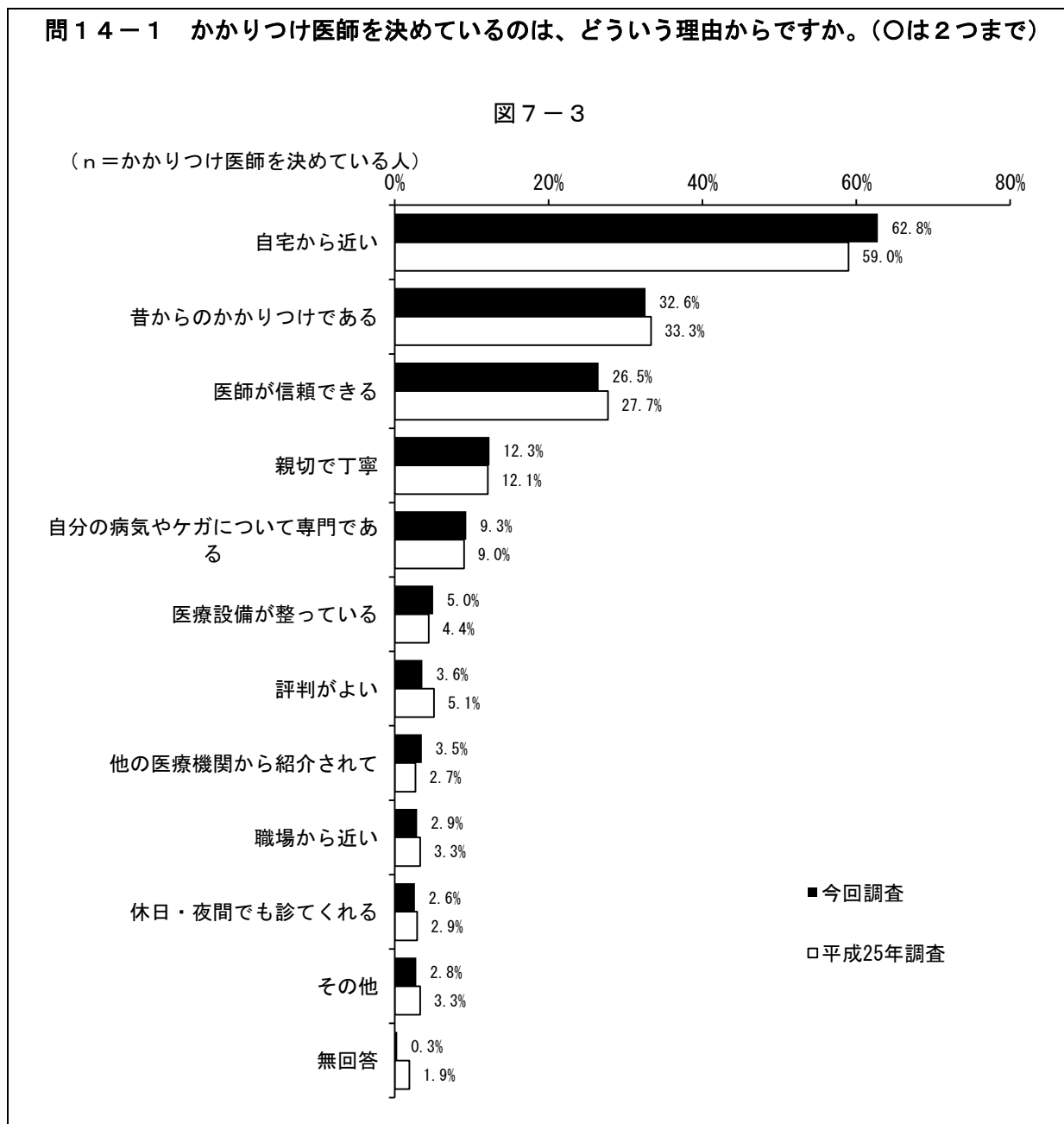
図 7-2 かかりつけ医の有無



■決めている
 ■決めていない
 □無回答



(2) かかりつけ医を決めている理由
 ～「自宅から近い」62.8%が最も多い～



かかりつけ医を決めている人に、具体的な理由を聞いたところ、「自宅から近い」が62.8%と最も多く、次いで「昔からのかかりつけである」が32.6%、「医師が信頼できる」が26.5%となっている。

平成25年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

いずれの地域も「自宅から近い」が最も多くなっており、その中でも高崎・安中保健医療圏(72.0%)、太田・館林保健医療圏(71.0%)は70.0%を超えている。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられないが、「昔からのかかりつけである」は市部（31.7%）に比べ、郡部（38.2%）の方が多くなっている。一方、「医師が信頼できる」は郡部（20.6%）に比べ、市部（27.5%）の方が多くなっている。

◆性別

男性と女性とも「自宅から近い」が最も多くなっている。また、「医師が信頼できる」は女性（22.9%）に比べ、男性（30.2%）の方が多くなっている。

◆性・年代別

いずれの年代も「自宅から近い」が最も多くなっている。その中でも、20代男性は85.3%と最も多くなっている。

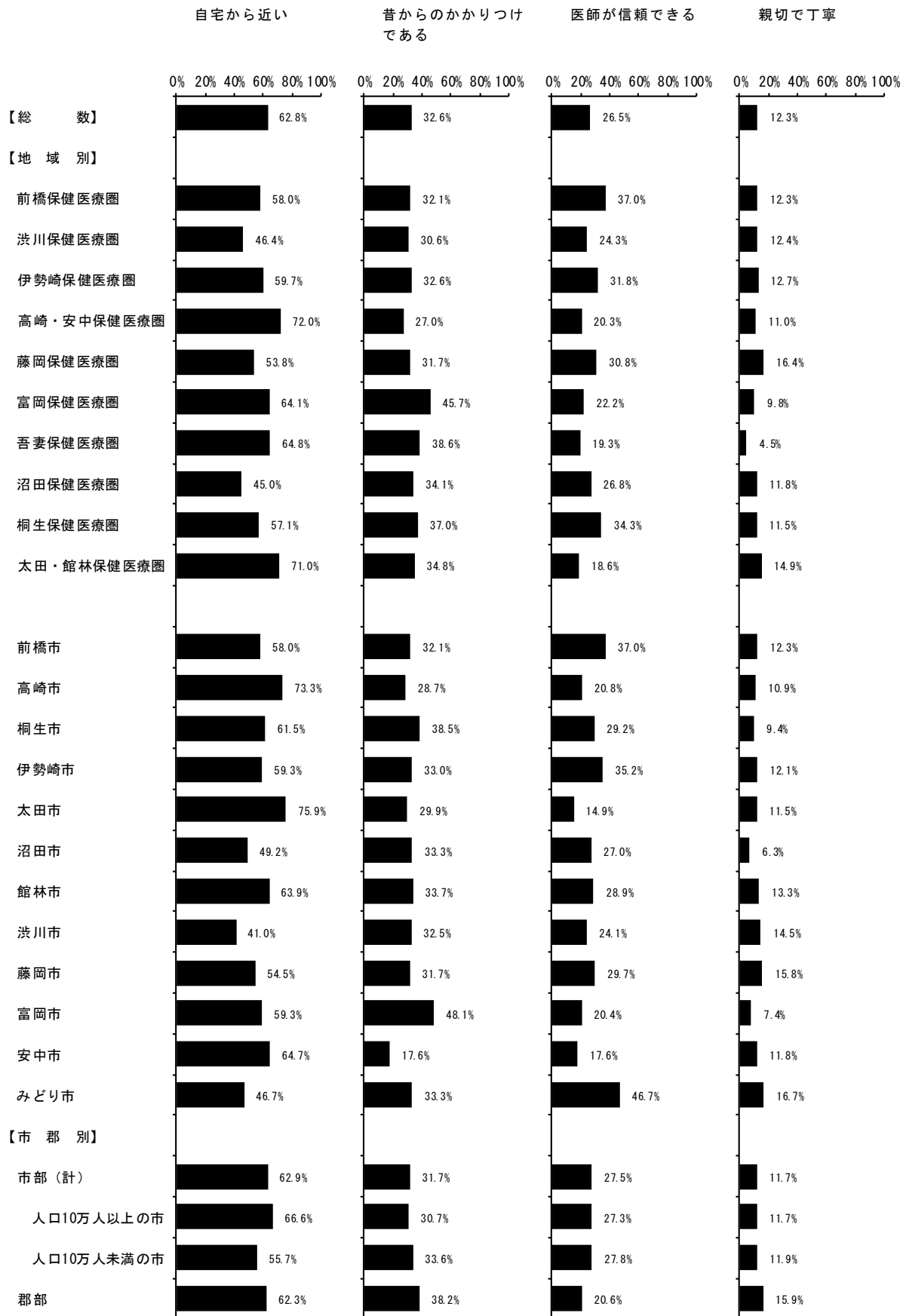
◆職業別

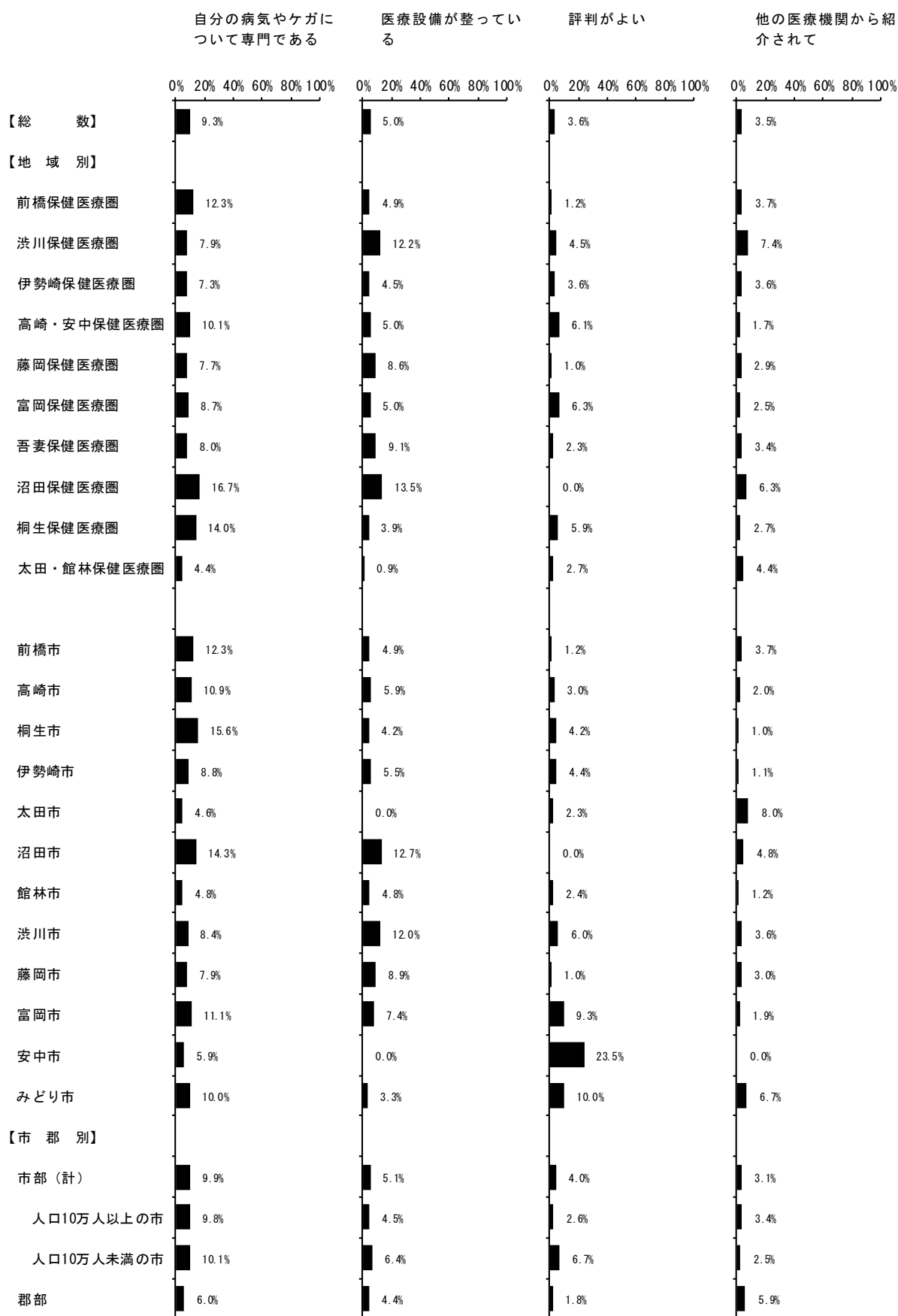
いずれの職業も「自宅から近い」が最も多くなっている。その中でも、学生は82.6%と最も多くなっている。

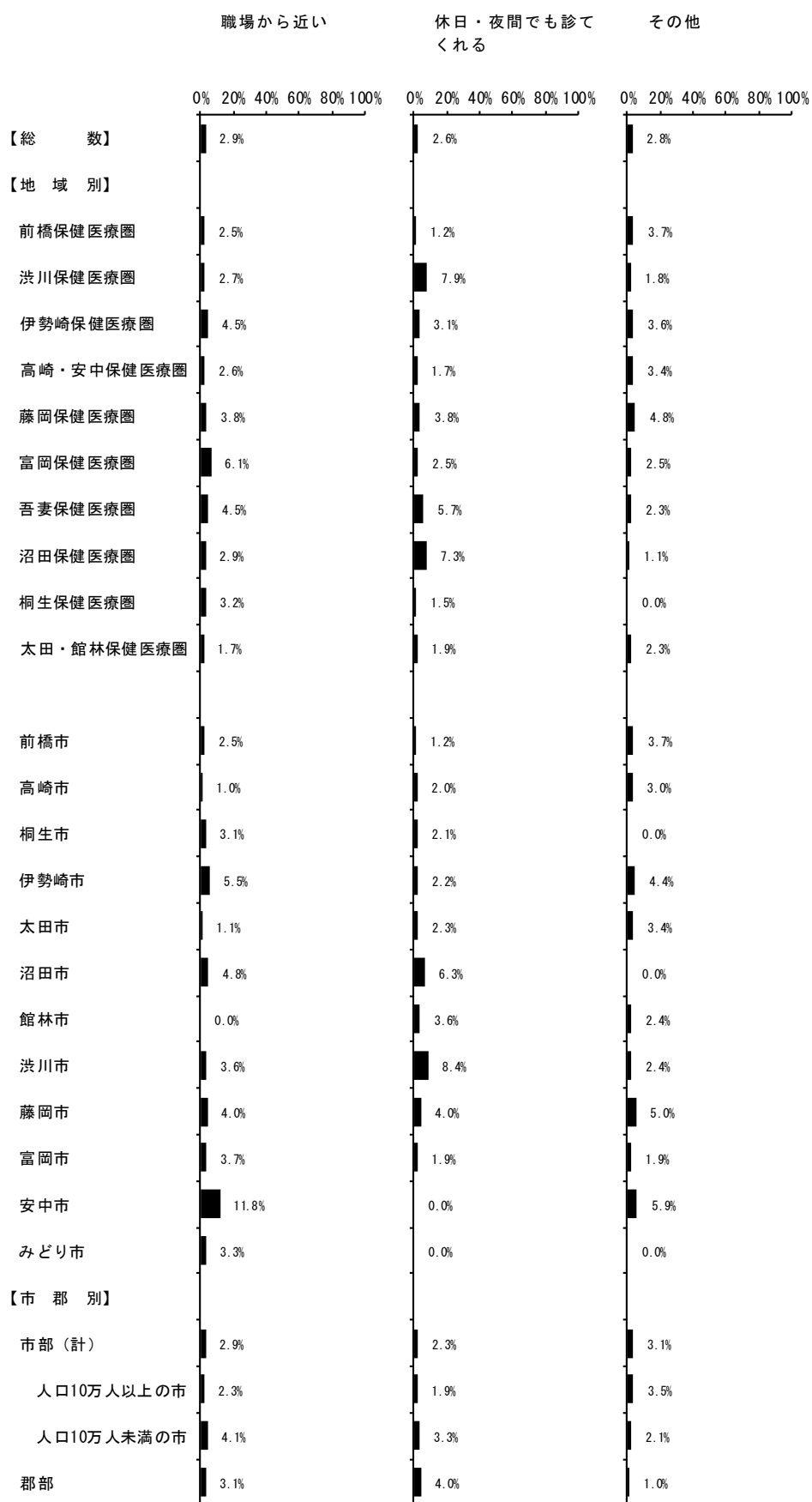
◆健康状態別

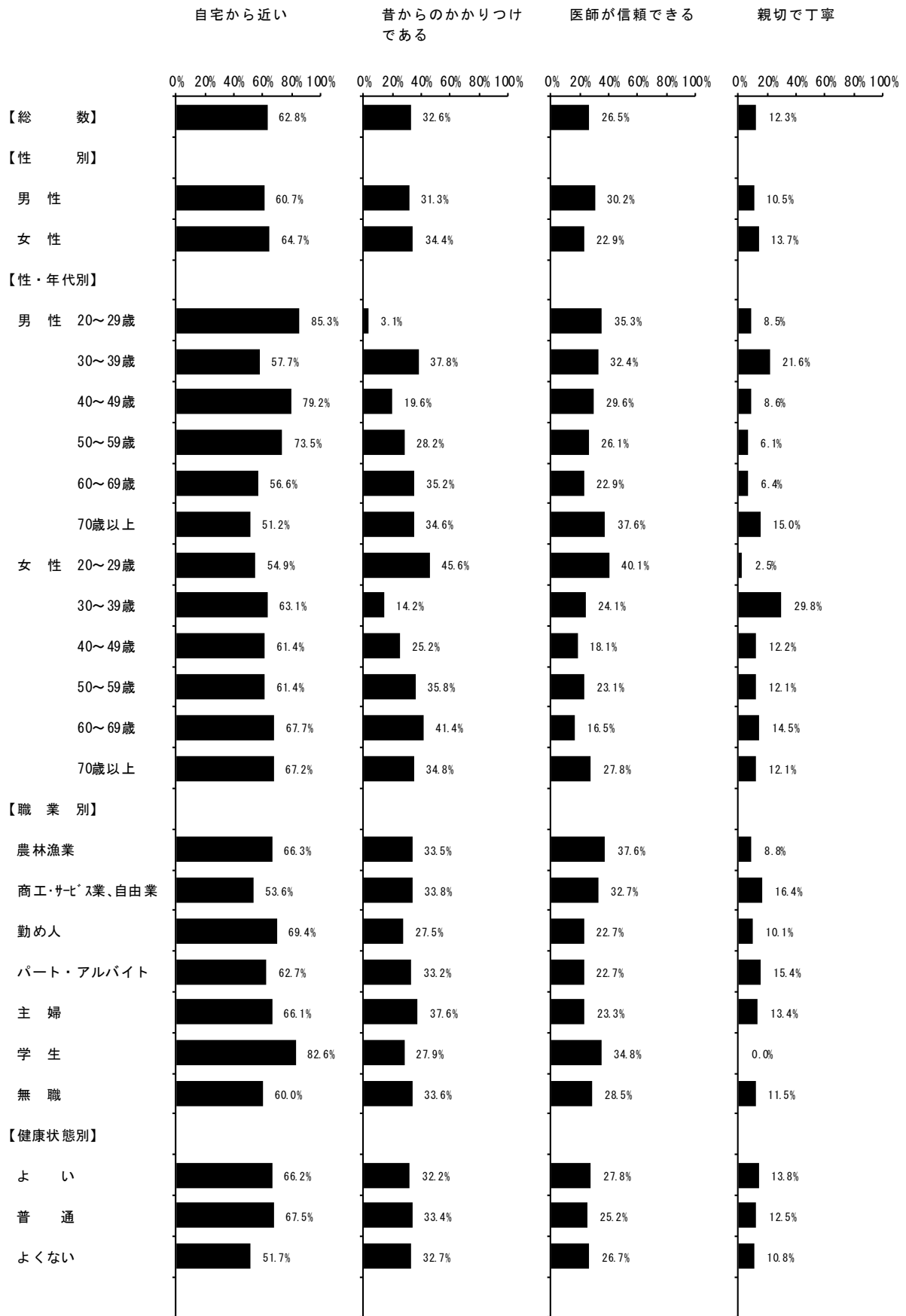
「自宅から近い」は健康状態がよくない（51.7%）に比べ、健康状態がよい（66.2%）の方が多くなっている。

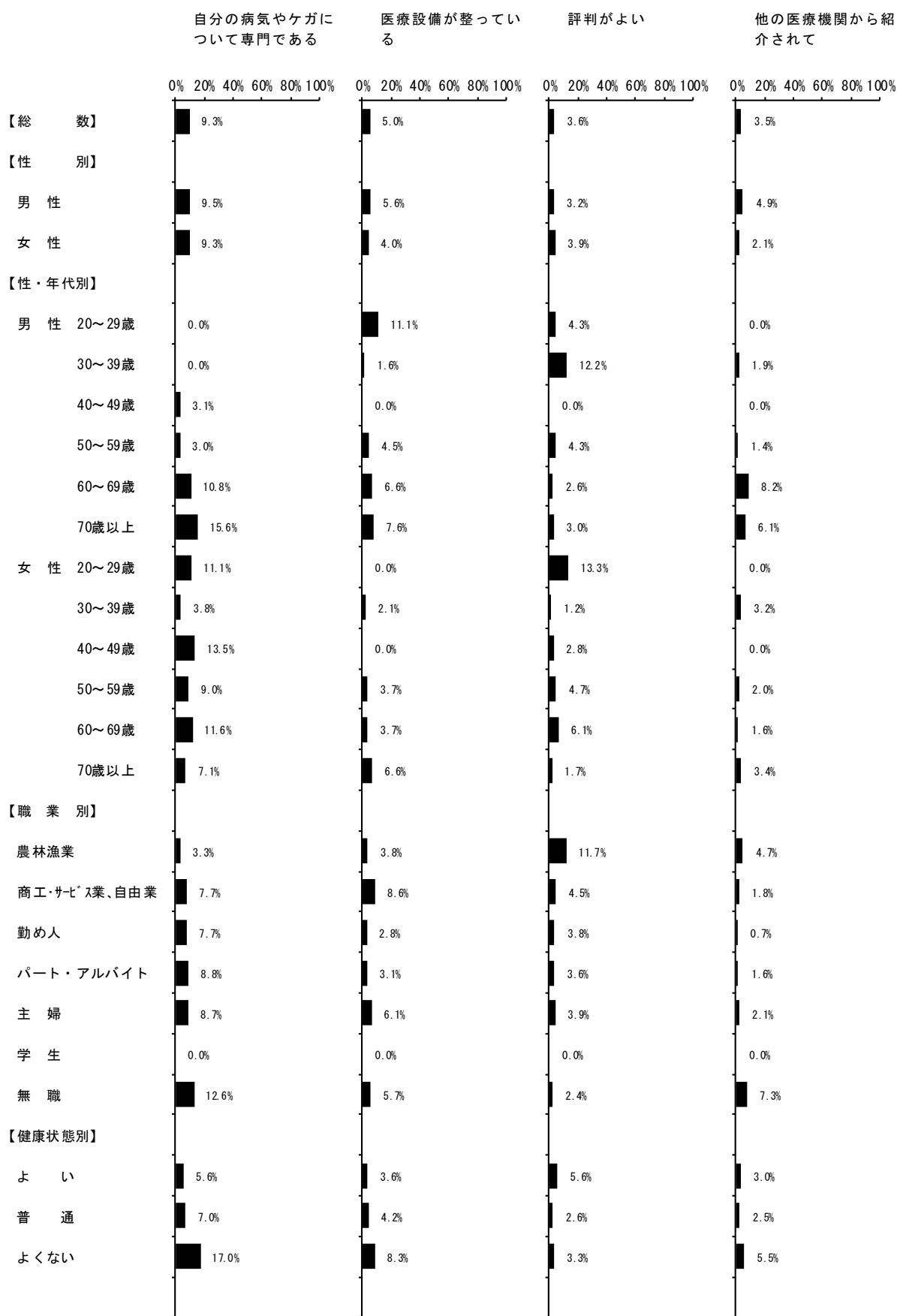
図7-4 かかりつけ医を決めている理由

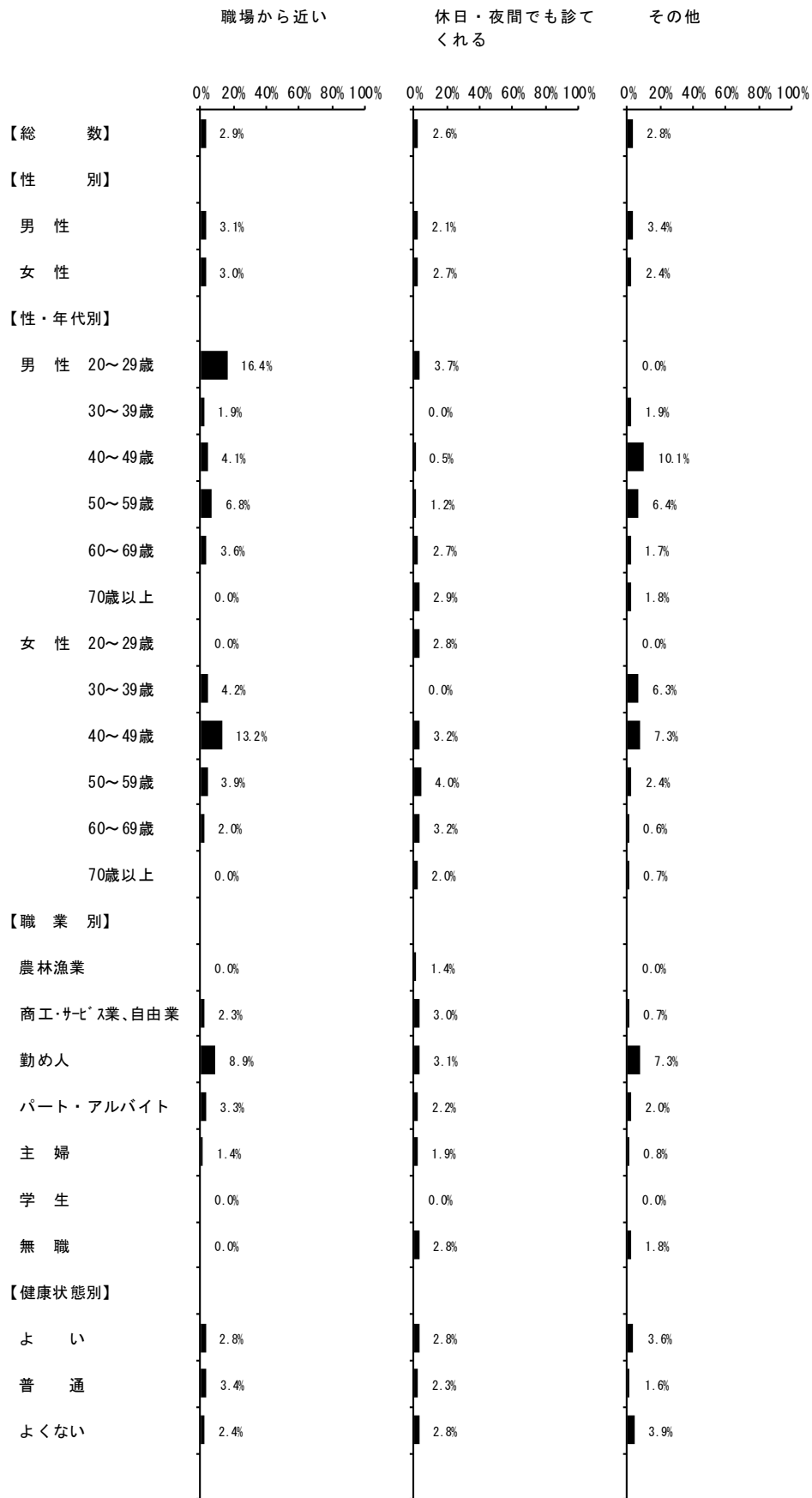






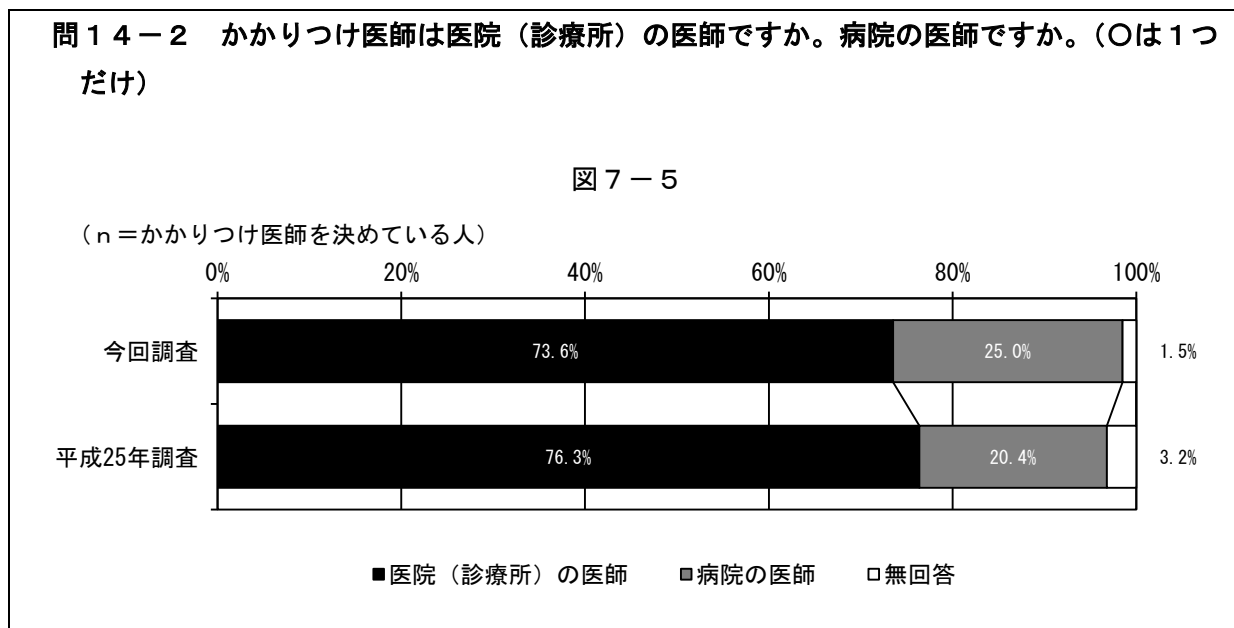






(3) かかりつけ医の種類

～「医院（診療所）の医師」73.6%が多数～



かかりつけ医師については、「医院（診療所）の医師」が73.6%と半数以上を占めている。一方、「病院の医師」は25.0%となっている。

平成25年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

いずれの地域も「医院（診療所）の医師」が半数以上を占めている。その中でも太田・館林保健医療圏（82.2%）、伊勢崎保健医療圏（80.1%）は80.0%を超えている。一方、沼田保健医療圏は51.8%と他の地域に比べ少なくなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられないが、「医院（診療所）の医師」は人口10万人未満の市（64.1%）に比べ、人口10万人以上の市（78.1%）の方が多くなっており、人口規模により差異がみられる。

◆性別

男性と女性で差異はほとんどみられない。

◆性・年代別

いずれの年代も「医院（診療所）の医師」が半数以上を占めている。

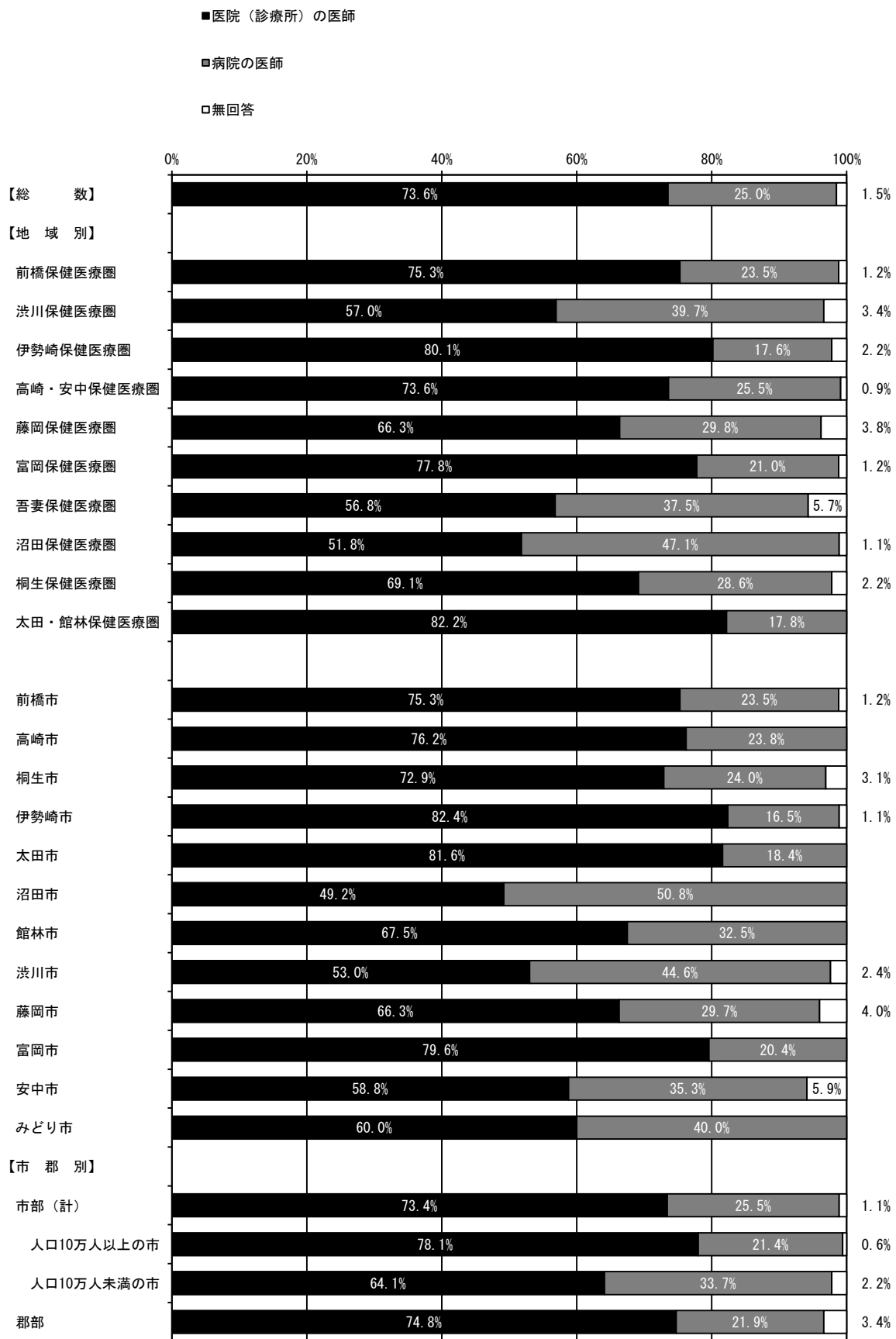
◆職業別

いずれの職業も「医院（診療所）の医師」が半数以上を占めている。

◆健康状態別

「医院（診療所）の医師」は健康状態がよくない（58.5%）に比べ、健康状態がよい（76.9%）の方が多くなっている。

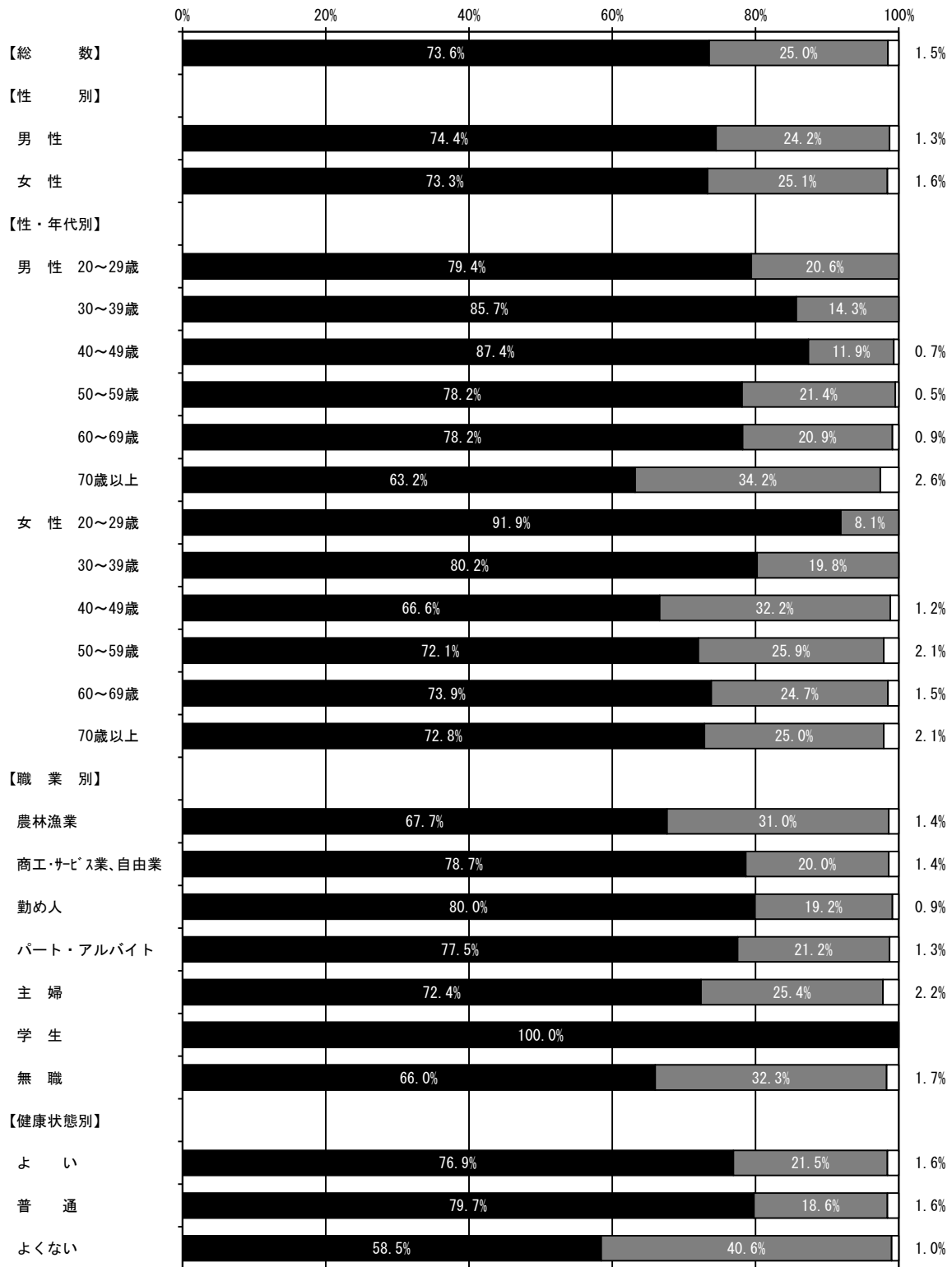
図 7-6 かかりつけ医の種類



■ 医院（診療所）の医師

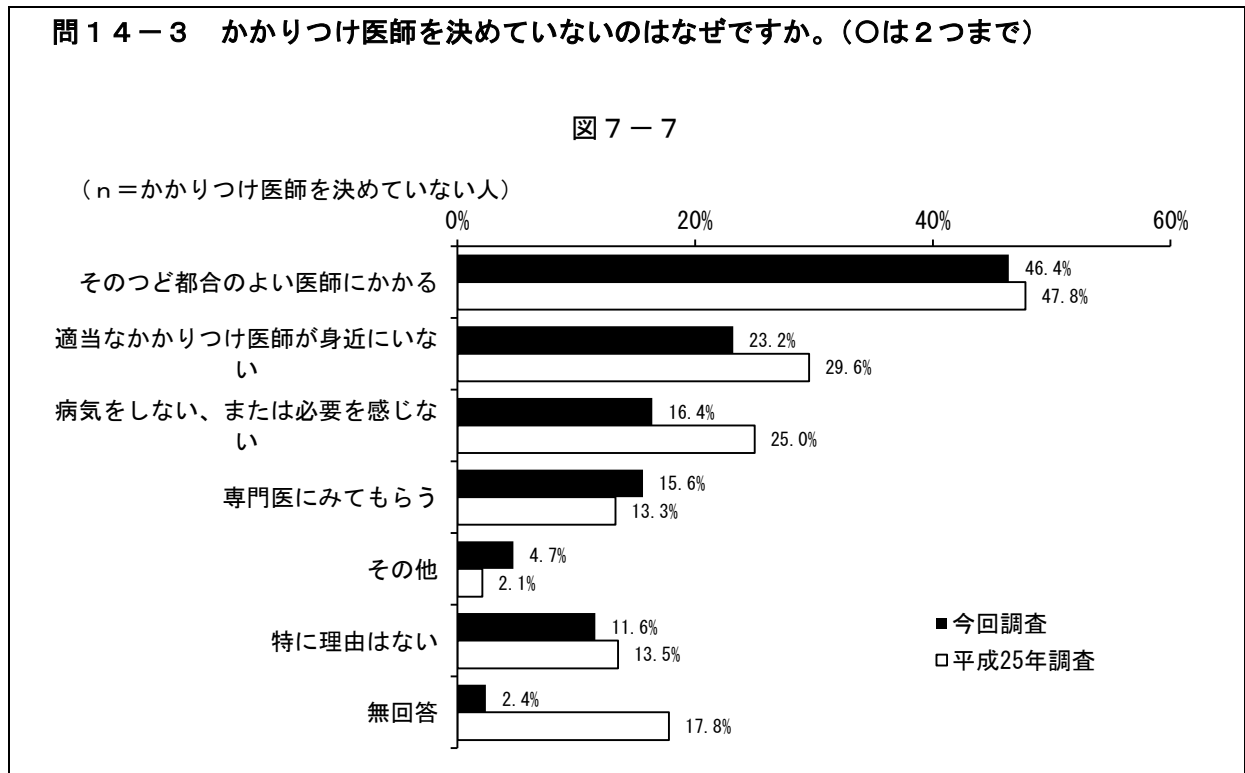
□ 病院の医師

○ 無回答



(4) かかりつけ医を決めていない理由

～「そのつど都合のよい医師にかかる」46.4%が最も多い～



かかりつけ医を決めない理由については、「そのつど都合のよい医師にかかる」が46.4%と最も多く、次いで「適当なかかりつけ医師が身近にいない」が23.2%となっている。

平成25年調査結果との比較では、傾向は変わらないが、「適当なかかりつけ医師が身近にいない」、「病気をしない、または必要を感じない」が少なくなっている。

◆地域別

前橋保健医療圏を除くと、いずれの地域も「そのつど都合のよい医師にかかる」が最も多くなっている。前橋保健医療圏は「適当なかかりつけ医師が身近にいない」が43.8%となっており、他の地域に比べ多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

男性と女性とも「そのつど都合のよい医師にかかる」が最も多くなっている。「適当なかかりつけ医師が身近にいない」は男性(17.4%)に比べ、女性(29.4%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

いずれの性別・年代も「そのつど都合のよい医師にかかる」が最も多くなっており、男性では若い年代ほど多くなる傾向がみられる。

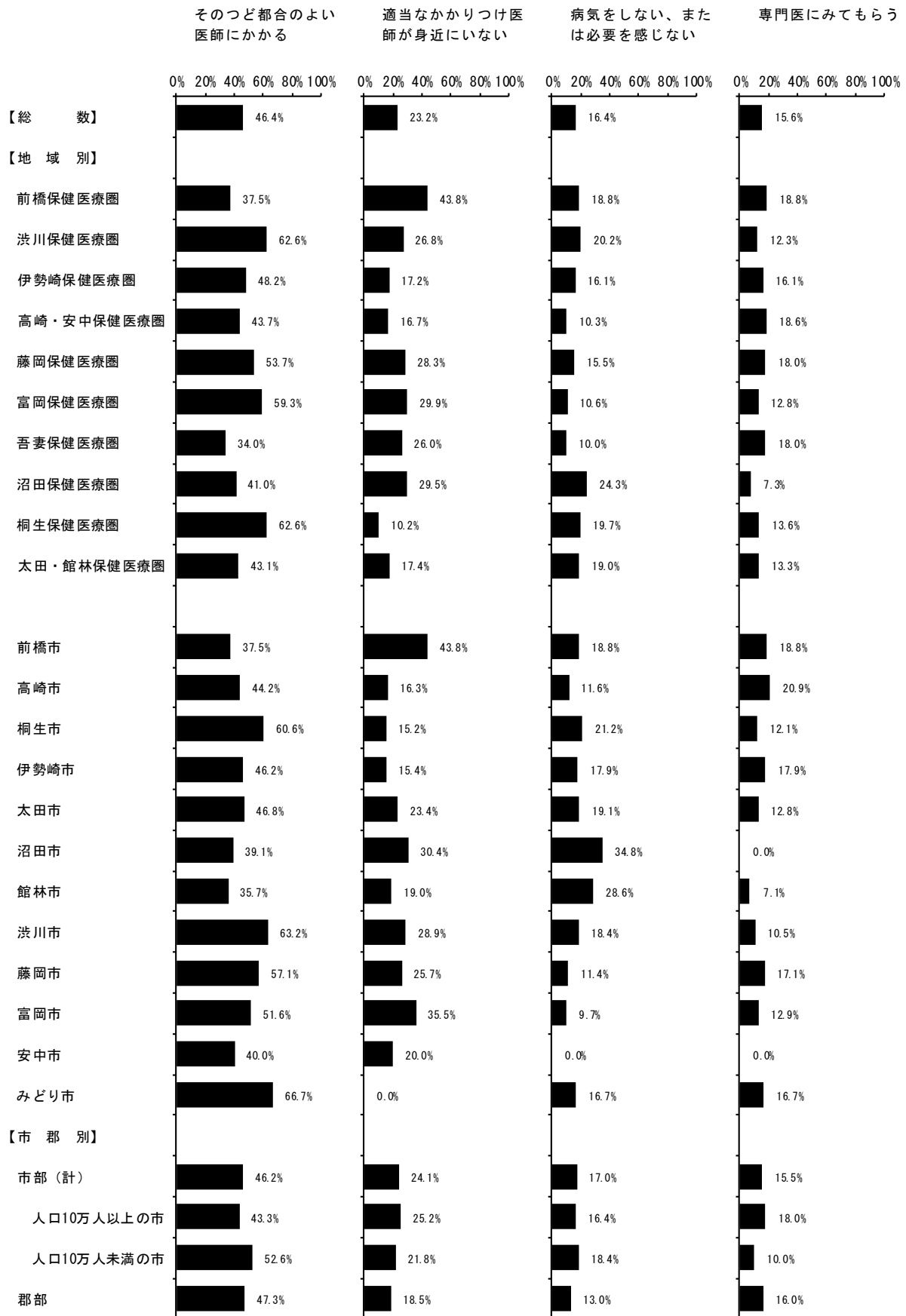
◆職業別

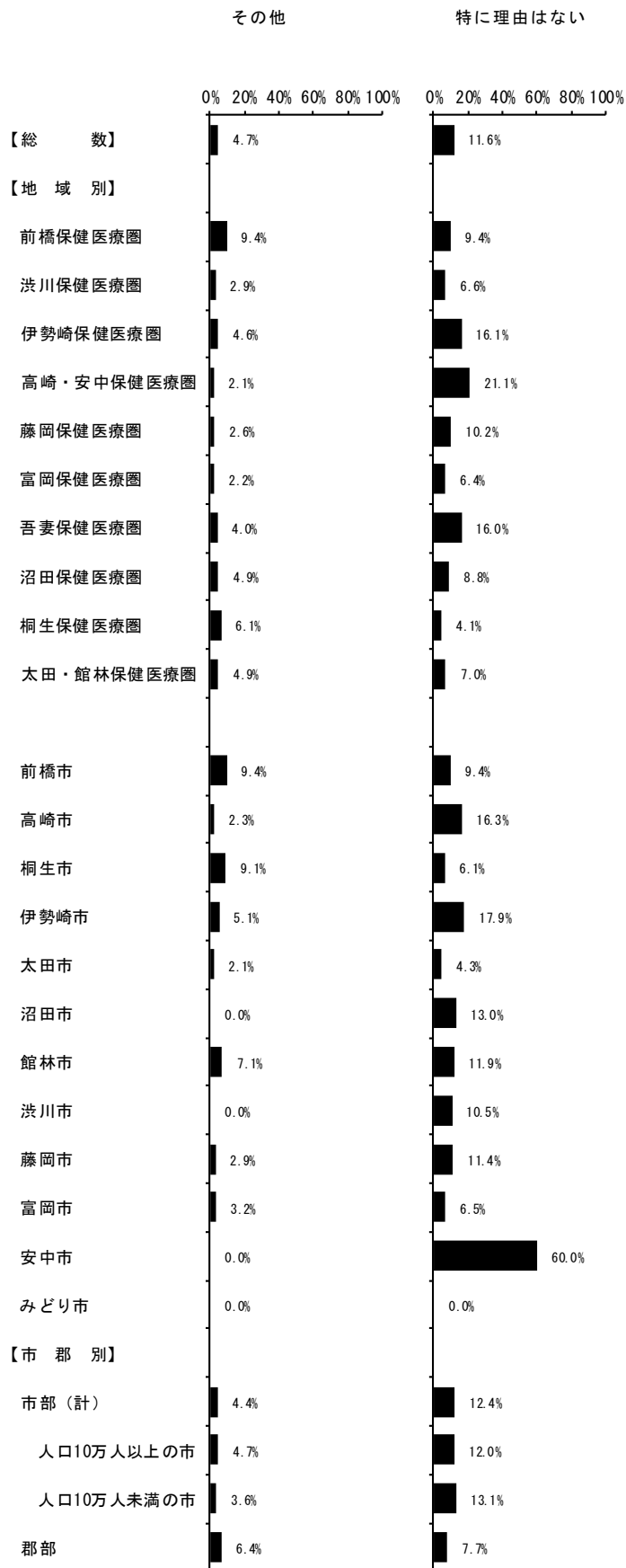
いずれの職業も「そのつど都合のよい医師にかかる」が最も多くなっている。

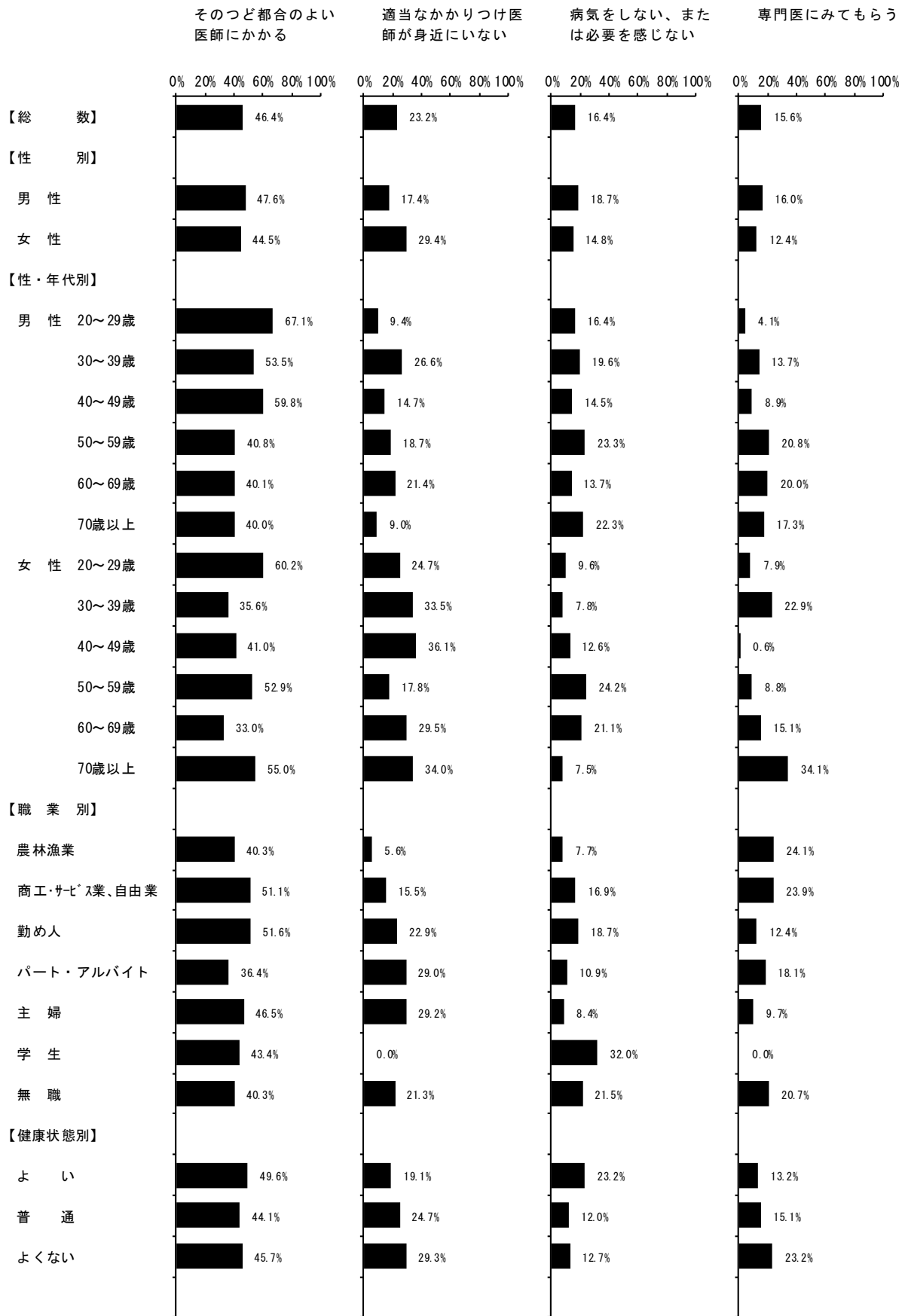
◆健康状態別

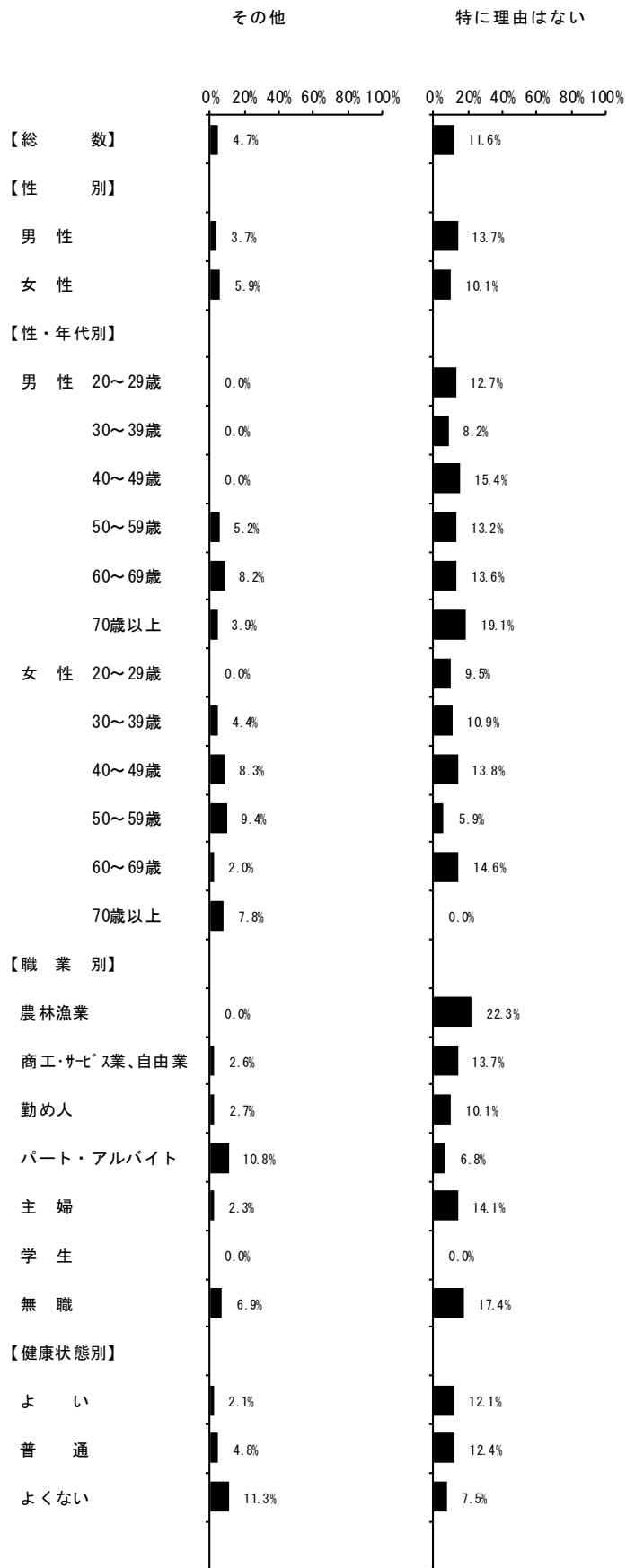
「適当なかかりつけ医師が身近にいない」は健康状態がよい(19.1%)に比べ、健康状態がよくない(29.3%)の方が多くなっている。

図7-8 かかりつけ医を決めていない理由

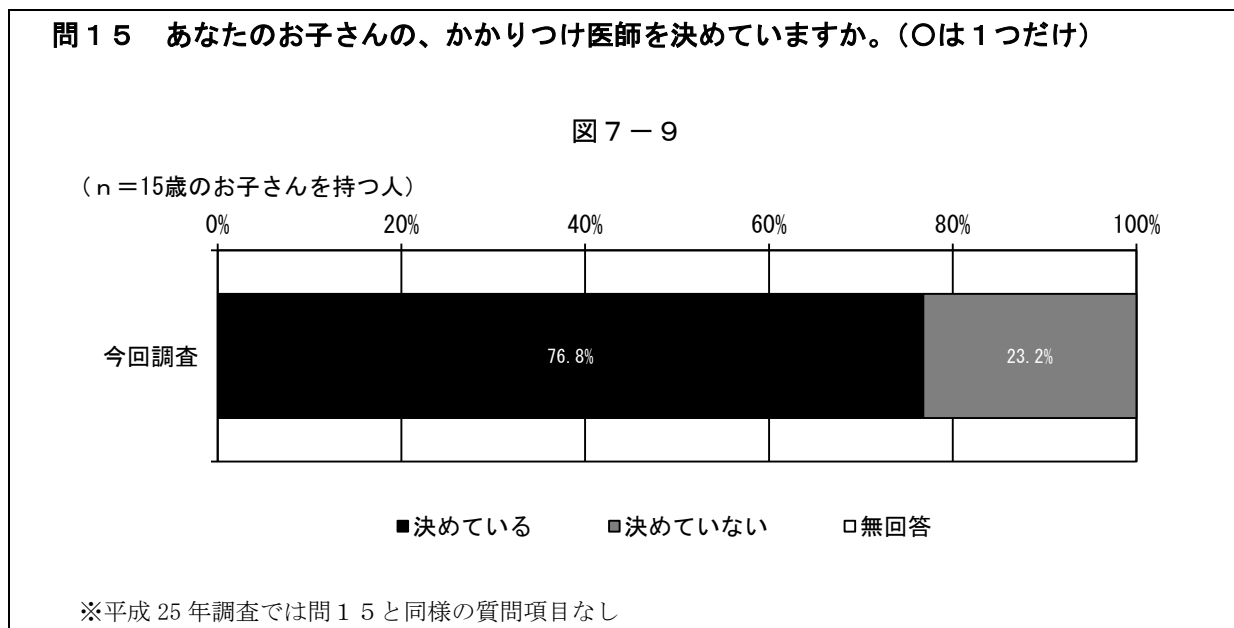








(5) 子どものかかりつけ医の有無
 ～「決めている」76.8%が多数～



子どものかかりつけ医師については、「決めている」が76.8%となっており、「決めていない」の23.2%を大きく上回る。

◆地域別

いずれの地域も「決めている」が半数以上を占めている。その中でも渋川保健医療圏(89.4%)、富岡保健医療圏(86.8%)は80.0%を超えている。一方、吾妻保健医療圏は54.2%と他の地域に比べ少なくなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

男性と女性とも「決めている」が半数以上を占めている。また、「決めている」は男性(71.3%)に比べ、女性(81.5%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

男性は30代、40代、50代で「決めている」が多くなっており、女性は20代、30代と70歳以上で「決めている」が多くなっている。

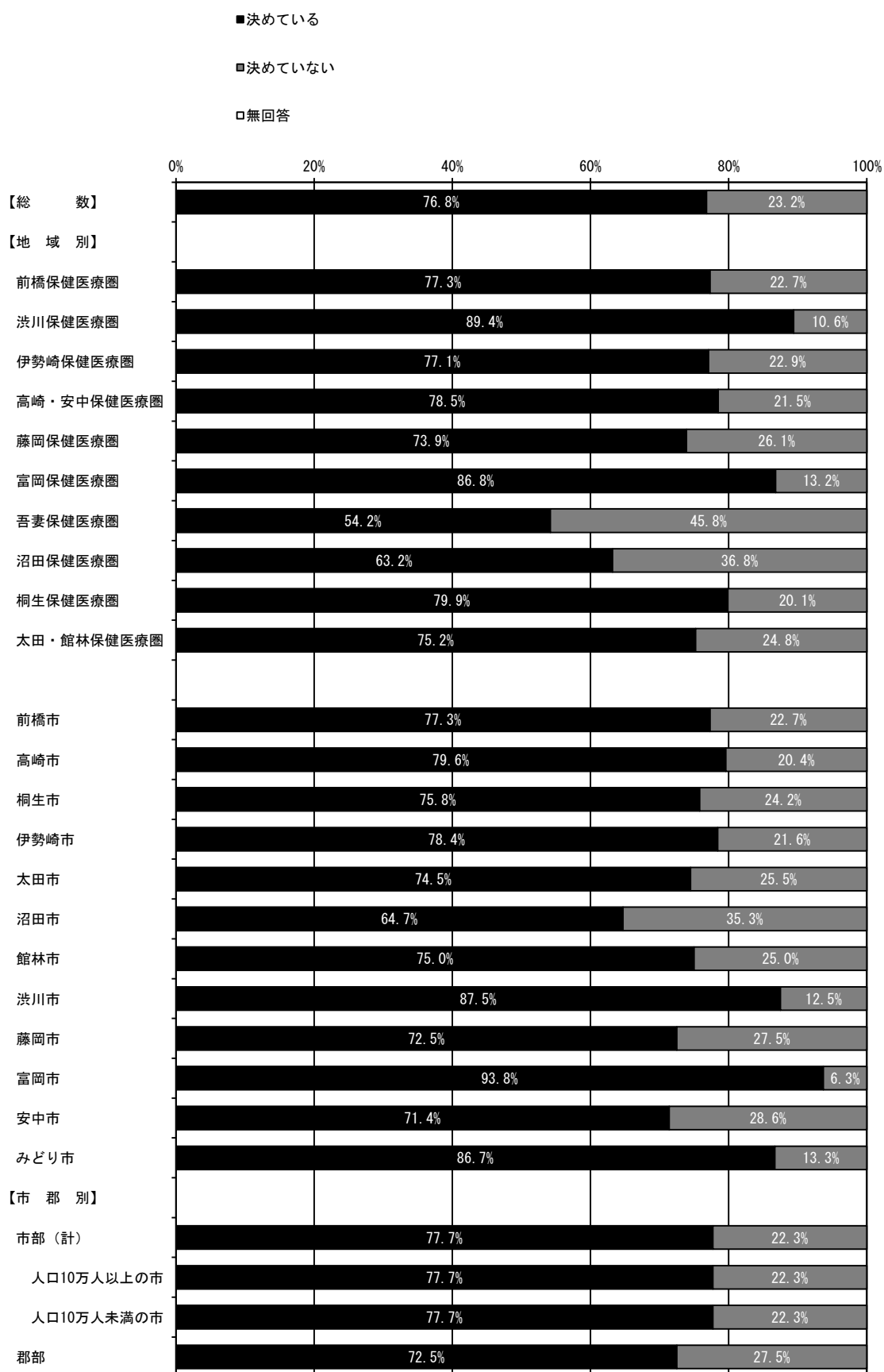
◆職業別

いずれの職業も「決めている」が半数以上を占めている。

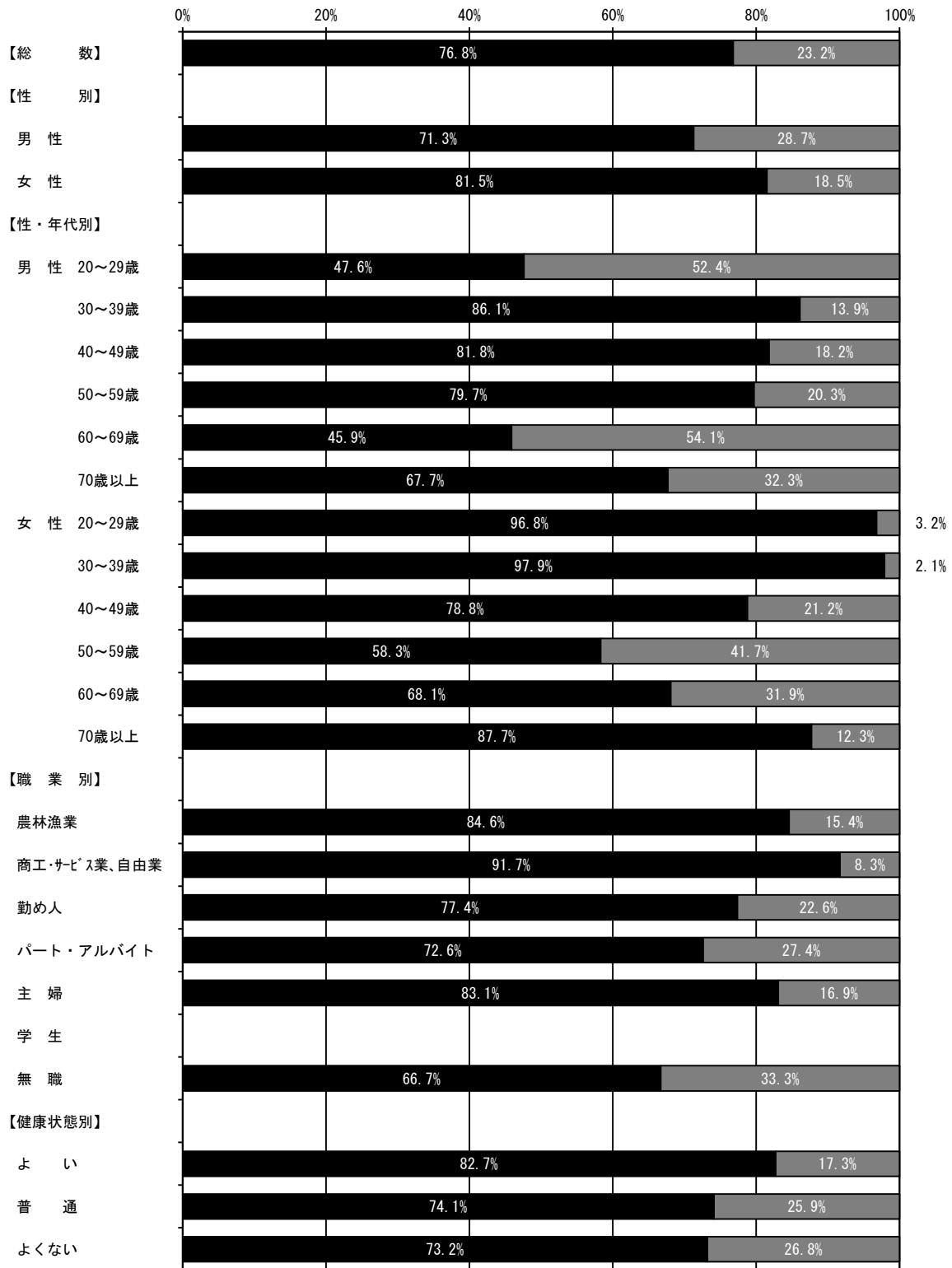
◆健康状態別

「決めている」は健康状態がよくない(73.2%)に比べ、健康状態がよい(82.7%)の方が多くなっている。

図7-10 子どものかかりつけ医の有無

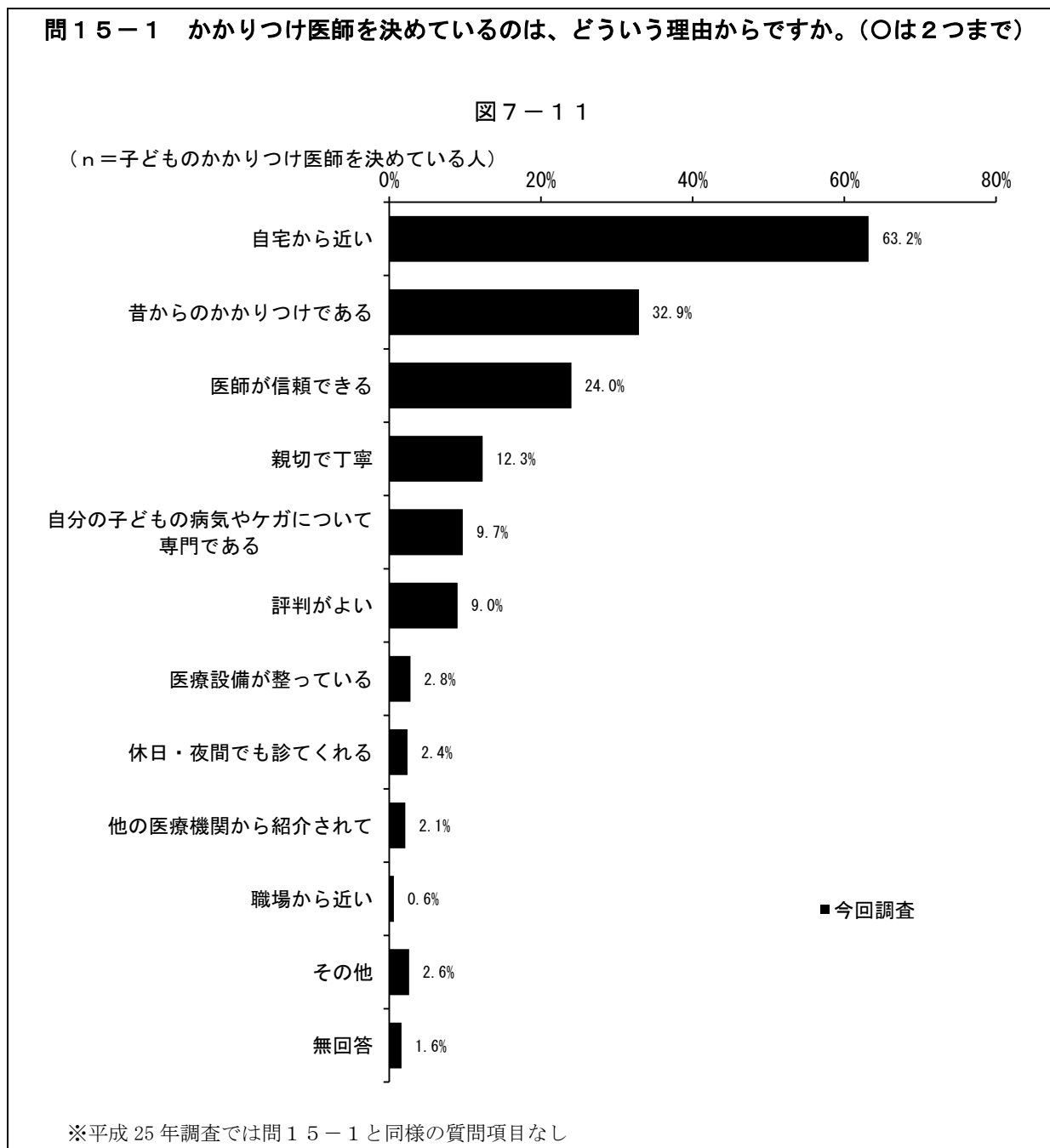


- 決めている
- ▣決めていない
- 無回答



(6) 子どものかかりつけ医を決めている理由

～「自宅から近い」63.2%が最も多い～



子どものかかりつけ医を決めている人に、具体的な理由を聞いたところ、「自宅から近い」が63.2%と最も多く、次いで「昔からのかかりつけである」が32.9%、「医師が信頼できる」が24.0%となっている。

◆地域別

いずれの地域も「自宅から近い」が最も多くなっている。その中でも高崎・安中保健医療圏(75.0%)、前橋保健医療圏(70.6%)は70.0%を超えている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

男性と女性とも「自宅から近い」が最も多くなっている。また、「自宅から近い」は女性(58.0%)に比べ、男性(70.6%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

いずれの性別・年代も「自宅から近い」が最も多くなっている。「昔からのかかりつけである」は70歳以上の男性(50.0%)、60代女性(57.2%)で50.0%を超えている。

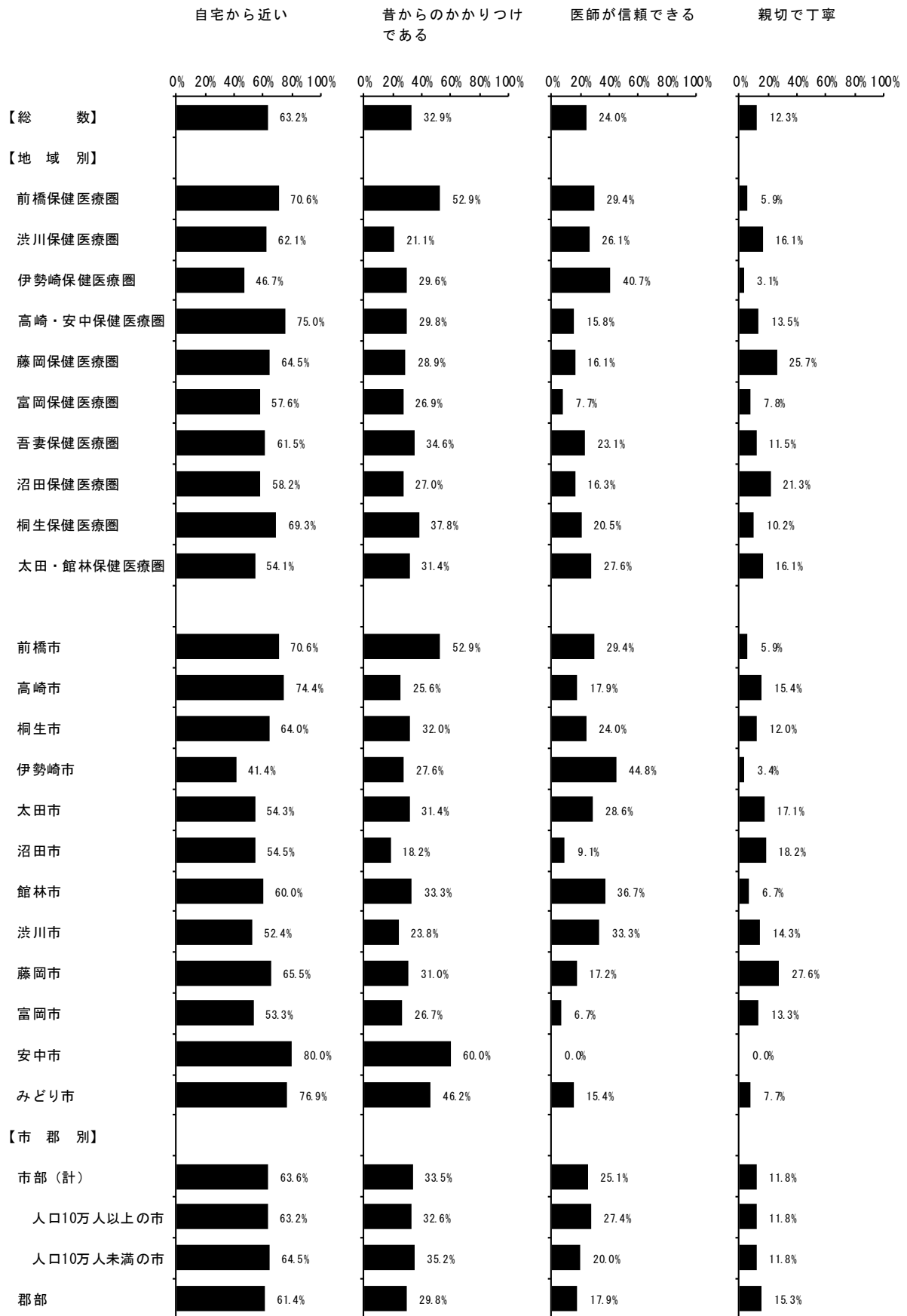
◆職業別

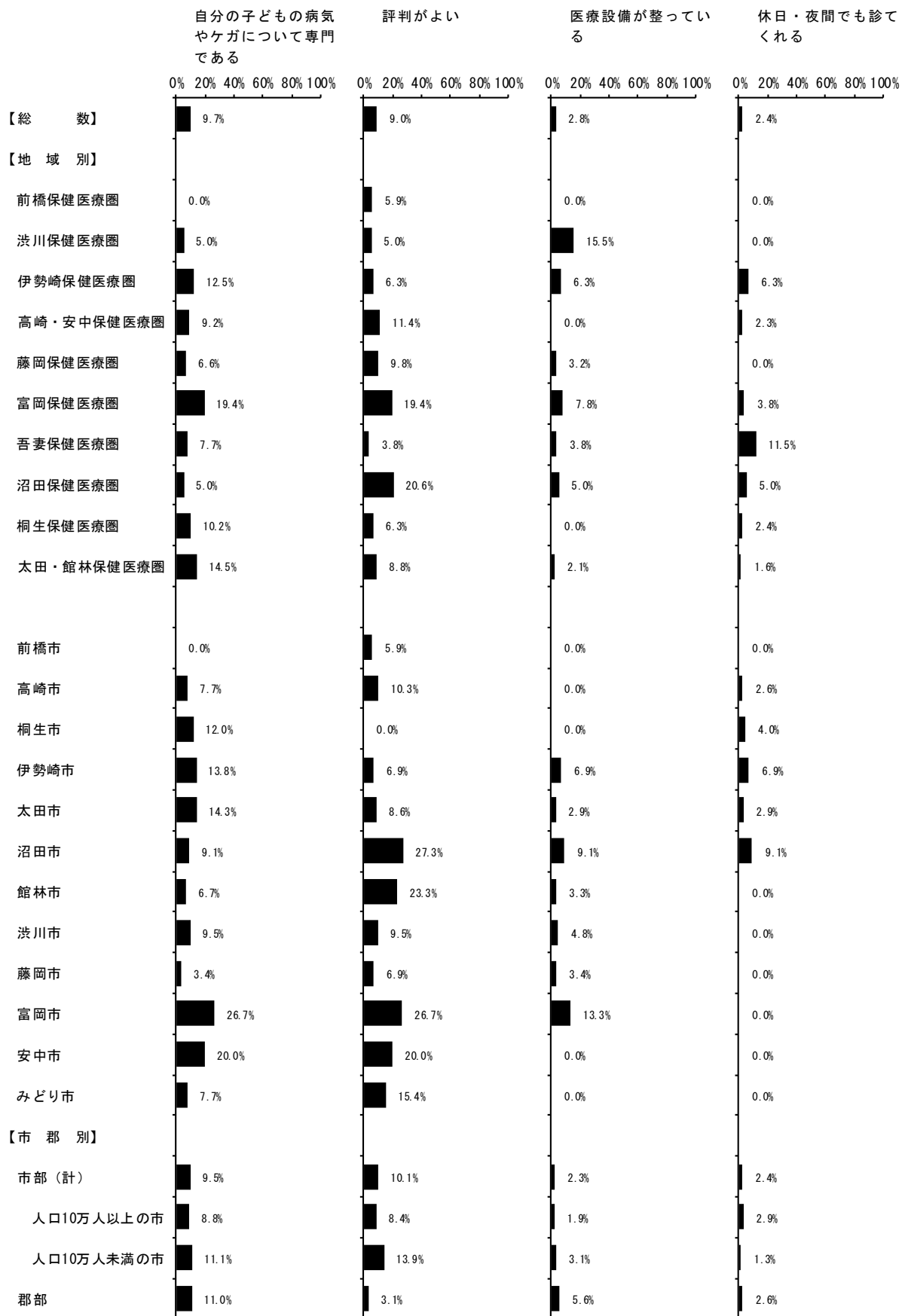
いずれの職業も「自宅から近い」が最も多くなっている。その中でも勤め人は72.0%と最も多くなっている。

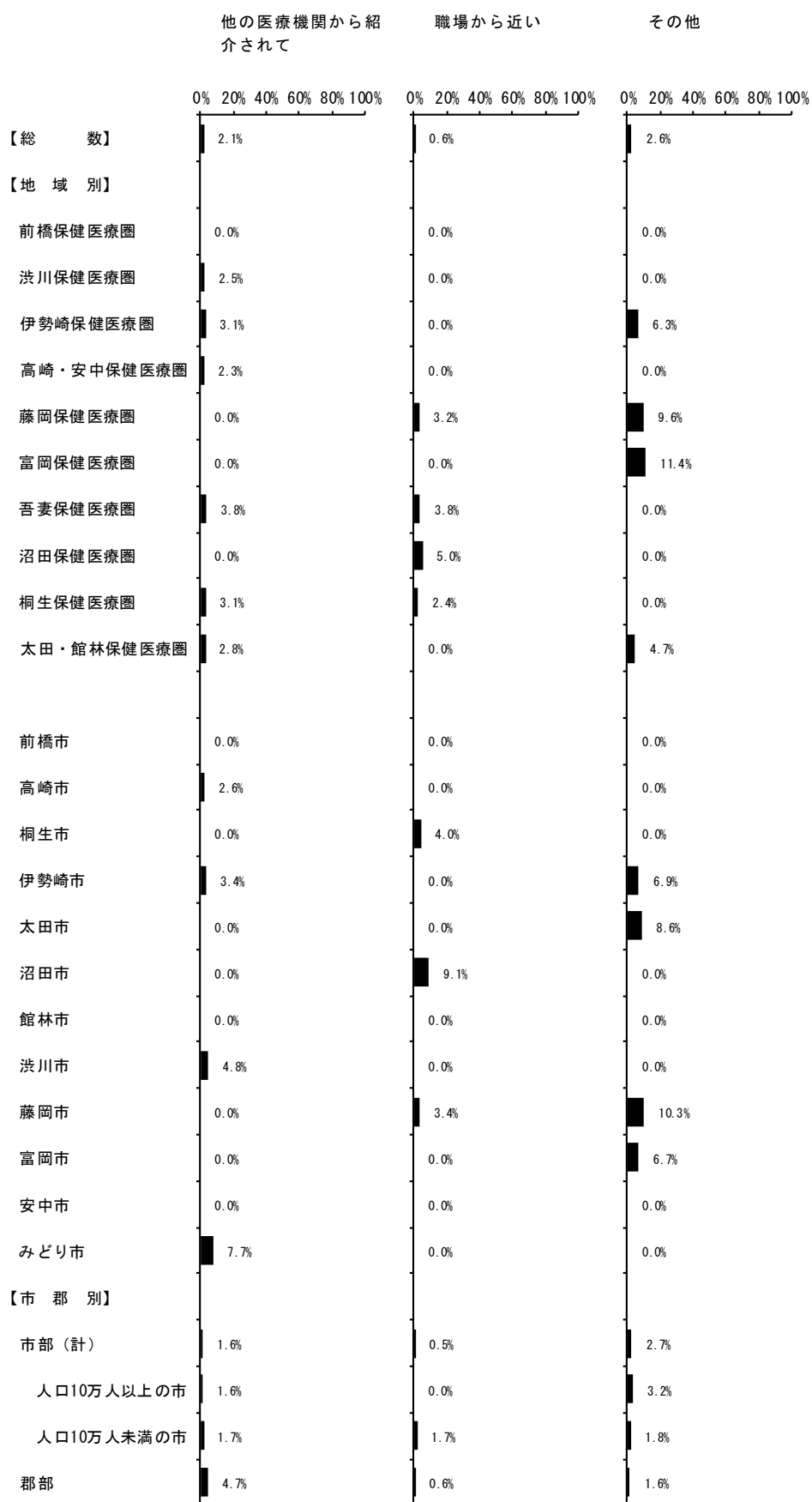
◆健康状態別

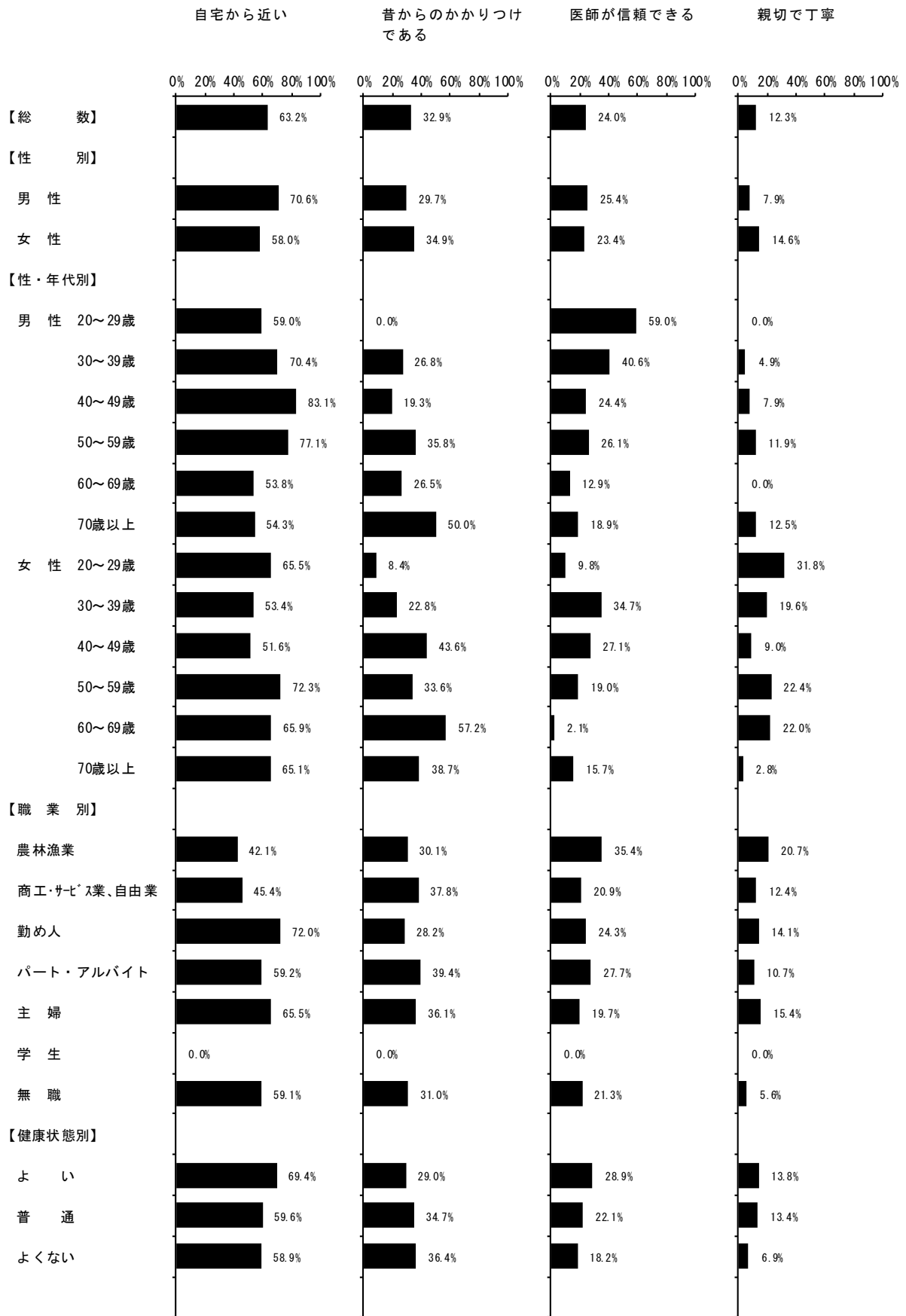
「自宅から近い」は健康状態がよくない(58.9%)に比べ、健康状態がよい(69.4%)の方が多くなっている。

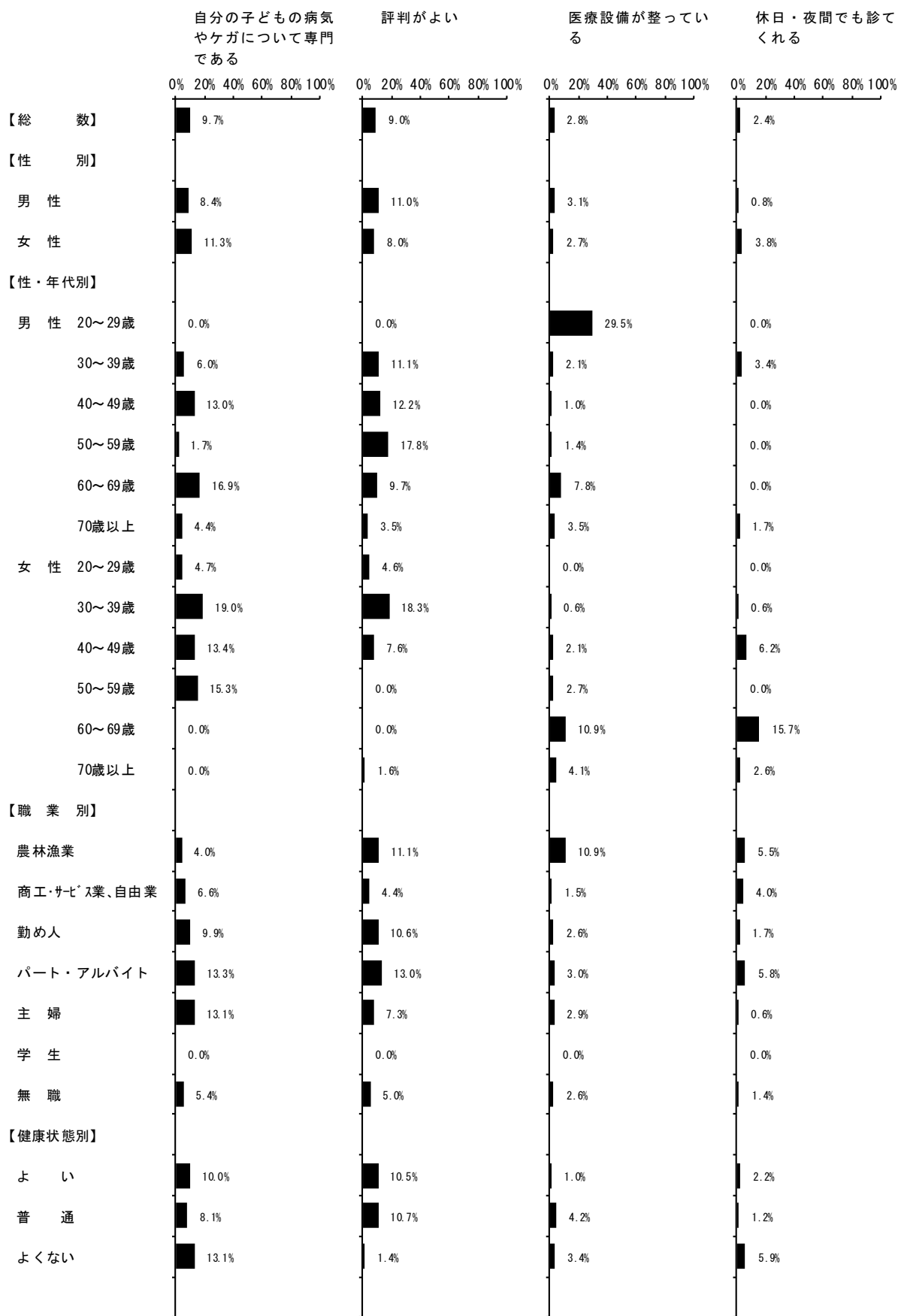
図7-12 子どものかかりつけ医を決めている理由

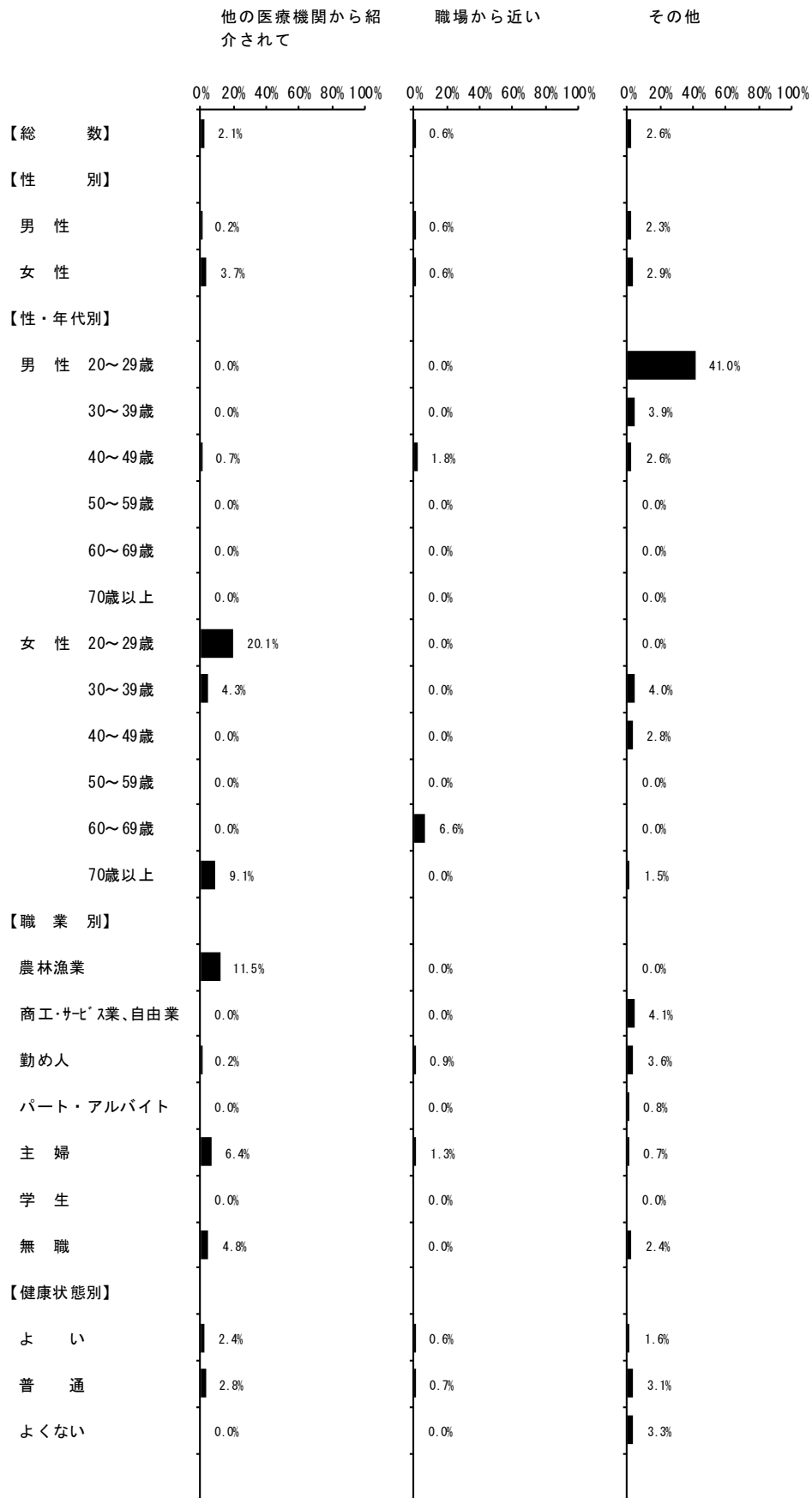












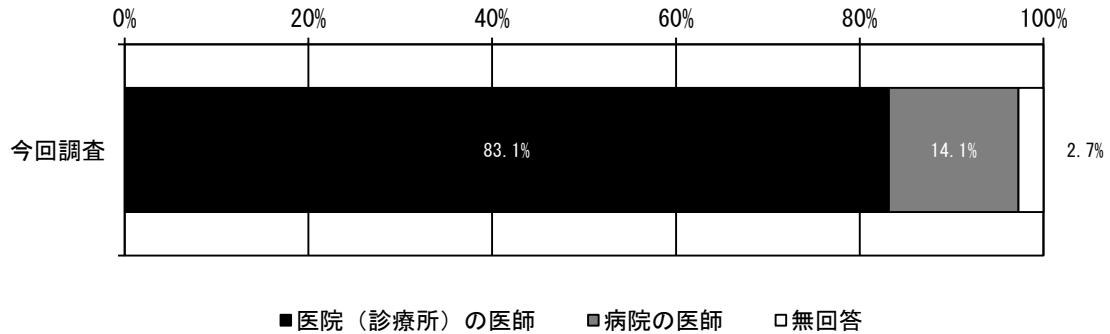
(7) 子どものかかりつけ医の種類

～「医院（診療所）の医師」83.1%が多数～

問15-2 かかりつけ医師は医院（診療所）の医師ですか。病院の医師ですか。（○は1つだけ）

図7-13

(n = 子どものかかりつけ医師を決めている人)



※平成25年調査では問15-2と同様の質問項目なし

かかりつけ医師については、「医院（診療所）の医師」が83.1%と「病院の医師」の14.1%を大きく上回る。

◆地域別

いずれの地域も「医院（診療所）の医師」が最も多くなっている。その中でも伊勢崎保健医療圏は92.3%と最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられないが、「医院（診療所）の医師」は人口10万人未満の市（76.7%）に比べ、人口10万人以上の市（85.8%）の方が多くなっており、人口規模により差異がみられる。

◆性別

男性と女性で差異はほとんどみられない。

◆性・年代別

20代男性を除くと、いずれの地域も「医院（診療所）の医師」が最も多くなっている。

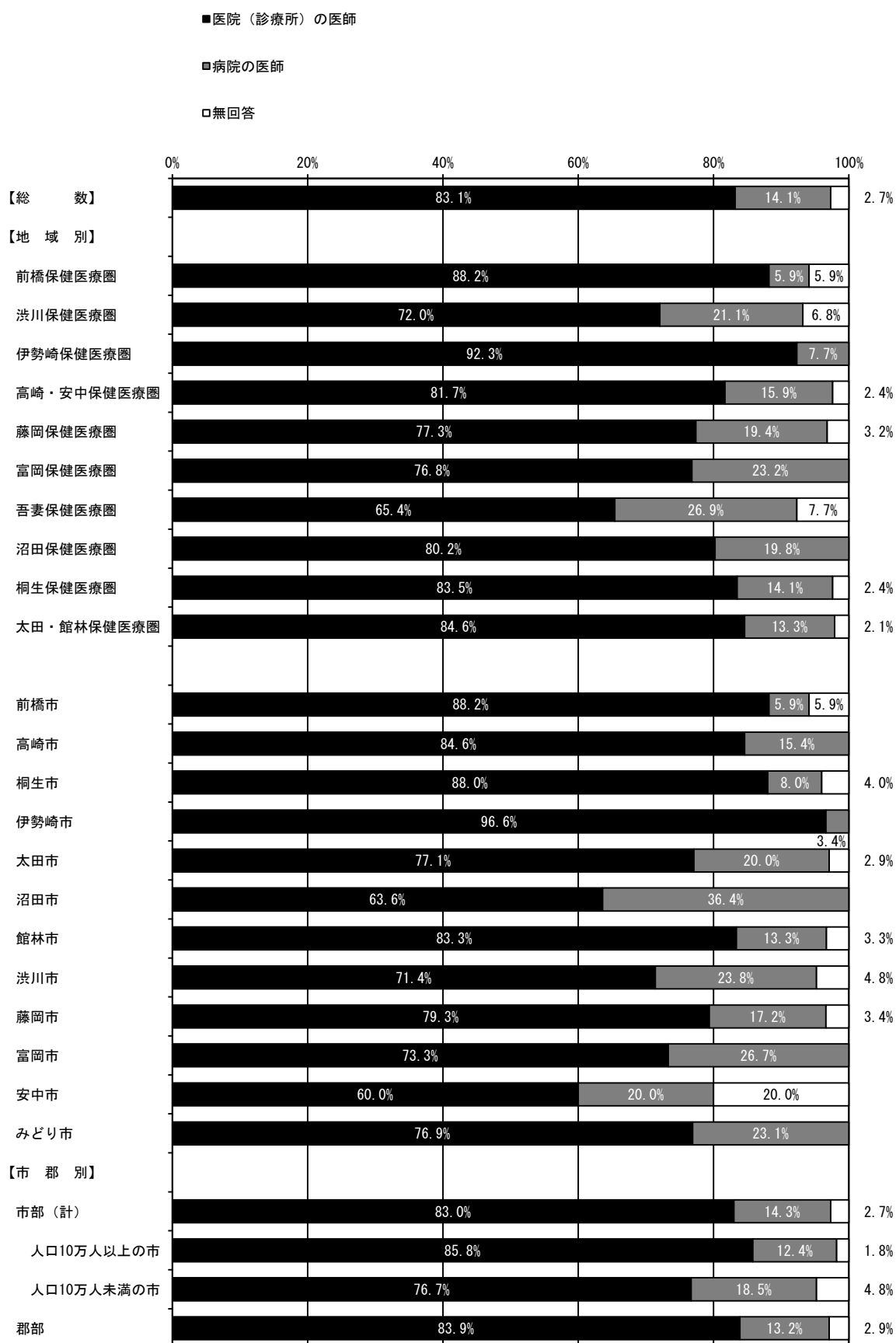
◆職業別

いずれの職業も「医院（診療所）の医師」が最も多くなっている。その中でも、主婦は91.1%と最も多くなっている。

◆健康状態別

「医院（診療所）の医師」は健康状態がよくない（70.9%）に比べ、健康状態がよい（82.6%）の方が多くなっている。

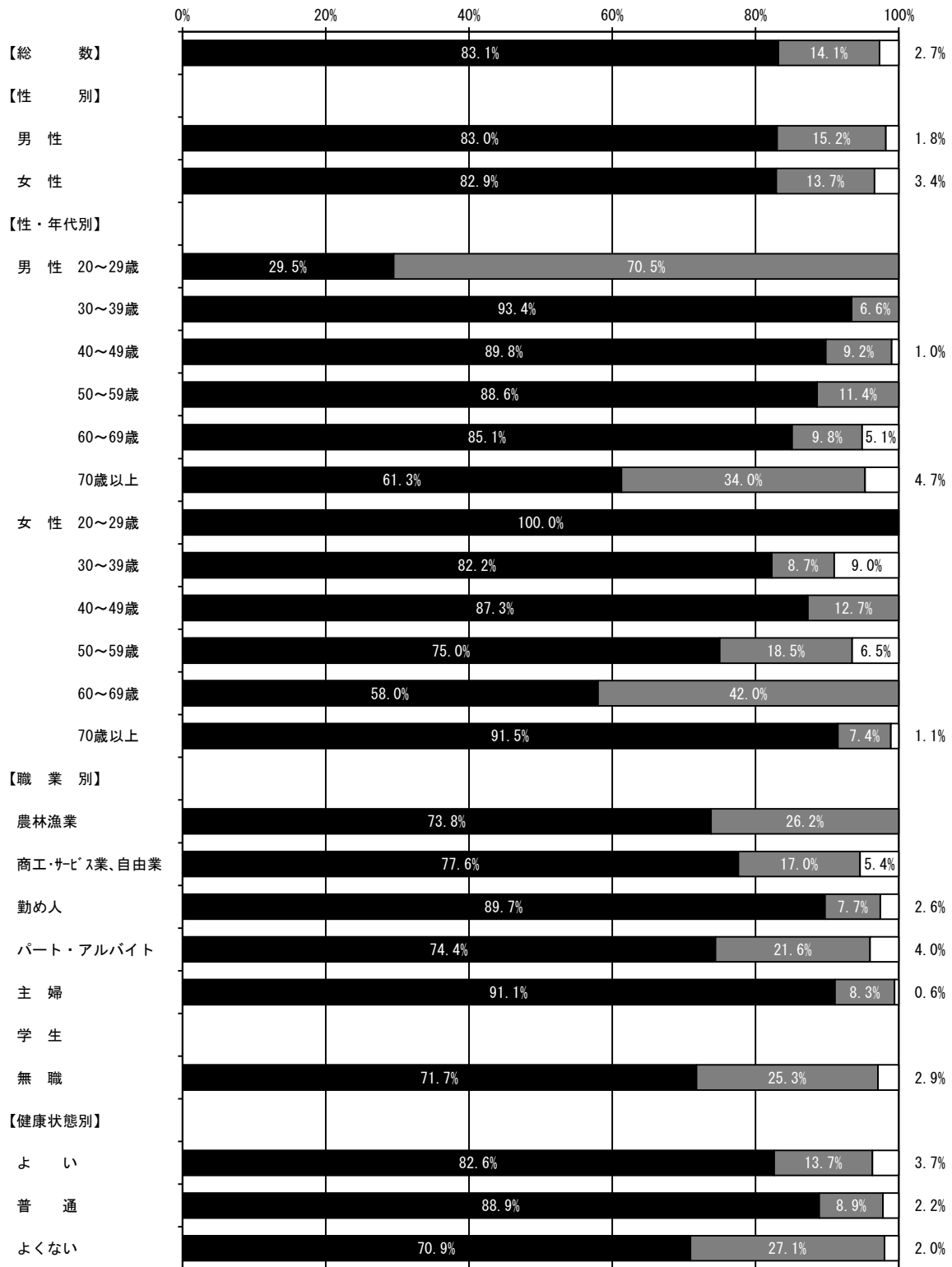
図7-14 子どものかかりつけ医の種類



■ 医院（診療所）の医師

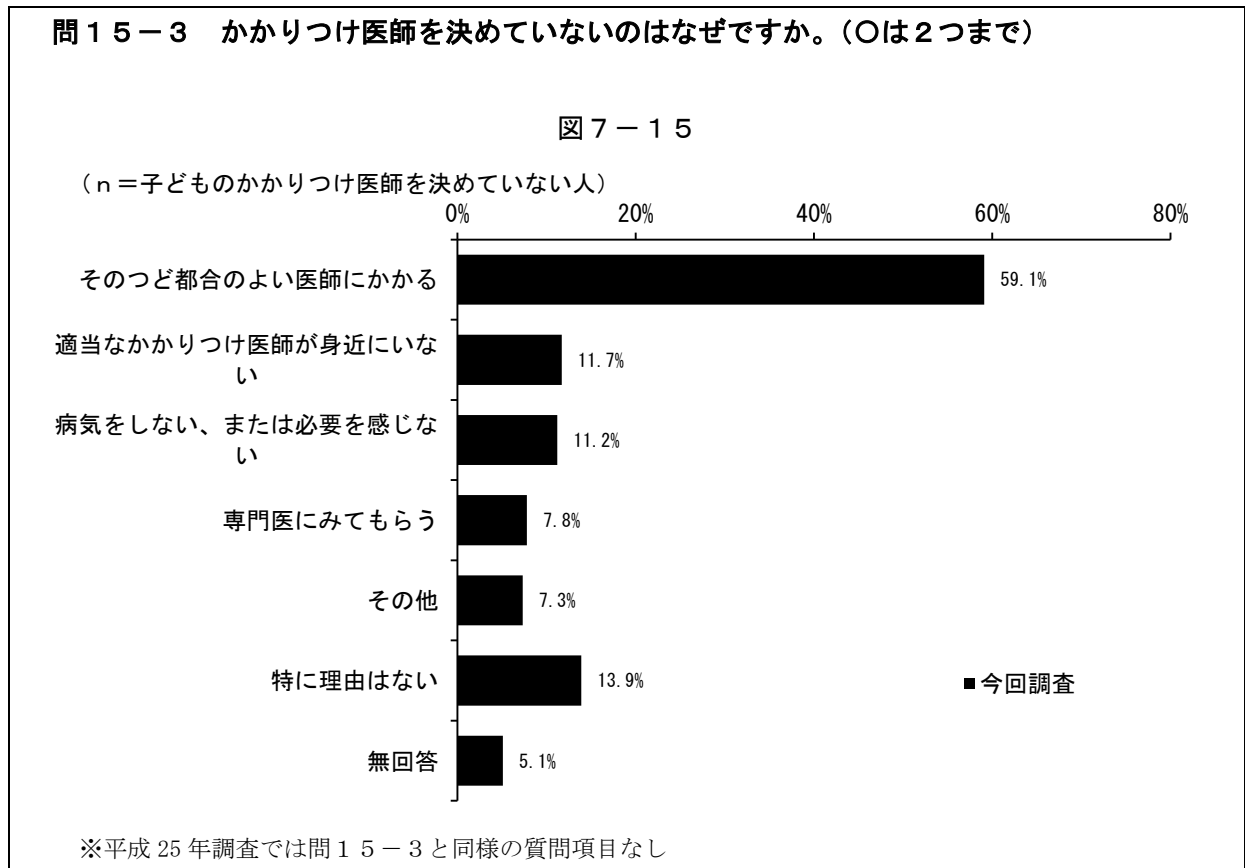
□ 病院の医師

○ 無回答



(8) 子どものかかりつけ医を決めていない理由

～「そのつど都合のよい医師にかかる」59.1%が最も多い～



かかりつけ医を決めない理由については、「そのつど都合のよい医師にかかる」が59.1%と最も多くなっている。その他の項目の「適当なかかりつけ医師が身近にいない」(11.7%)、「病気をしない、または必要を感じない」(11.2%)、「専門医にみてもらう」(7.8%)という理由は少なくなっている。

◆地域別

いずれの地域も「そのつど都合のよい医師にかかる」が多くなっている。前橋保健医療圏では「適当なかかりつけ医師が身近にいない」が40.0%と他の地域に比べ多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

「そのつど都合のよい医師にかかる」は女性(53.4%)に比べ、男性(62.3%)の方が多くなっている。一方、「適当なかかりつけ医師が身近にいない」は男性(5.1%)に比べ、女性(21.5%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「そのつど都合のよい医師にかかる」は男性ではいずれの年代も多くなる傾向がみられる。

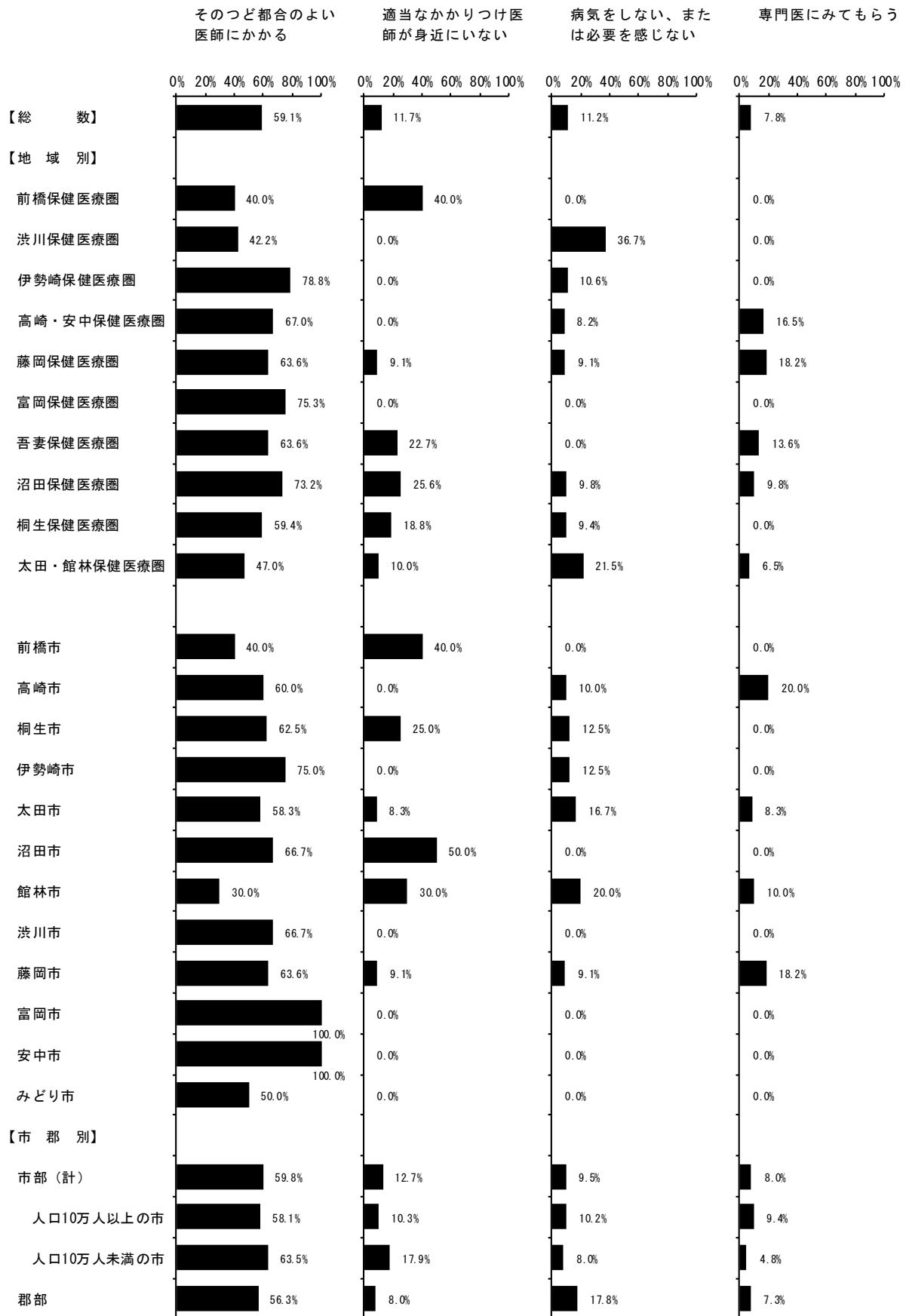
◆職業別

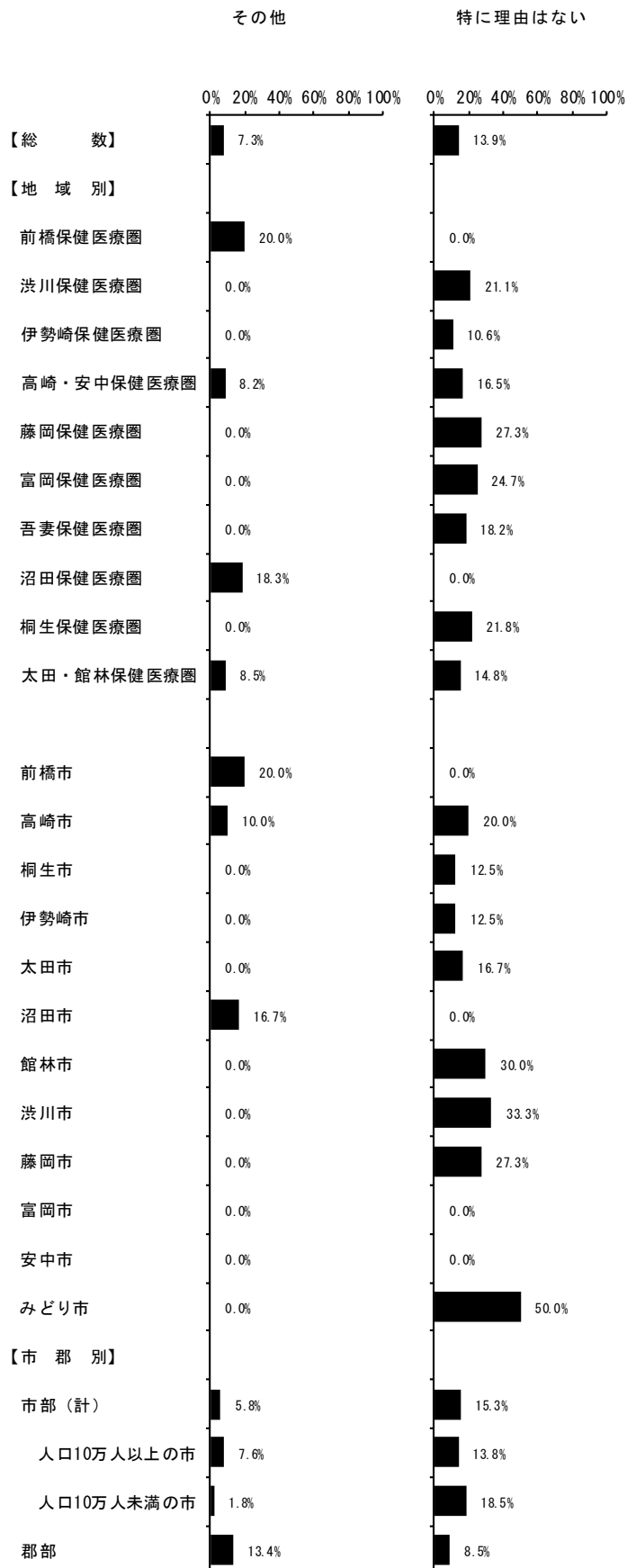
「そのつど都合のよい医師にかかる」は勤め人が72.1%と他の職業に比べ多くなっている。

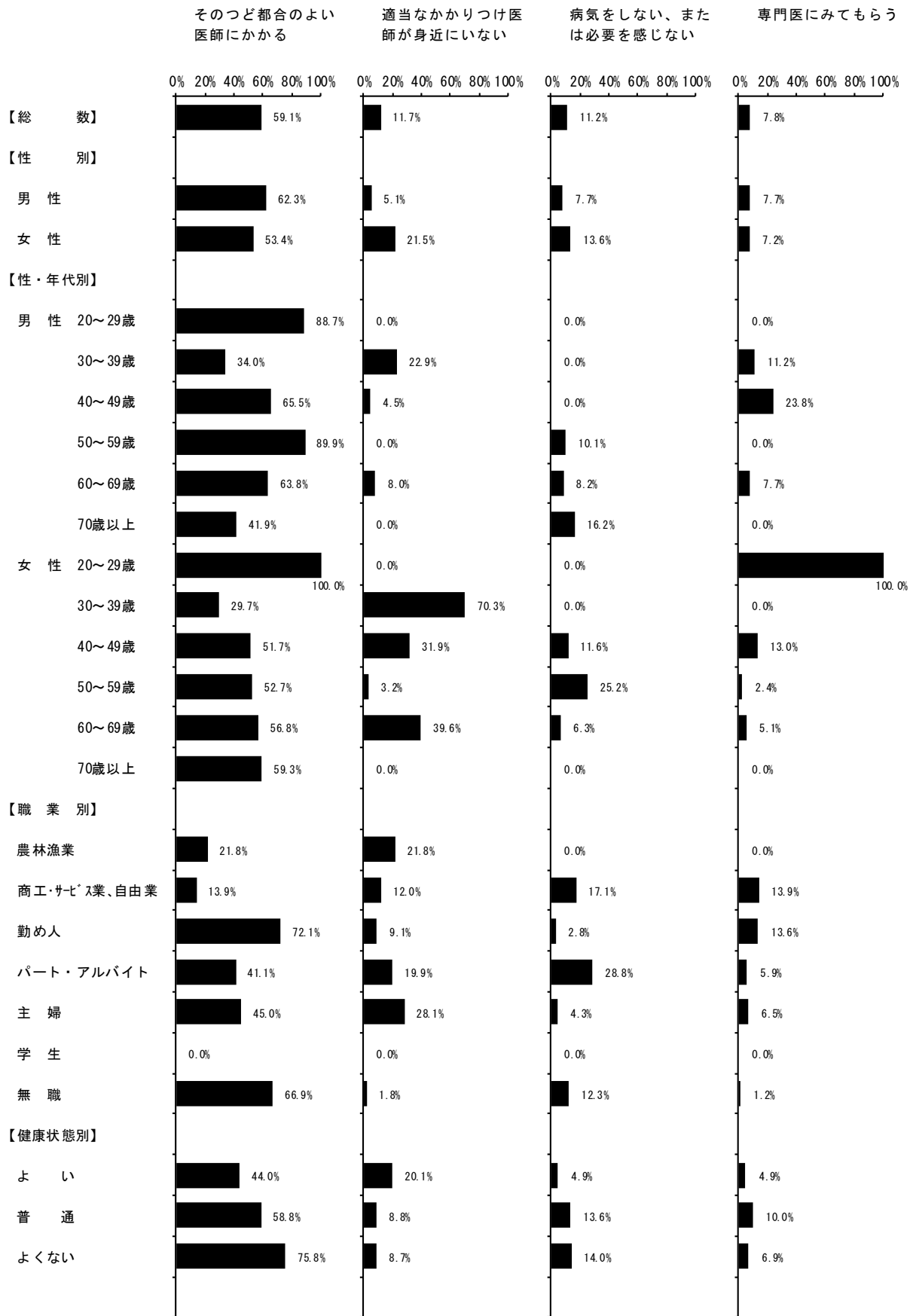
◆健康状態別

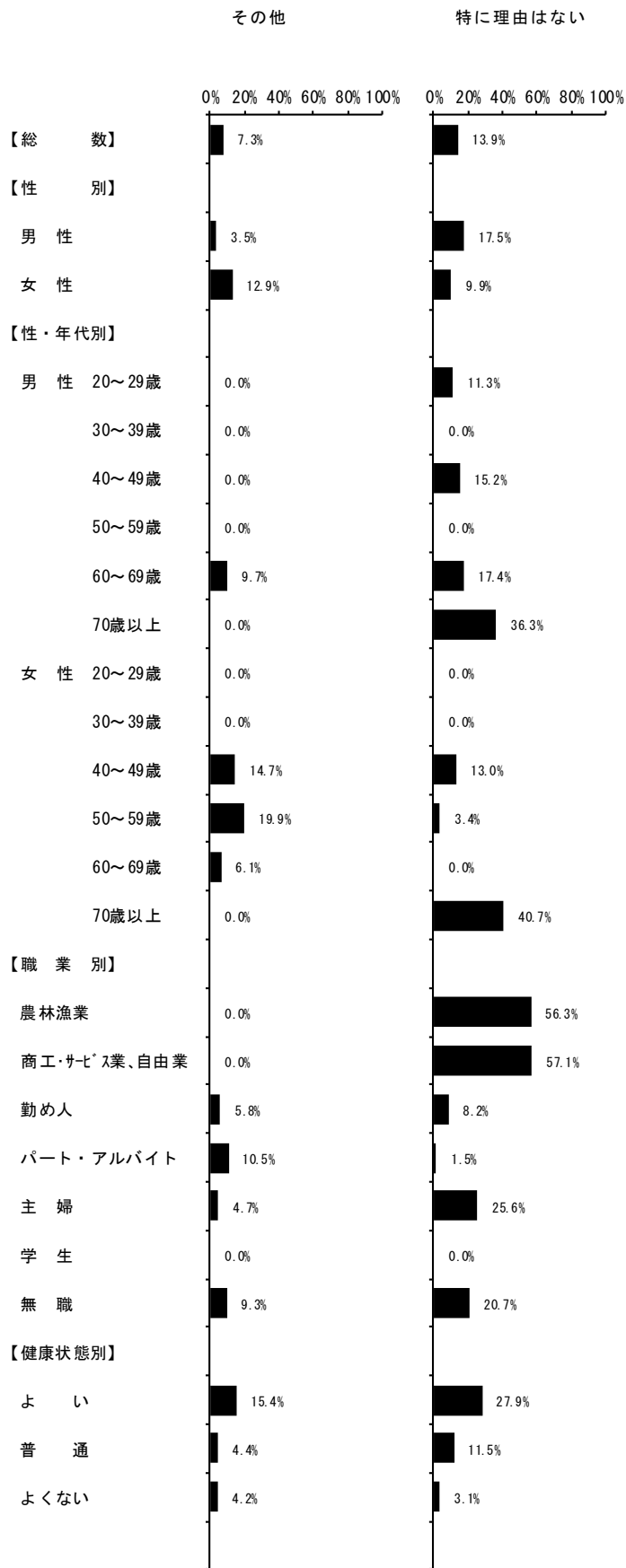
「そのつど都合のよい医師にかかる」は健康状態がよい(44.0%)に比べ、健康状態がよくない(75.8%)の方が多くなっている。

図7-16 子どものかかりつけ医を決めていない理由





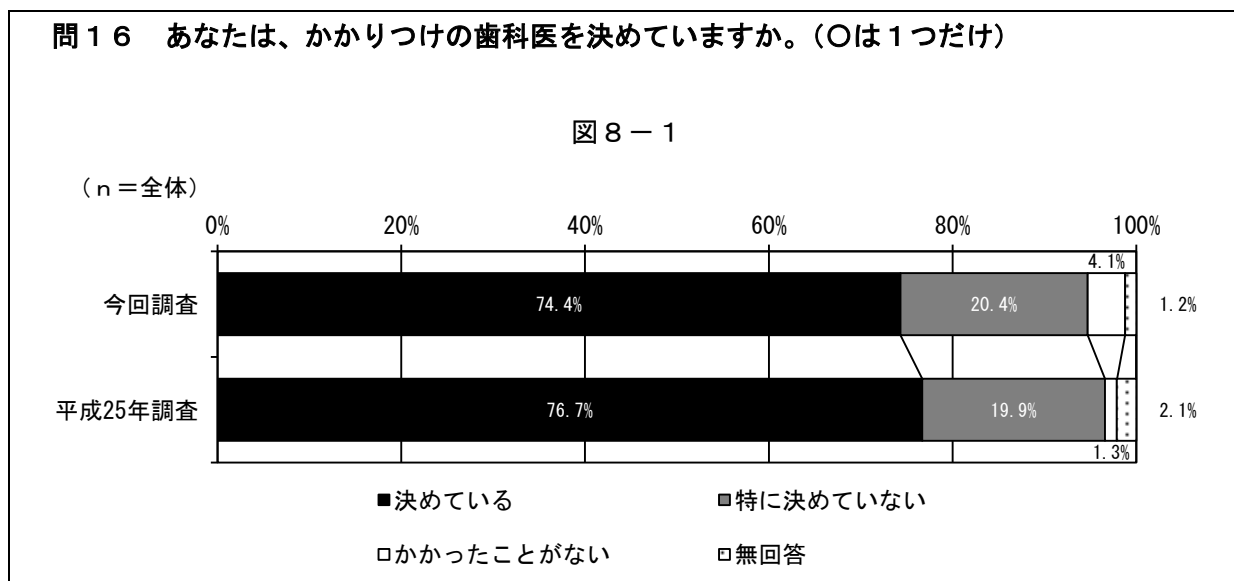




8 かかりつけ歯科医

(1) かかりつけ歯科医の有無

～「決めている」74.4%が最も多い～



かかりつけ歯科医については、「決めている」が74.4%と最も多くなっている。また、「特に決めていない」は20.4%、「かかったことがない」は4.1%となっている。

平成25年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

いずれの地域も「決めている」が最も多くなっており、地域で差異はほとんどみられない。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

男性と女性で差異はほとんどみられない。

◆性・年代別

「決めている」は男性と女性とも高い年代ほど多くなる傾向がみられる。

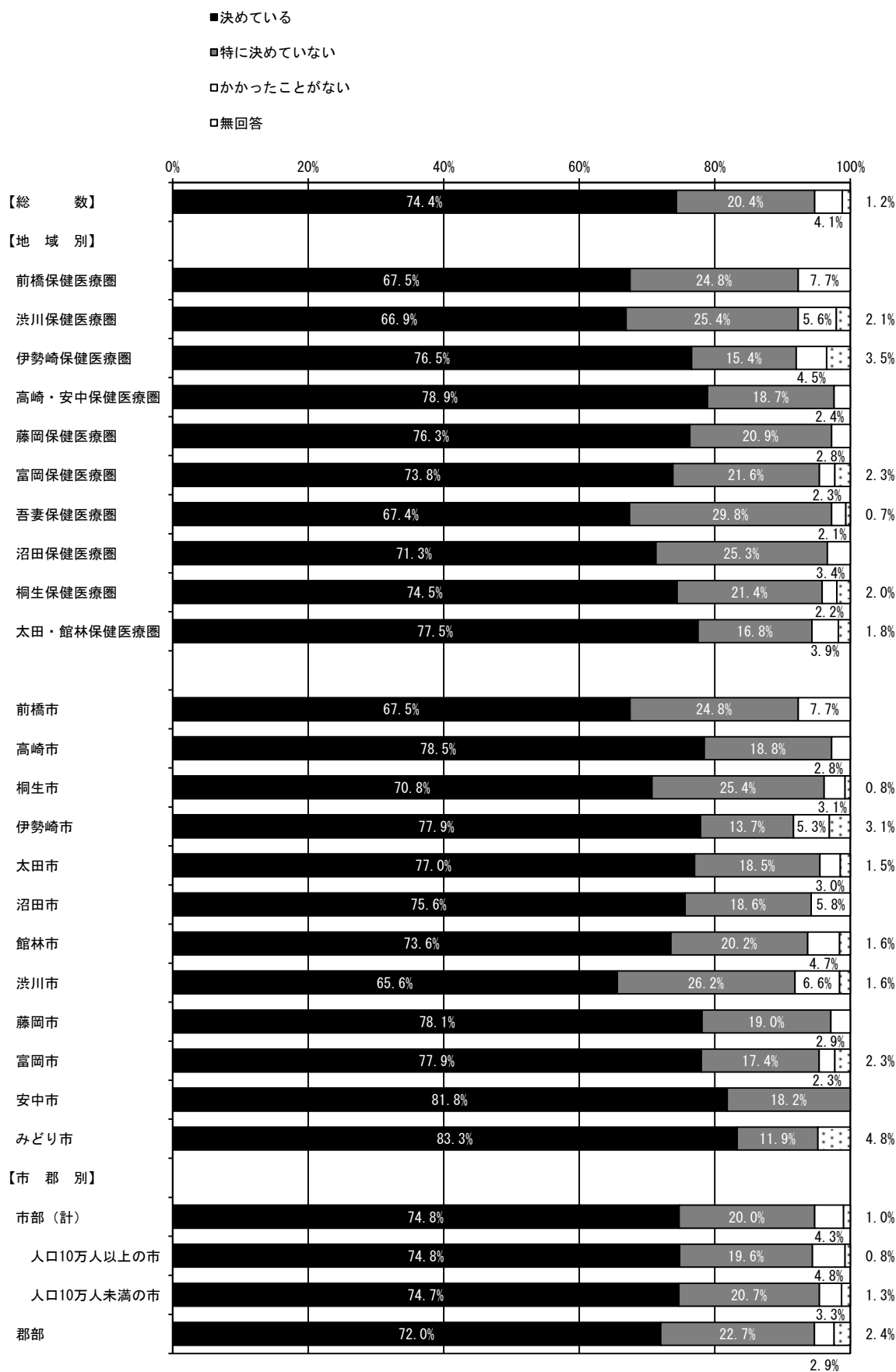
◆職業別

学生を除くと、いずれの職業も「決めている」が70.0%を超えている。

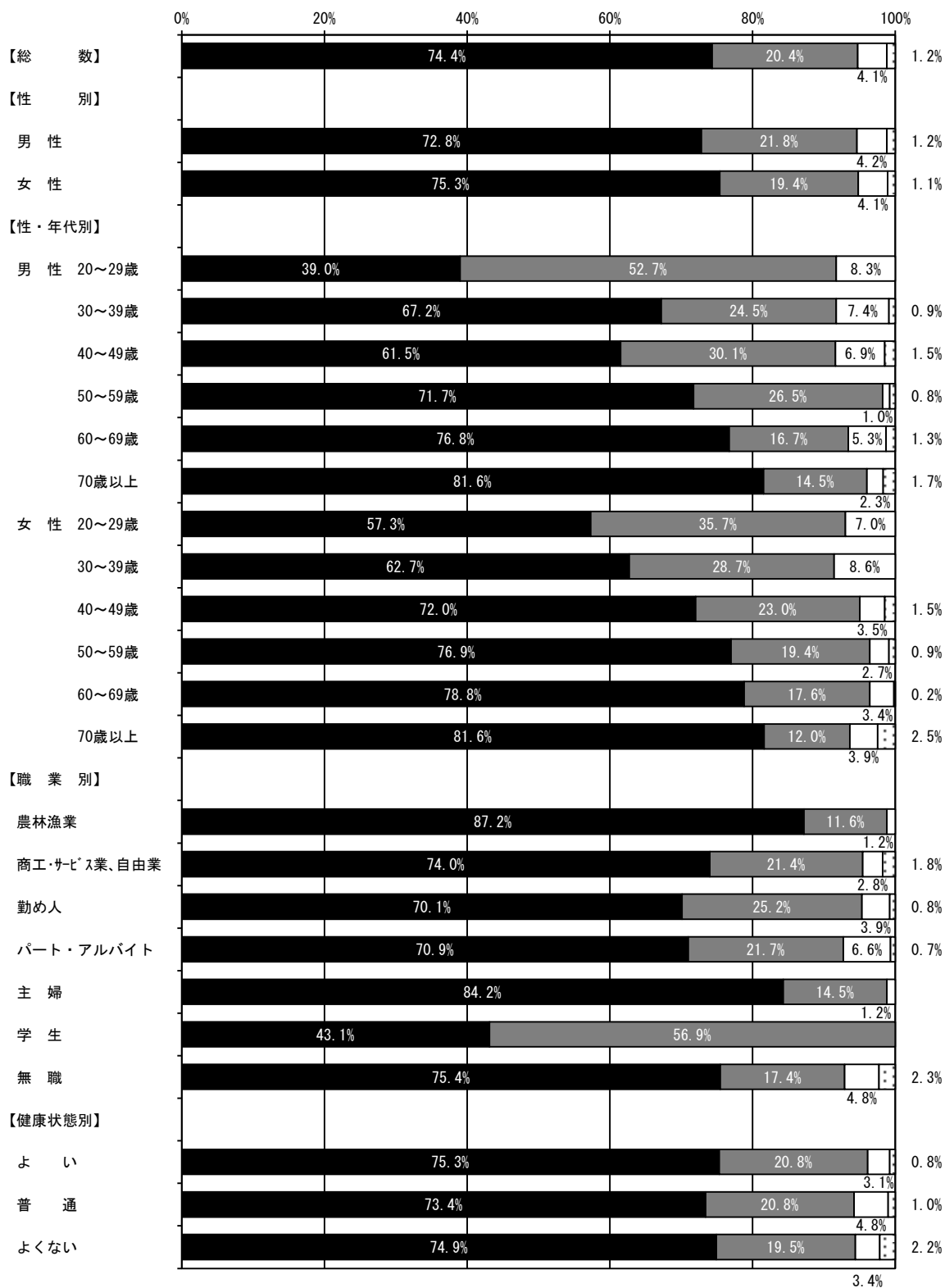
◆健康状態別

健康状態で差異はほとんどみられない。

図 8-2 かかりつけ歯科医の有無

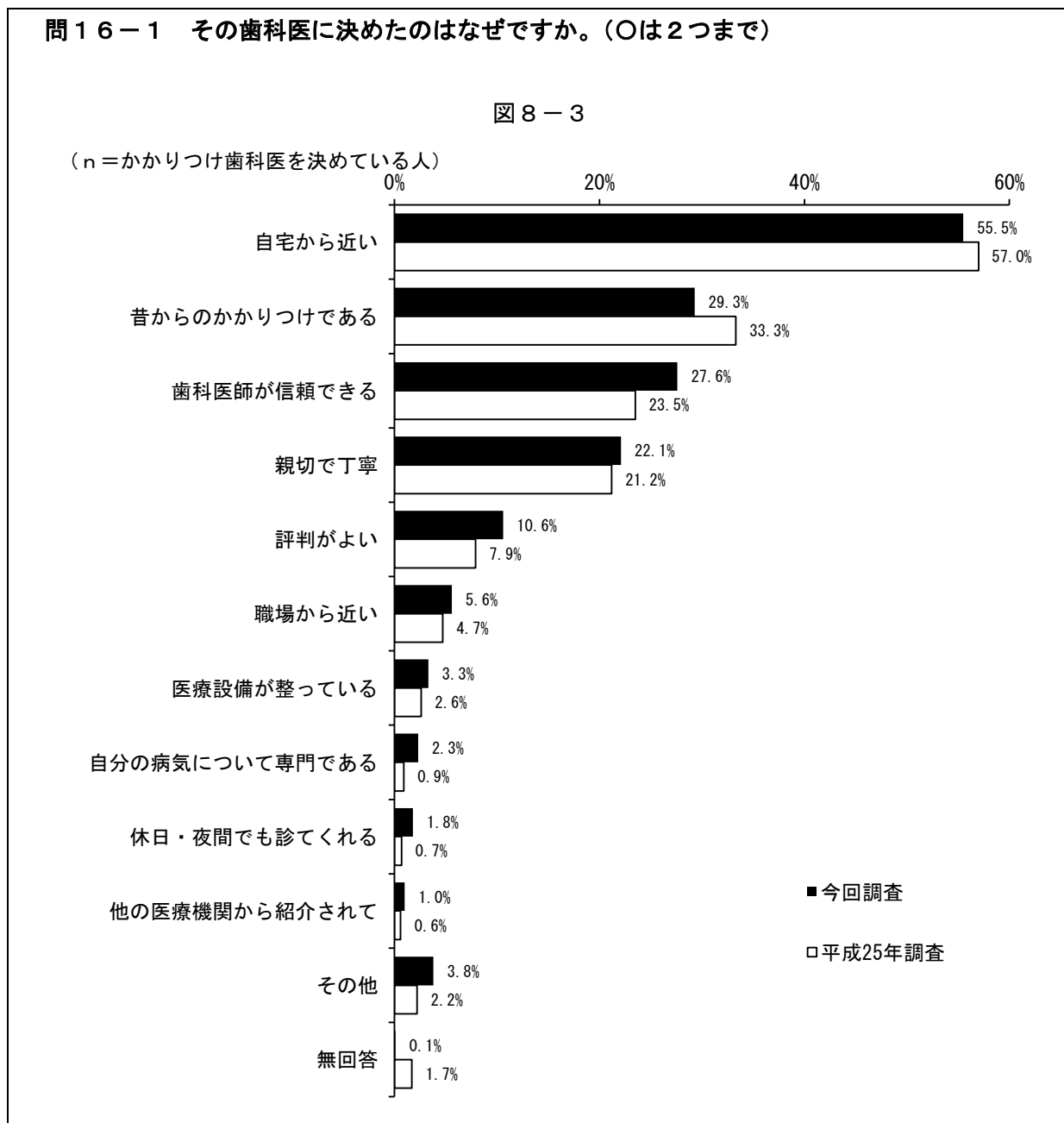


- 決めている
- 特に決めていない
- かかったことがない
- 無回答



3.4%

(2) かかりつけ歯科医を決めている理由
 ～「自宅から近い」55.5%が最も多い～



かかりつけ歯科医を決めている人に、具体的な理由を聞いたところ、「自宅から近い」が55.5%と最も多く、次いで「昔からのかかりつけである」が29.3%、「歯科医師が信頼できる」が27.6%、「親切で丁寧」が22.1%となっている。
 平成25年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

いずれの地域も「自宅から近い」が最も多くなっており、吾妻保健医療圏と沼田保健医療圏を除くと、50.0%を超えている。また、沼田保健医療圏は「昔からのかかりつけである」が40.5%となっており、他の地域に比べ多くなっている。

◆市郡別

「自宅から近い」は郡部（48.4%）に比べ、市部（56.7%）の方が多くなっており、人口規模により差異がみられる。

◆性別

男性と女性とも「自宅から近い」が最も多くなっており、50.0%を超えている。

◆性・年代別

いずれの性別・年代も「自宅から近い」が最も多くなっている。特に20代男性は75.3%と最も多くなっている。

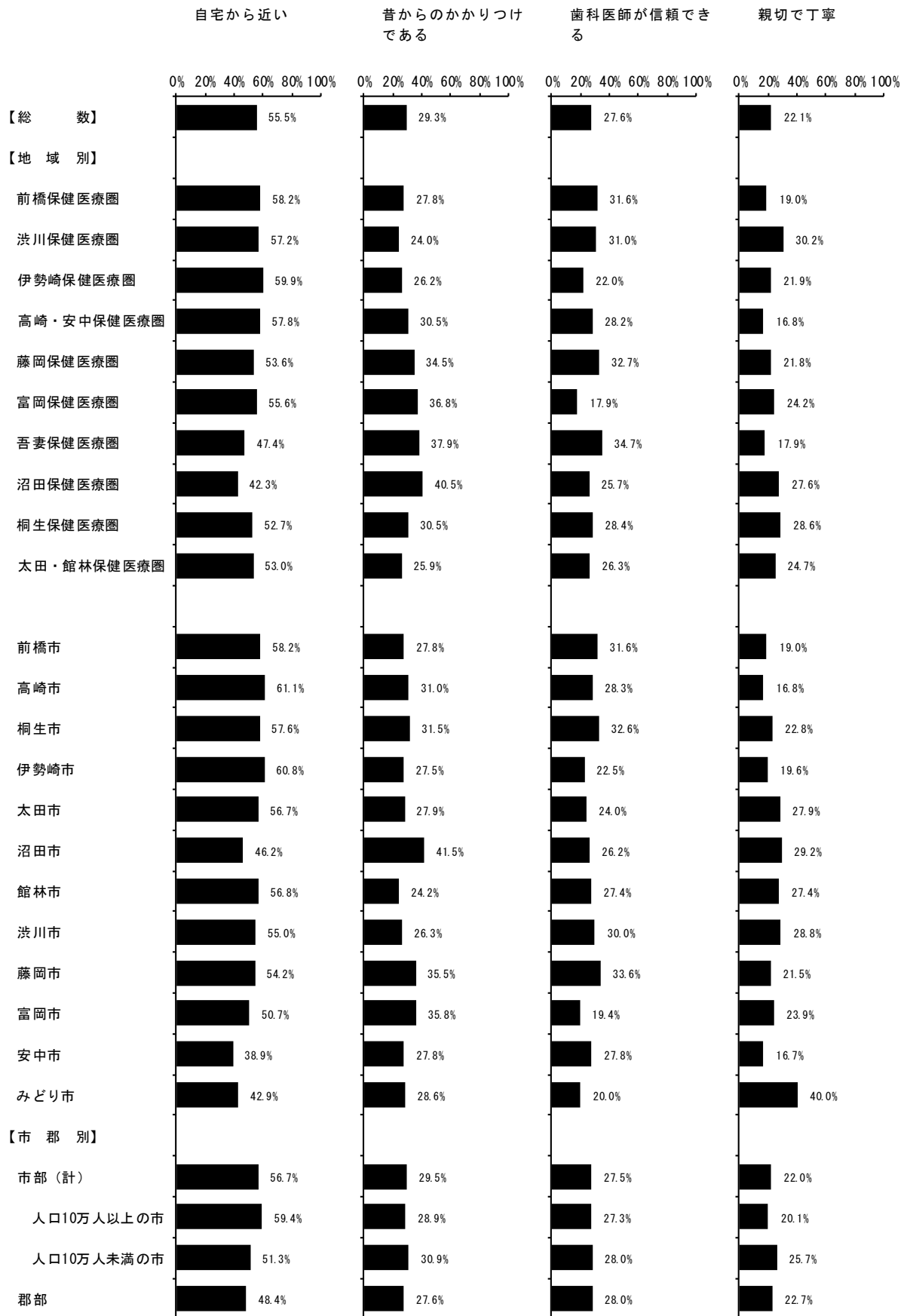
◆職業別

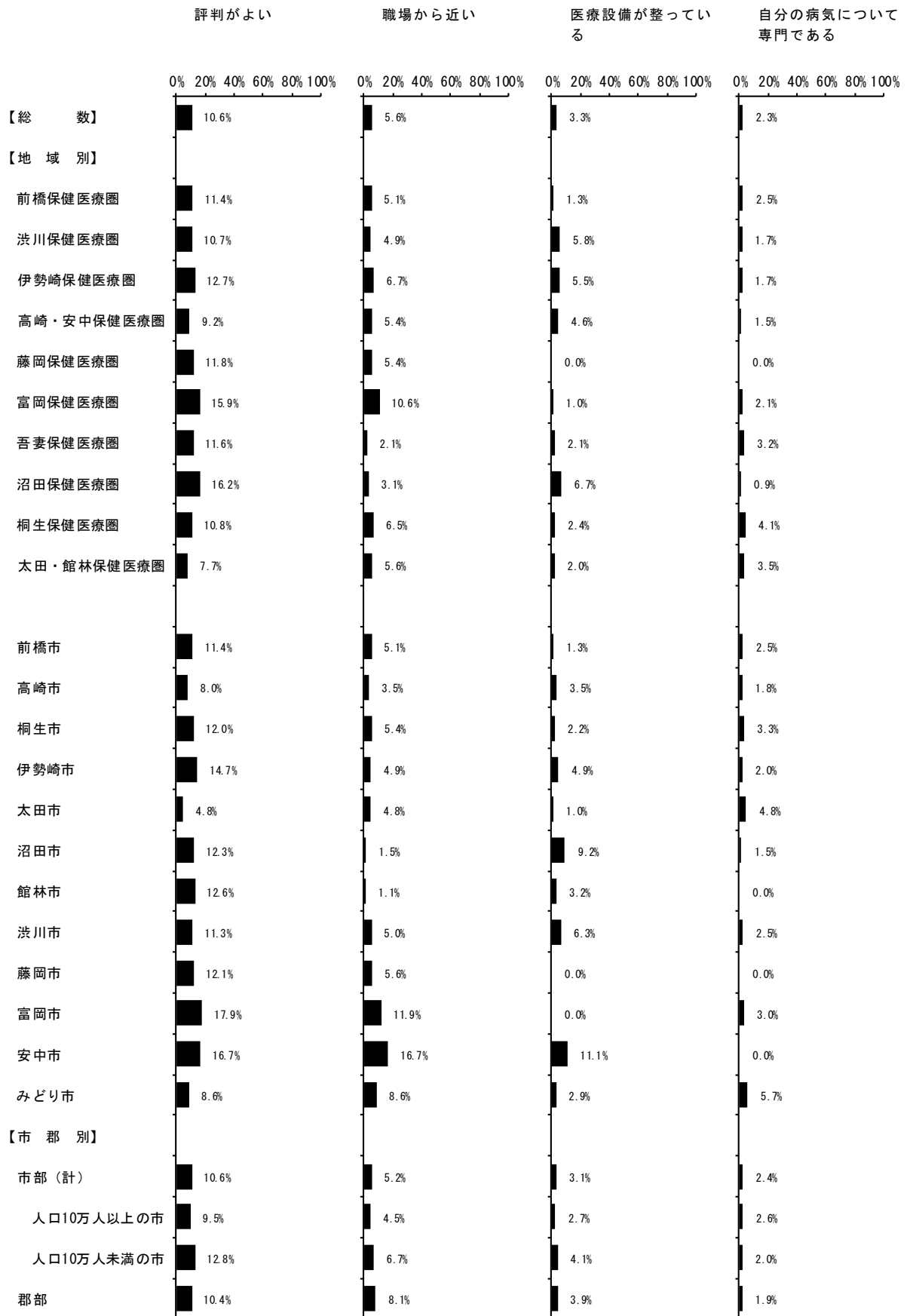
学生を除くといずれの職業も「自宅から近い」が最も多くなっている。また、農林漁業は「歯科医師が信頼できる」が41.3%となっており、他の職業に比べ多くなっている。

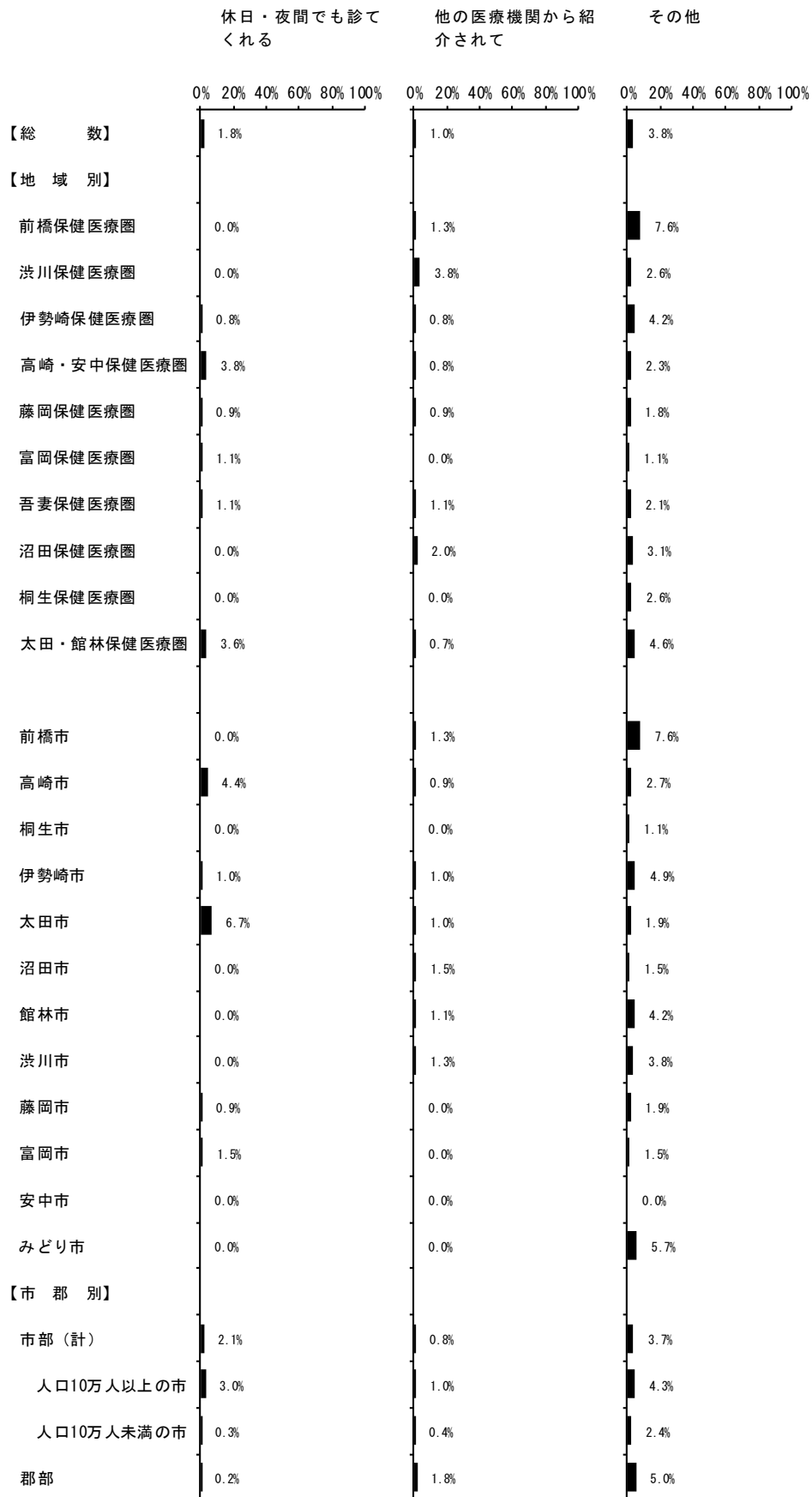
◆健康状態別

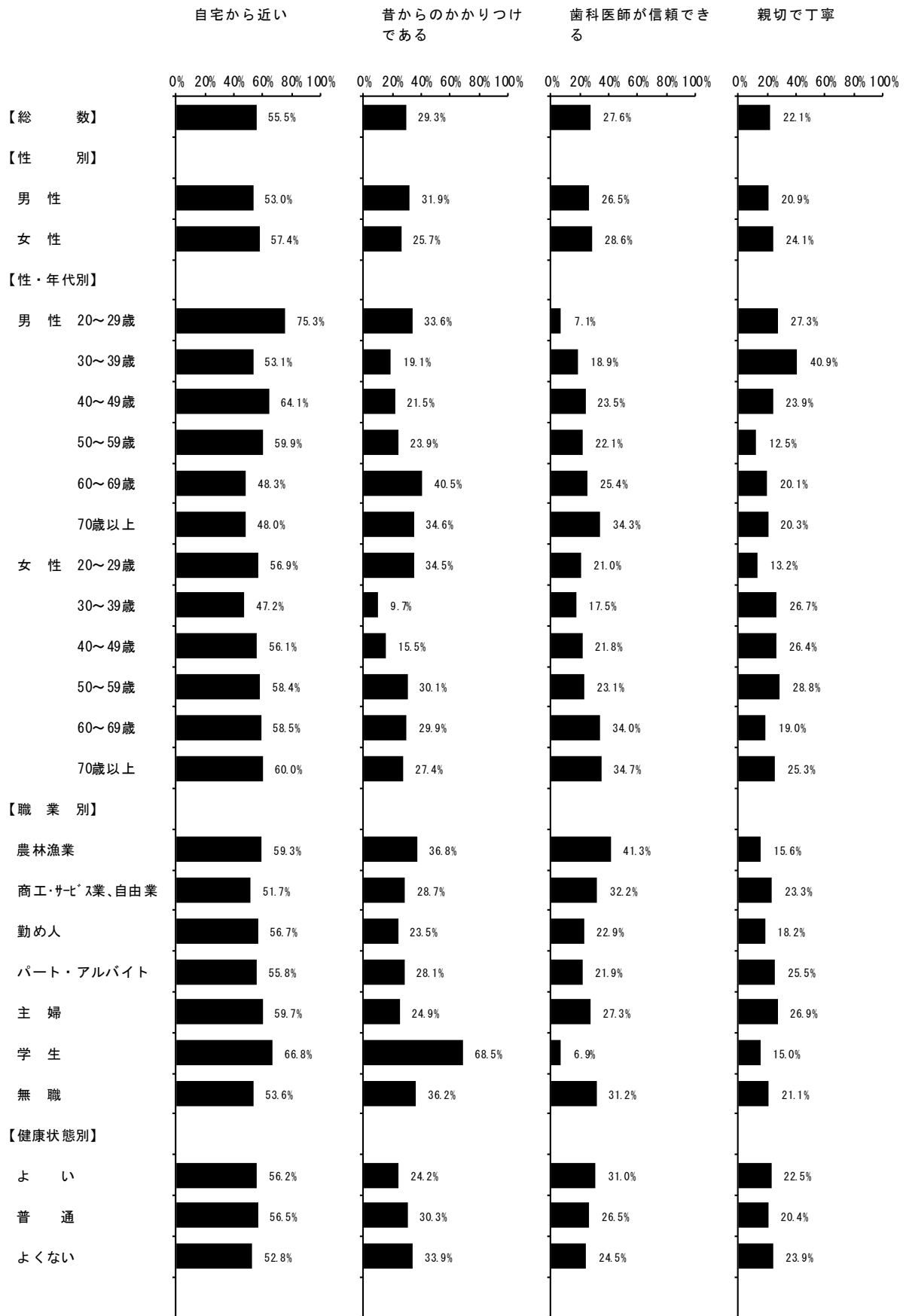
「昔からのかかりつけである」は健康状態がよい(24.2%)に比べ、健康状態がよくない(33.9%)の方が多くなっている。

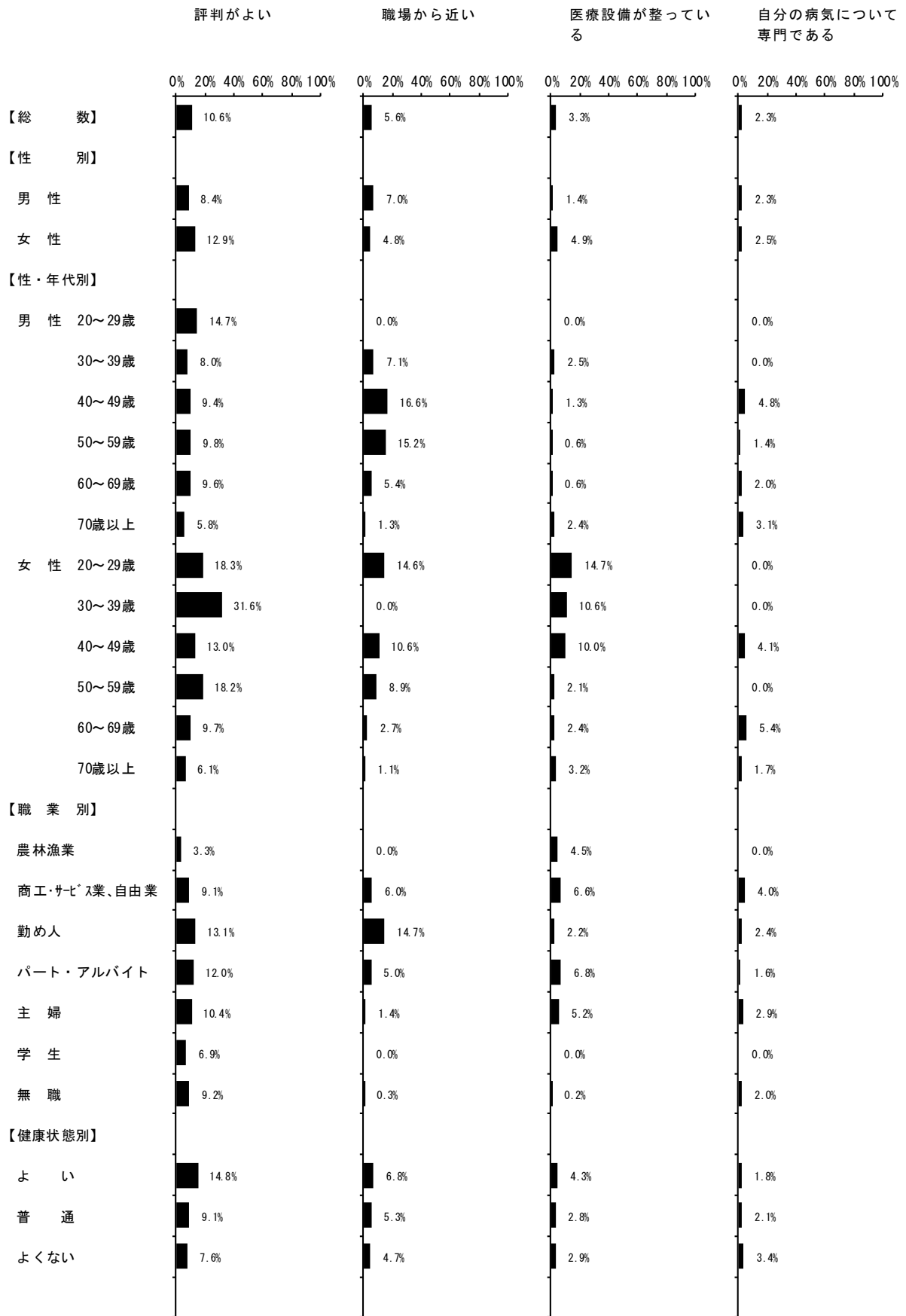
図8-4 かかりつけ歯科医を決めている理由

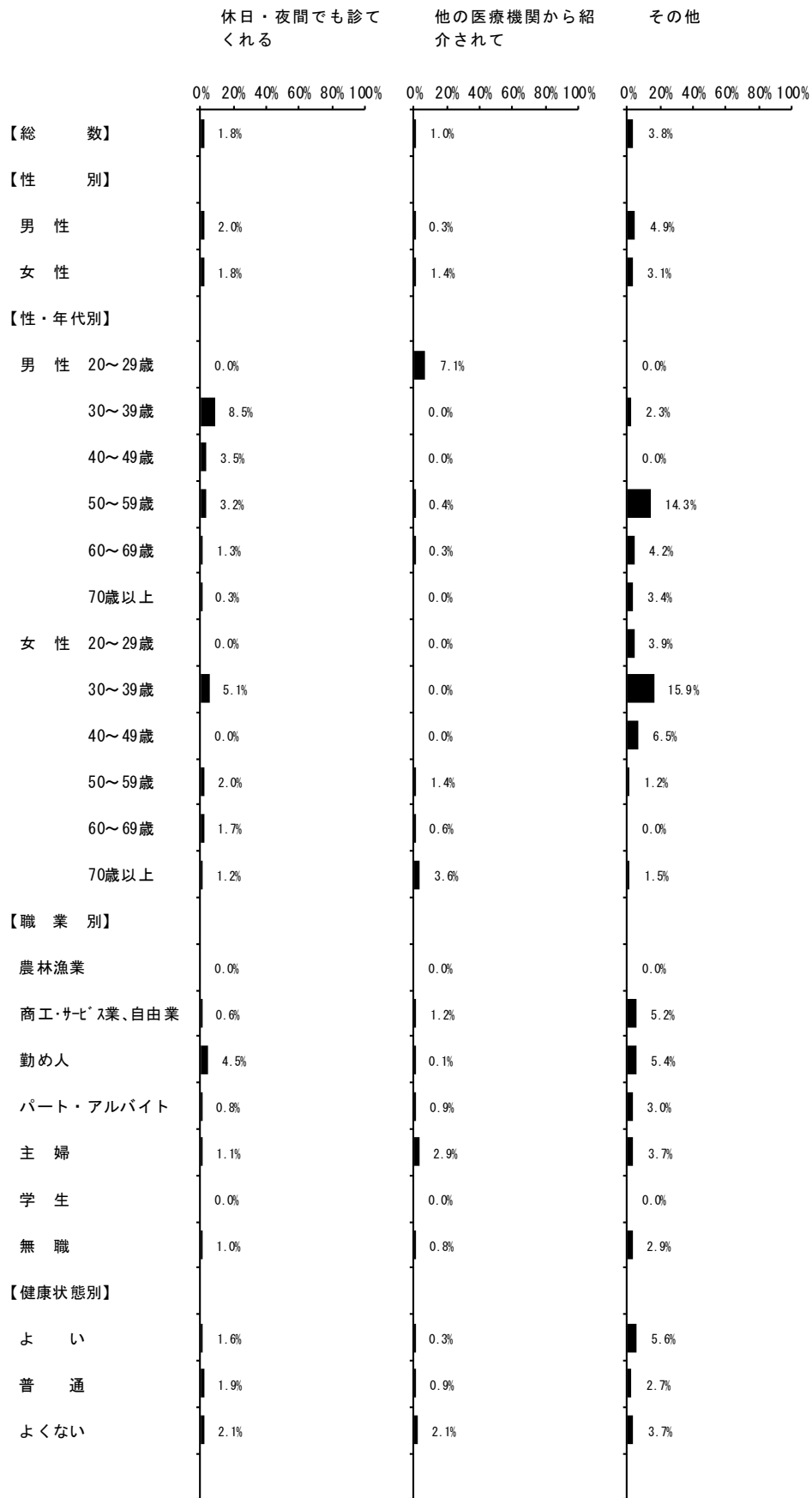












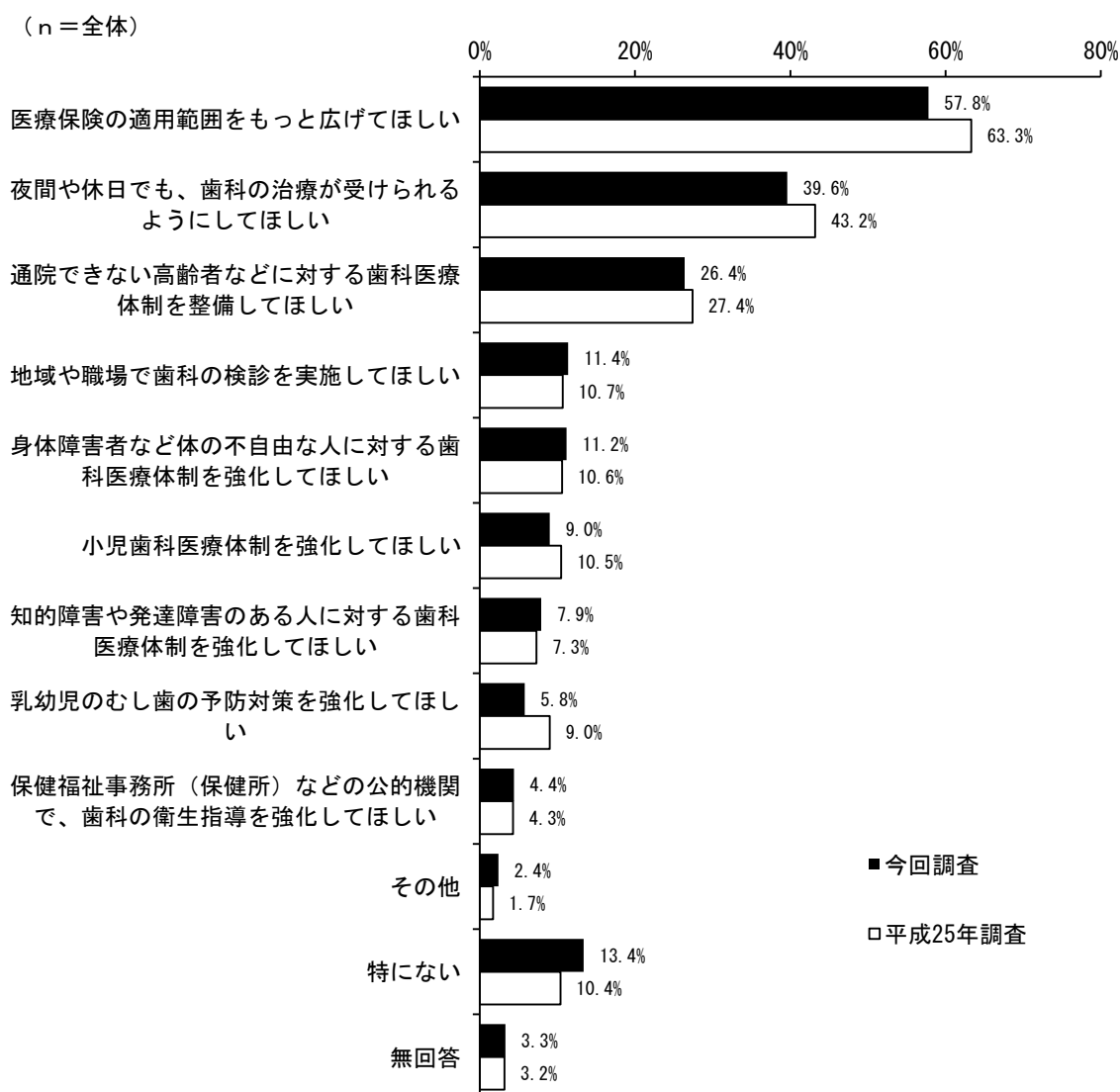
9 歯科の保健医療

(1) 歯科の保健医療についての要望

～「医療保険の適用範囲をもっと広げてほしい」57.8%、「夜間や休日でも、歯科の治療が受けられるようにしてほしい」39.6%～

問17 あなたは、歯科の保健医療についてどのようなことを望みますか。次の中からあてはまるものをあげてください。(〇はあてはまるものすべて)

図9-1



歯科の保険医療についての要望としては、「医療保険の適用範囲をもっと広げてほしい」が57.8%と最も多く、次いで「夜間や休日でも、歯科の治療が受けられるようにしてほしい」が39.6%、「通院できない高齢者などに対する歯科医療体制を整備してほしい」が26.4%となっている。

平成25年調査結果との比較では、傾向は変わらないが、「医療保険の適用範囲をもっと広げてほしい」が少なくなっている。

◆地域別

吾妻保健医療圏を除くと、いずれの地域も「医療保険の適用範囲をもっと広げてほしい」が最も多くなっており、50.0%を超えている。また、富岡保健医療圏は「夜間や休日でも、歯科の治療が受けられるようにしてほしい」が51.1%となっており、他の地域に比べ多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

男性と女性で大きな差異はみられないが、「夜間や休日でも、歯科の治療が受けられるようにしてほしい」は女性（36.9%）に比べ、男性（42.8%）の方が多くなっている。

◆性・年代別

いずれの性別・年代も「医療保険の適用範囲をもっと広げてほしい」が最も多くなっており、女性では若い年代ほど多くなる傾向がみられる。また、40代男性は「夜間や休日でも、歯科の治療が受けられるようにしてほしい」が58.8%となっており、他の年代に比べ多くなっている。

◆職業別

「医療保険の適用範囲をもっと広げてほしい」はパート・アルバイト（69.2%）、勤め人（66.5%）、商工・サービス業、自由業（61.4%）で60.0%を超えている。

◆健康状態別

健康状態で差異はほとんどみられない。

図9-2 歯科の保健医療についての要望

